CBETA電子佛典集成

CBETA Chinese Electronic Tripitaka Collection

eBook

GA023n0021

武林靈隱寺志

清 孫治撰　徐增重編

財團法人 佛教電子佛典基金會

目次

- 編輯說明
- 章節目次
  - 版本說明
  - 卷首
    - 提要
    - 序
      - 戒顯序
      - 徐增序
      - 孫治序
      - 嚴沆序
    - 山圖
      - 圖一
      - 圖二
      - 圖三
      - 圖四
      - 圖五
      - 圖六
      - 圖七
      - 圖八
      - 圖九
      - 圖十
      - 圖十一
      - 圖十二
    - 總目
  - 開山
  - 重興
  - 山水
    - 概述
    - 峰
      - 飛來峰
      - 蓮華峰
      - 宰相峰
      - 月桂峰
      - 白猿峰

- 稽留峰
- 北高峰
- 烏石峰
- 龍門峰
- 西原峰
- 雙檜峰
- 白雲峰
- 中印峰
- 乳竇峰
- 獅子峰
- 香鑪峰
- 善住峰

- 嶺
  - 駝嶼嶺
  - 石人嶺
  - 東墓嶺
  - 楓木嶺
  - 白沙嶺
  - 郎當嶺
  - 幽淙嶺
  - 東嶺
  - 西嶺
  - 仙芝嶺
  - 黃泥嶺
- 塢
  - 於家塢
  - 水岡塢
  - 巢居塢
  - 大桐塢
  - 石人塢
  - 白沙塢
  - 桐木塢
  - 騰雲塢
  - 楊梅塢
  - 永清塢
  - 神道塢
  - 慈雲塢
  - 葛塢

- 活沙塢
- 水竹塢
- 珍珠塢
- 瑞岡塢
- 鷂子塢

- 洞
  - 龍泓洞
  - 玉乳洞
  - 射旭洞
  - 呼猿洞
  - 金佛洞
  - 香林洞
  - 圓公洞
- 巖
  - 龍泓巖
  - 青林巖
  - 理公巖
  - 玉女巖
  - 日月巖
  - 虎頭巖
  - 千歲巖
  - 天香巖
  - 白雲巖
  - 百丈巖
  - 烏石巖
- 石
  - 石蓮
  - 石梁
  - 三生石
  - 水波石
  - 鬬鷄石
  - 臥龍石
  - 一指石
  - 石筍
  - 石室
  - 獅子石
  - 石人
  - 棋盤石

- 醉石
- 棧
  - 伏虎棧
  - 連巖棧
- 水
  - 南澗
  - 北澗
- 泉
  - 冷泉
  - 溫泉
  - 渦渚泉
  - 卧龍泉
  - 醴泉
  - 蕭公泉
  - 伏犀泉
  - 瓔珞泉
  - 蓮華泉　跳珠泉
  - 上永福
  - 金沙泉　銀沙泉
  - 觀音泉
  - 夢泉
  - 薈泉
  - 華光泉
  - 凝翠泉
  - 水月泉
  - 孫公泉
  - 玉液泉
  - 小龍泓泉
  - 白公茶井泉
  - 龍王泉
- 池
  - 蘸筆池
  - 茯苓池
  - 金蓮池
  - 福泉池
  - 雲液池
  - 七星池
  - 金波池

- 井
  - 葛翁大井
  - 天澤井
- 梵宇
  - 概述
  - 開列新建殿堂、樓閣、寮舍、庄院名目
    - 大雄寶殿
    - 天王殿
    - 輪藏殿
    - 伽藍殿
    - 羅漢殿
    - 金光明殿
    - 大悲殿
    - 祖師殿
    - 法堂
    - 方丈直指堂
    - 面壁軒樓
    - 青猊軒樓
    - 小方丈樓
    - 靜室
    - 東耳樓
    - 獅子窟
    - 大樹堂
    - 東禪堂
    - 西禪堂
    - 慧日塔
    - 南鑑堂
    - 齋堂
    - 聯燈閣
    - 華嚴閣
    - 華嚴閣廂樓
    - 華嚴閣小方丈
    - 青蓮閣
    - 梵香閣
    - 嫩桂堂
    - 玉樹林
    - 法壽堂
    - 官客樓

        - 官客公所
        - 響水樓
        - 萬竹樓
        - 鐘樓
        - 看月樓
        - 直歲樓
        - 廚房樓
        - 廚房
        - 庫房樓
        - 知浴樓
        - 浴寮
        - 雜務寮
        - 柴房
        - 菜園
        - 梅園房
        - 擇木堂
        - 茶房
        - 普同塔院
        - 總管殿
        - 柴寮
        - 寶勝菴
        - 松木場
        - 江干下院接雲菴
    - 明萬曆癸未易菴建置附載
    - 明宣德七年舊誌本山寺基號址附載
    - 元賜還九里松行路碑附載
    - 宋天聖三年皇太后賜錢買田數附載
    - 宋天聖三年中書門下牒附載
    - 舊誌靈隱別業附載
    - 唐宋以來靈隱殿室舊名附載
    - 舊誌諸僧續刱菴房附載
- 古塔
    - 概述
    - 唐塔
        - 理公塔
    - 隋塔
        - 神尼舍利塔
        - 真觀塔

- 唐塔
  - 鳥窠禪師塔
  - 北高峰塔
  - 修證了義法師塔
- 吳越塔
  - 無著禪師塔
- 宋塔
  - 瑞光卧塔
  - 延珊禪師塔
  - 普慈大師塔
  - 永安禪師塔
  - 玄本禪師塔
  - 白蓮社主塔
- 南宋塔
  - 瞎堂禪師塔
  - 懶菴安禪師塔
  - 松源禪師塔
  - 石鼓禪師塔
  - 鐵牛禪師塔
  - 妙峰禪師塔
- 元塔
  - 普覺朋禪師塔
  - 良用貞禪師塔
- 明塔
  - 幻隱禪師塔
  - 見心禪師塔
  - 忻悟禪師塔
  - 無文禪師塔
  - 可淳禪師塔
  - 幻菴修禪師塔
  - 慎菴祥禪師塔
  - 曇瓚師塔
  - 北峰讚塔
  - 月用禪師塔

- 古蹟
  - 概述
  - 山門二石幢
  - 丹墀二石塔

- 西部都尉治
- 錢唐縣舊治
- 左軍教場
- 飛來峰坊
- 二寺門
- 袁公松門
- 冷泉亭
- 客兒亭
- 袁君亭
- 見山亭
- 虛白亭
- 觀風亭
- 候仙亭
- 紫微亭
- 壑雷亭
- 紫微亭
- 春淙亭
- 清繞橋
- 東西行春橋
- 合澗橋
- 瀑雷橋
- 石橋
- 杜明甫宅
- 丁翰之宅
- 顛仙廬
- 紫芝道院
- 朱墅
- 鄴公菴
- 香林園
- 班衣園
- 書藏
- 峋嶁山房
- 丹竈堂
- 思真堂
- 九師堂
- 西嶺草堂
- 東嶺草堂
- 七葉堂

- 金光明懺堂
- 九品觀堂
- 翻經臺
- 飯猿臺
- 無量壽閣
- 輪藏閣
- 百尺彌勒閣
- 延賓水閣
- 望海閣
- 滴翠軒
- 一笑軒
- 巖石室
- 交蘆室
- 明真宮
- 天醫波利多院
- 鐵舌菴
- 韜光菴
- 白雲菴
- 天聖寺
- 靈峰院
- 無垢院
- 海峰菴
- 華光廟
- 元帥殿
- 總管堂
- 陳明大王祠
- 東坡祠
- 土地過海大王祠
- 輦路
- 椒園
- 呼猿洞舊路
- 靈隱舊小路
- 吳寺團
- 吳寺橋
- 菜園
- 上菜園
- 下菜園
- 法安院衖

    - 舊靈鷲寺
- 禪祖上
    - 概述
    - 開山慧理祖師
    - 劉宋
        - 智一法師
        - 曇超法師
        - 寶達禪師
    - 隋
        - 聖達貞觀禪師
    - 唐
        - 堅道守直律師
        - 道標法師
        - 皎然清晝律師
        - 道齊尊師
        - 抱玉慧琳禪師
        - 鑑空法師
        - 韜光禪師
        - 無著文喜禪師
    - 五代
        - 永明延壽禪師
        - 清聳禪師
    - 北宋
        - 贊寧律師
        - 處光禪師
        - 韶光禪師
        - 道端禪師
        - 雲知慈覺禪師
        - 王童圓明禪師
        - 文勝禪師
        - 慧明延珊禪師
        - 德章禪師
        - 慧中禪師
        - 慧照蘊聰禪師
        - 幻旻禪師
- 禪祖下
    - 北宋
        - 明教契嵩禪師

- 玄本禪師
- 雪竇重顯禪師
- 本然清覺宗師
- 寂室慧光禪師

- 南宋
  - 佛智端裕禪師
  - 慧淳圓智禪師
  - 大慧宗杲禪師
  - 無菴法全禪師
  - 瞎堂慧遠禪師
  - 覺阿侍者
  - 濟顛祖師
  - 懶菴道樞禪師
  - 最菴道印禪師
  - 伊菴有權禪師
  - 佛照德光禪師
  - 誰菴了演禪師
  - 密菴咸杰禪師
  - 鐵牛宗印禪師
  - 蘊衷禪師
  - 松源崇岳禪師
  - 破菴祖先禪師
  - 無用淨全禪師
  - 敬叟居簡禪師
  - 涵澤禪師
  - 笑翁妙堪禪師
  - 石鼓希夷禪師
    - 概述
    - 牧牛十頌
      - 概述
      - 一、尋牛
      - 二、見跡
      - 三、見牛
      - 四、得牛
      - 五、放牛
      - 六、騎牛還家
      - 七、忘牛存人
      - 八、人牛俱忘

        - 九、返本過源
        - 十、入鄽垂手
    - 原肇禪師
    - 無準師範禪師
    - 石田法薰禪師
    - 癡絕道冲禪師
    - 妙峰之善禪師
    - 高原祖泉禪師
    - 笑菴了悟禪師
    - 虛舟普度禪師
    - 東谷光禪師
    - 泰禪師
    - 退耕寧禪師
- 元
    - 大川普濟禪師
    - 虎巖淨伏禪師
    - 如因禪師
    - 悅堂祖闓禪師
    - 玉山德珍禪師
    - 正傳禪師
    - 元叟行端禪師
    - 獨孤淳朋禪師
    - 圓通竹田禪師
    - 東嶼禪師
    - 照菴慧炬律師
    - 慧眼可光禪師
    - 竹泉法林禪師
    - 見心來復禪師
- 明
    - 天鏡原瀞禪師
    - 古鼎祖銘禪師
    - 慧明性原禪師
    - 酉菴曇噩禪師
    - 空叟忻悟禪師
    - 用貞輔良禪師
    - 無文本琮禪師
    - 行中守仁禪師
    - 可純禪師

        - 無杰善才禪師
        - 思擴性空禪師
        - 伐石良玠禪師
        - 慎菴祥禪師
        - 前溪德明禪師
        - 易菴如通禪師
        - 具德弘禮禪師
    - 清
        - 晦山戒顯禪師
        - 五嶽濟玹禪師
- 法語
    - 概述
    - 具德和尚住靈隱，進院上堂法語
    - 開鑪鑄萬僧鍋，陞座法語
    - 付授願雲西堂，上堂法語
    - 開藏殿鐘樓基，上堂法語
    - 供祖師，上堂法語
    - 法堂上梁，顯寧義姪和尚請上堂法語
    - 禪堂上梁，上堂法語
    - 佛殿、天王殿同日陞梁，上堂法語
    - 鐘樓立柱上梁，上堂法語
    - 佛殿前大寶鼎成，郇護法請上堂法語
    - 大佛像成，李青芝等請上堂法語
    - 大樹堂昇梁，上堂法語
    - 齋堂昇梁，上堂法語
    - 飛來峰牌樓昇梁，上堂法語
    - 晦山和尚進院，上堂法語
    - 圓成飛來峰牌樓，江南佟方伯大護法請上堂法語
    - 送具老和尚全身入塔，上堂法語
    - 為具老和尚上塔頂，兼送位入祖堂法語
    - 送興建亡僧靈骨及四眾遺骼入新建普同塔法語
- 檀越
    - 概述
    - 歷代帝王
        - 南朝梁
        - 隋
        - 唐
        - 五代十國

        - 宋
        - 元
        - 明
    - 歷代朝臣
        - 晉
        - 唐
        - 宋
        - 元
        - 明
        - 清
- 人物
    - 概述
    - 陸瑋
    - 陳渾
    - 葛玄
    - 許邁
    - 葛洪
    - 杜明甫
    - 謝靈運
    - 朱世卿
    - 駱賓王
    - 袁仁敬
    - 相里造等人
    - 白居易
    - 丁飛
    - 丁行者
    - 陸羽
    - 陸龜蒙
    - 羅隱
    - 林逋
    - 范仲淹
    - 趙抃
    - 蘇頌
    - 李公謹
    - 祖無擇
    - 楊蟠
    - 梅詢
    - 蘇軾

- 錢和
- 徐爽
- 朱弁
- 韓世忠
- 陳剛中
- 俞顥
- 趙與[竺-二+((己@((巨-匚)/匚))/心)]
- 陳紫芝
- 陸游
- 潛說友
- 白珽
- 仇遠
- 趙孟頫
- 虞伯生(　集)
- 鄧文原
- 張天雨
- 黃晉卿(　溍)
- 項可立
- 莫維賢
- 高孟升(　得暘)
- 王洪
- 楊孟瑛
- 孫一元
- 王守仁
- 方思道(　豪)
- 汪暉
- 朱裳
- 陳仕賢
- 王世貞
- 李攀龍
- 張瀚
- 孫枝
- 柴祥
- 喻邦相
- 虞淳熙
- 許靈長(　光祚)
- 屠隆
- 李用晦

- 諸餘齡
- 邵重生
- 沈守正
- 孫日章
- 柴應權
- 黃貞父（汝亨）
- 葛寅亮
- 嚴印持（調御）、嚴忍公（武順）、嚴無敕（敕）
- 聞啟祥
- 李流芳
- 高攀龍
- 鄭尚友
- 許文岐
- 陳潛夫
- 陸培

◦ 藝文上
- 概述
- 碑記
  - 靈隱寺碑記
  - 冷泉亭記
  - 北高峰記
  - 遊西山記
  - 湖山勝概記
  - 遊西湖記
  - 新廣冷泉亭記
  - 惠力寺記
  - 古澗窪泉記
  - 岣嶁山房記
  - 玉兔塚記
  - 永明智覺禪師行業記
  - 錢塘邑侯譙明張公免靈隱役功德碑記

◦ 藝文中
- 記
  - 明教大師行業記
  - 本寺住山慎菴詳禪師行業記
  - 無新老人行業記
  - 月用大師行業記
- 序

        - 《護法論》序
        - 《傳法正宗記》序
        - 復公文集序
        - 復公《三會語錄》序
    - 志
        - 武林山志
    - 表
        - 謝還九里松表
    - 書
        - 與拙菴書
    - 疏
        - 金陵諸山送圓通竹田和尚住靈隱疏
        - 紹興天章吳郡諸山疏
        - 宣政院送東嶼和尚住靈隱疏
        - 化砌靈竺大路疏
    - 贊
        - 良禪師像贊
        - 蒲禪師像贊
    - 言
        - 代石言
    - 論
        - 飛來峰不從巫山來論
        - 靈隱號景德論
        - 治潮皆靈隱僧論
        - 靈隱不宜為第二山論
        - 靈隱遍五宗論
        - 蓮華石品論
    - 塔銘
        - 慧理大師塔銘
        - 普慈大師石塔碑銘
        - 輔良大師石塔碑銘
        - 性原明禪師塔銘
        - 無文大師石塔碑銘
        - 圓慈正濟空叟悟禪師塔銘
- 藝文下
    - 碑文
        - 重建靈隱寺碑文
        - 靈隱寺重興碑文

        - 重建靈隱寺碑文
        - 重興景德靈隱禪寺碑文
    - 記
        - 靈隱放生記
        - 靈隱鐘記
        - 重裝十八尊者記
    - 疏
        - 修靈隱冷泉亭疏
        - 靈隱寺大殿募緣疏
        - 靈隱禪堂募重新翻蓋大雄寶殿疏
        - 募化叅石增靈隱山門景致疏
        - 靈隱募刻《華嚴》大經疏
    - 序
        - 贈靈隱具和尚序
        - 贈靈隱大和尚序
        - 晦山和尚詩文全集序
        - 濟顛本傳序
    - 跋
        - 跋中興靈隱寺碑
    - 啟
        - 杭城眾護法請晦和尚住持靈隱啟
        - 徑山兩序請啟
        - 杭城眾護法紳衿請晦和尚回靈隱啟
    - 塔銘
        - 重建靈隱具德大和尚塔銘
    - 塔表
        - 重興靈隱具德老和尚全身塔表
    - 行狀
        - 本師具德老和尚行狀
- 詩詠
    - 概述
    - 五言古
        - 三生石
        - 與從姪杭州刺史良遊天竺寺
        - 題天竺寺
        - 北高峰
        - 靈隱寺
        - 靈隱寺

    - 靈隱寺
    - 白猿峰
    - 飛來峰
    - 飛來峰
    - 冷泉亭
    - 翠微亭
    - 同項可立宿靈隱寺
    - 飛來峰
    - 靈隱寺
    - 飛來峰
    - 上北高峰
    - 同人飲冷泉亭分韻
    - 冷泉紅樹圖
    - 韜光靜坐二首
    - 和高忠憲公〈韜光菴〉二首
    - 重登韜光步韻
    - 九日同諸友登飛來峰
- 七言古
    - 丁隱君歌
    - 和李杞〈題靈隱寺〉
    - 冷泉亭送唐林夫
    - 靈隱寺
    - 虛白亭
    - 北高峰
    - 岣嶁山房
    - 贈靈隱晦山大師歌
- 五言律
    - 題靈隱山頂院
    - 候仙亭
    - 請韜光齋
    - 宿靈隱
    - 飛來峰
    - 寄杭州宋震使君
    - 登北高峰塔
    - 冷泉放閘
    - 飛來峰
    - 北高峰
    - 靈隱蓬萊堂

- 遊靈隱寺
- 冷泉夜坐
- 冷泉亭
- 宿靈隱寺曉起
- 宿歸雲菴
- 靈隱寺
- 秋日鷲山雨後作
- 飛來峰
- 韜光菴
- 至靈隱寺
- 靈隱寺
- 韜光菴
- 峋嶁山房
- 峋嶁山房
- 韜光菴
- 五寺橋望諸雲泉怡老處
- 靈隱寺暮歸
- 贈僧住靈隱
- 送僧住靈隱
- 靈隱寺
- 遊靈隱寺
- 飛來峰
- 冷泉亭
- 慧理開山祖塔
- 明教嵩禪師塔
- 蓮花峰
- 神尼舍利塔
- 殿前石塔
- 山門外石幢
- 五羅漢松
- 濟顛祖師
- 韜光
- 石筍峰
- 冷泉亭
- 慧理祖塔

- 七言律
  - 靈隱寺
  - 靈隱寺

- 靈隱寺
- 辭白太守齋
- 立秋宿寺
- 中秋分桂贈楊元素
- 汎舟入靈隱
- 宿永安遇雨
- 和楊蟠〈宿永安遇雨〉
- 歲暮值雪，焚香獨坐，有懷章安楊公蟠錢湖草堂
- 和契嵩有懷二公之作
- 見山亭
- 靈隱訪舊
- 泛舟入靈隱寺
- 過鷲峰贈勤上人
- 集慶寺
- 送復見心返杭，兼柬張伯雨
- 飛來峰
- 贈靈鷲勤上人
- 觀魯侍郎冷泉亭放猿
- 靈隱寺
- 贈來復
- 靈鷲山
- 冷泉亭
- 靈隱寺
- 呼猿洞
- 九里松
- 北高峰
- 北高峰
- 送無杰師住靈隱寺
- 九里松
- 九里松，次夏公謹韻
- 九里松二首
- 九日靈隱
- 九里松
- 宿靈隱寺
- 靈隱社集，得峰字
- 李本寧觀察招同徐、馮諸公集靈隱寺
- 前題，得泉字
- 訪李岣嶁山人

    - 遊靈隱，登韜光，望見江海
    - 峋嶁山房
    - 韜光
    - 三生石
    - 飛來峰
    - 飛來峰
    - 蓮花峰
    - 贈北高峰念響佛僧
    - 靈隱寺
    - 前題
    - 前題
    - 前題
    - 秋日宿靈隱寺
- 五言絕
    - 望海亭
    - 客兒亭
    - 韜光
    - 遊北高峰
    - 九里松
    - 了義塔院
    - 賜德光
    - 飯猿臺
    - 合澗橋
    - 冷泉亭
    - 靈鷲
    - 呼猿洞
    - 靈鷲
    - 韜光三首
    - 飛來峰
    - 冷泉亭
- 七言絕
    - 飛來峰
    - 靈隱寺
    - 靈隱寺
    - 北高峰
    - 題了義塔院二首
    - 九里松
    - 冷泉亭

- 宿靈隱寺
- 呼猿洞二首
- 飛來峰
- 香林洞
- 冷泉
- 冷泉
- 聽猿
- 冷泉
- 飛來峰
- 呼猿洞
- 韜光
- 冷泉亭
- 靈鷲山
- 飛來峰
- 送祥都綱兩住靈隱
- 韜光泉
- 登北高峰
- 靈鷲山月歌
- 庚午初冬遊韜光，遇憑虛上人
- 冷泉亭
- 呼猿洞
- 靈隱寺石
- 冷泉亭
- 飛來峰
- 呼猿洞
- 靈隱寺
- 冷泉亭
- 飛來峰
- 韜光菴
- 五言排律
  - 遊靈隱寺
  - 宿靈隱寺
  - 遊靈隱寺
  - 飛來峰
  - 月桂峰
  - 靈隱寺
  - 韜光菴
  - 韜光

- 遺事
  - 概述
  - 龍泓洞
  - 靈隱洞
  - 月中桂子
  - 九里舊松
  - 下竺
  - 天目山
  - 雲姿鶴態
  - 飛來峰
  - 二葛
  - 濟顛
  - 贊寧
  - 靈隱知識
  - 靈隱僧
  - 著作彪炳
  - 靈隱詩僧
  - 正朔考
  - 繙經
  - 月中娑羅
  - 慧誕法師
  - 神尼塔
  - 戒闍黎
  - 林慮靈隱
  - 稽留峰下
  - 九里松書
  - 孝宗賦詩
  - 駕冷泉堂納涼
  - 吳郡王冷泉圖贊
  - 瞎堂侍幸
  - 高峰祈夢
  - 三生石
  - 葉守益
  - 雷院威神
  - 天澤侯廟
  - 花犬
  - 黑猿行者
  - 四鬼夜移圖

- 峰上白雲
- 道忠蒸雪
- 望松
- 九里松
- 寺鐘
- 葬地
- 遺塔堙沒
- 不畏貴人
- 前後易菴
- 三人書
- 妙勝覺場
- 武林道士
- 美疢與藥石
- 恭行己
- 慈雲懺主
- 五種不壞
- 隱者之難
- 曠達之士
- 十伽藍
- 本寺土地
- 嗔喜作佛
- 靈隱奇僧

◦ 雜紀
- 概述
- 題名
- 題額
- 古存物
- 靈隱著述
- 前賢撰文遺失者
- 本寺二十四房
  - 東廡
  - 西廡
- 本山物產
  - 西栗樹
  - 重榮檜
  - 石面靈桃
  - 無根藤
  - 紅辛夷花

        - 天親竹
        - 石面竹
        - 藥王樹
        - 方竹
        - 曲竹
        - 枇杷
        - 龍
        - 龍子
        - 花犬
    - 靈隱重興紀異
        - 重興紀異序
        - 寶相迥異
        - 大慧後身
        - 幽贊
        - 沈長者
        - 琉璃佛
        - 靈隱伽藍
        - 浮梓柱于洪濤
        - 殿角一柱
        - 伏虎
        - 靈奇天縱
        - 理公猿
        - 數有相符
        - 迎龕
        - 爭龕
        - 奕山識
  - 山地
    - 概述
    - 舊存
    - 檀施
    - 續置
- 卷目次
  - 1
  - 2
  - 3a
  - 4
  - 5a
  - 6a

    - 7
    - 8
- 贊助資訊

編輯說明

- 本電子書以「CBETA 電子佛典集成 Version 2025.R3」為資料來源。
- 漢字呈現以 Unicode 3.0 為基礎，不在此範圍的字則採用組字式表達。
- 梵文悉曇字及蘭札字均採用羅馬轉寫字，如無轉寫字則提供字型圖檔。
- CBETA 對底本所做的修訂用字以紅色字元表示(黑白色系版本則無顏色差別) 。
- 若有發現任何問題，歡迎來函 service@cbeta.org 回報。
- 版權所有，歡迎自由流通，但禁止營利使用。

靈隱寺位於浙江杭州西湖靈隱山。靈隱山與天竺山合稱武林，距城十餘里。其山控湖扼江，有龍盤鳳翥之狀，為仙靈區宅。其呼猿洞與冷泉亭，乃錢塘八景之一。寺始建於東晉咸和三年（三二八），為竺僧慧理所創，葛洪書山門榜曰「絕勝覺場」。此寺於隋前之興廢莫考，至唐代駱賓王避禍隱于此，靈隱之名大著。大曆六年（七七一）重修，會昌（八四一～八四六）廢教，寺毀僧散。後稍興復，規制未宏。至吳越錢忠懿王時，命永明延壽禪師重為開拓，殿宇一新。宋真宗景德四年（一〇〇七）賜稱「景德靈隱禪寺」。宋室南渡後，高宗、孝宗翠華屢幸，當時號稱禪窟，為五名山之第二。元至正十九年（一三五九），寺毀於兵，二十三年（一三六三）重建。明洪武、永樂、宣德數度興建，復還舊觀。隆慶三年（一五六九）燬於雷火，萬曆間重建。其後經戰亂，寺殿多毀。清順治年間宏禮重建，康熙二十八年（一六八九）賜名「雲林寺」，此後均稱雲林寺。寺志舊有明萬曆間白珩所修稿，清康熙二年（一六六三），孫治重修為十二卷；十年（一六七一）徐增就孫志重編為八卷，分為十四門：開山、重興、山水、梵宇、古塔、古蹟、禪祖、法語、檀越、人物、藝文、詩、遺事、雜記，後附「山地蕩總目」。開山、重興、山水三門記建置。梵宇、古塔、古蹟記形勝。禪祖記歷代住持之傳略。法語載高僧上堂語錄。檀越、人物記與本寺有關之人物，藝文、詩、遺事、雜記則錄歷代詩文、碑記與遺聞逸事也。山地蕩總目則載本寺之田產也。康熙以前，靈隱寺文獻略備於此。因志成之時，在康熙賜名之前，故仍以靈隱寺名。此志初刻於康熙十一年（一六七二），茲據光緒十四年（一八八八）錢塘丁氏重刊本景印。

欽定四庫全書提要

靈隱寺志八卷(兩淮馬裕家藏本)

國朝孫治撰，徐增重編。治，字宇台，仁和人。增，字子能，吳縣人。其書因明萬厤中昌黎白珩之志稍增損之，體例與他志略同，惟以宦遊寄寓之人概收之〈人物〉一門，則事涉創造，於義未安。

序

方內名山、祖席琳莫不有誌，一以顯山川名勝，二以表興創功勛，次則人物雄奇、宮殿瑰麗、畋漁舊聞、搜羅怪異、建置沿革之由、再造中興之績，莫不綺綰繡錯、纖毫備載。顧以天下靈山、區

中名勝獨可以無誌乎？又況靈隱以一百餘代禪祖之後，其中或開創、或重興、或建功業幾條、或置殿堂幾帶，功業難泯，莫不表揚。獨先師具德老人，荼痒二十餘年，舉全座靈山，尺寸而鼎興之。從外至內，殿閣巍峩、堂寮鱗砌、佛像嚴麗、金碧輝煌，隨一殿一堂、一房一舍、一樓一閣，皆一手擎出，脫體斬新。雖曰重興，實同開創，又可以無誌乎？有誌也，唐宋以來舊誌有無，不可得考，所見者白珩子佩氏之誌而已。白誌太略，又用筆近俚、蒐討未備，不成佳書。先師重建靈隱之後又有誌矣，則吾友孫宇台祉翁之筆也。宇台於先師重建功業極力發揮，已十有六七；獨於靈隱名勝，開章發軔，辯論太多，紆迴曲折，樂成辯駮山水之書，似乖傳信。先師臨上雙徑，手是編親授顯，囑以校讐付刻。戒顯一覽，覺多所未安。適吾吳門故友徐子能氏惠顧冷泉，余乃篤誖，館之丈室。初屬塗抹拙集，次舉白、孫二誌力求典竄。子能乃焚膏繼晷，盡力校讎研磨，禿盡管城，坐穿皋比。閱一載而後成，舉白誌之俚俗者而雅馴之，孫誌之迂曲者而直捷之。肰後開門見山，如飛來、冷泉，舉目洞達。先師重興大業，葢天蓋地，和盤託出矣。有此書也，不惟先師血汗永耀靈山，并一百餘代禪祖，其崩崖裂石之法語、飡冰嚼雪之高風，及古今鉅公偉人、奇文異藻，囊括殆盡。雖不比二酉厓盭之藏，以此懸之國門、名山，豈不共昭垂不朽哉？爰付剞劂，質之大方。靈山一會，從此永遠未散矣。

康熙歲次壬子閏七月既望，靈隱嗣法繼席門人戒顯百和南撰

序

昔大聖人之立垂世也，皆有時節因緣。蓋不於前、不於後，適當其際，因時制宜之謂也。釋迦老子說法四十九年、三百餘會，始以因緣，次以境智，終以般若解脫，末後拈花，此正法之時節因緣也。而阿難結集，鳩摩羅什翻譯，乃至康僧會之建塔、梁武帝之懺法，此象法之時節因緣也。是時講席彌天、法師爭立，妙論狃于文字；達摩從西天來，直提正令、埽盡見聞，此祖師之時節因緣也。今已在末法中矣，興末法之聖人豈尚有待歟？蒼生困苦已深，末法之聖人其心不知若何汲汲、而無如時節因緣之未至也！震旦自孔子述經後五六百年，聖教漸遠。司馬遷本太史公以成《史記》，于是班固從而倣之，輯前漢一代事蹟而書。自此而降，代各一書，故有「二十一史」之稱。《史記》中列八書，《前漢書》乃變而為十志。後世人又倣之，于是郡縣有誌、寺亦有誌，此《武林靈隱寺誌》所由來也。靈隱寺誌最初者已不可得見，所得見者白誌與孫誌耳。白子佩氏為易菴大師修誌，在明萬曆壬辰；孫宇台氏為具德和

尚修誌，在康熙癸卯。九年冬余過靈隱，時晦山和尚住持，屬余重修之。鄭夾漈嘗有言：「誌者憲章之所賴，非深于典故者不能。」江文通亦云：「修史之難莫過于誌。」吾輩不諳法門事，則修寺誌不尤難乎？史遷謂之整齊故事，一似易之。此在子長則然，後漢而下正以整齊為難耳。余幼嘗侍教于大君子矣，習其緒論；今余已六十，衰遲自棄，從不敢身預其事。茲既已有人整齊之，而余何必復修之？修之而余不辭者，蓋有故焉。聖歎嘗言之：「適幸作得一篇文字，可惜早間欲作而為他事所奪，失卻一篇文字。假今不作、明日作，當更另有一篇文字。」此深知時節因緣之道者也。是故在易菴時有易菴時之靈隱誌書，在具和尚時有具和尚時之靈隱誌書，在晦和尚時又有晦和尚時之靈隱誌書，時節因緣，先後固不得相假也。雖然人各有心、各如其面，用我之手握我之筆、發抒我之意，以為我所修之誌各求其當，遑計修誌之前有其人焉，不敢與之或有異同；又遑計吾誌修之後有其人焉，與我絕不異同也。我既修之後，屬我重修，我亦不能必其無異同焉。我總聽之于時節因緣而已矣。

康熙十年歲在辛亥夏六月望日，吳門徐增子能氏書于靈隱寺面壁軒

序

樵者於樵之外無所事焉；然武林為佳山水，而樵者又生長其間，則安得默然而已耶？具德禮和尚，臨濟之大宗匠也。其以眾人之請而來至此也，蓋翦其蓬蒿而居之。越十有三載而琳宮梵宇煥然而鼎新焉。樵者樂山林之寵榮，又不可以無志；雖然，靈隱有志前此矣。萬曆三年，昌黎白氏之所修者，吾見之矣。白氏為志凡三易稿，而帝虎雜出、年祀淆亂，況以陋劣如樵者哉？雖然，以大師之靈、竭樵之志慮，則於今昔記載、或冀其有當於萬一焉耳。若以比方於楊衒之之《洛陽伽藍》，則樵豈敢？

康熙二年癸卯秋七月，西山樵者孫治撰

武林靈隱寺誌序

名山多有誌，而作者殊難其人。非作者之難其人，而名山之難誌也。蓋紀事務奇則怪迂以濫耳，標理猥則龐雜以淆目，而徑露寡聞者畏上古如雷門，好奇弔詭者視世俗如蒙茸。甚矣！名山之難誌而益以見作者之難其人也。予讀樵者誌靈隱十二卷，雅而不誣，贍而有體；其舉賾也，雖幽隱不廢；其述類也，雖猥近不遺。斌斌乎

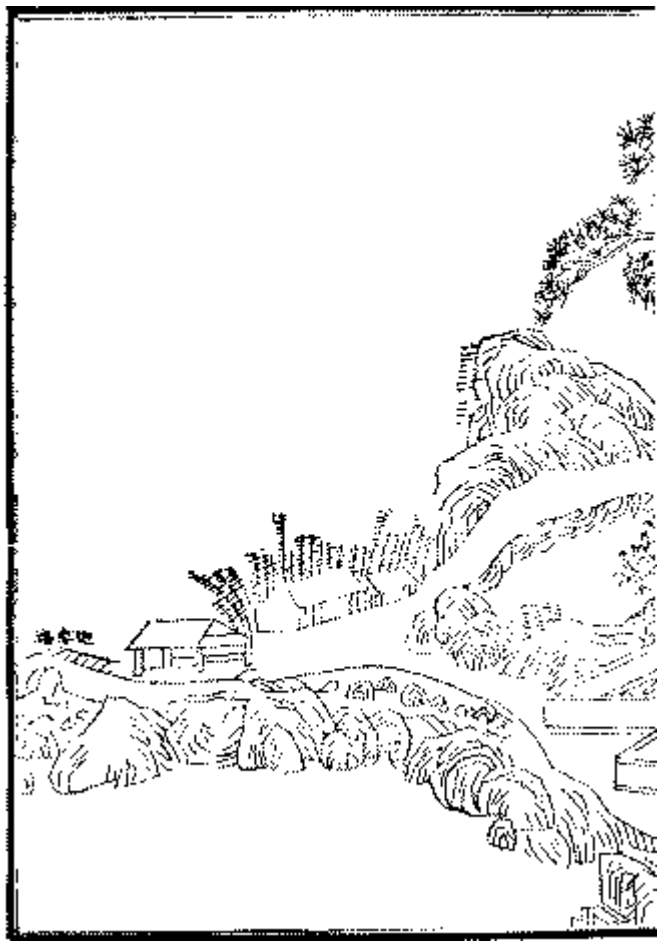
置于古作者之間，又奚疑焉？余生長武林，喜述舊聞。即如葛立之《鶴林玉露》、僧懷顯《錢唐勝蹟》、傅牧《西湖古事》、周益公《平園日記》、牟應隆《隆山雜記》、四水潛夫《武林舊事》、楊瑀《山居新錄》、岳珂《桯史》、劉孟熙《霏屑錄》、葉子奇《草木子》之類，名不能盡述，而存者或寡。樵者網羅，無所缺失，按部就班，入其中者如玄圃西山、侯鯖獺髓無以異也。又其逸氣雋句又如讀先秦以上檀、考、公、穀之書，予驚怖其言而無極也。然則具德和尚重興靈隱，功冠八紘，道光千載，而斯誌直空前後，其不朽矣乎！樵者為誰？予友孫子宇台。孫子之稱「西山樵者」，蓋其志也。

康熙二年歲次癸卯秋八月，嚴沆顥亭氏撰

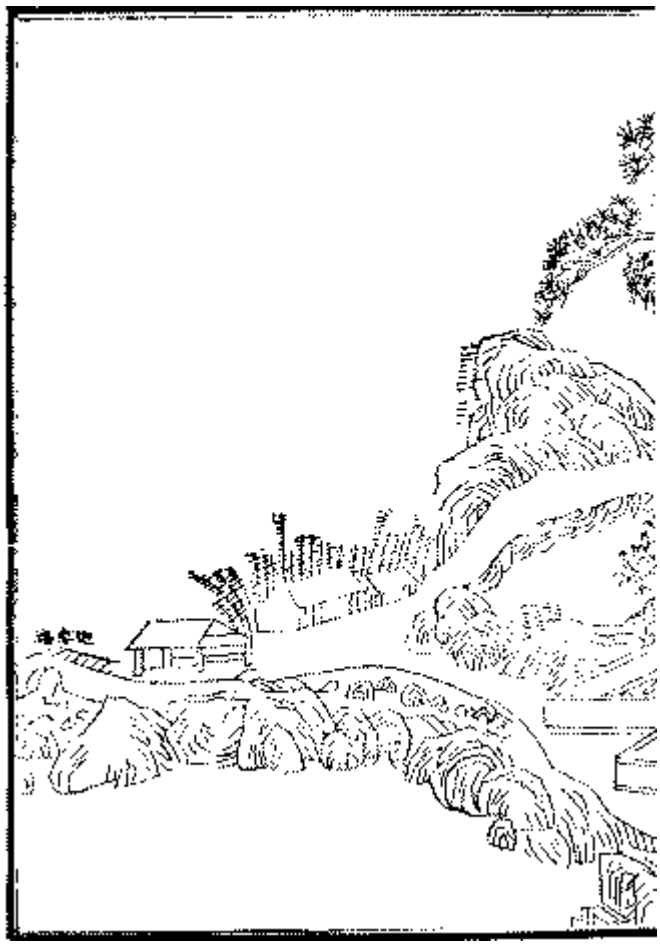




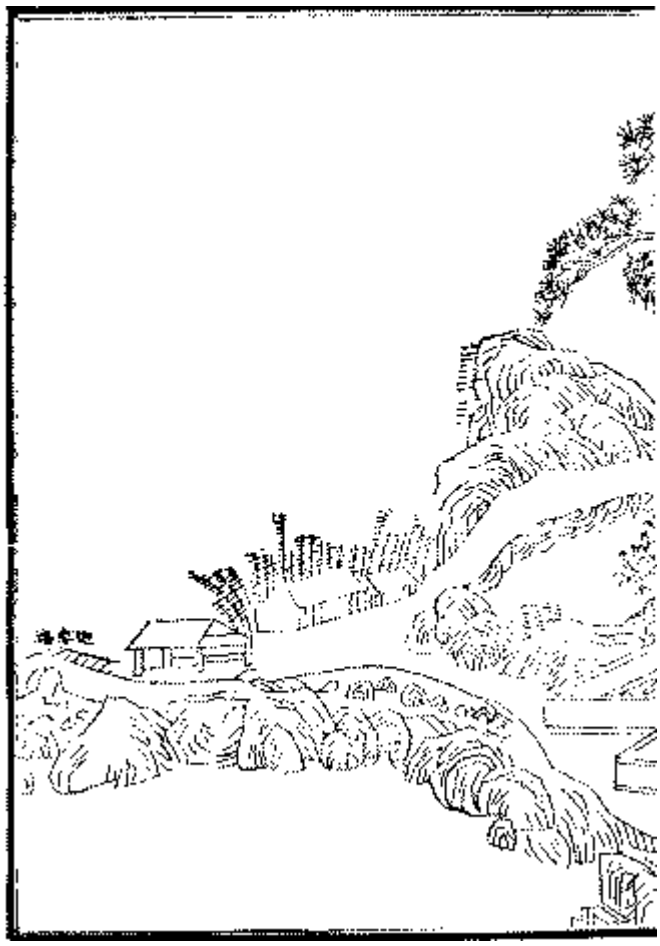


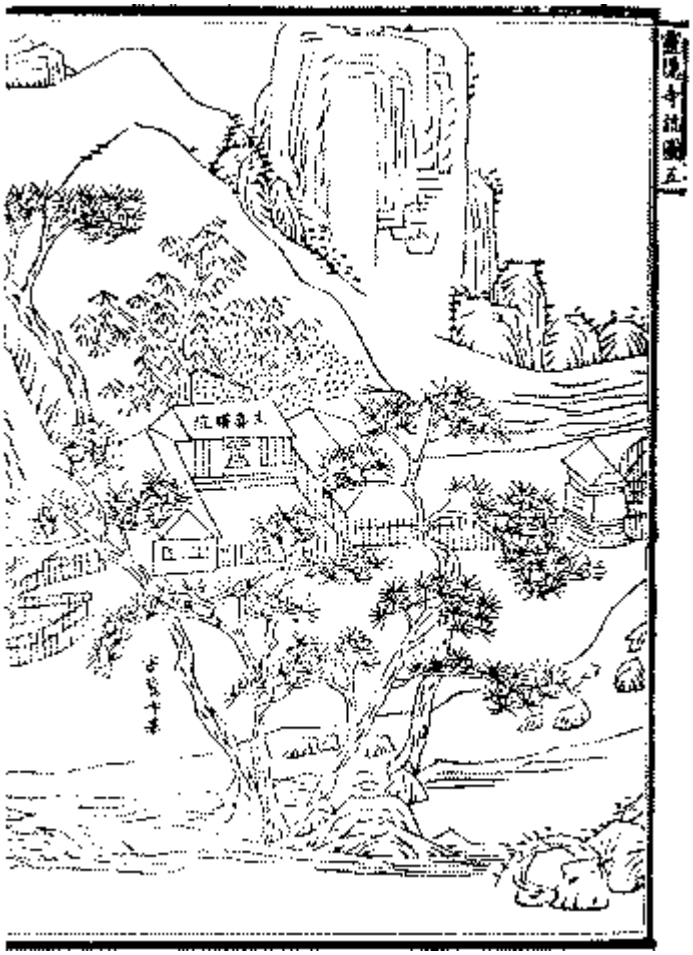






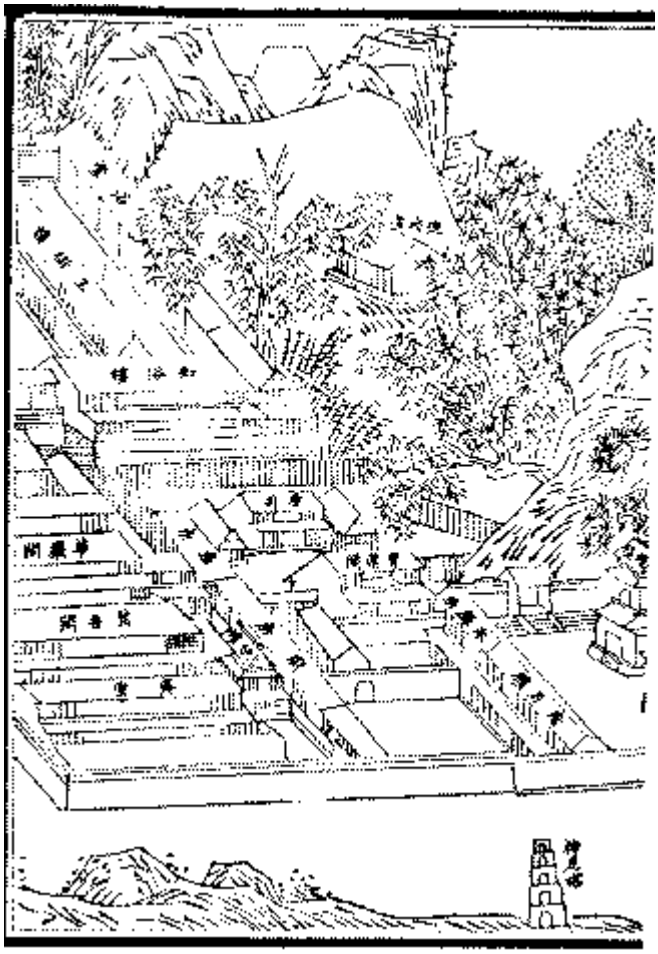




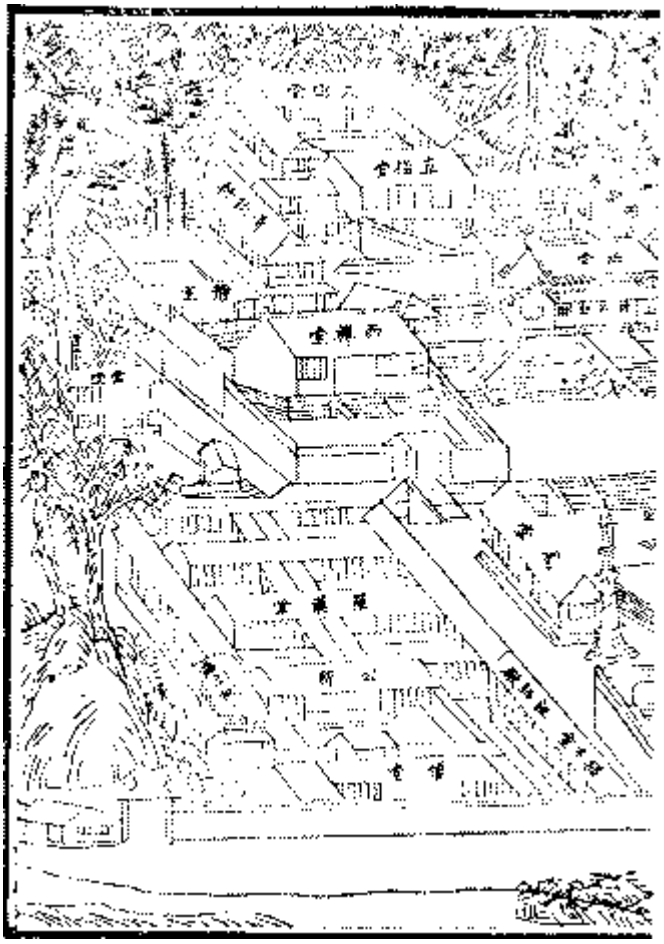

靈隱寺前圖五

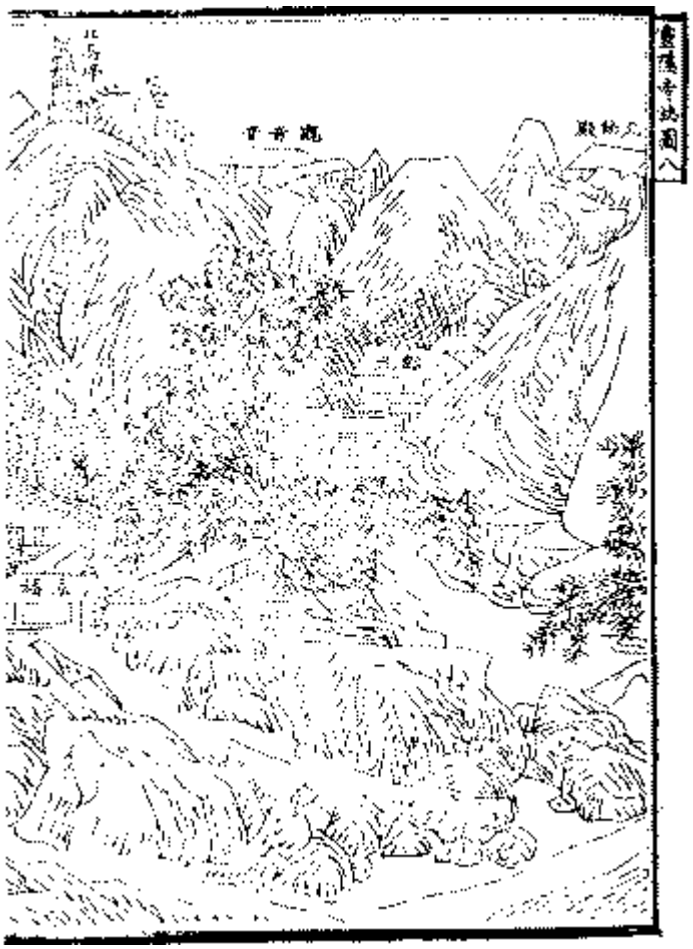



靈隱寺誌圖六





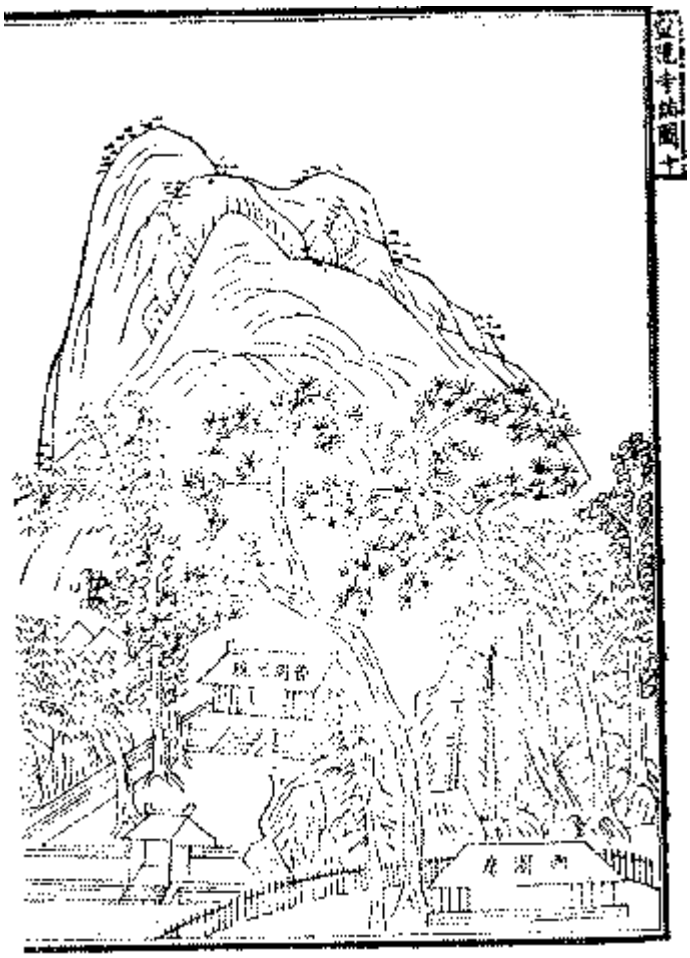


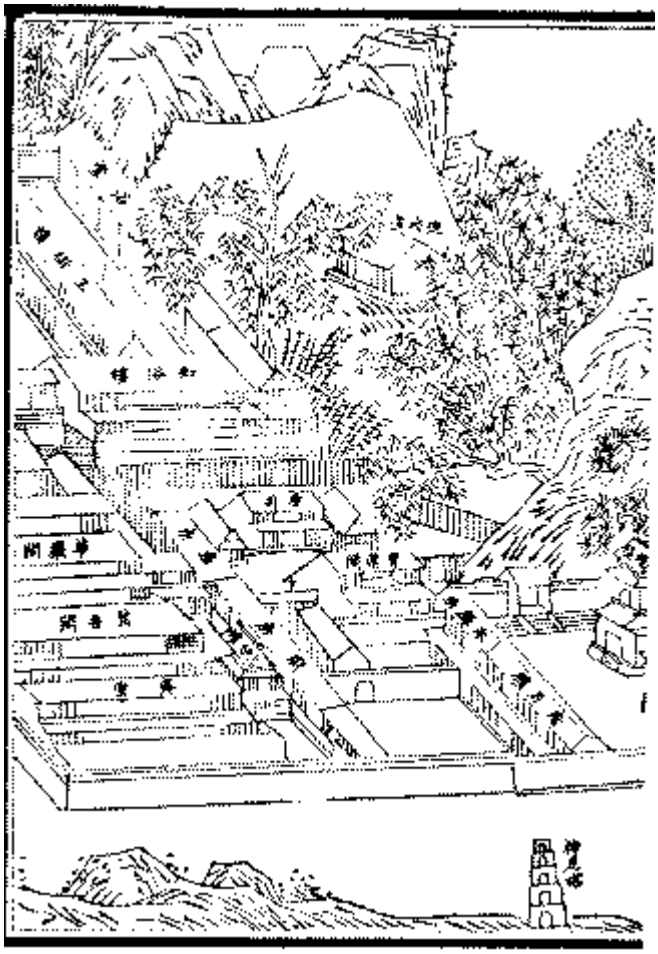

靈隱寺地圖八





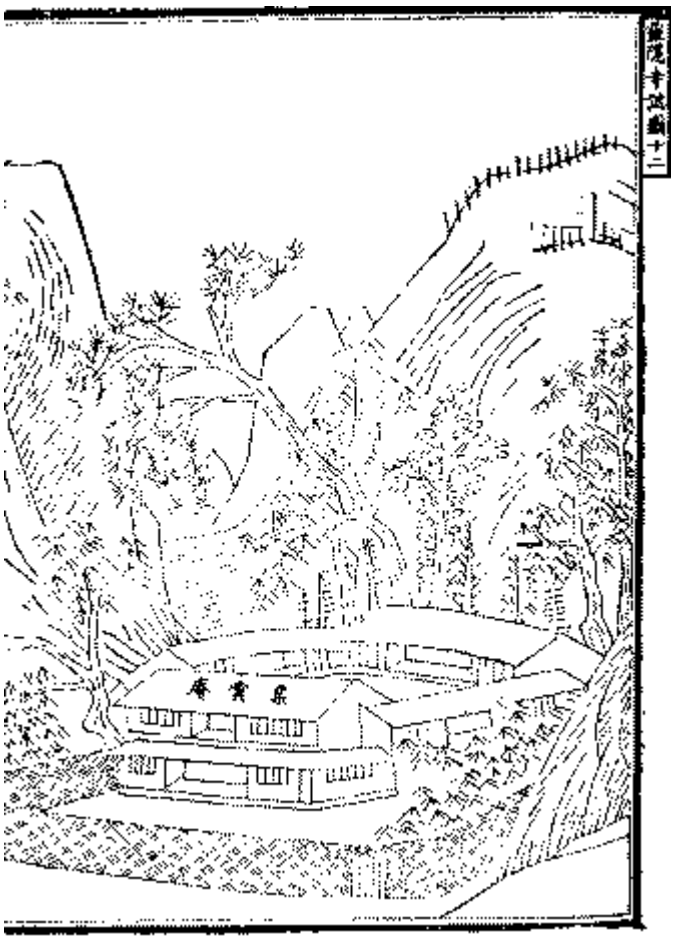














靈隱寺誌總目

序
山圖
卷之一
　開山
　重興
　山水
卷之二
　梵宇
　古塔
　古蹟
卷之三(上)
　禪祖
卷之三(下)
　禪祖
卷之四
　法語

卷之五(上)
檀越
卷之五(下)
人物
卷之六(上)
藝文(碑記)
卷之六(下)
藝文(記　序　志　表　書　疏　贊　言　論　銘)
卷之七
藝文(跋　啟　塔銘　塔表　行狀)
卷之八(附山地數)
詩
遺事
雜記
山地蕩總目
舊存
檀施
續置

武林靈隱寺誌卷之一

武林西山樵者孫治宇台初輯

吳門而菴居士徐增子能重修

住靈隱第二代戒顯晦山校訂

開山始迹

原夫西方聖人之教被于震旦也。漢明帝兆金身之夢，白馬馱經；康僧會協舍利之求，赤烏建塔。由是而降，聖教大行。彼方聖賢乘運顯迹，或遙空振錫，或隨處託生，所在之處，建立道場以保佑君國、利濟民生，其心甚遠，其功甚大。近代天下大剎在吳越間者，推靈隱寺為首。然開山實自理公，踵其後者豈得忘其所始耶？誌開山第一。

靈隱寺在今杭州武林山，去城十餘里。其山控湖扼江，有龍盤鳳翥之狀，為仙靈區宅。東晉咸和三年，竺僧慧理遊至武林，見飛來峰而歎曰：「此為天竺靈鷲峰小嶺，不知何代飛來。」人咸不

信。理公曰：「此峰向有黑白二猿在洞修行，必相隨至此。」理公即于洞口呼之，二猿立出。有此因緣，連建五剎：靈鷲、靈山、靈峰等；或廢或更，而靈隱獨存，歷代以來永為禪窟，五燈互照，臨濟子孫居多。今重興者為具德和尚，是法運使然也。

重興緣起

吾于興廢之際而重有感乎其人也。古來大剎不一，其始也有善知識以創之；迨其後，至瓜分房屋，各利其生，殿閣荒涼，鞠為茂草，往往然也。今觀靈隱，金碧莊嚴冠于諸方，而亦知二十年前衰落之不堪也。嗟乎！不有住持，其何以寺？不有廢者，其何以興？然則靈隱之廢，天之所以開大善知識也。誌重興第二。

昔理公之開山也，固非偶然；今靈隱之重興也，亦多奇兆。明季以來，寺已廢敗。本山二十四房，于順治六年己丑，敦請臨濟正宗三十二代具德大和尚住持。和尚乃三峰老人之嫡嗣、天童老人之法孫也。天童一棒，當下直捷；三峰玄要，宏暢綱宗。具和尚兼而行之，道風廣被；十坐道場，位下法從動以千計。是時和尚在佛日，先有烏程金姓者寓靈隱，夢寺中鼓吹迎大慧禪師至；又僧數輩夢明教禪師囑迎和尚。更有異者，佛日忽一日至夜半，四無人聲，聞伽藍殿閧然。細聆之，則靈隱伽藍與佛日伽藍相爭也。于是本山僧眾、闔郡護法敦請不已，而和尚于己丑進院。至則慨然曰：「夫所謂道場者，上以莊嚴尊像、敬禮三寶，使人得以瞻仰；下以鍵鎖衲子、傳佛祖慧命；外以接待宰官、居士，內以安置諸執事、一應僧眾，寮屋缺一不可。今無歇足處，則鷲嶺飛來之瑞、理公開建之功乃至于此！」即率大眾，躬親秉耒，斬棘除壤。凡事先之，不辭勞苦，乃于庚寅冬集料興工。若法堂、方丈、客舍、僧寮、鐘樓、浴室等，次第而成，煥然一新矣。大殿歲久方思修葺，而大殿灾，此豈神天佛祖以為非和尚不能鼎建，而故以是委和尚歟？舊殿高十三丈，度非百萬金錢不可就。功程浩大，揆之世情，人咸難之。和尚立排眾議，乃發誓願曰：「大丈夫出家學佛，身非我有。擔荷重遠，為末劫津梁，顧造一佛殿而便束手卸肩耶？」于是堅金剛心，奮勇猛力，眾心既齊，人天協助。所最難辦者無如巨材，乃命工師求諸徽、嚴、常、玉等山。山深水遠，卒不能下。不日水大發，從空瀉出，咸驚靈異。宰官、護法、檀越施財，貧者用力，役夫助工，其聚如雲，其心如火，不三年而殿成。上梁之日，人來觀者十有餘萬，擁塞如山，咸頌和尚法力，其聲如雷，諸山谷應。說者謂：「自建造以來，未見若斯之盛者也。」其餘寮舍，寬敞足以容眾，四方來參者歲以萬指計，雲水往來日以二三千指計。賓客輻

輳，無一[盌/一]晷。使人虛往實歸，譬如甘露水，咸得滿願。因緣福報至矣極矣，非天下大善知識，何以有此？未幾，應徑山之請，乃請法嗣雲居補處，即今之晦山和尚也。和尚具大才，少與吳梅村祭酒同筆研，名籍甚。甲申春，聞李賊破京，慟哭焚書，即以金剛王寶劒斬斷葛藤，于千華老人處受具，于具德老人處傳法印。日夜究心綱宗，與從前祖師如鏡照花、如水和乳，化行江楚。連踞雲居、四祖、疏山、薦福諸大祖席。曾著《鍛鍊禪人說》十三篇，諸方畏仰。每結制一七之期，必有數人省發。正法眼藏之利益學人有如此。滹沱絕學重開生面，以大展具老人未竟之緒。靈隱重興固不在殿宇鼎新已也。

武林山水

誌靈隱為寺也，而何以及武林？蓋先有武林山水而後有寺也。從古聖賢負佛祖慧命、為人天眼目者，往往遠城市而居山林，非耽名勝、重道場也。道場為莊嚴法寶、陶鑄衲子之地，豈擾擾名利之藪可得而混雜者哉？故古剎必在名山，不惟使皈心法道者得山水清迥之氣以資其禪定，且使遨遊山水者瞻仰紺宇以發其道心。然則助道因緣，莫名山若也。乃誌武林山水為第三。

武林山水，其載于邑乘、見于遊人記詠，亦既詳且備矣，而茲何以誌之？武林山，峰嶺不一，名剎甚多，而世之稱靈隱者，必曰「武林靈隱」。說者又以北高峰西麓、寺之所坐之山為武林，則安得有六十里之廣？要之，武林是合六十里之山而言之也。孫宇台誌云：「武林在錢唐縣，發源于天目，森列錢唐。東至赤山埠、進龍浦，西至古蕩西溪，北環西湖，南控浙江，週迴六十餘里為當。」吾于是知靈隱之得以武林稱者。當理公未創寺之前，祇有武林；及理公建寺，武林山亦止一靈隱，故稱「武林靈隱」。今之三竺諸剎分踞武林者，皆在靈隱既建之後，是以不聞稱「武林三竺」，明乎不得與靈隱抗行也。夫廣六十里之武林山，既為三竺諸寺所分踞，則誌靈隱寺者不可得而盡舉。若就所坐之山而誌之，則又非稱「武林靈隱」之義矣。吾今就其西山迤邐一帶以誌之。

其峰則有：

飛來峰

即靈鷲峰也，為靈隱寺案山，以竺僧理公得名，高五十餘丈。此峰中空外奇，玲瓏磊塊，說者謂其如矯龍、奔象、伏虎、驚猿，墮者將壓、翹者欲飛是也；然未能盡其形容也。其石有竅、有罅、

有筋、有稜、有如手指攢撮者、有如鐵線疏剔者、有如老松皮者、有如蟲蝕者、有如蟻穴湧起者、有如蜂房相比者、有如波浪衝激者、有如凍雲合逕者。下本淺土，勢若懸浮；橫豎反側，非人思想之所得及。石色非青非紫，帶白帶綠。石隙生樹木，甚老甚瘦，輒有無根藤附之。秋有紅葉，豔若布錦。坐冷泉亭望去，迥出世外。多生藥草，鮮知其名。其從西天飛來無疑，洵武林山之第一峰也。(其洞另詳)

蓮華峰

在飛來峰西，高起而聯屬者是也。《水經》謂孤石壁立，大三十圍，高百丈。今從下遙望，下闊上銳；從頂視下，其石四面敷開如蓮華瓣狀，故名。

宰相峰

在蓮華峰北下向西，如宰相執笏待漏狀。

月桂峰

在飛來峰西。南唐天寶中嘗雨桂子，有一子成樹。慈雲懺主居此十二年。宋天聖中，丁卯秋七、八月兩望夜，殿堂左右天降若雨，其大若豆、其圓若珠，有黃白黑三種色，帶殼、味辛，此月中桂子也。因取播種林下，浹旬而甲坼，彌月盈寸，綠葉可玩。明年春，移植白猿峰下迴軒亭，凡二十有五株。其它桂樹甚多，而今無存者，以花時多得煩惱，不去培植，漸至彫盡。康熙五年，靈隱大殿落成。後八月十三日早起，載堂禪師聞屋上歷落有聲，出而視之，其狀圓而長，大踰蕈麻子，殼有文，亦相類。大殿、法堂、方丈前後都有。拈取呈具德和尚，曰：「此月中桂子，吾已見過二次。」載公，秦川人，今為晦山和尚法嗣；曾住持石門虎嘯寺，曩在具和尚位下。因收貯二合許，將移至秦中種之。時有好事者聞之，咸索觀，輒取四五枚去。纔至揚州而桂子已盡。駱賓王有句云：「桂子月中落，天香雲外飄。」其語不虛，則唐初已落過。然落必有瑞應，具和尚重興靈隱寺，十有七年間凡三見矣。

白猿峰

理公嘗畜白猿于此。

稽留峰

在蓮華峰。峰形正不偏，無別峰。迤邐、傾昃、突兀之狀，俗譌為「雞籠山」是也。

北高峰

武林山左支之最高者，自下至頂九十二丈。樵蹊陡峻，以曲折為灣，共三十六灣。登絕頂瞻眺，羣山孫列，湖水鏡涵；江流折為帶環，海色宿為莽沆，真大觀也。上有五顯廟塔一座。

烏石峰

在北高峰西，上有烏石，故名。昔趙清獻判奪法安院歸靈隱作形勝，又名「形勝山」。

龍門峰

在烏石西，上有石對峙如門。

西原峰

在龍門西南，武林水北澗發源處也。

雙檜峰

在龍門南，上竺右山也。上有雙檜，望之如蓋。

白雲峰

上竺坐山，常有白雲覆其上。

中印峰

在上竺左。昔寶掌開中竺山，掌乃西域五印度之中印人，故名中印。

乳竇峰

山下有乳泉，白色。

獅子峰

與中印峰左右相夾，為上竺路也。頂有奇石，狀如獅踞。

香鑪峰

善住峰

善住峰與中印相連，因寶掌住世故名。《悲華經》：摩尼太子成道，號「善住珍寶山王」。

其嶺則有：

駝巘嶺

北峰東，盡處宛如駝肩，今作桃源。

石人嶺

北峰西，高六十二丈，路屈曲如羊腸，通西溪。

東墓嶺

通黃山。

楓木嶺

中印峰路。

白沙嶺

以沙白得名。通梵村。

郎當嶺

又名「捫壁嶺」。左迫削嶂，右臨深溪。緣木扳蘿方可舉趾，故稱「郎當」。又上為天門，東通龍井、南通五雲。

幽淙嶺

深壑泠泠，巉石齒齒，陟此者須前後牽挽。草樹周密，仰天一線，俗名「水出嶺」，與郎當嶺接。

東嶺

下竺東大路。

西嶺

道標和尚結廬于此。

仙芝嶺

月桂峰下，南北二山通衢，俗名「胭脂嶺」。

黃泥嶺

胭脂嶺餘氣。
其塢則有：

於家塢

雷院西，玄本塔基。

水岡塢

在北高峰，水從東下。

巢居塢

泝澗而西，達韜光。許由夏則巢居，又云：「巢父所居」，故名。

大桐塢

烏石峰西。

石人塢

石人嶺下。

白沙塢

白沙嶺下。

桐木塢

楓木嶺下，舊有吳寺，通中竺。

騰雲塢

上竺後，通白雲峰。

楊梅塢

廢興福寺路對上竺(興福舊名「彌陀教院」，得月輝老宿重興。)

永清塢

對中竺，內有菴，名永清。

神道塢

與下竺對。

慈雲塢

以慈雲建塔得名。

葛塢

葛井處也。

活沙塢

上至天門，諸山下伏。

水竹塢

珍珠塢

瑞岡塢

鷂子塢

其洞則有：

龍泓洞

前當迴龍橋，後通冷泉澗，峪岈懸、挂碧湧金，似真非真。內有通天處，漏天如井，後人題「通天洞」三字。其側有小洞，底地無垠，傳聞昔有採石乳者入之不已，聞篙櫓、風浪之聲，謂度浙江、通蕭山者，即此洞也。內有蔣之奇篆書(未見)、賈似道題名(見後卷八)。唐丁飛宅於中。

玉乳洞

一名巖石室，一名羅漢洞。吳赤烏二年，葛孝先于此得道，後人就道畔鑿住世羅漢十六尊。其迴旋曲折，小有蠻蝸；涓滴沁凝，大旱不竭。豈上仙蛻白石之繭而龍鼻為大陰之耶？

射旭洞

一名青林巖，即理公巖，有唐楊遵篆書三大字見石隙，乃理公燕寂之處，又名燕寂巖。其下四極三門，鰲撐而立；其上豐額險足，龜殼猶存。外視則洞可容百數人，內視則巖可樹百椽屋。藤蘿聯絡，峰石縱橫，無愧署書「八面玲瓏」四字者也。內小石有「金光洞」字，側有周伯琦篆書〈理公巖記〉一碑(見文內)。山多櫧桂，木葉常青，淩冬不彫，故曰青林。又曰香林。

呼猿洞

在蓮華峰麓，即慧公驗飛來峰處。六朝宋時有僧智一訪舊蹟，畜猿于此。其洞門甚狹，側身乃容；內廣堂皇，冥如長夜。又一洞，炬火傴行數百武，或高平如砥，或齰齻如牙。又一洞，非螣蚺不入，故人憚而未詳。

金佛洞

飛來峰南，下竺薝蔔堂後。

香林洞

亦名香桂林，黃初菴有詩。

圓公洞

三生石側，為圓澤會處也。

其巖則有：

龍泓巖

在龍泓洞，洞有室曰巖。

青林巖

在青林洞。

理公巖

理公燕寂處也。

玉女巖

飛來峰頂，一名新婦石。巖下石罅有水如玉。女潭也

日月巖

在下竺山，一圓如日，一半灣如月。

虎頭巖

在蓮華峰下，虎頭禪師以此為號。

千歲巖

以寶掌為名。

天香巖

在中印峰山半，又名百歲巖。

白雲巖

永清塢新菴。

百丈巖

雙檜峰後。

烏石巖

白雲峰後。
其石則有：

石蓮

即蓮華峰也。

石梁

在飛來峰頂，長一丈，亘石上如梁。

三生石

(下竺右。)

水波石

(下竺後。石上有水波紋，舊時江水至此。)

鬬鷄石

無考。

卧龍石

慈雲種梅其上，其詩有「梅有和羹實，龍無為雨時」之句。

一指石

龍泓洞旁。

石筍

烏石峰山半，高數仞，周可七八抱。圓峭特立，亦名卓筆峰。

石室

在韜光山後。真觀坐其中得道者名「頭陀石室」，理公巖下者名「巖石室」。其一未詳。

獅子石

韜光山後，高數仞。

石人

在嶺上。近視如將軍戴鐵笠之狀，遠望又如幼女雙髻也。

棋盤石

在永清塢中，高數丈，色赤如丹，廣丈許，平如砥。嘗有老僧謂：邵山子埽葉林中，得石棋子。

醉石

方廣一尋，在洪有竹園浴蓮池側。主人以其平踞可觴咏也，名曰「水臺盤」。白珩〈靈隱記〉曰：「至是搜名勝而此石以小見遺。夜夢人指曰：何忘醉石也？」

其棧則有：

伏虎棧

陸羽《二寺記》言：「靈隱澗中奇石，後為朱勔取去。」

連巖棧

飛來峰頂，石級猶存。白子佩原誌謂：連雲棧與伏虎棧皆峰麓奇石，楊真伽鑿為佛像。

其水則有：

南澗

一會支澗七。

南發源于五雲山，水出嶺。

西合上竺兩山支澗，徑靈隱房小橋合流，過五雲山路小廟橋，又合觀音井水，經時橋(匯水陰溝)，出金佛橋(在普門內)，過天巖房橋。

東合楊梅塢支澗，出琮老橋(僧琮建)。東合中竺永清塢支澗，北出中竺寺橋。東合下竺神道塢支澗，北過下竺寺橋。東合月桂峰支澗(三水橫出如川，名葛洪水)，過慈雲北澗，出飛來峰，至龍迹橋會北澗。

北澗

一會支澗十。

發源于西源峰，南合白沙塢支澗，西合永安支澗，西北合大桐塢支澗。流過吳寺橋西北，合烏石峰水，南會呼猿澗暗水。南合冷泉水源、北合石筍支澗。又北會金沙、銀沙支澗，又北合韜光支澗。東流過曹家橋，渟匯于靈隱石門澗，經瀑雷橋(今廢)、迴龍橋，會南澗水于合澗橋下(舊橋三洞，今修)，曰靈隱浦(南宋通舟至此)。北合水架塢支澗，西流過白樂橋，北合瑞雲塢水，經雷院名「後澗溪」。出唐家橋東南，趨西行春橋、逕東行春橋、逕金沙灘裏五橋，匯為西湖。

其泉則有：

冷泉

相傳在蓮華峰麓，今在寺前。堆藍漾碧，冬夏常盈。池旁有嶔崎空洞，形家以招提擁北高而面飛來，宜匯此澗，置閘以蓄水。建亭其上者，唐刺史元藎；廣池者，宋僧如璧也。

溫泉

在冷泉之上首，今涸。

渦渚泉

臨安誌云：在東嶼。

卧龍泉

在渦渚側。

醴泉

在渦渚右。大曆六年出，酌之療疾。

蕭公泉

在寺右。

伏犀泉

在飛來峰頂。

瓔珞泉

下竺後巖。元時竭僧允若祝曰：「吾緣在是，泉當再來！」已而泉出。

蓮華泉　跳珠泉

此二泉疑在慈雲塔院處。東坡有〈和周次元跳珠泉詩〉。

上永福

(劉宋，慧琳禪師開山。明弘治間，洪水堙廢。順治間，靜照法師重興。)

金沙泉　銀沙泉

俱在上永福，二方石池現存。

觀音泉

上竺為大悲泉，在講堂下，流繞殿前，經如意池。池以青石闌之，方丈許，石面鏤如意文。

夢泉

宋崇寧元年，浙西大旱，寺中廚水不給。主僧玉法師夢泉發于西坡，鑿之果得。

薈泉

在雙檜峰。

華光泉

在白雲西院。

凝翠泉

在獅子峰下。

水月泉

在中印峰前。

孫公泉

《上竺誌》謂孫思邈。

玉液泉

永清塢。

小龍泓泉

閻妃墓側。

白公茶井泉

在形勝山麓，舊鐵秀菴處。

龍王泉

(康熙辛亥夏大旱，韜光道上澗泉盡涸。忽於龍王祠前迸出一泉，充潤常住，真龍神賜也。)

其池則有：

蘸筆池

在本寺東廊下，丁行者學書處。

茯苓池

在本寺西，僧堂劚苓成池。

金蓮池

在韜光。

福泉池

下永福寺，福王建亭其上。

雲液池

在白雲峰。

七星池

中竺殿前。

金波池

集慶寺後。
其井則有：

葛翁大井

普福寺後。洪丹井，天下凡十三，而在杭者三。此與下竺井為二，其一則在龍井翁家山。有壇在雷院慶化山，所植松在履泰將軍廟。

天澤井

天澤井，履泰將軍為天澤侯，此其井也。
武林靈隱寺誌卷一終

武林靈隱寺誌卷之二

梵宇

昔佛以正法教天下，而復立像法者，以正法深微幽奧，初心難測；有像法在，使轉輪與聽法者皆于是乎準焉。故必建寺，寺者聚也，言三寶之所聚也。入門列四天王者，表護世功在前也。中坐慈氏者，表當念即可入一生補處位也。向內建韋天者，尊其道肅三洲、向佛而擁護也。三世佛者，表三際代禪而覺體不動也。殿中左右列應真、諸天者，表真俗二諦互顯中諦也。觀世音擁于殿後壁者，普門示現也。後有樓閣者，普賢萬行為諸佛之長子，而因緣果滿也。像法之大義如此。又聞一千年像法，後五百年滅壞。今靈隱在像法滅壞之秋，具和尚獨力鼎新，功勛莫大焉。為誌梵宇第四。

寺自晉咸和間，理公開山。山門榜曰「絕勝覺場」，葛洪所書。正殿曰「覺皇寶殿」，為宋理宗御書。五季、隋興廢莫考。至唐初，自宋之問咏靈隱詩，承聯未就，遶廊行吟；駱賓王時避禍，隱于僧，乃續曰「樓觀滄海日，門聽浙江潮」。之問欣然用之，靈隱之名大著。大曆六年修，會昌廢教，寺毀僧散。後稍興復，規制未宏。至吳越錢忠懿王，國富民殷，命永明延壽禪師重為開拓，殿宇一新。建石幢、二殿，仍覺皇之舊。殿後為千佛閣，最後為法堂。以東空建百尺彌勒閣。宋真宗景德四年，賜稱「景德靈隱禪寺」。南渡後，高、孝二宗翠華屢幸。理廟親灑宸翰，增輝山水，當時號稱禪窟，為五名山之第二山焉。改法堂為直指堂，賜直指堂印。元至大元年，殿歲久蠹朽，住持正傳撤故為新，皇慶元年落成。至正己亥燬于兵。癸卯，住持輔良始建方丈、伽藍堂。明洪武十七年，住持慧明重建覺皇殿。永樂元年，僧善才募施，裝塑大佛、諸天及諸供具。宣德五年閏十二月八日，覺皇殿災。九年，住持曇瓚建左右翼門；住持良玠重建正殿，復還舊觀。隆慶三年三月燬于雷火。萬曆壬午，住持如通開講說法，士庶雲集。五年鳩工飭材，百廢具舉。以癸未冬十二月始事，越五年落成。殿倣唐式用柱，平頭四十八，石柱十六，易名大雄寶殿。越今六十餘年，寺穨廢，存者十無一二。大殿、直指堂、轉輪殿，亦僅存而已。大清御世，順治己丑春二月，各房僧眾外護，合力敦請具德和尚住院。和尚相隨數百僧，戮力締造。庚寅營造方始，堂室次第鼎新。戊戌三月廿六大殿災，天將以除舊布新屬和尚也。辛丑七月十七日，大殿與天王殿同日鼎建。十八年間營造，無不高大寬敞，丹碧一新。凡為殿者七：天王殿、大雄寶殿、藏殿、伽藍殿、羅漢殿、金光明殿、大悲殿。為堂者十二：祖堂、法堂、直指堂、大樹堂、東禪

堂、西禪堂、東戒堂、西戒堂、齋堂、客堂、擇木堂、南鑑堂。為閣者四：華嚴閣、聯燈閣、焚香閣、青蓮閣。為軒者三：面壁軒、青猊軒、慧日軒。為林者一：玉樹林。為樓者三：響水樓、看月樓、萬竹樓。為房、為室、為公所者十：雙桂室、香積廚、圊室、浴室、各寮房、公所。而鐘樓增建為古百尺彌勒閣。計自斬荊誅棘，以迄落成，辛勤瘏瘁二十餘年，致殿閣巍峩，堂寮鱗砌，佛像嚴麗，金碧輝煌。從內至外，無一殿一堂、一樓一閣、一房一舍不脫體斬新者。雖曰重興，實同開創。蓋代功蹟，古今未有也。大殿、天王殿、鐘樓，皆募檀信；其餘都積香信為之。錢糧鉅萬，一時湊集。真千年香火、萬年常住；臨濟光明、三峰法道永久不替。晦山和尚補五載之內，完飛來峰牌坊，建具和尚慧日塔院，置普同塔三座。其他未竟，容次補入。

開列新建殿堂、樓閣、寮舍、庄院名目

大雄寶殿

高十三丈五尺。規制宏敞、丹臒精麗，不減化樂天宮，為九州名山之冠。順治辛丑年七月十七日建。

天王殿

高七丈。辛丑年七月十七日與大殿同日建。

輪藏殿

順治庚寅春移建于東首鐘樓南。

伽藍殿

康熙壬寅秋建于華嚴閣右，即妙應閣舊址。

羅漢殿

五十四間。順治戊戌冬建于西禪堂之下。

金光明殿

九間。順治乙未秋建于蘸筆池上。

大悲殿

六間。順治戊戌春建在聯燈閣後、蘸筆池前。

祖師殿

八間。順治乙未冬建于羅漢殿之下。

法堂

高七丈二尺，五間。順治戊戌十二月十日建，宋時指心堂。明正統間僧玹理建，毀。萬曆乙酉僧如通建。大殿災後，具和尚先建法堂于殿後，是指心堂故址也。　下戒壇一座。

方丈直指堂

高六丈七尺。癸卯年十一月十日建。

面壁軒樓

七間，高三丈七尺。順治十三年冬建，在方丈之左。

青猊軒樓

六間，高三丈六尺。順治十四年冬建，在方丈之右。

小方丈樓

上下一間一路。癸卯年建，在青猊軒之左。

靜室

四間，高一丈二尺。在小方丈樓之右。

東耳樓

一間一路。

獅子窟

高一丈八尺，六間。在方丈之前。

大樹堂

因西栗樹為西晉慧理祖手植，巨數十圍，枝榦參天，置堂其下。高二丈一尺，五間、兩廂。乙巳九月二十八日建，在方丈後，即見山亭故址。初為茅篷，今為瓦屋。

東禪堂

五間。順治十五年秋建，在法堂之東。

西禪堂

五間，廂房二間。順治己亥春建，在法堂之西。

慧日塔

重興靈隱具老和尚肉身在此，五間。康熙戊申秋晦山和尚鼎建，即慧日軒故址。

南鑑堂

六間。康熙壬寅秋建，在聯燈閣之右。

齋堂（今改樓名香積）

七間。順治壬辰冬建，在山門之左。

聯燈閣

五間。在華嚴閣後。以二學人同日得悟，故建。

華嚴閣

五間。在梵香閣之後，康熙壬寅冬建。

華嚴閣廂樓

九間。壬寅冬建，同日與華嚴閣上梁。

華嚴閣小方丈

上下一間。壬寅冬建，與華嚴閣同日上梁。

青蓮閣

即集翠樓。順治辛卯秋建，在華嚴閣之前。

梵香閣

在齋堂之後，五間。順治丁酉秋建。

嫩桂堂

十間。順治乙未秋建，在東禪堂東側。

玉樹林

九間。康熙戊申秋晦和尚建，為慧日塔院之左輔。

法壽堂(即經書寮)

七間。康熙戊申秋晦和尚建，為塔院之右輔。

官客樓

五間。康熙壬寅冬建，在伽藍殿下。

官客公所

五間，廂樓五間。順治乙未秋建。

響水樓

在香積樓之前。

萬竹樓

在公所西。因竹取名，今為妙應閣。

鐘樓

順治壬寅夏建。在藏殿之上，古百尺彌勒閣處也。

看月樓

五間。順治辛卯秋建，今為米庫樓。

直歲樓

兩間。順治辛卯冬建。

廚房樓

四間。順治辛卯冬建。

廚房

七間。順治丁酉秋建。

庫房樓

五間。順治庚寅夏建。

知浴樓

五間。順治丁酉秋建。

浴寮

五間。康熙壬寅秋建。

雜務寮

九間。順治丁酉秋建。

柴房

三間。順治丁酉秋建。

菜園

七間。中奉無著禪師塔，有二廂房。

梅園房

五間。新增建。

擇木堂

在祖師殿之下，五間。

茶房

在南鑑堂之上。

普同塔院

三間。二脇樓三間，廂房四間。康熙丁未夏建，在天聖院之側，具和尚同晦和尚建。

總管殿

三間。遷于東岡之上。

柴寮

在潘砂嶺樓，五間。佛堂五間，廚房浴室三間，兩廂房四間。順治辛卯春建。

寶勝菴

即放生所在金沙灘。佛堂五間，廚房四間，生所五間，柴房二間。順治乙未秋建。

松木場(下院大悲菴)

樓房五間，康熙二年置。廂房一帶，晦和尚增建。

江干下院接雲菴

樓房五間，平屋五間，廂房四間，茶房三間。順治十六年建。

明萬曆癸未易菴建置附載

山門為最勝覺場，左曰東林會勝，右曰西竺分奇。進為天王殿，金剛四列，峙中彌勒。又進為正殿，所謂「唐殿式」者也。中奉三世尊佛，後為五百羅漢。湧壁後列十二圓覺菩薩、梵王帝釋、十八尊天。又進即舊鐵塔，建藏輪殿三。又進，舊法堂五，僧玹理建而易菴重修之也。又進，上坡為方丈、直指堂，元輔良所重建者，易菴以為法堂也。其餘伽藍殿之在左，祖師堂之在右；改安遇堂為蓮峰堂，改千佛閣為三藏殿，亦約略可得而數焉。

明宣德七年舊誌本山寺基號址附載

維字一號至十號、十一號。
舊有山九十八畝三分。
民山一十五頃七十八畝八分。
東至集慶寺牆，西至上永福寺路，南至飛來峰頂，北至北高峰各分水為界。
本縣本寺官民田山共一百九十八頃九十八畝八分九釐一毫。
今昔雖殊，附載于此以存舊也。

元賜還九里松行路碑附載

長生添氣力裏、大福蔭護助裏、皇帝聖旨：浙江行中書　　省行御史臺官人每根底、廉訪轉運司官人每根底、跡賦總管府官人每根底、軍官每根底、軍人每根底、城子裏達魯花赤官人每根底、各枝兒目每根底、眾和尚百姓每根底、宣諭的聖旨。

語雖不可句，然亦以見一代典制，且知九里松之屬靈隱，唐宋以來未之有改也。

宋天聖三年皇太后賜錢買田數附載

- 收買杭州錢唐縣山林田土五頃。
- 鹽官縣思亭水田一千頃。
- 秀州崇德縣積善水田一千頃，并免秋糧、夏稅。

宋天聖三年中書門下牒附載

杭州靈隱山景德靈隱寺住持僧禪定大師延珊奏：先奉皇太后聖旨，宣賜庄田，祝延今上皇帝聖壽，今已五年。累設過齋僧粥食四十餘萬，祝兩宮聖壽。其田土，見今供納秋夏二稅，紬絹三十四疋、赤線貳十一兩貳錢、米共計七十三石七斗，係屬杭州、秀州兩處鄉縣，乞與放免上件稅物，取聖旨。牒奉勅：宜令逐州子細勘會，如委實是宣賜庄田，據合納夏秋二稅，並與放免，即不得將不係宣賜田土稅一例放免。牒至准勅，故牒。天聖八年十二月六日牒。　工部侍郎參知政事王(曾)、給事中參知政事薛(奎)、給事中參知政事陳(堯佐)、吏部侍郎平章政事呂(夷簡)。

其後洪武中，僧淳朋以時代移易，獻還朝，復賜三千畝，先勅見存。後徐華亭相公當國，僧大茂以田被占奏聞，至今本寺管業也。附誌于此，以見累朝恩遇，本寺基產不同于他山者如此。

舊誌靈隱別業附載

種德菴坐落松江府青浦縣師字圩。
寶壽寺坐落本府餘杭縣。
大遮山菴坐落本縣崇化鄉。
永壽院坐落本府富陽縣。
桃源寺坐落本府臨安縣。

唐宋以來靈隱殿室舊名附載

絕勝覺場
覺皇殿
迴廊
延賓水閣
百尺彌勒閣
一笑軒
交蘆室
妙應閣
安遇堂
千佛殿
蓮峰堂
直指堂
妙莊嚴域
見山亭
面壁軒

其名列此，詳見〈古蹟〉。

舊誌諸僧續拶菴房附載

歸雲菴
雙桂菴
淨居菴
天香菴
庫司房

已上寺東。

無垢院
蒙堂
選佛齋
祇園
幻隱菴
普覺菴
涵澤菴
澗西菴
一默菴
菴(即峋嶁山房)

已上寺西。

韜光菴
白雲菴
華光廟
元帥殿
永安塔院

已上方丈後山半至頂。

古塔

西域尚火葬。佛滅度，舍利盈斛，在在處處皆建塔以供養。長干塔乃赤烏二年康僧會西向頂禮三七日求而得之者，為震旦佛塔之祖；中有小塔，藏佛舍利，時放光。四明阿育王塔舍利，隨人根器，色光不一。松江龍華塔，每歲八月望夜，萬塔來朝，于水中見光芒萬道，交暎如蛇如虹，不可形容，此又塔之王也。後世僧歿荼毘，凡有舍利者皆得建塔。又有肉身建塔院者，自四祖、五祖、六祖來舊矣。靈隱自理公以來，建塔至多。為誌古塔第五。

唐塔

理公塔

在龍泓洞口，砌高三丈。萬曆丁亥六月為霖雨所圮，中獲石刻云：「開寶八年募眾重建釋迦磚一座，在清遶橋靈山里。」則迴龍橋舊名清遶矣。又有鐵小塔一、鐵盒一，內沈香四片、帛一方，觸手如蝶翅。閱庚寅二月，僧如通重建，開其基，見一孔，甚堅，以手探得陶甕之底，遂復封瘞而藏之。郡人虞考功淯熙為之銘。

隋塔

神尼舍利塔

在飛來峰頂。隋仁壽二年，遣僧賫舍利至此，相基啟土，劚得石坎，以舍利函納之，不差尺寸。按神尼乃同州般若寺尼，名智仙。隋文帝始生，尼知其貴，太祖委尼保育。一日皇妣來抱，見兒

成龍形，驚墜地。尼訝曰：「誰驚吾兒，致令晚得天下？」及帝長，即位後，令天下造佛塔，而以尼舍利函遣僧至靈山建塔焉。

真觀塔

在東岡嶺，觀法師手所標葬地也。久圮，宋慈雲募王欽若重修，甓甃甚工。慈雲有詩以識，其序曰：「上門自開，一無遺物，不知全身隨多寶以證經乎？象佛壠以化往乎？」今塔有石鑿，一僧坐其中，像亦甚古。

唐塔

鳥窠禪師塔

古云在靈隱山，見孤山知圓〈白蓮社主碑〉。然鳥窠塔今實在鳳林，想移去也。仍舊誌姑存之。

北高峰塔

唐天寶中建，高七層，藏古佛舍利。會昌時毀，大中年復建。吳越武肅忠懿復重修之。宋至道二年燬於雷火，元豐間圓明大師重建。咸淳七年燬，繼又建。萬曆間存燼餘三層。今於順治壬辰年復圮。

修證了義法師塔

在廢天台。

吳越塔

無著禪師塔

舊在石人嶺。天復二年，宣城賊田頵等縱兵發師塔，肉身不壞，爪髮俱長。武肅王遣裨將邵志重加封瘞。宋楊沂王毀塔，遷葬靈隱無垢院。韓侂胄取為生壙，遂啟陶龕，容色如生，髮垂至肩，指甲纏繞，三日不壞。順治庚寅八月，具德和尚治圃室于寺東，舉钁而陶龕[祝/土]破一穴，見有禪師端坐，髮爪圍繞，四大如生。

寺中耆宿咸謂是無著禪師。具和尚急命封掩，為鑿石建塔，覆以塔院五間，置香燈奉事焉。

宋塔

瑞光卧塔

月桂峰下。慈雲示寂，有大星墮地，因葬其地。

延珊禪師塔

在廢天聖寺。

普慈大師塔

即幻旻也。契嵩為之銘，在呼猿澗北。

永安禪師塔

舊為契嵩之退居，即其地建塔。因茶毘五種不壞，號「五相堅固之塔」。具德和尚重修。

玄本禪師塔

在瑞雲別院。

白蓮社主塔

為圓淨大師，名省常。遠嗣廬山，唱教西湖。鳥窠禪師塔側。

南宋塔

瞎堂禪師塔

在廢天聖寺。明初被某指揮乞葬其地，及發塔不克，至以火煉其石，石亦不裂。計力已窮，遂於塔後數尺許下葬焉，乃令以塔為祭石也。

懶菴安禪師塔

在永安院。

松源禪師塔

在北高峰麓。

石鼓禪師塔

永安院側，具和尚重修。

鐵牛禪師塔

在□□處。

妙峰禪師塔

在寺西岡。

元塔

普覺朋禪師塔

即淳朋禪師普覺房山後。

良用貞禪師塔

在靈隱歸雲菴。

明塔

幻隱禪師塔

在幻隱房。

見心禪師塔

在天香菴。

忻悟禪師塔

在東岡。

無文禪師塔

在雙桂菴。

可淳禪師塔

在涵澤房。

幻菴修禪師塔

在永安院側。幻菴，本寺八十五代住持。

慎菴祥禪師塔

在祇園房。有〈廣原行業記〉。

曇瓚師塔

宣德年住持，興建大殿者。

北峰讚塔

在澗西。

月用禪師塔

師俗姓江，與弟之浙，俱以文章、道義自命，故錢唐有二江也。師厭棄塵俗，即時受具出家，參無上義。行腳幾載而示寂靈隱。具和尚即命塔於妙應梅塢，而屬淨寺豁公為之舉火。同時會葬者數十百人。所著有《蝶菴集》行世。

古蹟

從來名山勝地必多古蹟，此皆前人眼光所射、神情所注之處。即歲久湮沒，其名尚存，人至此無不為之徘徊，思得一見焉；而況名山如武林、大剎如靈隱者乎？或為仙真棲託，或為帝王遊幸，或為仕宦蒞止，或為大家別業，或為名人名士登眺品題其處，至今有可得見、有不可得見者，一一備列。為誌古蹟第六。

山門二石幢

高十許丈，凡十三層。用鐵鎔灌，堅不可動。吳越王大元帥建。周圍列〈尊勝咒〉。

丹墀二石塔

高可五七丈，九層。上有石扁，書「吳興廣濟普恩真身寶塔」十字。二塔所題皆同，而無年代日月。山中舊物，所存唯此。其塔八方，下刻〈佛頂首陀羅尼〉，二塔皆同。按契經陀羅尼者，此云總持。其曰廣、曰普者，《顯密圓通經》謂陀羅利益有十，如護國、壽民、時和、歲豐、疾疫、刀兵、惡獸、鬼魅、五無間、十惡逆皆滅，故云廣普也。曰真身者，陀羅尼乃三藏之祕密、佛之真身所在。又凡寶塔中皆有多寶佛真身也。又按佛塔有生身、碎身、全身、真身者，《成論》云：「乘如實道來成正覺，此真身如來也。」合三說而真身之義得矣。塔上所鐫佛皆梁像，此或惠理之後、六朝僧所為耳。其無歲年者，豈以朝梁暮陳故耶？

西部都尉治

在武林山。

錢唐縣舊治

《水經》：靈隱巖有錢唐故縣。西漢有錢唐，東漢無錢唐，於晉復有縣也。

左軍教場

宋設在行春橋北，即部司前軍寨。

飛來峰坊

笑翁堪闢寺前屠沽之地，為立關建坊也。

二寺門

即天竺靈隱牌坊，袁居中書。今飛來峰坊稍下、跨大街。白樂天詩云：「兩寺原從一寺分」，是也。今址尚存。

袁公松門

跨路如一字然。吳說為書「九里松」三字，今作「一字門」者非。

冷泉亭

唐刺史元藎建。白樂天書「冷泉」二字，東坡續書「亭」字；今董宗伯其昌重書。陳徵君繼儒書對，用王維「泉聲咽危石，日色冷青松」之句，最合。

客兒亭

客兒，靈運小字。盧元輔詩「長松晉家樹，絕頂客兒亭」，是也。一稱「夢謝亭」，杜明甫為靈運建。

袁君亭

後人思慕袁君建。

見山亭

唐給事盧元輔建，在靈隱寺後山半。羣山奔赴，皆供目睫，故名。一曰「巢雲」。

虛白亭

元和間刺史相里君建。沂溪傍口，林泉豁爽，故名虛白也。

觀風亭

裴庶子棠棣建，在虛白亭又西(同上虛白亭俱在包園)。

候仙亭

韓僕射皋建，在觀風亭又西。自見山以下四亭，并冷泉亭為五亭也。

紫微亭

紫微舍人唐詢建，在靈隱寺前。

壑雷亭

在石門澗上，宋安撫趙與[竺-二+((己@((巨-匚)/匚))/心)]建。

紫微亭

韓世忠忤秦檜，解樞柄，逍遙湖上，最愛此山，故建此亭。邵古菴曰：「紹興十一年冬岳飛死，十二年三月韓公即建此亭；謝兵柄時獨遊焉。」按岳飛有〈登池州翠微亭詩〉曰：

經年塵土滿征衣　特地尋芳上翠微
好水好山看未足　馬蹏催趁月明歸

韓當時憶岳此詩，故以名亭，而亦隱痛之也。亭在飛來峰半。

春浒亭

合澗橋，見貝瓊〈記〉。

清繞橋

吳越時名，今稱迴龍橋。

東西行春橋

東在麴院，西在九里松也。

合澗橋

南北澗水會于橋下，故為合澗也。

瀑雷橋

在冷泉亭上。

石橋

亦謂石梁。飛來峰頂，近翻經臺。

杜明甫宅

在飛來峰。

丁翰之宅

在龍泓洞。

仙廬

顛仙姓鄭。在呼猿洞口。

紫芝道院

宋咸淳間，道士陳崇真卜居于此。北高峰東，俗名慶化山。

朱墅

梁隱士朱世卿別業，在九里松。

鄴公菴

宋守祖無擇建，在石筍峰。稱鄴公者，是其封號未可知也。有蘇子瞻、秦少遊、黃魯直留題，文與可畫竹在焉。

香林園

蘇仲虎尚書園，在九里松。

班衣園

韓世忠別墅。

書藏

蘇和藏書之所。

峋嶁山房

靈隱澗西。李元昭結廬于此。

丹竈堂

葛洪煉丹之所。

思真堂

許邁宅。

九師堂

一曰隱居堂，陸偉建。偉讀《易》於此，為淮南九師也。

西嶺草堂

道標所居。

東嶺草堂

慈雲懺主之所建也。懺主名遵式，僧伽不載而獨載此者何也？僧伽止載靈隱僧，慈雲行雖高，例不得列。若其遺蹟，則所謂「兩寺原從一寺分」，安可以不列也？是故七葉堂、九品觀堂，咸得類見焉。

七葉堂

白樂天詩有「宜人七葉堂」之句。

金光明懺堂

建炎三年，帝狩台州，至金鼇山，寂然空靜，惟聞廣殿香清。有白髮老僧禱諸天於佛前，憂時保國，語意誠篤。帝悅而問之，對曰：「此護國金光明三昧懺也。」是後駐蹕杭州靈隱諸巨剎，咸賜金帛修金光明懺。今其基在梅園，是高宗所建也。

九品觀堂

在天聖寺，疑亦慈雲所建。

翻經臺

謝客兒于杜明甫翻經處。

飯猿臺

在呼猿洞口，廣丈許，高二尺。僧智一居此畜猿，好事者每來施猿食，故有臺也。

無量壽閣

靈鷲山側。

輪藏閣

本千佛閣，明萬曆時重建。中置轉輪以奉法寶，計六百三十八函。董公宗伯其昌匾曰「輪藏閣」，故從今名也。

百尺彌勒閣

在舊東廊之外。

延賓水閣

在石門之東，背山而臨水。

望海閣

北高峰頂，蘇東坡有詩。

滴翠軒

在靈鷲寺。

一笑軒

見孝宗御語。

巖石室

即理公巖室。

交蘆室

即遠瞎堂所居。

明真宮

在九里松旁，宋嘉定中建，寧宗書匾。疑為道院也，並駝巇嶺，下至靈隱，左右各建置，不一其所。流傳者如興福院、資德廟、萬壽院、靈曜觀、崇壽院、昇僊宮、多福院、大明寺、永清寺、履泰將軍廟。或為蘭若，或為道院，或為香火院，或為土地祠，略為疏記，不能盡詳也。

天醫波利多院

在飛來峰。宋淳熙間，天醫菩薩顯化之跡也。

鐵舌菴

靈隱寺內。惠遠茶毘，舌不化，為鐵舌。

韜光菴

以韜光禪師得名。菴有金蓮池、獅子石、烏峰。吳越王改建，名廣嚴菴。大中祥符間復改今名，有丞相陳堯佐題。

白雲菴

在方丈後。僧清覺，孔子後，號本然，居此。

天聖寺

靈隱寺內。

靈峰院

水堨塢內。宋時建，今廢。

無垢院

寺後方丈處。

海峰菴

亦在本寺。

華光廟

在北高峰頂，以奉五顯神者。宋嘉定中，范師孟事頗著奇異，詳見《碎錄》。

元帥殿

在北高峰山半，以祀潮神。

總管堂

靈隱寺內。舊時勅封王念二總管，不在十八伽藍之列。

陳明大王祠

在北高峰麓。王姓陳，名澤，本餘杭令。

東坡祠

在靈鷲寺。邦人初祀公蘇隄，呂 惠卿奏毀之。此又寺僧所建也。

土地過海大王祠

在月桂峰麓。傳言錢王子有墳在塢內。

輦路

路砌為城者，南宋時為翠華幸臨也。今制存舊麴院路，趙安撫與[竺-二+((己@((巨-匚)/匚))/心)]新堤，從麴院以通靈、竺也。

椒園

靈隱種椒處，椒香勝他處。

呼猿洞舊路

內可通中竺，此出《十三州志》。今中竺後既山塍一條，洞後門並不可得；或土石崩泐未可知也。

靈隱舊小路

在寺左，乃靈隱上菜園也。宋時屠沽在此地，住持笑翁始闢為園。

吳寺團

吳太后香火寺前聚也。靈隱寺對。

吳寺橋

菜園

在靈山下，今不存。

上菜園

下菜園

理宗為閻妃香火建集慶寺，以古蕩田千畝易之。

法安院衖

今名法安衖也。

舊靈鷲寺

在飛來峰麓。理祖來武林，先建此寺。宋嘉熙初改興聖寺。元末毀。今為張公墓。

靈隱寺誌卷之二終

武林靈隱寺誌卷之三上

住持禪祖

叢林之有住持，猶國之有君也。國不可一日無君，而叢林可一日無住持乎？住持者，必須善知識，知眾生病，識治病藥，然後開法道，濟度生民。火以薪傳，道因人舉，以其行解相應，稱之為祖，其來久矣。靈隱自東晉咸和至明萬曆，共一百三十餘代，有為天子所命者，有為大臣所請者，五燈互耀，號稱祖窟。易菴而後，寖以衰矣。大清順治間，具德老人暨晦山和尚，父子相繼，三十年來，臨濟一燈，光明獨盛。茲考歷代住持次第，系其行實暨法語，以見大槩焉。為誌禪祖第七。

開山慧理祖師

西天竺人。東晉咸和初來武林，見靈鷲峰，識其從天竺飛來；以呼出黑白二猿為證，建靈鷲、靈隱、靈山、靈峰諸剎。今靈隱獨存，為開山始祖。常晏坐靈鷲後巖，因號理公巖，又名晏寂巖。今迴龍橋東首瘞塔存焉。

智一法師

劉宋時居靈隱山半峰，精守戒範而善長嘯，牽曳其聲，杳入雲際，如吹笳葉，若揭遊絲，颼颼淒切，聞者悲涼，謂之哀松梵。澗邊養一白猿，有時不還，一乃吮吻張喉，林木振響，則猿至矣。謂之白猿梵，稱為猿父。其後澗邊羣狙聚焉，有好事者往往從而飯之，故今有飯猿臺。

曇超法師

姓張，清河人。形長八尺，每獨宿樹下，虎兕不傷。齊建元末，適錢塘靈苑山，每一入禪，累日不起。一日忽聞風雷之聲，俄見一人秉笏，稱嚴陳通。須臾又一人，形甚端偉，羽衛連翩，自稱七里灘弟子，曰：「富陽邑人冬鑿麓山，侵壞龍室，羣龍忿，誓三百日不雨。今已百餘日，井泉枯涸，無論田禾。法師道德通神，欲屈前行，必感甘澤。」超遂達赤亭山，遙為龍咒願。至夜，羣龍悉人形，詣超所禮拜，因乞三皈。明日即降大雨，高下皆足。至永明十年卒。宋寧宗嘉定三年，賜號「靈悟大師」。

寶達禪師

不知何許人；晦迹武林山，住剎利院，因名剎利禪師。寺中有印沙牀、照佛鑑，乃其遺迹。往者浙江驚濤為害，激射湖上諸山，師憫之，持誦祕咒累日。一夜，江濤中有玄冠朱衣偉人、謂師曰：「弟子吳行人也，憤心未雪。師慈心為物，敬聞命矣。」自是潮擊西興，浙之東岸沙漲數里，後罔知所終。

聖達貞觀禪師

姓范，錢塘人，世顯仕。幼奇相，掌有仙人字，舌紫羅紋。居靈隱山石室，戒行精專，受天台禪觀，高譚寂照，金石相宣，時人語曰：「錢塘有貞觀，當天下一半。」隋開皇年，眾建南天竺寺，請師居焉。嘗講《法華》心要，感皋亭神，請講捨祠為殿；刺史劉景安請講《海龍王經》，驟雨沛然。師能文，有雅操，文帝三徵，秦孝王兩延，皆以疾辭。仁壽中，手標塋地於寺東岡。大業四年，一日聞空中伎樂，遂趺化，壽七十四。

堅道守直律師

姓范，齊信安太守瑝八葉孫，錢塘人也。詣蘇州支硎圓公，受具足律儀，是夜眼中現光，燄長一丈餘，蓋得戒之驗也。立願誦《華嚴經》還，夜夢神人施珠一顆，及覺，尚炯炯然如在屋中。唐玄宗開元間，有制舉請正名，隸大林寺。後移籍武林靈隱。大曆五年三月，告眾曰：「夫至人乘如而來、乘如而去，應跡如此；而愚夫欲以長繩繫白日，安可得乎？」乃寂。春秋七十一，臘四十五。徒清畫著塔銘。

道標法師

姓秦，富陽人。七歲時，有僧摩其頂曰：「此子目秀如青蓮，得非釋氏威鳳耶？」遂出家，事靈隱白雲峰海公。肅宗乾元元年，試通經七百紙者得度，師首中選。後習毘尼，有高行。往南天竺結茆峰西，號西嶺草堂。尤善詩，與皎然、靈徹齊名，時人語曰：「霅之晝，能清秀；越之徹，洞冰雪；杭之標，摩雲霄。」杭人尊之，呼西嶺和尚，又稱為僧中十哲。李吉甫、韋皋、孟簡皆心交物外，分契塵中。長慶三年示寂，壽八十四，葬本山，塔今無考。

皎然清晝律師

姓謝，長城人，康樂十世孫。受戒於靈隱戒壇，事守直律師，當時號為釋門偉器。文章雋麗，後博訪名山。晚入抒峰獨處，絕去詩詠；孤松片雲，禪坐相對。永貞初年終。

道齊尊師

姓趙，錢塘人。少遊庠序，經籍淹博。剃染，投靈隱寺學《華嚴》經義，於天竺寺修習禪定。靈山上有石室，齊於中坐，忽巨蟒唅呀為吞噬之狀，怡然不動；復有虎豹近於石室，時時馴擾。又山頂乏水，以錫杖刺地，清泉迸流。貞元二十一年，四方學者請講《華嚴經》，時嚴冬飛雪，忽生花二本，狀若芙蕖，熠爚光發，觀者嗟歎。後終於石室。

抱玉慧琳禪師

姓戈，新安人。丱齡，受業靈隱西峰金和尚。唐大曆中住下竺，郡守杜陟、裴棠棣、陸則、楊憑、盧元輔、白居易、李幼、崔鄯、路異先後並禮遇之，比諸簪組上流。辭學高等，或號「毘曇孔子」，或名「勝力菩薩」。於靈隱講訓生徒二十載。太和六年四月示寂，春秋八十三，法臘六十又四。塔永安院西瑪瑙坡。

鑑空法師

姓齊、名佐，吳郡人，少貧困。元和初遊錢塘，年四十五矣。屬歲荒，求餐於天竺寺。至孤山，餒甚，不能前。俄有梵僧顧之笑曰：「秀才法師，旅遊滋味足未？」空不省。僧曰：「子不憶講《法華》於同德寺乎？子應為饑火所燒。」遂探囊出一棗，大如拳許，曰：「食之自知。」空食棗，頃刻，悟同德寺如昨日焉。因涕泣，歷問：「當時雲水五人，唯公得解脫，獨某修法不完，坐於饑凍。」僧曰：「由獅子座廣說異端，使學空之人心生疑惑。戒珠曾缺，羶氣微存，聲渾響清，終不可致；質傴影曲，報應宜然。」乃探囊取一鑑，曰：「要知貴賤修短、佛法興替，宜一鑑焉。」空照久之，了然默記。遂投靈隱出家，受具足戒，後行高節苦。太和元年過河東柳珵，說其由，又曰：「我生世七十有七，尚九年在世。吾捨世之日，佛法其衰乎？」乃索筆題數行於經藏北垣，曰：「興恒河沙，衰恒河沙，兔而罝，犬而挈；牛虎相交與角牙，寶檀終不

滅其華。」後周遊名山，未卜所終。(此為會昌乙丑毀法，武宗厭代事也。)

韜光禪師

穆宗時辭師出遊，師囑曰：「遇天可前，逢巢則止。」至靈隱山巢居隖，時白樂天守郡，題其堂曰「法安」。白嘗於元旦為詩招師，師不赴。(詩載後)

無著文喜禪師

仰宗，姓朱，嘉禾人。參仰山，契悟。常往五臺山禮文殊，逢童子曰：「面上無嗔供養具，口裏無嗔吐妙香，心裏無嗔是珍寶，無垢無染是真常。」遂止五臺山為典座，文殊現形。乾寧四年住靈山無著院，武肅王表賜紫袈裟，號無著禪師。光化三年告眾曰：「三界心盡即是涅槃。」跏趺而逝，春秋八十，僧夏六十。終時有白光之祥，竹樹一色。塔本山東塢。

永明延壽禪師

法眼宗，字沖元，賜號智覺。姓王，餘杭人。七歲誦《法華經》，五行俱下。年二十八為華亭鎮將，以官錢放生，坐死。錢文穆王赦之，聽其出家，住天台智者巖習定，有[斥*鳥]鷃巢於衣裓。禪觀中，見觀音以甘露灌其口，遂獲辨才。參韶國師，聞墮薪而有悟。建隆元年，錢忠懿王請重創靈隱，靈隱之興由此。故後稱住持靈隱者，以為第一代也。繼遷永明道場，以心為宗，以悟為旨，著《宗鏡錄》一百卷。每日行一百八善；弟子二千餘人，夜施鬼食，晝放生命，世人號「慈氏下生」。開寶八年趺逝，火，舍利五色，鱗砌於地，塔大慈山。(明神廟中，遷於淨慈宗鏡堂，後號壽寧之塔。)

清聳禪師

法眼宗，福清人。初參淨慧，慧指雨謂師曰：「滴滴落上座眼裏。」師不喻旨，後閱《華嚴》感悟。節度使錢億執師禮事之。忠懿王命住靈隱，署「了悟禪師」。有僧問：「如何是摩訶般若？」師曰：「雪落茫茫。」僧不領，師示偈曰：「摩訶般若，非取非捨；若人不會，風寒雪下。」師嗣金陵清涼文益。

贊寧律師

德清人，姓高。出家靈隱，習南山律宗。錢武肅王署為「兩浙僧統」。宋太祖徵入京，賜號通慧，賜紫。淳化三年兼翰林史館編修。寧博物强記，辯說縱橫。著《通論》，有駁董仲舒、難王充、斥顏師古、證蔡邕、非《史通》等說，王禹偁深服之。年七十，入至道九老會。後二年示寂，塔龍井。

處光禪師

法眼宗，天台德韶法嗣。

韶光禪師

法眼宗，天台德韶法嗣。

道端禪師

法眼宗，靈隱清聳法嗣。僧問：「如何是佛？」師曰：「高聲問著。」曰：「莫便是也無？」曰：「沒交涉。」

雲知慈覺禪師

雲門宗，泐潭懷澄法嗣。僧問：「一佛出世，各坐一華；和尚出世，有何祥瑞？」師曰：「白雲橫谷口。」曰：「光前絕後去也？」師曰：「錯！」曰：「大眾證明，學人禮謝。」師曰：「默！」

王童圓明禪師

雲門宗，雲知法嗣。僧問：「如何是道？」師曰：「夜行莫踏白。」曰：「如何是道中人？」師曰：「胡張三，黑李四。」

文勝禪師

法眼宗，字慈濟，嗣雲居齊公，住靈隱，嗣法弟子二十五人。僧問：「古鑑未磨時如何？」師曰：「古鑑。」「磨後時如何？」師曰：「古鑑。」「未審分不分？」師曰：「更照看。」「如何是

和尚家風？」師曰：「莫訝荒疏。」曰：「忽遇客來作麼？」師曰：「喫茶去。」

慧明延珊禪師

法眼宗，本寺文勝法嗣。僧問：「如何是道？」師曰：「道遠乎哉？」僧問：「如何真正一路？」師曰：「絲髮不通。」曰：「恁麼則依而行之？」師曰：「莫亂走。」天聖二年，章懿太后賜莊田，令祝延仁宗聖壽。至天聖八年，奏免所賜莊田糧稅，有勅存寺。賜號禪定大師。

德章禪師

臨濟宗。初住汴京大相國寺，嗣石霜圓公。仁宗累詔於延春閣化成殿，與普照大師論道，賜號「明覺」。皇祐二年乞歸山，御批：住持靈隱寺也。

慧中禪師

法眼宗，靈隱僧，天童清遂法嗣。

慧照蘊聰禪師

法眼宗，天童清遂法嗣。僧問：「如何是和尚家風？」師曰：「索喚即有。」曰：「未審有箇恁麼？」師曰：「天台楖[木*栗]。」問：「古路重修時如何？」師曰：「平高就下。」

幻旻禪師

法眼宗，姓葉，信陽玉山人。既納戒，來虎林，見慧明禪師於靈隱，即執弟子禮，盡學其法。慶曆八年住靈隱。嘉祐己亥感微疾而逝，契嵩為之碑，賜號「普慈大師」。
武林靈隱寺誌卷之三上終
武林靈隱寺誌卷之三下

住持禪祖

明教契嵩禪師

雲門宗，字仲靈，鐔津李氏子。得法於洞山曉聰，夜則頂戴觀世音像，誦其號，必滿十萬。自是世間經書不學而能，作《原教論》十餘萬言，明儒釋之道一貫，以抗排佛之說，讀者畏服。後居靈隱山永安蘭若，著《禪門定祖圖》、《傳法正宗記》、《輔教編》，上進宋仁宗，覽之嘉歎，付傳法院，編次入藏；下詔褒寵，賜號「明教大師」。執政韓琦、參政歐陽修，皆見而尊禮之。還山，熙寧五年六月四日，晨興示偈曰：

後夜月初明　吾今喜獨行
不學大梅老　貪聞鼯鼠聲

至中夜而逝。荼毘五種不壞。其頂骨出舍利，紅白晶潔，如大菽者三。師有文集二十卷，目曰「鐔津」，盛行於世。

玄本禪師

法眼宗，支提隆公嗣。僧問：「蚌含未剖時如何？」師曰：「光從何來？」問：「臨濟入門便喝，德山入門便棒，此意如何？」師曰：「天晴不肯走。」師見僧看經，笑曰：

看經不識經　徒勞損眼睛
欲得不損眼　分明識取經

雪竇重顯禪師

雲門宗，字隱之，遂寧人，姓李。參北塔祚公，盡其道法。將造錢塘，值曾學士於淮南，以書薦於珊禪師。顯至靈隱寺，浮沈眾中。曾奉使歸，訪師靈隱，無識之者，於淨頭寮舍物色得之。曾問向附書，顯出袖中納之，曰：「公意勤勤，然行腳人非書郵也。」珊大奇之。有〈為道日損偈〉曰：

三分光陰二蚤過　靈臺一點不揩磨
區區逐日貪生去　喚不回頭爭奈何

師嘗應翠峰請，於靈隱陞座，僧問：「寶座先登於此日，請師一句震雷音。」師曰：「徒勞側耳。」進云：「恁麼則一音普遍於沙界，大眾無不盡皆聞。」師云：「忽有一人問爾作麼生舉？」僧

云：「三十年後敢為流通。」師云：「賺了也。」師乃云：「天下絕勝之覺場，靈隱導師之廣座，暫借卑僧陞陟，實愧非材，豈敢於五百員衲子前，提唱佛祖，抑揚古今，衒耀知見？恥他先作假，饒得天雨四花、地分六震，於曹溪路上，一點使用不著，何以行腳？高士有把定世界、函蓋乾坤底眼，誰敢錯悞絲毫？其知有者，必共相悉。」皇祐四年七月七日示寂，塔雪竇。

本然清覺宗師

白雲菴主，為孔子五十二世孫。少穎悟，閱《法華經》有省，求出家。元祐八年至靈隱，後建白雲菴以居。開闡玄化，自立一宗，曰白雲宗。大觀毀教，師著《證宗論》，為忌者發之，編管廣南思州。後放歸，作偈投太守游公，指日為別，至期而化。

寂室慧光禪師

雲門宗，錢塘夏侯氏，慧林深公法嗣，住靈隱。僧問：「飛來峰山色示清淨法身，合澗溪聲演廣長舌相；正當恁麼時，如何是雲門一曲？」師曰：「芭蕉葉上三更雨。」上堂：「不用求真，何須息見？倒騎牛兮入佛殿，羌笛一聲天地空，不知誰識瞿曇面？」

佛智端裕禪師

臨濟宗，吳越王裔，嗣圓悟勤。累住名山，紹興十八年被旨補靈隱。慈寧皇太后幸韋王第，召師演法，賜金襴袈裟。上堂曰：「德山入門便棒，多向皮袋裏埋蹤；臨濟入門便喝，總在聲塵中出沒。若是英靈衲子，直須足下生風，超越古今途轍。」拈拄杖子卓一下、喝一喝，云：「祇這個何似生？若喚作棒喝，磕睡未醒；不喚作棒喝，未識德山臨濟。畢竟如何？」復卓一下，曰：「總不得動著。」紹興庚午十月初示微疾，至十八日，首座法全請遺訓，師曰：「盡此心意，以道相資。」語絕而逝。火後目睛齒舌不壞，其地發光終夕。得舍利者無計，踰月不絕。黃冠羅肇常平日問道於師，適外歸，獨無所獲，道念勤切。方與客食，咀嚼間若有物，吐哺則舍利也。大如椒，色若琥珀，好事持去。遂再拜於闍維所，聞香匣有聲，亟開，所獲如前而差紅潤。門人奉遺骨，分塔於鄧峰、西峰，謚「大悟禪師」。

慧淳圓智禪師

雲門宗，嗣長蘆和公，住靈隱。上堂云：「吾心似秋月，碧潭清皎潔。」乃喝云：「寒山子話墮了也！諸禪德皎潔無塵，豈中秋之月可比？虛明絕代，非照世之珠可倫！獨露乾坤，光吞萬象；普天帀地，耀古騰今。且道是個甚麼？」良久曰：「此夜一輪滿，清光何處無！」紹興九年住張相公本寺。

大慧宗杲禪師

臨濟宗，字妙喜，宣州寧國人，姓奚氏。其母初夢神人衛一僧，黑頰而隆鼻，造於卧室。問其所居，對曰「嶽北」。覺而有娠。及誕之日，白光透一室，時元祐四年己巳也。紹興二十八年戊寅，師年七十，被旨遷住徑山。於二月二十八日就靈隱寺開堂，拈疏云：「這是釋迦老子四十九年三百六十餘會，說不盡底其中妙義。若敷演得，皇恩佛恩一時報足；其或未然，卻請表白。」拈出宣疏了，指法座云：「毘盧頂[寧*頁]，人人有志上頭行；問著路頭，十個有五雙不知去處。諸人要識路頭麼？」良久云：「看！」遂陞座拈香，祝聖罷，又拈香云：「此一瓣香，在兜率則曰仙陀婆，在善變化天則曰奪意，在阿那婆達多池邊則曰蓮華藏；且道在徑山手中喚作甚麼？」良久云：「非但圜悟老人看即有分，便是三世諸佛出來也不敢正眼覷著。」便燒，乃就座。靈隱和尚白槌云：「法筵龍象眾，當觀第一義。」師云：「若論第一義，五目莫覩，二聽難聞。要得諦，當分明，當須直截自觀。作是觀者名為正觀，若他觀者名為邪觀。邪正未分，有疑請問！」僧問：「調御出世，三轉法輪於大千；達摩西來，九年面壁於少室。和尚今日為國開堂，未審『超佛越祖』一句作麼生道？」師云：「空裏忙忙書卍字。」進云：「直得四眾瞻仰、萬姓歌謠去也。」師云：「卻被上座道著。」進云：「直饒道著也只得一半，未審向上，和尚還更道得也無？」師云：「八角磨盤空裏走。」進云：「記得肅宗帝問忠國師：『如何是十身調御？』國師云：『檀越踏毘盧頂上行。』未審意旨如何？」師云：「今古歷然。」進云：「頂門具眼爭謾得，耀古騰今作者知。」師云：「收！」問：「靈山一會，與今日是同是別？」師云：「如是我聞。」進云：「恁麼則靈山親見舉，今日又重聞。」師云：「聞底事作麼生？」進云：「兩頭俱坐斷，八面起清風。」師曰：「咭嘹舌頭三千里。」僧禮拜。復有僧出，師云：「問話且止，縱饒問處如百川競注，答處似巨海吞流，直得維摩結舌、鶖子無言，於本分事上了無交涉。且道本分事上合作麼生提持？」乃舉拂子云：「還見麼？」又擊禪牀云：「還聞麼？聞見分明是個甚麼？當今聖主於此得之，以妙明心印，印十方華藏世界

海，只在一塵中；於一塵中垂衣治化，演出無量無邊、廣大如虛空、不可思議殊勝功德，利益法界一切有情。所謂聖量廣大如虛空，不可思議；聖壽廣大如虛空，不可思議；聖學廣大如虛空，不可思議；乃至聖智、聖慧、聖慈、聖聰，皆悉廣大如虛空，不可思議。只者不可思議底，亦不可思議，都盧在一塵中，皆聖心之常分，非有假於他術。滿朝文武諸貴官得之，以妙明心印，向各各當人腳跟下一印印定，更無秋毫以為透漏。所謂王事民事，一一明了，一一無差，然後卷舒自在，縱奪臨時，皆吾心之常分，非有假於他術。一日一會，若僧若俗、若男若女、若貴若賤得之，各以妙明心印印之，則隨其根性，悉得受用。一一明了，一一無差，皆吾心之常分，非有假於他術。且道徑山得之又作麼生？還相委悉麼？唯憑一滴曹溪水，遍界為霖報我皇。即將上來，舉揚般若所有一毫之善，祝延今上皇帝聖壽無疆。恭願堯仁廣被，齊日月之盛明；湯德彌新，並乾坤之久固。皇太后、中宮皇后、大內天眷，伏願同明般若正因，悉獲金剛種智。」復舉：「波斯匿王問佛：『勝義諦中還有世俗諦否？若言其有，智不應一；若言其無，智不應二。一二之義，其義云何？』佛言：『大王！汝於過去龍光佛所曾聞此義，我今無說，汝亦無聞。無說無聞，是名一義二義。』」師召大眾云：「明明向汝道，尚自不會，豈況蓋覆將來？今日或有人問：『徑山勝義諦中還有世俗諦否？若言其有，智不應一；若言其無，智不應二。一二之義，其義云何？』只向他道：『元首明哉！股肱良哉！是名一義，亦名二義。』正當恁麼時，還有向上事也無？」良久云：「任大也須從地起，更高爭奈有天何？久立眾慈，伏惟珍重！」靈隱和尚再白槌云：「諦觀法王法，法王法如是。」下座。

無菴法全禪師

臨濟宗，姑蘇陳氏子。久依佛智，每入室，智以「狗子無佛性」話問之，師罔對。一日聞僧舉五祖頌云「趙州露刃劍」，忽大悟，有偈曰：

鼓吹轟轟袒半肩　龍樓香噴益州船
有時赤腳弄明月　踏破五湖波底天

佛智住靈隱，師為第一座。乾道己丑七月二十五日示寂，火後舍利五色。

瞎堂慧遠禪師

臨濟宗，賜號佛海。姓彭，眉山金流鎮人。師二手如日月，參圜悟，悟舉龐居士問「馬祖不與萬法為侶」因緣，師忽頓悟，仆於眾中。良久，曰：「吾夢覺矣。」至夜，悟小參，師出問曰：「淨躶裸、空無一物，赤骨律、貧無一錢，破家亡，乞師賑濟。」悟曰：「七珍八寶一齊拏。」師曰：「禍不入謹家之門。」悟曰：「機不離位，墮在毒海。」師隨聲便喝，悟以拄杖擊禪牀云：「喫得棒也未？」師又喝，悟連喝，師便禮拜。自此機鋒峻利，目為鐵舌。遠乾道六年勅住靈隱，賜號「佛海」。上堂：「新歲有來由，烹茶上酒樓；一雙為兩腳，半個有三頭；突出神難辨，相逢鬼見愁；倒吹無孔笛，促拍舞涼州。」僧問：「文殊是七佛師，如何出女子定不得？」師曰：「擔頭不掛針。」問：「菴內人為甚麼不知菴外事？」師曰：「拄杖挑蒺藜。」問：「不與萬法為侶者是甚麼人？」師曰：「腳踏轆轤。」問僧：「一大藏教是惡口，如何是本身盧舍那？」僧曰：「天台普請，南嶽遊山。」師別曰：「阿耨達池，深四十丈、闊四十丈。」乾道七年正月有旨，令靈隱長老引見，暇日召至選德殿。三月七日復有旨，令靈隱、徑山長老同入選德殿。乾道八年正月二十八日，車駕幸靈隱，至一笑軒交蘆室，見師畫像曰：「此是畫的，誰是真的？」師對曰：「春風和暖，恭惟萬福。」淳熙乙未示眾曰：「淳熙二年閏，季秋九月旦；鬧處莫出頭，冷地著眼看；明暗不相干，彼此分一半；一種作貴人，教誰買柴炭？相喚相呼歸去來，上元定是正月半。」都下喧傳而疑之。明年果以上元示寂，辭世偈：

拗折秤鎚　掀翻露布
突出機先　鵝飛不度

留七日，顏色不變。塔全身於寺右烏石峰，壽七十四。著《御書集》，入藏。

覺阿侍者

日本國人，滕氏，通天台教，善書。與法弟金慶奮然航海而來，參暖堂遠於靈隱。後至長蘆江岸，聞鼓聲，大悟。返靈隱，述〈投機五偈〉，其一曰：

航海來探教外傳　要離知見脫蹄筌
諸方參遍草鞾破　水在澄潭月在天

遠稱善，後歸國。

濟顛祖師

名道濟，台州李氏子。初參瞎堂，知非凡器。然飲酒食肉，有若風狂。監寺至不能容，呈之瞎堂。批云：「法門廣大，豈不容一顛僧耶？」人遂不敢言。及遠公既寂，出居淨寺。濟累顯神通，奇異多端。具見本傳，不能悉載。

懶菴道樞禪師

臨濟宗，四安人，姓徐，嗣道場慧禪師。隆興初，詔住靈隱。孝宗皇帝召至內殿，問禪道之要，師答以「此事在陛下堂堂日用應機處，本無知見起滅之分、凡聖迷悟之別。第護正念則與道相應，應情卻物則業不能繫。」上為首肯數四。後退居永安蘭若，逍遙自適。有偈題壁曰：

雪裏梅花香信息　池中月色夜精神
來年可是無佳趣　莫把家風舉似人

淳熙八年丙申八月坐逝，塔於永安。

最菴道印禪師

臨濟宗，漢州人，嗣大慧杲，住持靈隱。上堂云：「大雄山下虎，南山鼈鼻蛇。等閒撞著，抱賞歸家。若也不惜好手，便與拔出重牙。有麼、有麼？」上堂云：「五五二十五，擊碎虛空鼓；大地不容針，十方無寸土；春生夏長復云何？甜者甜兮苦者苦。」中秋上堂，舉馬大師與西堂、百丈、南泉翫月公案；師云：「垂絲千尺，意在深潭。西堂振鬣，百丈擺尾。雖則衝波激浪，未免上他鉤線。南泉自謂躍過禹門，誰知依前落在巨網。即今莫有絕羅籠、出窠臼底麼？也好出來露個消息，貴知華藏門下不致寂寥。其或未然，此夜一輪滿，清光何處無？」

伊菴有權禪師

臨濟宗，姓祁，昌化人。佛智開法靈隱，師參其會，時無菴為第一座。室中以「從無住本建一切法」為問，權答曰：「暗裏穿

針，耳中出氣。」無菴可之，遂密付心印。佛智嘗問：「心包太虛、量廓沙界時如何？」師曰：「大海不宿死屍。」智撫其座曰：「此子他日當據此座、呵佛罵祖去。」後住常州華藏，嗣道場全公。淳熙庚子秋示微疾，留偈、趺坐而逝。荼毘，齒牙不壞，舍利無算。

佛照德光禪師

臨濟宗，姓彭，別號拙菴，臨江軍人。參大慧杲得悟。師頭顱方正、廣顙豐頤、七處平滿，相者稱當為帝王師。淳熙四年，詔住光孝寺。師渡江而來，上問：「古有浮笠而渡者，可謂神通乎？」光曰：「宗門不貴神通也。」上問：「朕心與佛心是同、是別？」光曰：「直下無第二人。成一切性即心，離一切相即佛。」又問：「釋迦六年雪山，所成何事？」光曰：「將謂陛下忘卻。」帝大悅，賜號「佛照」，勅住靈隱。嘉泰三年入寂，有《奏對錄》行世。

誰菴了演禪師

臨濟宗，福州人。嗣大慧杲，住靈隱。上堂云：「面門拶破，天地懸殊，打透牢關，白雲萬里。饒伊坐斷兩頭，別有轉身，三生六十劫也，未夢見在。」喝一喝，下座。

密菴咸杰禪師

臨濟宗，應菴華法嗣。福州鄭氏子，母夢廬山僧而生。謁應菴於衢之明果菴，問：「如何是正法眼？」師曰：「破沙盆。」菴頷之。出世衢之烏巨，嗣天童華禪師，奉詔住靈隱。上堂：「世尊不說說，拗曲作直；迦葉不聞聞，望空啟告。馬祖即心即佛，懸羊頭賣狗肉；趙州勘菴主，貴買賤賣，分文不直。祇如文殊是七佛之師，因甚出女子定不得？河天月暈魚生子，槲葉風微鹿養茸。」後住天童示寂，塔太白中峰，為本寺第一十八代祖。

鐵牛宗印禪師

臨濟宗，姓陳，鹽官人，嗣育王佛照光。寧宗時住持靈隱，上堂，舉南泉示眾云：「王老師自小養一頭水牯牛，擬向溪東牧，不

免食他國王水草；向溪西牧，亦不免食他國王水草。如今不如隨分納些些，總不見得。」頌曰：

不如隨分納些些　喚作平常事已差
綠草溪邊頭角露　一簑煙雨屬誰家

蘊衷禪師

雲門宗，嗣中竺妙公。

松源崇岳禪師

臨濟宗，龍泉人，姓吳。參靈隱密菴，杰指參「不是心、不是佛、不是物」，得悟。旋出世吳郡澄照，徙江陰光孝、無為冶父、鄱陽薦福、四明香山、蘇之虎丘。慶元三年被旨補靈隱。示眾曰：「明眼衲僧如何打失鼻孔、有賊無贓？」上堂：「大凡扶豎宗乘，須具頂門正眼，懸肘後靈符。只如保壽開堂，三聖推出一僧，保壽便打。三聖道：『與麼為人，瞎卻鎮州一城人眼去在。』保壽擲下拄杖，便歸方丈。二尊宿等閒一挨一拶，便乃發明臨濟心髓；只是不知性命總在這僧手裏，還有檢點得出者麼？昔年覓火和煙得，今日擔泉帶月歸。」嘉泰三年八月四日偈曰：

來無所來　去無所去
瞥轉玄關　佛祖罔措

跏趺而寂，壽七十一，坐夏四十。舊誌為本寺二十三代祖。全身塔北高峰之原。待制陸游放翁銘其塔，有曰：「讀師之語，峻峭嶒崒、下臨雲雨，如五千仞之華山；蹴天駕空、駭心眩目，如錢塘海門之濤；虎豹股栗、屋瓦震墮，如漢軍昆陽之戰。可謂臨濟正宗，應菴、密菴之真子孫也。放翁其知言者哉！」

破菴祖先禪師

嗣密菴杰，族出蜀廣安氏。參密菴於風幡語，大徹。出世臥龍，辭去，遍遊吳中。於靈隱笑菴悟處分第一座，命說法。

無用淨全禪師

臨濟宗。姓翁，越人，嗣大慧杲。師一至靈隱，眾請上堂，師曰：「靈山正派，達者猶迷。明來暗來，誰當辨的？雙收雙放，孰辨端倪？直讓千聖出來，也祇結舌有分。何以故？人歸大國方為貴，水到瀟湘始是清。」復曰：「適來松源和尚舉竹篦話，令天童納敗闕。諸人要知，聽取一頌，黑漆竹篦握起，疾雷不及掩耳。德山、臨濟茫然，懵底如何插嘴？」

敬叟居簡禪師

臨濟宗，潼川龍氏，世業儒。依邑之廣福院圓澄得度。參別峰塗毒於徑山；往育王見佛照，機契；出世台之般若，遷報恩。真西山為江東部使者，虛東林命之，以疾辭。乃於飛來峰北澗埽一室，居之十年。人不敢以字稱，以「北澗」稱之。趙節齋奉請補靈隱，師笑曰：「吾日迫矣。」乃舉天童癡絕沖。淳祐丙午春示疾，三月二十八日索紙，書偈於紙尾。復書「五月一日珍重」六字。至期，昧爽索浴，浴罷，若假寐然，視之已示寂矣。壽八十三，臘六十二，有《北澗集》十九卷。張誠子序其集曰：「讀其文，宗密未知其伯仲；誦其詩，合參寥、覺範為一人。」

涵澤禪師

住靈隱廣嚴道場。問：「如何是廣嚴家風？」師曰：「一塢白雲，三間茅屋。」「如何是佛法大意？」曰：「出澗泉清，高峰月白。」

笑翁妙堪禪師

臨濟宗，毛氏子，四明人。參天童無用全公，室中嘗示以「狗子無佛性」話。一日全以竹篦劈口便打，師應聲，呈偈云：

大塗毒鼓　轟天震地
轉腦回頭　橫屍萬里

全頷之。時朝廷奏令，僧得買紫衣，堪曰：「如是則財可主法矣。」抗疏廟堂，其議遂寢。以寺在屠沽之地，闢為林藪，立飛來峰門，重樹羅公處約碑，皆師事也。春秋七十二。

石鼓希夷禪師

臨濟宗，嗣無用全公，為本寺二十八代，塔永安別苑。

今存〈和梁山遠禪師牧牛十頌〉，句法與梁山相埒，理趣超卓反有過焉。

一、尋牛

只管區區向別尋　不知腳底已泥深
幾回芳草斜陽裏　一曲新豐空自吟

二、見跡

枯木叢前差路多　草窠裏輥覺非麼
腳跟若也隨他去　未免當頭蹉過他

三、見牛

識得形容認得聲　戴嵩從此妙丹青
徹頭徹尾渾相似　仔細看來未十成

四、得牛

牢把繩頭莫放渠　幾多毛病未曾除
徐徐驀鼻牽將去　且要回頭識舊居

五、放牛

甘分山林寄此身　有時亦踏馬蹏塵
不曾犯著人苗稼　來往空勞背上人

六、騎牛還家

指點前坡即是家　旋吹銅角出煙霞
忽然變作還家曲　未必知音肯伯牙

七、忘牛存人

闌內無牛趁出山　煙簑雨笠亦空閒
行歌行樂無拘繫　贏得一身天地間

八、人牛俱忘

慚愧眾生界已空　個中消息若為通
後無來者前無去　未審憑誰繼此宗

九、返本過源

靈機不墮有無功　見色聞聲不用聾
昨夜金烏蜚入海　曉來依舊一輪紅

十、入鄽垂手

者漢親從異類來　分明馬頷與驢腮
一揮鐵棒如風疾　萬千門盡豁開

原肇禪師

通州靜海潘氏子。受具，參浙翁於徑山，命掌記。由四明育王遷杭之淨慈、靈隱。嘗讚達摩偈曰：

踏翻地軸與天關　合國人追不再還
去去一身輕似葉　長江千古浪如山

無準師範禪師

蜀之梓潼雍氏。始見破菴於西華，後破菴居靈隱第一座，復往從之。因侍破菴遊石筍菴，菴之道者請益曰：「胡孫子捉不住，乞師方便。」庵曰：「用捉他作麼？如風吹水，自然成文。」師在傍，平生礙膺之物盡釋。出世，居徑山，為臨濟正傳。

石田法薰禪師

臨濟宗，眉山彭氏子。參破菴祖先，室中舉「世尊拈花、迦葉微笑」，師云：「焦磚打着連底凍，赤眼撞著火柴頭。」破菴陰奇之。端平二年詔靈隱住持，示眾云：「但得本，莫愁末。喚甚麼作本、喚甚麼作末？松柏千年青，不入時人眼；牡丹一日紅，滿城公子醉。」退院保壽，促辦終焉。師累遷望剎，閱三十有二年。撙節足用，而人咸樂施。見世之為募者，鷺伺狐探，咨且囁嚅，鄙且賤之；而土木金碧，在處成就焉。嘗建接待寺於西溪，曰「寶壽」。

癡絕道冲禪師

臨濟宗，武信人，姓荀氏。少長習進士業，棄之，受釋氏於梓州妙音院。聞松源唱道於饒之薦福，徑造其門，以歲饑不受。曹源以雲居首座出世妙果，師聽其入門語有省。嘉定己卯，由徑山第一座出世嘉禾光孝。淳祐甲辰有旨移靈隱，謂是大父密菴、伯父松源宏道之地也。後理宗取下菜園地，建閣妃功德寺；即日退院，躬荷包笠，往遊廬山。遣使留之，不回，乃賜靈隱古蕩千畝、圩田若干畝與易。後住徑山。師才學浩瀚，每日以一簽付侍者，有求其語者，投之簽中。鐘定後，侍者進簽秉燭，隨紙多寡俱盡，日以為常。上堂：「有一人，一念頓證，墮在佛數；有一人，屢劫闡提，不願成佛。且道那個合受人天供養？」良久云：「蝶穿芳徑雙眉溼，蜂掠殘花兩股肥。」臨示寂，手書龕記并遺書十數，且曰：「無準忌在三月十八日，吾以十五日即行，不能瓣香修供。」侍僧

亟以遺偈請，師謂曰：「末後一句無可商量，只要個人直下承當。」即命筆，書辭眾上堂語。至夜分，起坐，移頃而逝。壽八十二，臘六十一。茶毘，舍利五色者無數。

妙峰之善禪師

臨濟宗，吳興劉氏子。參佛照光於鄮山，照舉「風幡」語，師直箭機鋒，蒙印可，贈偈曰：「今日與君通一線，斬釘截鐵起吾宗。」乃遊匡廬，面壁妙高峰下十載，出世慧因、洪福、萬年諸剎。會天童虛席，時鄭清之秉鈞軸，謂非師莫宜居，因勉師行。師答曰：「老僧踰耄矣，尚夜行不休乎？」鄭公高之。僧問：「如何是不入眾流句？」師云：「烏龜鑽破壁。」僧曰：「如何是妙體無私句？」師云：「百匹馬中一頭驢。」僧云：「如何是瞬目揚眉句？」師云：「花雨岩前石點頭。」僧云：「如何是奇特事？」師曰：「紫薇花下紫薇郎。」僧云：「學人不會。」師云：「三十年後。」晚住靈隱，上堂云：「久參高士，眼空四海，鼻孔撩天，見也見得親，說也說得親，行也行得親，用也用得親，只是未識老僧拄杖子在。何以故？將成九仞之山，不進一簣之土。」師平生善誘，一經指授，輒神融意悟。端平二年九月示寂，壽八十四，臘七十一。茶毘，舍利不可數計。塔靈隱西岡，鄭清之為銘。法嗣有徑山珍、東叟穎、友雲鏊、霜林果、無方安、雪翁立。

高原祖泉禪師

臨濟宗，金山道奇法嗣。上堂，舉九祖伏馱蜜多尊者問八祖佛馱難提尊者「父母非我親」話，頌曰：

父母分明非我親　祖師肝膽向人傾
直下若然親薦得　優曇花發火中春

〈贈黃漢嶺開接待偈〉曰：

路繞懸崖萬仞頭　行人到此一場愁
驀然得個休歇處　重疊關山信腳遊

笑菴了悟禪師

臨濟宗，姑蘇人，天童杰法嗣。上堂，舉睦州因僧問：「以一重去一重即不問，不以一重去一重時如何？」睦州曰：「昨朝栽茄子，今日種冬瓜。」師頌曰：

昨朝栽茄子　今日種冬瓜
一聲河滿子　明月落誰家

虛舟普度禪師

臨濟宗，揚州人，姓史氏。稍長，絕無處俗意，母識其志，俾依郡之天寧出家。會與畢將軍遇，大奇之，曰：「此兒短小精悍，音吐如鐘，他日法中向上爪牙也。」攜歸武林，禮東堂院祖信，奮志參方。初見鐵牛印於靈隱，已而江東西湖南北悉遍歷焉。時無得唱道饒州薦福，師決志叩請。其遷福嚴、華藏亦與俱。偶入室次，得問：「不與萬法為侶者是甚麼人？」師曰：「金香爐下鐵崑崙。」得曰：「將為這矮子有長處，見解只如此。」師曲躬作禮，曰：「謝和尚證明。」景定間，太傅賈魏公奏補中天竺，請旨，陞靈隱。上堂，舉臨濟和尚道：「有一人論劫在途中、不離家舍，有一人離家舍、不在途中，那個合受人天供養？」師曰：「兔馬無角，羊牛有角，寸毫尺釐，天地寥廓。潘閬倒騎驢，擷殺黃幡綽。」師住徑山，值火，志圖復興。將有緒，俄示微恙，索筆大書曰：「一十二年駕無底船，踏翻歸去，明月一天。」全身塔寺東十里罘塢之陽。

東谷光禪師

臨濟宗，嗣明極祚，天童密孫也。

泰禪師

曹洞宗，雪庭裕法嗣，芙蓉楷後也。

退耕寧禪師

臨濟宗。初住嘉興崇聖，次之蘇，居報恩、慧日、承天、萬壽，至靈隱。上堂：「目前無法，意在目前。雨餘山色翠，風暖鳥

聲喧。」拍禪牀一下，云：「堪笑老胡無轉智，少室峰前坐九年。」上堂，舉香林因僧問「年窮歲暮」話，師頌曰：

王老燒錢　言端語端
錦包特石　鐵裹泥團

上堂：「極目千峰鎖翠，滿空柳絮蜚鯀。可憐無位真人，一向草宿露眠。啞三春，看又過，何日是歸年？」

大川普濟禪師

臨濟宗，奉化人。元初住持靈隱，纂修《五燈會元》。嗣徑山如琰。上堂，舉睦州因僧問：「如何是祖師西來意？」州云：「一隊衲僧來，一隊衲僧去。」頌曰：

一隊衲僧來　一隊納僧去
打破睦州關　大地無寸土

〈題世尊出山相偈〉曰：

龍章鳳質出王宮　肘露衣穿下雪峰
志願必空諸有界　不知諸有幾時空

虎巖淨伏禪師

臨濟宗，出世潭州石霜，嗣虛舟度禪師。至元二十六年住持。築室虎頭巖蓮華峰麓而終焉。

如因禪師

臨濟宗，石田法嗣。

悅堂祖閬禪師

臨濟宗，南康人，周氏子。至杭見斷橋於淨慈，橋問：「臨濟三遭黃檗痛棒是否？」師云：「是！」橋云：「因甚大愚肋下築三拳？」師云：「得人一牛，還人一馬。」橋頷之。橋逝，柏山介石

來補處。室中舉「柏子」話，師擬議，石抗聲曰：「何不道黃鶴樓前鸚鵡洲？」師於言下頓悟。元貞初，奉詔赴闕，稱旨，賜璽書，號「通慧」。大德九年陞住靈隱。嘗勘一僧云：「微塵諸佛在你舌上，三歲聖教在你腳下，何不瞥地？」僧罔措，師便喝。訣眾偈曰：

緣會而來　緣散而去
撞倒須彌　虛空獨露

春秋七十有五，僧臘五十有二。

玉山德珍禪師

臨濟宗，南康人，嗣虛舟度。元初住靈隱，奉旨入覲，賜號「佛光海印大師」以歸。偈頌脫口，宛如宿成。時有物出目中，瑩潔如珠，皆舍利也。歐陽玄為塔銘。

正傳禪師

臨濟宗。至大元年住持靈隱，覺皇殿蠹朽傾頹，師捐資，與平章張締建，皇慶間落成。

元叟行端禪師

臨濟宗，臨海何氏子。文字不由師授，自然能通。少愛靈隱山水清勝，止焉。自稱寒拾里人。嗣徑山藏叟珍，叟示寂，至淨慈依石林鞏公。虎岩伏時住徑山，請師居第一座。大德中住中天竺，皇慶壬子遷靈隱，尋賜號「佛日普照」，凡三被金襴袈裟之寵。辭歸，養高於良渚之西菴，以呵叱怒罵為門弟子慈切之誨，以不近人情行天下大公之教。師之利物皆陰為之，而沒齒不言。至正辛巳訣眾云：「本無生滅，焉有去來？冰河發燄，鐵樹花開。」世壽八十八，僧臘七十六。全身窆於寂照院。弟子住靈隱者，竹泉、淨林、性原、慧明、天鏡、原瀞。其他古鼎銘、夢堂噩、楚石琦，皆諸方之崢嶸者。

獨孤淳朋禪師

賜號「普覺」。常以〈定武蘭亭〉贈趙子昂，欲與重結翰墨緣，住持靈隱。元延祐五年，奉旨斷還九里松集慶占路，上表謝。其文云：「佛慧普覺大禪師，杭州路景德靈隱禪寺住持，臣僧淳朋言」云云。上堂云：「寺前一片閒田地，曠大劫來無四至。今朝恢復又歸來，坐斷腳頭並腳尾。東也是，西也是，南也、北也無不是。畢竟酬恩作麼生？直指堂前香一炷。」

圓通竹田禪師

臨濟宗，常住金陵諸處說法。元至順三年迎歸，住持本寺。金陵諸山送師疏見後。

東嶼禪師

臨濟宗，松源之四傳也，見宣政院疏。為本寺五十二代禪師。

照菴慧炬律師

照菴慧炬律師，明天台教，諸暨人，住理公巖。周伯琦為篆記，與黃溍友善。溍文章名天下，求之者或遭怒罵，惟於師了無所靳。洪武初，海潮衝岸，壞民廬舍。師為潮神說三皈戒，楊枝灑處即止不崩。時稱炬菩薩。

慧眼可光禪師

靈隱僧。述達摩西來，留二十字，如織錦迴文，翻覆讀之，成四十韻，以接中下之機：



竹泉法林禪師

臨濟宗，別號了幻，俗姓黃，台之寧海人。參元叟於中天竺。東嶼在淨慈，招分半座。居淨慈蒙堂，不出者九年。至元四年遷靈隱，宗風大振。順帝錫以金襴法衣。時寂照在徑山，父子同時唱道，五山人以為盛事。上堂：「古杭管內，靈隱名山，肇建於東晉咸和年間，慧理法師為第一祖。今日上元令節，諸處放燈，知事值歲，各各照管風燭。」便下座。大龍翔席虛，星吉大夫遣幣聘，辭不赴。使者三往返，師遊於會稽山中。行院知不可強，具疏請師仍住靈隱。又三年，退處了幻菴。至正十五年春感末疾，二月二日集眾，敘平生本末，且誡之曰：「佛法下衰，無甚於今，宜各努力。吾世緣止於斯矣。」索筆書偈曰：

七十二年　虛空釘橛
末後一句　不說不說

遂奄然而化。龕留十日，顏色不變。全身窆於松源塔西。塔前古桂，當春吐花，清香滿路，見者歎异。侍講學士黃公晉卿目見其事，故自書塔銘序之。

見心來復禪師

臨濟宗，以南至生故也。豐城人。參南楚悅於徑山，得其心要。至元七年住靈隱。洪武三年，以十大高僧徵。虞文靖、黃文獻與結方外交，為左覺義。與太祖子蜀王甚善。王就國，命作正心、觀道、崇本、敬賢四箴。未幾，以詩含諷被刑。弟子曇鍠編其集，宋學士濂序之，稱其「穠麗演迤，整暇森嚴，劍出匣而珠走盤也。」

天鏡原瀞禪師

臨濟宗，會稽倪氏子。登華頂，參無見覩。又如玉几，見石室瑛；室與語，大奇之，曰：「吾法叔徑山元叟和尚具大眼目，今代妙喜也。子欲了己躬事，往見，勿後！」師遂參叟於不動軒。入門，叟震威一喝，師不覺汗流浹背。尋游金陵，見笑隱於龍翔。上江西，禮諸祖塔像。至臨川，訪虞文靖公，道話契合，延師度夏，為作〈斷江塔銘〉、〈樸隱軒銘〉。至正丙申，出世邑之長慶，遷天衣。洪武五年，設廣薦法會於鍾山，詔天下高名尊宿，輪座說法，師預焉。九年冬，杭諸山請居靈隱，曰：「而祖佛照妙峰、而父寂照、而兄了幻，皆說法靈隱。於今振墮緒、提宏綱，舍和尚其

誰哉？」師幡然而起。上堂：「即心即佛，嘉州牛喫禾；非心非佛，益州馬腹脹。不是心，不是佛，天下覓醫人，炙猪左膊上。」良久云：「唬得血淋無用處，不如緘口過殘春。」終時年六十七，臘五十五。

古鼎祖銘禪師

姓應氏。元叟端在靈隱，往從焉。叩黃龍南在慈明因緣，叟詰之曰：「只如趙州云：『臺山婆子被我勘破。』慈明笑曰：『是罵耶？』你且道二老漢用處，是同是？」師云：「一對無孔鐵鎚。」叟曰：「黃龍直下悟去，又且如何？」師云：「也是病眼見空華。」叟曰：「不是、不是！」師擬進語，叟便喝，師當下廓然，即命居記室。自是聲譽頓發。後住徑山，法席甚盛，賜號「慧性宏覺普濟禪師」。

慧明性原禪師

臨濟宗，號幻隱，俗台之黃巖項氏子。洪武五年選舉高僧，師與焉。十一年戊午，師至靈隱，振揚宗風，建本寺大殿，修北峰之塔，皆師事也。室中垂語曰：「蓮華峰被蚍蜉食卻半邊，因甚麼不知？」又曰：「冷泉亭吞卻壑雷亭即不問，南高峰與北高峰門額是第幾機？」罕有契之者。以僧誣語被逮，至所司，憩座下，端坐說偈而化。為洪武十九年六月二十三日，壽六十九。

酉菴曇噩禪師

慈溪王氏子。元叟端補靈隱，門風高，非宿學，莫敢窺其門。師直往咨叩，了無畏懼。機契，命掌內記。出世天台之國清。洪武三年詔徵江南有道僧，師居其首。

空叟忻悟禪師

臨濟宗，俗姓鈕，吳人，徑山愚菴嗣。洪武戊辰住靈隱，居四年，叢林改觀。以前住持逮至京，病卒於行，洪武二十四年夏四月三日也。門人窆骨於靈隱之東岡，為本寺六十五代。有三會語錄、宋濂銘塔，今存。

用貞輔良禪師

臨濟宗，范文正公十世孫。參笑隱，一見契之，號「貞悟禪師」。靈隱直指堂乃其建也。舉揚大法，不務緣飾。復以淨土觀門為苦海舟航，時兼修之。既示寂，舍利玉潔珠圓，宋濂為之銘。

無文本褧禪師

臨濟宗，別號無見，謝氏子，嗣孤峰德禪師。洪武二十八年住靈隱。又四年示寂。偈曰：

吾年七十有五　涅槃生死不墮
虛空背上翻身　靠倒飛來小朵

荼毘，頂骨不壞，舍利無算。有《和同安察禪師十玄談》最可傳誦，餘詳〈心泰塔銘〉，為本寺六十六代。

行中守仁禪師

號一初，富春人，靈隱僧。從楊廉夫、張伯雨遊，能詩，善書法。洪武中，徵授僧錄司右善世。一初有志事業，不偶為僧。嘗言：「我輩從事文墨，非以廢道，蓋有不得已也。」在京賦〈翡翠詩〉：

見說炎州進翠衣　網羅一日遍東西
羽毛亦足為身累　那得秋林靜處棲

為太祖所見，怒而罪之。所著有《夢觀集》。守仁詩與見心，俱超絕羣輩，而皆不免於患，亦猶翡翠之為災也。

可純禪師

臨濟宗，象山胥氏子。參古鼎銘入室。洪武三十八年授杭郡都掌教，住靈隱。永樂四年寂於京，荼毘，靈骨塔涵澤菴。為本寺六十七代。

無杰善才禪師

臨濟宗，嗣無文。永樂元年住靈隱，增塑三世金身，創雙桂菴以奉師塔，修寺誌遺文數篇不忘，至今賴之。為本寺六十八代。

思擴性空禪師

臨濟宗，慈谿人，徐氏子。參無文裘公。永樂十九年遷住靈隱，奉旨修經，授僧錄司左覺義。洪熙元年寂於京，塔寺在天香菴。為本寺六十九代。

伐石良玠禪師

宣德九年住持靈隱。先是寺災，師建蘇州虎邱寺大殿，遂禮師主寺。寺之建豎，師之功也。為本寺七十四代。

慎菴祥禪師

海昌李氏子。少穎悟，經書過目成誦。受具戒於前住持全菴理公，嗣法壁菴璘公。景泰間出主顯寧。天順間主本寺，大開鑪鞴，學者景從。方丈間兩廡，是師傾橐所葺也。

前溪德明禪師

黃巖人，姓林。嘉靖間，海寇焚湖墅，山後西溪男婦踰嶺避亂。寺僧皆以寇必至，議棄寺各竄；惟師立主合眾，結臺於大路，聲勢相援，寇遂不敢至。師又為粥以濟貧乏，於是人有固志。年八十一，為本寺一百五代。

按德明以前有幻菴修、慎菴祥、敬堂慇、大慈頤、南京識、天鏡淨、遠菴恭、東山曉、獨芳蓮、大川淮、北峰讚、可泉璽、博菴廣、愛山遷、恕堂忠、竹泉權、西隱方、無言諷、冷泉聲、聽泉禧；德明以後，橫溪亮、見峰輔、靈峰永、冬嶺秀、小山良、近山良、仰峰奎、南谷寧，皆前後住持也。

易菴如通禪師

臨濟宗，姓杭。母潘氏夢梵僧借宿而覺，即日娩。十五出家，禮大海和尚為師。未幾，往雙徑萬松和尚抉擇心要。松問：「如何是白雲不倚青山住？」答：「明月常懸古澗心。」松為首肯，乃繼臨濟正宗二十七世。嘉靖癸亥，司寇五臺陸公延禮，住持南山慧因，前後改觀。萬曆壬午，冢宰元洲張公禮致，住持北山靈隱，重建大覺殿。數十年瓦礫，一旦更新，師之功為不可泯也。

具德弘禮禪師

臨濟宗，為臨濟三十二世；紹興張氏子。初為鍛工，已習道家言。後又讀《首楞嚴》而善之。披剃受具，參三峰漢老人於安隱，徹悟宗旨。服勤十七載遂承囑付。師出世雲門廣孝、維揚天靈及佛日顯寧諸處，俱稱千人善知識；而於靈隱破院久住，法席一新，建置甚盛。復應請住徑山，大弘祖道。後至維揚天寧，甫七日，無疾坐化。以靈隱言，理公為祖，延壽為宗，而師以中興兼創置，靈隱自來禪德未之有也。壽六十八，塔全身於靈隱慧日軒。餘俱詳總錄。

晦山戒顯禪師

臨濟宗，字願雲，太倉王氏子。弱齡遊泮，稱名儒。甲申國難，作詩文告廟；入金陵華山禮三昧老人，祝髮受具。遍參天童、雪嶠諸大老。復參靈隱具和尚，於皋亭大悟「雲門拄杖」話，遂嗣法焉。初隱廬山，次開法雲居，一住十載。嗣住東湖薦福、黃梅四祖、臨皋安國、武昌寒溪、荊州護國、撫州疎山，化行江楚，道望大著。康熙丁未，具老人遷雙徑，命師繼席靈隱。語錄、詩文有若干卷，盛行於世。

五嶽濟玹禪師

古越吳氏子也。母周氏夢日輪昇天而娠。及師生，聞空中音樂。三歲誦《心經》如宿記。成童出家石屋，十七歲即遊方、登講肆。甫聽即講，猶如瓶瀉。受具天童密祖，問「祖西來大意」，祖棒云：「向者裏會取。」師便有入處。歸越，沙溪作務，將盥沐，觸翻水盆，得大脫灑。即遍扣，謁具和尚於顯寧，遂契以嗣。凡具和尚倡化諸剎，皆師佐揚。師出世安隱，遇火，重興之。他如鹿城安禪，海昌安國，罔不過化存神。於是聲名洋溢，彼都人士相率敦請。先福善、次夕照、次隆安、津梁、正遠。乃靈隱祖席非師不可，遂延師歸補處焉。整頹緒，振弘綱。和碩康親王駐浙，慕師義，禮敬請法。師固道高，而王之衛法弘願亦不少概見云。

武林靈隱寺誌卷之三下終

武林靈隱寺誌卷之四

法語

宗門雖云「教外別傳，不立文字」，而祖師心印亦藉言宣。故從上古雖拈椎豎拂，皆有說法機緣；玉句金章，具載傳燈、僧史。具德老和尚性具宗通、不由文字，而一登廣座說法，如河懸缾瀉。晦和尚繼之，父子敲唱，哮吼靈山，真鼓吹祖庭、萬載響震者矣。為誌法語第八。

具德和尚住靈隱，進院上堂法語

師于己丑春二月十三日住浙江杭州府靈隱寺，闔郡薦紳文學及各山耆宿、合院大眾請陞座。揮拂子云：「豁開宇宙，萬象交參；皎日當空，十方烜赫。還有共相證明者麼？」願雲西堂出問：「靈山古剎，列聖覺場；寶座師登，將何行令？」師云：「人到靈山增意氣，水歸大海長波濤。」進云：「從來萬派皆歸海，今日千山盡仰宗。」師云：「靈山一會，迦葉親聞；世尊拈花，貴須道得。」進云：「今日更添一重光彩。」師云：「七尺烏藤行活計，杖頭八面起清風。」進云：「直得飛來峰頂青龍舞，西子湖邊白鳳飛。」師云：「誰人不仰上頭關？」問：「剎竿高豎，重興遠祖風規；法令當陽，號召諸方龍象。作麼生是挽回風化底句？」師云：「金輪現瑞，百鳳齊鳴。」進云：「奇峰巧石開新眼，冷澗回波看主人。」師云：「一句當機，普天帀地。」進云：「龍袖拂開全體現，象王行處絕狐蹤。」師云：「好音在耳人皆聽。」進云：「誰個不知音？」師云：「禮拜有分。」問：「弘開法席，大闡宗風；滿目英靈，誰是作者？」師豎起拂子，僧更喝，師亦喝，僧又喝。師云：「三十棒。」進云：「放老漢出一頭地。」師便打，乃豎起拂子云：「昔日世尊拈華，今朝靈隱舉拂。會則同彼同此、耀古騰今；不會則乃聖乃凡、隨波逐浪。諸仁者！世尊說法四十九年，談經三百餘會。末後向靈山會上百萬眾前拈華囑累，飲光尊者一笑。相傳大法東來，則此山預來震旦，以待沒量大人。爰有慧理、永明、延珊、明教、雪竇、大慧、瞎堂諸祖，咸向此山立極開宗。彼時問道，上自帝王，下及大臣，以至名公鉅老，亦在此山共翼嘉猷、激揚本分。今日現前宰官居士與諸山名德、本寺耆英、五湖衲子亦在此山，問似雲興，答如瓶瀉，豈非靈山一會，重整頹綱；再笑拈華，知恩有地？」復舉拂子云：「諸仁者！若向個裏會得，則前佛性命、後佛紀綱總在者裏。似地擎山，不知山之孤峻；如石含

玉，不知玉之無瑕。永絕遮闌，更無向背。其或機留玄解、見逐偏枯，縱使打破牢籠、踢翻窠臼、撒開離坎、擺撥乾坤，是甚麼熱盌鳴聲、繫驢橛子？所以道『靈光不昧，萬古徽猷』。入此門來，莫存知解。直須不慕諸聖、不重己靈；向威音那邊打疊定當，然後獨步大方、壁立千仞，行不言之令，嚴不罰之威。淨裸裸沒可把，赤灑灑無回互。自然風行草偃，水到渠成。妙淨明心，觸處青霄碧落；正法眼藏，等閒栗棘金圈。八表同符，三才合契。諸仁者！畢竟格外風規、機先權要。『佛佛相授、祖祖相傳』一句作麼生道？」擲拂子，震聲喝云：「丹壑羣真吟紫霧，靈山萬衲笑春風。」

開鑪鑄萬僧鍋，陞座法語

大人具大識見，運大作略，安大鑪韝，啟大模範，成大鼎鑊。此個大鑪韝、大模範，成就來多少時也？赤縣神州，無處不知；大乘氣象，何人不具？靈隱事不獲已，因行掉臂，遇緣即宗。遂使三世諸佛振動天樞，歷代祖師撼搖地軸。盡法界若聖若凡、若緇若素，靡不瞻之仰之。直得彌盧起舞、香海波騰；文殊、普賢合水和泥，彌勒、善財添銅入炭。山僧橫身宇宙，號召當陽知事，喚行者人力，龍驤虎驟；冶師與鑪頭火伴，電轉星馳。鼓橐籥於晴空，風摶六合；運金鎚於肘後，響震三千。人人頂門瑞靄，各各腳下光騰。爍迦羅眼，左右圜融；母陀羅臂，前遮後護。火德以之振武，金德以之圜成；造化以之無私，神功以之畢備。然後普天帀地，安靜如初；若聖若凡，各歸本位。三世諸佛放下天樞，歷代祖師仍還地軸。靈隱個漢，斂衣就座；現前龍象，參叩如常。祇如一鑪便就，覿面賞勞底事又作麼生？香積廚開雲出鼎，金牛撫掌笑呵呵。

付授願雲西堂，上堂法語

召西堂願雲上座，云：「靈山授受，一笑相親；雞足分燈，衣傳慈氏。殊不知釋迦不前，彌勒不後，法身不大，此衣不小。」乃捧起伽黎，云：「祇如者重公案，畢竟以何為驗？」遂展付，云：「以此為驗。」復說偈云：

鷲嶺一花開五葉　神州紫氣藹三峰
燈燈續燄交光處　虎角新生佛日紅

堂展具禮拜，師下座。

開藏殿鐘樓基，上堂法語

僧問雲門道：「如何是自己光明廚庫山門？今日和尚大啟靈山，更拈出個甚麼？」師云：「握土成金。」進云：「作麼生著力？」師云：「打鼓普請看。」進云：「只如不施寸草，梵剎圓成。憑個甚麼，如此奇特？」師卓拄杖，乃云：「靈隱拂子頭，現龍樹大月輪；體性三昧，與太陽紫微交互爭輝。直得全賓讓主，轉三能於東震；全主讓賓，挽五佐于西乾。由是東西合轍，南北通途。據重關則先機立命，別緇素則照用同時。衲僧本分則固是，祇如盡無邊華藏莊嚴海，拈來如粟米大，擲向靈隱青龍角上。諸人還見麼？不見道，打鼓普請看。」

供祖師，上堂法語

見性不留佛，悟道不存師。祖師玄旨是甚破草鞋？寧可赤腳不著最好。饒汝學得佛邊事，機不離位；學得法邊事，智向偏枯。兼帶去，亦未免究妙失宗。不見雲居膺禪師云：「如人頭頭上顯，物物上通，祇喚作了事人；喚作尊貴得麼？將知尊貴一路自別。」又云：「如日出時，光照世間，明朗是一半，那一半喚作甚麼？」又云：「升天底事須對眾掉卻，十成底事須對眾去卻；擲地作金聲，不得回頭顧著。雲居恁麼道，只解步步登高，不解從空放下。若是靈隱別有道處，但頭頭不顯、物物不通，無事可了，說甚尊貴？如日落時，不照世間，晦昧是一半，那一半幾曾欠少？升天底事，古廟香爐去；十成底事，冷湫湫地去；擲地作金聲，一條白練去。且道雲居底是？靈隱底是？靈隱底是，析旃檀片片皆香；雲居底是，碎拱璧塵塵是玉。毫釐有差，鳳縈金網，趨霄漢以何期？分文不值。龍門躍鱗，不墮漁人之手，還有不藉功勳、迴途復妙底衲僧麼？設有，也是雲居羅漢。」

法堂上梁，顯寧義姪和尚請上堂法語

僧問：「喚醒江畔魚龍，烹煅大方麟鳳，是和尚尋常作略。祇如一莖草上現瓊樓玉殿，明甚麼邊事？」師云：「人天喝彩，佛祖解頤。」進云：「可謂魯班門下。」師云：「既截珊瑚樹，還為架海梁。」進云：「點！」師云：「明甚麼邊事？」進云：「願白一槌于此地，法王法令永流通。」師云：「欲賞其功，姑驗其智。」乃云：「昔日靈山一會，人天百萬見世尊于法座拈起一枝花；今日靈山一會，人天百萬見山僧于法堂上得一枝梁。上梁大家著力，出

身白汗，深明下載；清風拈花，大家一笑。因甚傳燈續祖，獨惟迦葉？」卓拄杖云：「盡從者裏出。」

禪堂上梁，上堂法語

打鼓普請看。好禪客！前日拽木運石，今朝立柱陞梁。徧剎海是個禪堂，總諸佛為個衲子。可中爾照我用，我呼爾諾；頭角相似，肘臂相連，性命相共，教伊無一個不從者裏振綱肅紀去、表帥人天去。然後展黃龍佛手、滿把楊枝，庫內金剛圈、栗棘蓬，向雕梁畫棟上驀頭一撒。五湖衲子同時下喝，爭先拾得，將謂有多少奇特？放下手來，只是饅頭。

佛殿、天王殿同日陞梁，上堂法語

師竪拄杖云：「諸人還知各各一毫頭有一座寶王金殿麼？知則百萬人天匠作工徒都在汝四大色身中踐踏；若不知，諸人一身具八萬四千毛竅，山僧亦八萬四千毛竅，釋迦老子亦八萬四千毛竅，于一毛端現寶王剎，坐微塵裏轉大法輪。莫是說了便當得麼？」卓拄杖一下，云：「古佛來也，世界起也，時節至也，棟梁枋柱、知事人力畢集也，那一柱不現丈六金身？那一梁不具衲僧手眼？那一金身、一手眼不顯大檀樂施、善信功勛？究竟山僧兩序合院大眾，無思無為，無作無取，而兩殿巍然干雲摩漢。且道神通耶？法雨耶？」喝云：「高著眼！」

鐘樓立柱上梁，上堂法語

舉水潦和尚云：「無量妙義，百千法門，總向一毫頭上識得根源去。」靈隱道：「無量妙義，百千法門，總向一毫頭上識得作用去。諸禪子若識作用、徹根源，今日鐘樓上梁竪柱，柱柱金身，孔孔法眼，[打-丁+隼][打-丁+隼]妙挾，面面正中。然雖如是，因甚水潦呵呵大笑？」顧左右云：「大家出一隻手！」

佛殿前大寶鼎成，郇護法請上堂法語

師竪拂子云：「見麼？大人緣起，梵王殿上投機，千佛光中現相，何況伊蒲為供，錦繡為旛，花插金瓶，燈然寶炬？盡華藏是個真實人體，盡供養是個真實作用。轉過那邊，入門便棒，進門便喝，背手摸枕子，當面露吹毛，與衲僧把臂。轉過者邊，雲行雨

施，品物流行，如雷如霆，為照為用，則父子同條。那邊者邊，無可不可。昔日給孤布金于祇樹，今日郇公鑄鼎于靈山。五湖衲子忍俊不禁，以須彌為果、大地為盤，為郇公賀！」良久云：「還會也無？大家佛殿裏燒香。」下座。

大佛像成，李青芝等請上堂法語

僧問：「昔日金師補像，果感傳燈；今朝大佛告成，得何利益？」師云：「法身開掌上。」進云：「妙手迴天，全憑作者。功成不處，又作麼生？」師云：「法眼照人間。」進云：「恁麼則大家慶讚有分。」師云：「上座也須看榜樣。」乃舉黃檗在裴相國府署，裴一日託一尊佛於檗前，跪云：「請師安名。」檗召曰：「裴休！」休應：「諾！」檗曰：「與汝安名竟。」「諸子：黃檗不動一旗一鎗，裴公不施一韜一略，和主賓于直下，銷鋒鏑于人間。且道在今日成得甚麼邊事？」高聲召曰：「李處士！」李舉首，師云：「與汝說法竟。」

大樹堂昇梁，上堂法語

臨濟一株大樹蔭覆兒孫，靈隱一株大樹蔭覆佛祖。蔭覆兒孫，為兒孫作祖；蔭覆佛祖，與祖佛為師。喝云：臨濟大師來也！者老子動徹用大手腳，撼動三有大城，爭似靈隱並不費手腳，動便撼動佛祖大城。且道臨濟、靈隱，阿那個較親？若明辨得，請向大樹堂中坐第一座；若明辨未得，請向大樹堂前觀樹經行。直得朝觀暮觀、一觀觀透時，如何又蔭著一個？

齋堂昇梁，上堂法語

山僧年邁，放閒久矣。大眾真精進真建立檀護，真精進真供養山僧。隨例過堂，未免受他檀施；不隨例過堂，亦未免受他檀施。不如隨分納些些，一任今日擎天架海、業就功成，山僧隨檀護大眾去也。何故？要且不負來機。

飛來峰牌樓昇梁，上堂法語

「峰既飛來，玲瓏心印全彰；樓當重建，妙相莊嚴具足。寬展處，佛祖橫身；挨拶處，人天攘臂。文殊、普賢左右安排，釋迦老子不敢正坐。且大開門一句又作麼生？」喝云：「從者裏入。」

晦山和尚進院，上堂法語

師在黃梅四祖，徑山老和尚命繼席靈隱。以丁未四月十二日進院，當山護法、闔郡紳士暨本寺耆宿、兩序大眾請上堂。拈香祝聖畢，次拈云：「此一瓣香，從茁辨地，飲水知源；德重邱山，恩逾溟渤。奉為重興靈隱、現住徑山，即此堂上本師上具下德老和尚，用酬法乳。」遂斂衣就座。南寺和尚白椎竟，師云：「潑天門，海納山容，果是知音，請出敲唱。」僧問：「雲從龍，直得冷泉發燄；風從虎，會見鷲嶺增輝。即今大座當軒，請施一機。」師云：「一棒敲開靈鷲日，普天帀地盡光輝。」進云：「一一應時擊節，頭頭轉地回天，是甚麼人境界？」師云：「大家在這裏。」進云：「但得皇風成一片，不知何處是封疆。」師云：「且得領話。」問：「何如來擔人天輻湊，振祖佛機，衲子揚眉，如何是紹隆一句？」師云：「青萍搖海岳，白棒驗龍蛇。」進云：「可謂光合東浙兒孫裔，氣吸西江父子宗。」師云：「腳跟下一句作麼生道？」進云：「腳跟下一句且置，祇如臨機有眼句裏，無私增萬指，稠林添三玄。甲冑 畢竟憑何施設？」師云：「腦後著眼。」進云：「昔年半院曾遺讖，今日重將此話圓。」師云：「切莫當頭錯過。」問：「仙梵徹雲霄，萬里山川增秀；雨花飛滿岫，大千草木生輝。是何祥瑞？」師云：「拈出靈山一片石，萬年何日不青青？」進云：「恁麼則冷泉勢接滹沱派，青嶂遙隨雙徑來。」師云：「不妨好彩。」問：「向上宗乘，學人不問入門一句，試為展演。」師云：「請上階來。」問：「天得一以清，地得一以寧。衲僧得一時如何？」師云：「如龍得水，似虎靠山。」進云：「恁麼則拍掌鼓乾坤，一輪光透去也。」師云：「月落後作麼生透？」進云：「高開殿閣洪音振，一句無私亘古今。」師云：「重言不當喫。」問：「高提祖印，未審如何作用？」師云：「三十棒。」進云：「棒教誰喫？」師云：「不知痛癢漢。」進云：「和尚還知麼？」師云：「矢上加尖。」問：「一切言句即不問，直指當陽事若何？」師一喝。進云：「眼見是色，耳聞是聲；不見不聞是甚麼？」師云：「山僧退身有分。」僧一喝，師拈棒，僧便走。師云：「走卻草賊。」乃云：「佛祖關棳，西天令嚴；向上提持，誰容顧鑑？要津把斷，從來鐵壁無門；棧道鑿開，除是金鎚影動。傾湫倒嶽，止在鋮鋒；跨海擎天，不資餘力。釋迦老子於靈山會上拈花示眾，更加一道真言：『吾有正法眼藏、涅槃妙心，實相無相，微妙法門。』一機纔動，東擲西拋；毒氣流傳，填溝塞壑。既靈鷲寶峰飛來至此，摩竭正令作麼生行？」卓拄杖云：「從上百四十代古錐，將這個開大覺場，雷驚電拂；本師徑山老人，亦將這個重興祖窟，霧擁

雲騰。山僧以二十年前舊緣，今日歸來就父也。將這個權衡佛祖，龜鑑宗乘，截斷天下人舌頭。進一步則乾坤陡變，橫拈七事鉤錐；退一步則海晏河清，卸盡三玄戈甲。不進不退又作麼生？」橫按拄杖云：「龍歸大海波濤壯，虎到深山氣象雄。」復拈椎云：「諦觀法王法，法王法如是。」下座。

圓成飛來峰牌樓，江南佟方伯大護法請上堂法語

僧問：「一笠蓋如來，果感人王位；今日莊嚴佛國，輸金飯僧，如何論量？」師云：「天垂寶蓋，地湧金蓮。」進云：「靈山授說未到如此。」師云：「一朝圓好事，萬古壯靈山。」乃云：「靈山秀異，萬古雄觀；奇特因緣，花攢錦簇。當門秀石，從靈鷲以飛來；證據無訛，呼猿洞而現在。此是第一重奇特。廣大靈山，氣吞海岳。先師老人，二十餘年，手拈莖草，劈出天官，移來華藏。功高再造，動地驚天。此是第二重奇特。留下飛來峰牌樓，雖然建就，未遂圓成。幸江南旬宣佟大護法，乘菩薩願力，成就不思議大功德海。又喆令弟孚六大護法，光賁山門。肇啟華壇，經開龍藏；飯炊香積，樂奏鈞天。新題妙額，重標鷲嶺飛來；巨榜高懸，指出現前佛國。此是奇特中奇特。昔世尊直指人心，見性成佛。且道心作麼生指？現前靈峰壁立、八面玲瓏，豈不是正法眼藏？千尺冷泉、澄清徹底，豈不是涅槃妙心？山門飛樓湧翠、藻繪浮天，豈不是微妙法門？於此見得，直下知歸。不惟佟大護法一門福慧圓滿，并千百載後見聞隨喜，個個成佛有分。何故？一手擎來真佛國，萬年佳話播靈山。」下座。

送具老和尚全身入塔，上堂法語

戊申八月二十六日，先老和尚入塔，慧生上座請上堂。問：「三文使盡，塔湧靈山，葉落歸根，是何時節？」師云：「人天百萬仰浮圖。」進云：「古佛位中留不住，分明獨露大家知。」師云：「琉璃古殿照明月。」乃云：「過量事，非過量人不能開張；奇特人，非奇特事不能光顯。臨濟七百年後老大法門，誰敢拔山舉鼎、全身扶起？惟我老人用全象力，奮鐵鶻機，大行吳越。應仰山遙讖，作大竫子，得鄧尉真傳。此人是大唐國內甚麼人？西晉二千年來老大靈山，誰敢斬荊誅棘、脫體鼎新？先老人竭廿載辛勤，聚多人血汗，以至嵬峩殿閣，金碧晶瑩，增武林莫大威光，成四海無雙名勝。此事是大唐國內甚麼事？莫大功勳，既在靈山；葉落歸根，自應在靈山建塔。今日山僧及各山兄弟、合院大眾，就無陰陽

地上竪起浮圖，於叫不響谷中高懸慧日。層落落，影團團，標出南陽面目；淨裸裸，光爍爍，掀開大佛頂光。既為天上天下獨尊之人，自應建亘古亘今不朽之塔。且道三千年後，有人覓先師靈骨，作麼生抵對？」竪拄杖云：「竪起剎竿長燦爛，萬年標榜耀靈山。」

為具老和尚上塔頂，兼送位入祖堂法語

一塔擎天，萬古常懸；慧日五燈續燄，千年永耀靈山。茲者窣堵告成，高昇塔頂。靜眼觀來，先老人分中著著，無非是頂。老人一生機靈鐵骾，用發獰龍，竪四殺旌旗，振三玄戈甲，以致令行吳越，海湧山翻。五千衲子下揚州，百萬人天常擁座，豈不是天上天下諸善知識之頂？十坐道場，到處興功建業；獨於靈隱，一手擎出寶坊。一腳踢開，華藏現前，崚嶒殿閣，飛翬耀日，鴟吻連雲，豈不是獨冠海內功業之頂？所居靈隱，玲瓏萬竅，靈鷲飛來，噴雪奔雷，冷泉徹骨，豈不是一切名山道場之頂？從來禪祖於此闡揚正令，哮吼宗風，自古迄今，竟有百四十代。現在祖堂，燭排慧燈，星聯道樹，豈不是諸方祖堂之頂？老人末後樹幢徑山，卻到揚州遷化。以兄弟孝心，龕歸靈隱。目今巍然一塔，高跨北峰，堅固比於金剛，壯麗同於帝釋，豈不是薄海內外一切浮圖之頂？今日塔圓昇頂，兼送位入祖堂。人天霧擁，光騰杲日；山靈喝采，天樂鳴空。真是以過量人顯過量事，興奇特功感奇特報。且道如何是大功圓滿底句？嵯峨殿閣聳雲岑，法道輝煌冠古今；消得靈峰千嶂玉，塔懸慧日照兒孫。

送興建亡僧靈骨及四眾遺骼入新建普同塔法語

僧問：「轟塗毒鼓，聞者皆喪；為甚擊者不喪？」師云：「你試擊看。」進云：「擊個甚麼？」師云：「前言何在？」僧一喝，師打云：「不知痛癢漢。」乃云：「十方同聚會，個個學無為；此是選佛場，心空及第歸。如何是心空及第？洞摩醯正眼，何聖何凡？廓頂後神光，誰幽誰顯？人人在光明會集，個個歸寂滅海中。但得心空，十方通暢。臘月蓮花，恰值滔天白浪；龜毛數丈，盡成充國黃金。靈骨鏘鳴，細看來總是瓊樓玉殿；浮圖無縫，卓竪起迥超潭北湘南。一入此門，悉皆成佛。且道功德圓成一句又作麼生？」卓拄杖三下，云：「堅固高幢三座湧，萬年標榜在靈山。」

武林靈隱寺誌卷之四終

武林靈隱寺誌卷之五上

累朝檀越

昔徑山國一禪師稱唐帝曰「檀越」。「檀越」為大功德主，僧門所藉以安身學道、興隆佛法者也。蓋大丈夫出家學佛，寸絲不掛，一切所需總在檀越。故世尊建剎必待給孤開士，乞食必於邨聚。今具和尚鼎新靈隱，殿堂樓室，鱗次波湧，丹青繪畫，日灸霞舉，極法門之宏制，為吳越之大觀，皆檀越所施。其間一柱一椽，已勒姓氏于不朽。至于山誌不能備悉，乃舉其大者；并前代功德主亦不敢有遺漏。一以見作福者之不唐喪，一以見大善知識之有因緣也。為誌檀越第九。

歷代帝王

梁簡文帝〈賜靈隱田記〉。(不存。)
梁簡文帝〈賜靈隱石像記〉。(不存。)
隋高祖仁壽二年，遣僧齎舍利，建塔于飛來峰頂。(即神尼塔。)
唐天寶，建北高峰塔七層。(會昌時毀，此出自孫誌。)
愚按：吳越建號亦有天寶。
吳越錢武肅王鏐，命僧智覺延壽禪師重開靈隱，賜名靈隱，新寺建僧房五百餘間。
錢忠懿王弘俶繼之，建本寺屋宇一千三百餘間，迴廊自山門左右遶至方丈。
建靈隱寺門、塔幢二座。(上書「開寶八年大元帥錢建」。)
孫宇台曰：按吳越建號有天寶、寶大、寶正。開寶是宋太祖年號。開寶九年，俶與妻孫氏、子惟演、孫承祐來朝。豈八年樹幢而九年來朝歟？要其歸命奉朔之意已久矣。
建北高峰塔。
白子佩曰：按王慕阿育王建塔，乃于國中聚銅，造八萬四千小塔，散于境內。本寺惟存二大塔。
鑄覺皇殿後鐵塔一座。
宋真宗皇帝景德四年，勅賜額，改靈隱寺作靈隱山景德寺。
天禧五年勅賜額，改景德寺作景德靈隱寺。
勅賜金牌一面。(後于政和間移供神霄宮。)
勅賜御書牌一軸。
仁宗皇帝天聖三年，皇太后賜脂粉錢九千五十四貫。

天聖八年，勅賜靈隱住持禪定大師延珊放免糧田一萬三千畝。(杭、秀二州充設五載齋僧粥食，共計四十餘萬人。有勅一通存寺。)

慶曆七年，勅賜御製歌頌等件。

皇祐元年，勅賜六祖師名諱玉寶牌一面。

勅賜飛白御書「佛聖帝來」四紙。(每字一紙。)

勅賜「清淨佛法」絹書二軸。(計四字。)

勅賜紙扇碑一座。

勅賜回鑾碑一軸。

勅賜御繡觀音《心經》二卷。(計二軸。)

勅賜飛白黃羅扇一柄。(俱皇祐元年。俱罹兵燹，不存。)

嘉祐三年，賜明教大師契嵩所著書入藏。

中書箚子曰：權知開封府王素奏：杭州靈隱寺僧契嵩撰成《傳法正宗記》，并《輔教編》三卷，宜令傳法院于藏經內收附。箚子付傳法院。准此。(按王素字仲義。)

宋高宗皇帝勅改榜曰「靈隱山崇恩顯親禪寺」。(紹興五年。「顯親」蓋為吳太后設也。)

賜金飾「九里松」，吳說書額。

宋孝宗皇帝乾道三年二月詔：每歲佛誕日，例賜帛五十疋。

乾道八年正月二十八日，車駕幸靈隱。明日，賜僧慧遠直指堂印。(慧遠即瞎堂禪師。)

乾道九年，宣靈隱慧遠奏對內殿，稱旨。有《奏對錄》。

淳熙四年八月，召靈隱德光入對內殿。賜詩二首。

詩曰：

欲言心佛難分別　俱是精微無礙通　跳出千重縛不住　天涯海角任西東

又詩云：

大暑流金石　寒風結凍雲　梅花香度遠　自有一枝春

(至今流傳有《奏對錄》，在《古尊宿語錄》內。)

宋理宗皇帝賜御書「覺皇殿」三字。

賜御書「妙莊嚴域」四字。

賜御製〈千佛贊〉，贊曰：

一佛不二　千佛奚別
如處處水　現在在月

無去無來　不生不滅
梅花開時　前村深雪

寶祐六年，上親製〈觀音記〉，御書登石。

元

仁宗皇帝延祐五年，賜還九里松。

明

太祖高皇帝勅，賜田三千畝。(淳朋以宋時所賜田一萬三千畝獻還朝，高祖復賜三千畝。)
神宗皇帝萬曆十七年，賜「觀音大士瑞蓮聖像」一軸。(司禮監孫隆，奉慈寧宮皇太后御賜觀音聖像，內有上御製贊云：「惟我聖母，慈仁格天。感斯嘉兆，闕產瑞蓮。加大士像，圖寫流傳。延國福民，霄壤同堅。」上用「慈聖宣文明肅皇太后之寶」御寶在軸。)

歷代朝臣

晉

葛洪題「最勝覺場」四字。

唐

大理寺少卿・杭州刺史袁仁，敬種松九里。
右司郎中・杭州刺史元藎，建冷泉亭。
給事盧元輔，建見山亭。
刺史相里造，建虛白亭。
庶子裴棠棣，建觀風亭。
僕射韓皋，建候仙亭。(是之謂「五亭」。元藎以下五公，皆以刺史領郡于杭者。)
刺史白居易，書「冷泉」二字，并以文記之。
紫薇舍人唐詢，建紫薇亭。(若言寺前五亭，則稱紫薇而不言見山。)
丞相裴休有〈送子出家詩〉，其詩云：

送子出家莫學詩　要明父母未生時

吾聞九里松門外　佛國山前有鐵圍

(裴休字公美，河東聞喜人。家世奉佛，與黃檗最多往返，遂嗣其法。)

宋

承奉郎・守祕書省著作郎・直史館・賜緋魚袋・曾知蘇州吳縣事羅處約，撰寺碑文。(作文為雍熙丙戌，立碑為淳化辛卯。俾文其事者，月禪師也。歲久碑斷，重立者，妙堪師也。月師惜未詳。重立時，理宗朝大中大夫范楷跋。)

熙寧三年及十年，趙抃以資政殿大學士兩知杭州，禁天竺、靈隱寺樵采。

天聖中，吏部侍郎・平章呂夷簡，給事中・參知政事陳堯佐，給事中・參知政事薛奎，工部侍郎・參知政事王曾，賜免靈隱寺田，准勅中書門下牒一道，有官銜字押。

觀察李公謹，奏賜契嵩紫方袍。

慶曆中，丞相韓琦、參政歐陽修、權知開封府王素，賜契嵩所著書入藏，中書劄子有官銜字押。

知杭州府蘇軾，補書白樂天所書「冷泉」二字後「亭」字。

太守祖無擇，建鄴公菴于靈隱。

安撫趙與[竺-二+((己@((巨-匚)/匚))/心)]，建壑雷亭。

臨安府都會首沈瑜等，施送華嚴海會善知識功德五十九軸。

元

江浙行省平章事張閭助，修覺皇殿。

明

刑部尚書潘季馴，前後捐貲裝大殿佛像。

吏部尚書張瀚，募建大殿。(公不署江陵奪情事，即予告歸。靈隱殿燬一季矣，公與五臺陸公光祖，請僧易菴廣集貲財，一新鷲宇。)

萬曆間，司禮太監孫隆，建三藏殿，中置轉輪以奉法，計六百三十八函；左藥師鐙藏寶計四十九鐙；右水陸像藏總一百二十五軸。(號東瀛，直隸三河人。)

左布政吳自新，助裝藏殿金龍。(有題冷泉匾曰「高山流水」，方丈匾曰「法宇重興」。)

貴州提學道副使馮時雨，補植本寺松樹若干。

工部榷署分司張喬松，造覺皇殿菱花門。
兵部武庫司主事虞淳熙，撰〈重建理公塔銘〉并篆額。
重興靈隱大檀護功德主列後：
國朝總督部院趙廷臣，為文勒石清飛來峰界址，并禁樵採。
(據考飛來峰，昔東晉咸和年，西域僧慧理至此，驚曰：「此天竺國靈鷲山九十七峰之一一一小朵峰，何年飛來至此？」故名飛來，一名蓮花，一名靈鷲，其實一山也。)
(按錢塘田汝成《西湖遊覽志餘》云：「舊傳讖記有云：『天目山垂兩乳長，龍飛鳳舞到錢塘；海門一點巽峰起，五百年間出帝王。』或云晉郭璞作。錢氏有國時，不欲其語聞之中國，更其末句云『異姓王』。蘇子瞻作〈表忠觀碑〉，特表其事，首曰『天目之山，苕水出焉，龍飛鳳舞，萃于臨安』，蓋全用讖語也。」載第一卷之十一板。)
(孫宇台《靈隱寺志》：「天目山有二水，一條東流經於潛、臨安，百五十里至餘杭為苕溪。又東三十里抱錢塘。又東北流六十里，過湖州，入太湖。一條西趨于紫溪，合桐廬之水，匯于錢塘。此郭璞所謂天目兩乳也。南山如龍，北山如鳳，此郭璞所謂龍飛鳳舞也。海門一日兩潮，日輪正從鼇子門上，此郭璞所謂金星也。其塊土為帝王都會，璞留讖記，蓋預知五百年潮打西興，然後為帝王都會也。夫自郭璞以前，南北皆為武林山，嗣後始有龍飛鳳舞之目。然南山有鳳凰山，是南山亦可曰鳳；而北山有橋曰迴龍、有洞曰龍泓，是北山亦可曰龍也。」載第八卷之四十八板。)
(夏樂只《西湖志》云：「無著禪師塔，《武林志》：『師名文喜，唐人埋骨此山下。韓侂胄謀葬其地，乘夜發塚，見師在龕中，容貌如生，指爪屈曲盤體。胄驚，遂掩其塔。』出合澗橋為下天竺寺。僧肇海詩：『一定空中五百年，何因發塔起頹甎？世間多少麒麟塚，過眼誰人贈紙錢？』」載第三卷十三板。)
(又民謠云：)

(靈山一片地　上有王者氣　丞相營首邱　不知主何意)

(韓遂不敢葬。)
(竊稽以上所載，本山既稱梵剎名勝，兼之讖記分明，更有前都憲蘇茂相「天子萬壽」四字鐫勒在上，昭昭在人耳目，凡妄窺者，亦可已矣。詎意仍有繼侂胄而起者！前天啟四年，諸當事歷有鐵案；今康熙四年，又蒙部院趙公勒石嚴禁。其各上臺禁示，另詳別錄。)
巡撫軍門陳應泰，作募疏，廣勸修造；自亦捐貲五六百金，助建大殿。
浙江布政使司袁一相，捐貲塑大殿文殊、普賢、阿難、迦葉，并羅漢五、六十尊。

蘇州布政使司佟彭年，捐貲完成飛來峰牌樓，金碧絢麗，冠絕西山。

蘇州布政使司慕天顏，為靈隱增置金沙灘寶勝菴，為放生所，手題額曰「萬鱗極樂」。(又捐俸助建具老和尚塔。)

浙江提督二等侯田雄，施貲千餘金，塑大雄殿中尊大佛，并築佛與諸天大石座。

大將軍柯魁，同都統陳典謨、高及之，協致石門大鐘懸新建鐘樓。早晚撞擊，響震西山，為萬古標榜。

刑部尚書・湖州東阡沈演，子月初增建金光明殿、修理〈金光明懺法〉，兼施六百金在大雄寶殿。

翰林院庶吉士・塘棲卓彝，同子孝廉麟异，建大悲懺壇。每歲春季修禮懺法，永遠不替。

部尚書汪應蛟男本和，布施山木四十株，助建叢林。

太史金聲，仝子靜思，布施徽州山木建梵香閣

大理寺卿王益朋，倡置靈隱松木場下院。

登州府太守・常州徐可宣，捐貲千金，助建大殿，并施二大正柱。(先是，戊戌三月十五日，徐公夢靈隱被火，遣人到山偵探，殿尚巍然。至二十六日忽遭回祿，公大驚異，遂開檀度。)

太僕寺卿嚴沆，同察院顧豹文，協力護衛，建成具老和尚慧日塔院。永鎮靈山，萬年不朽。

山西提學道・嘉善縣孫籀，塑十八大羅漢像，并著文勒石。(公十二歲赴府預童子試，被眾擠門壓死已一晝夜，感靈隱羅漢救回。重生後，到靈隱，宛如所見。遂施貲塑像，并立碑記異。今竪羅漢殿門側。)

貴州按察司副使陳紹英，具和尚興建二十年，赤心護持，始終不倦。大殿上梁日，公與沈捷、關鍵、姚玄瑛眾護法皆在焉。

都統胡申、固山高可仰，倡議誓眾拈鬮，留具老和尚靈龕，建塔慧日。

雲間宗伯董其昌，置甘露茶亭。太師金之俊復廣之，留額，永為靈隱下院。(在湖墅賣魚橋。)

武林靈隱寺誌卷之五上終

武林靈隱寺誌卷之五下

歷代人物

余嘗詠西湖，有「越都狀妙人，西湖是其眼」之句。余在靈隱乃知飛來峰是其眉，其他總在眉目之下，況又得冷泉亭為點綴！人間天上有此繡韻之境，故遊武林者必到靈隱。嘗登飛來峰，憩冷泉亭，聽水聲泠泠然，從耳入心，塵襟頓滌。于是遊者無不悔來之

晚，又恐去之速也。風流人物往往留傳于此，使後之人恨生不得與同時。余亦感慨係之矣。為誌人物第十。

陸瑋

字文該，錢塘人。東漢末納祿，隱武林山澗南學《易》。為隱居堂西壁圖九師像、東壁圖八公像。世又名九師堂也。(劉向《別錄》：淮南王安聘善易九人，謂之九師。杜光庭《錄異記》：八公見淮南，自稱姓氏曰文五常、武七德、枝百英、壽千齡、鳴九皋、修三田、岑一峰，未可盡信。漢俗皆以淮南為得仙，故瑋向慕如此。瑋行無可考，松江有陸瑋墓。)

陳渾

漢靈帝熹平二年為餘杭令；山中祀為土神，至今猶尸祝也。(《晉誌》，餘杭屬吳興郡吳興。縣令者，餘杭縣令也。其時武林屬餘杭，而餘杭又轄於吳興郡。自東漢至五代皆然，故靈隱石幢有「吳興」二字，此亦其證矣。今人稱「陳明大王」，正月十五日為生辰。)

葛玄

字孝先，句容人，父為大鴻臚。玄幼負奇操，丰神標峻。三國吳，居武林山葛塢，往來會稽、雲門。一賈人泛海，泊神廟；神令廟祝附書於玄。書著船如釘，不可動。及達岸，以報，玄往自取，即得。題稱「大極左宮仙公」，世因稱葛仙公也。按公居杭事無可考。後龍井李德淘井，得鐵牌，上有「赤烏年禱雨」，或是公所為也。公從孫洪。

許邁

字叔玄，一名映，丹陽句容人，許旌陽再從昆弟，家世仕族，而許長史穆第四兄。少恬退，不慕仕進。常就郭璞筮，遇泰之上爻發，璞謂曰：「君元吉自天，宜學升遐之道。」時南海太守鮑靚隱迹潛遁，人莫之知；邁乃往候之，探其至要，因立精舍稽留，號思真堂。又以餘杭縣霤山近延陵之茅山潛通五岳陳安世、茅季偉常所遊處，而往憩焉。父母尚存，未忍違離，朔望時節還家自省。及父母沒，乃遣婦孫氏還家，攜其同志徧遊名山焉。永和二年移臨安山，登巖茹芝，有終焉之志，乃改名玄，字遠遊。著詩十二篇，論神仙之事。羲之造之，未嘗不彌日忘歸，相與為世外之交。玄遺羲

之書云：「自山陰南至臨安，多有金堂玉室、仙人芝草，左元放之徒，漢末隱者皆在焉。」羲之自為之傳，述靈異之迹甚多。

葛洪

字稚川，祖系吳大鴻臚；父悌，吳平後，入晉為邵陵太守。洪少好學，家貧，躬自伐薪以貿紙筆，夜輒寫書誦習，以儒學知名。性寡欲，無所愛翫，不知棊局幾道。樗蒲齒名，閉門卻埽，未嘗交遊。於餘杭山見何幼道、郭文舉，目擊而已，各無所言。尤好神仙導養之術。事玄弟子鄭隱，悉得其法。後又師事南海太守・上黨鮑靚，妻以女。洪傳靚業，兼綜練醫術。凡所著撰皆精覈是非，而才章富贍。太安中，石冰作亂，吳興太守顧祕為義軍都督，檄洪為將兵都尉，攻冰別寨，破之，遷伏波將軍。洪見天下已亂，欲避地南土，乃參廣州稽含軍事。及含遇害，遂還鄉里，禮辟皆不赴。相傳住武林山葛塢，得道於青林洞也。

杜明甫

錢塘人。居靈隱，夜夢東南有賢人來訪。時謝玄生孫於會稽，其父瑍狂蕩，射殺蔣侯妹清溪小姑樹鳥。姑怒，一夕殛死。其家恐懼，求寄養於明甫。明甫受而養之，十五歲方還。按《一統志》，鍾嶸《詩品》、《六朝詩話》皆作「明師」，其居稱「杜治」。註言：「治者，奉道之靖室。」《真誥》：「錢塘人，杜道鞠處士，杜京產之父，富而好道。」乃泰和元興間人，崇奉許氏之道。明甫豈其家耶？(錢塘又有杜子恭，有道術，豪族貴望多執弟子禮尊事之。沈警、孔靈產皆有道之士，莫不敬慕。靈產出錢塘北郭，於舟中望其墓而遙拜焉。杜氏一門何多道者？想亦猶葛玄之於稚川、許遠遊之於斧子也。)

謝靈運

安西將軍奕之曾孫，車騎將軍玄之孫。父瑍生而不慧，位祕書郎，早亡。靈運幼便穎悟，玄甚異之，謂親知曰：「我乃生瑍，瑍兒何為不及我？」寄養杜明甫，小字客兒。文章之美，與顏延之為江左第一。襲封康樂公。宋少帝即位，出為永嘉太守，稱疾去職。父祖並葬始寧縣，并有故宅及墅，遂移籍會稽，修營舊業；傍山帶江，盡幽居之美。與隱士王弘之、孔淳之等放蕩為娛。每尋山涉嶺，必造幽峻。嘗著木屐，上山則去前齒，下山則去後齒。自始寧

南山伐木開徑，直至臨海，驚動縣邑。文帝以為臨川內史，為有司所糾，徙廣州。有司復奏其有異志，詔於廣州棄市。作詩曰：

龔勝無餘生　李業有終盡
嵇公理既迫　霍生命亦殞

時元嘉十年，年四十九。於歎！以靈運之才名而不得其死，死又不可為志節所由，殆與葛、許遠矣。

朱世卿

梁鹽官人，有別業在武林山，榜云「隱士鹽官朱世卿墅」。(按晉梁巨室，別業稱墅。)

駱賓王

義烏人。與徐敬業討武后，師敗亡命，不知所之。宋之問以謫放江南，遊靈隱寺；夜月極明，巡廊賦詩，得「鷲嶺鬱岧嶢」二句，下苦不屬。有僧坐禪牀，長明鐙下，問曰：「少年何事苦吟？」宋答以故，僧曰：「胡不言『樓觀滄海日，門對浙江潮』？」宋異之，詢寺僧，知為賓王。明日覓之，無有矣。賓王居靈隱周歲卒。

袁仁敬

開元十三年刺史杭州。(按公于神功元年九月中絕倫科，與崔頲、崔玄同時及第。)

元和間，刺史相里造、韓皋、裴棠棣、盧元輔、元藎，前後共建五亭。又紫薇舍人唐詢，建紫薇亭。(張商英有〈題見山亭詩〉，則見山亭北宋猶在也；僧來復有〈題虛白亭詩〉，則虛白亭明初猶在也。)

白居易

長慶時為杭州刺史。代宗時，李泌刺史杭州，憫市民苦江水之鹵惡，開六井，鑿陰竇，引湖水以灌之，民賴其利。及居易為刺史，重修六井，甃函筧以蓄洩湖水。其自序曰：「每減湖水一寸，可田十五餘頃；每一復時，可溉五十餘頃。」則西湖之在杭，猶鄭白之渠之利也，公之功也！公詩文流傳于靈隱者最多。形勝山下有

白公茶井，北高峰左溪上有白樂橋，法安院有白樂天書，皆公遺跡。

丁飛

字翰之，濟陽人。唐咸通時，居龍泓洞。讀《莊》、《老》，善養生。好古文、樂府、歌詩，作細字皆有楷法。寡睡少言，與人接，禮簡情至。或問：「服何餌？」對曰：「治心修性之外，別有何物？」每月夜，登巖鼓琴，流淙協奏，天籟淒冷，往往鸞鶴翔集。咸通丙午，陸龜蒙過之，年七十二矣；見其綸巾布裘，貌古意淡，操緲缶斤斸，陟峻如飛。作〈錢塘丁隱君歌〉。

丁行者

不詳其人。寺東廊有蘸筆池，是其遺蹟。(或以為即丁翰之也。咸通時，翰之年七十，龜蒙見其畜妻、有子；則會昌毀教時，年不過四十。或為行者而返俗，未可知矣。)

陸羽

字鴻漸，竟陵人。不知其所生，既長，筮得漸之蹇，曰：「鴻漸於陸，其羽可用為儀，吉。」因以為名氏。上元初，隱苕上，自稱「桑苧翁」。或獨行道上，誦詩、擊木、裴徊，不得意則慟哭而返，時謂為接輿也。有〈靈隱碑記〉，惜不傳。

陸龜蒙

字魯望，居松江甫里。不喜與流俗交。設篷席，齎束書，茶鼎、筆牀、釣具往來，時謂「江湖散人」。嘗至靈隱晤丁飛之，作〈隱君歌〉相贈。

羅隱

從事湘南，歷淮、潤，皆不得意，乃歸。謁吳越王錢鏐，慮不見納，以〈過夏口詩〉標于卷首獻之，末有云：「一個禰衡留不得，思量黃祖謾英雄。」鏐覽之大笑，表隱為錢塘令。隱有靈隱詩。朱温篡唐，隱說鏐舉兵伐梁，曰：「雖無成功，猶可退保杭

越，奈何交臂事賊、為千古羞？」此殆有魯仲連之風矣。(按范楷〈跋〉，處約歷官著作郎、直史館，與王禹偁同詔試。)

林逋

字君復，號和靖先生。景德中，放遊江淮，及歸，結廬西湖之孤山。自范仲淹、梅堯臣，皆高其節，贈以詩文。歐陽修謂：「自逋之後，湖山寂寥，無有繼者。」其推重如此。逋嘗有〈汎舟入靈隱詩〉，又有詩云：

山木未深猿鳥少　此生猶擬別移居
直過天竺溪橋上　獨木為橋小結廬

則其高寄蓋亦在靈、竺間。

范仲淹

字希文，為杭州刺史。僧遵式建日觀菴，公為之記。靈隱至今相傳有文正公卧榻。公治行，于杭最多也。

趙抃

字閱道。熙寧時，以資政殿大學士兩知杭州。四十餘，擯去聲色，係心宗教。《傳燈錄》以為蔣山泉禪師法嗣。公有偈云：

默坐公堂虛隱几　心源不動湛如水
一聲霹靂頂門開　喚起從前自家底

蘇頌

字子容。熙寧中，以集賢學士來知杭州，龍泓洞外有題名。公治行最優，時吳越荐饑。一日，有民數百，遮馬訴于公曰：「某等以轉運司責逋負市易緡錢，晝則逮繫公庭，夜則禁於廂院，雖死何由得償？」公曰：「吾今釋汝，使得營生，衣食之餘，悉以償官。期歲月而足，可乎？」眾應曰：「不敢負約。」於是悉縱之。轉運司大怒，欲劾公沮法，而償責者聞之，皆先期而至，事遂已。一日，燕有美堂，聞將兵結集謀害官吏，即入喧傳，恐懼不安。公談

笑自如，密諭兵官捕為首者，械送獄中。迨夜會罷，而坐客不知也。

李公謹

官觀察，有靈隱諸詩。

祖無擇

知杭州，極愛靈隱。時為築鄴公菴於蕭公泉處。

楊蟠

富陽人，字公濟。元祐中，通判杭州。有〈錢塘百詠詩〉，每至山宿，與契嵩唱和。

梅詢

字堯臣，知仁和縣事。有〈武陵十詠詩〉刻石冷泉亭上。

蘇軾

字子瞻。熙寧四年除通判杭州。元祐四年除龍圖閣學士，知杭。公有遺愛于西湖，其見于靈隱者，有靈鷲後小石塔題名，為熙寧七年九月二十日，是時公移蒞膠西，即以是日別南北兩山道友也。又有韜光石題名，為元祐五年二月二日。明年，公年三十六，在杭州被召。通計公之在杭，前後約有六載，何杭人之幸也！寺僧祀公於靈鷲山麓，號東坡祠。其知杭州也，杭大旱，饑疫並作。公請於朝，免上供米三之一；復賜僧度牒，易米以救饑者。明年春又減價糶常平米，多作饘粥。遣使挾醫，分坊治病，活者甚眾。唐刺史李泌引西湖水作六井，民足於水。自唐及錢氏，歲輒浚治。宋時久廢，葑積為田，水無幾矣。見茅山一河專受江潮，鹽橋一河專受湖水，遂浚二河以通漕；復造堰[土*亩]以為湖水蓄泄之限，江潮不復入市。以餘力復完六井。又取葑田積湖中，徑三十里，為長隄，以通行者；且募人種菱湖中，葑不復生。收其利以備修湖、取救荒。餘錢萬緡、糧萬石，及請得僧牒百紙以募役者。隄成，植芙蓉、楊柳其上，望之若圖畫然。杭人名為「蘇隄」。

錢和

錢塘人。錢易孫，錢彥遠子，孝義知名。建傑閣於九里松，藏書甚富，東坡為榜曰「書藏」。直祕閣，知荊南府。

徐爽

錢塘人。隱居湖山，以修真養性終老。徽宗聞其名，賜號「沖晦先生」。其墓蓋在靈鷲也。

朱弁

徽州人，葬于九里松。(弁以紹興初授官，副王倫使北，見執。附表云：「節上之旄盡落，口中之舌徒存。歎馬角之未生，魂消雪窖；攀龍髯而莫逮，淚灑冰天。」高宗覽之未嘗不流涕也。卒葬於此。)

韓世忠

字良臣，延安人。屢立戰功，追封蘄王。紹興中，秦檜當國，公以和義不合，懇疏解樞柄。常頂一字巾，跨驢周遊湖山，而於冷泉尤多盤桓。建亭於飛來峰之半，顏曰「翠微」，自號「清涼居士」。

陳剛中

福州人。建炎初，任太府寺；上封事，議恢復，遂與張九成七人同謫。其詩云：「同日七人俱去國，何時萬里始還家？」有〈飛來峰詩〉。

俞顥

字商卿，杭州人。紹熙進士。嘗宣撫淮東，歷秉節旄。寶慶二年致仕，築室九里松，以詩詞自娛。號「青松居士」，著〈青松居士集〉。

趙與[竺-二+((己@((巨-匚)/匚))/心)]

淳祐中為京尹。自北新路第二橋至翬院，築隄以通靈、竺之路。中作四面堂、三亭，夾岸花柳以比蘇隄，人遂稱「趙公隄」也。建壑雷亭于靈隱。

陳紫芝

名崇真，閩人。咸淳間，卜居北高峰東（俗名慶化山），祈禱有應，賜號「沖素真人」。崇奉雷神，後卒閩，瘞劍雷院後。

陸游

字務觀，嘗有〈靈隱寺冷泉放閘詩〉。

潛說友

宋咸淳間為臨安府尹。每來下竺，有鳥自手中啄食。賦詩有「靈鳥不相猜，認作放生臺」之句。

白珽

字廷玉，結廬于金沙灘，曰「湛囷」。所著有《湛淵集》。

仇遠

字仁近，錢塘人。宋咸淳名士。宋亡，落魄江湖。初辟溧陽州學正，未幾隱去。所著有《山村集》。

趙孟頫

字子昂，宋藝祖十一世孫。至元中，程鉅夫奉詔搜訪江南逸才，以孟頫入見。世祖一見，喜甚，從容諮訪治道，命坐右丞李葉上。孟頫詩文奇逸，篆籀、分隸、真行、草書，皆妙絕天下。嘗至靈隱訪僧恭行己，為作詩。

虞伯生（集）

臨川人，官至奎章閣學士。與鮮于伯機、揭曼碩、楊仲宏、趙子昂、黃晉卿諸公友善。少游錢塘，故于靈隱多所題詠。

鄧文原

字善之。其先綿州人，父漳徙錢塘，遂為錢塘人。為杭州教授，有靈隱詩。

張天雨

字伯雨，錢塘人，號居貞子，又號句曲外史，宋崇國文忠公九成之後。年二十棄家，遊天台、括蒼諸名山。晚入開元宮，從真人王素衍為道士。工書，能詩文，與吳興趙孟頫、浦城楊載、蜀郡虞集、豫章揭傒斯、清江范梈、金華黃溍友善。嘗屏居修茅山志。墓近玉鉤橋，有靈隱詩若干首。

黃晉卿（溍）

義烏人。至正初為浙江儒學提舉。工文章，不喜華冶。有〈西湖舟中詩〉云：「黃塵烏帽媿平生，對客猶稱舊姓名。」其風致可想見。人求其文章，或遭怒罵，惟靈隱慧炬則無所靳也。

項可立

隱於靈鷲山間。與黃溍友善，黃有〈同可立宿靈隱西崦詩〉。

莫維賢

字景行，錢塘人，洪武初仕州訓導。築室南北兩山間，繞屋栽杏，以書史自娛，號杏園。列二十一題，士大夫多留詠，以比王維輞川莊。翻經臺石有題名：「泰定五年春二月，吳郡王連、莫維賢、葉森、陸友同遊。」

高孟升（得暘）

錢塘人。記聞博洽，詩文純雅，名重一時。所著《節菴集》有〈題靈石樵歌〉、〈冷泉猿嘯〉、〈九里雲松〉詩。

王洪

字希範，永樂間，十八舉進士，授行人，入翰林檢討。其〈西山記〉殊佳。

楊孟瑛

字温甫，為杭州知府。以西湖占塞，奏開濬之，毀田蕩三千四百八十一畝，少復唐宋之舊。于裏湖西岸增置二橋，以比蘇公隄。其二曰「流金」，金沙灘之水出焉，遊靈竺者之所停橈也。公又增蘇隄高二尺、闊五丈三尺，列插萬柳，頓復舊觀。

孫一元

字太初，關中人。年十八入終南山，繼入太白山，嚼草木居，息大石上，時有所得。赤腳散髮，走山最高峰，持古松根扣奇石以歌。久之，西入華山，南浮湘漢；登衡山祝融峰，返嵩山，渡汴，謁闕里；遂上岱宗日觀峰，觀夜半日出滄海中，發狂大叫。南經吳、入越，探禹穴、訪天台石橋。然公居西湖久，宿南屏而遊靈隱，詩思清逸，有煙霞氣。其〈跨驢遊西山詩〉載入誌中。

王守仁

字伯安，當宸濠之既擒也，忽傳王師已及徐、淮；遂乘夜遄發至錢塘，凜凜焉不勝憂慄，作詩云：

靈鷲高林暑氣清　竺天石壁雨痕晴
客來湖上逢雲起　僧住峰頭話月明

其意蓋在靈、竺間也。

方思道（豪）

開化人。正德間，刑部郎中。跌宕不羈，雅好山水。蓋嘗題射旭、金光、玉乳三洞也。

汪暉

文昭公第三子。舉正德丁丑進士，歷官翰林院編修。有理公巖洞口題名，云「載酒訪方豪也」，可謂武林勝事。豪，公同年進

士。

朱裳

蒞官方伯。裘褐不備，特于飛來峰頂勒名姓于石上。

陳仕賢

福州人。嘉靖二十二年為杭州太守，擊楊槤真伽像于飛來峰。

王世貞

字元美，吳人。萬曆時為布政分守于浙地，有靈隱詩。官至大司寇。

李攀龍

字于鱗，山左人。為臬憲于浙，與元美相先後。有〈九里松詩〉。

張瀚

號元洲，官吏部尚書。以江陵奪情不肯署押，歸田。張濂號澤山，官至都憲。秉持丰裁，四十報簪，自顏其堂曰「不惑」。都憲子蔚然富學問，弟子著錄者眾吏部。靈隱寺內有祠，都憲墓在靈鷲山下。

孫枝

號思泉。以冀寧分守歸，閉著書。與同志諸公為勝遊高會，與者許少厓先生（嶽）、顧西巖先生（言）、吳桂軒先生（遵晦）、趙望雲先生（應元）、胡順所先生（孝）、金蓮峰先生（階）、柴醴泉先生（祥）、嚴順菴先生（大紀）、呂葵陽先生（元）。四時皆有雅集，獨于靈隱聽禪與看花修禊，不同邦人，至今以為盛事。

柴祥

號醴泉，天性篤孝。官御史，直諫有聲。已陳情終養者二十年，轉外臺，尤持廉平。居鄉淳厚不伐，人稱為長者。

喻邦相

為杭州駕。每以蘇白自許，故尤垂情靈隱，一時辭客雲集，有卓徵甫、葉茂長、潘景升、郭次甫、孫鳳岡、俞玄津、王世周、曹子念、來相如、何王臣、汪仲淹、毛豹孫諸山人皆集。其〈雨中遊靈隱〉及〈北高峰〉詩，皆載誌中。

虞淳熙

號德園，錢塘人，官吏部員外。博學有文名，著述甚富。集內有〈理公塔銘〉、〈代飛來峰石言〉。公嘗贖石窟以還僧舍，其高致非近世士大夫所有也。二子大赤、仲皞，皆以名德見重于時。

許靈長（光祚）

著籍錢塘。萬曆時舉人，官教諭，遷府司理。以能書名，出湯先生（ 堯文）煥門下，二先生書法為錢塘最。公居官有廉名，尤務曠達；早年抽簪，放情山水。其卒也，于冷泉亭方與客展紙揮毫而氣絕，如蟬蛻然。

屠隆

字長卿，四明人。與餘杭徐桂，歲必至湖上，稅駕靈隱，信宿而返。有〈山中唱和詩〉。

李用晦

字元昭，世襲千。早棄官，搆廬于慎菴之址，曰「岣嶁山房」。張元忭為之記，沈青門為作賦詩。

諸餘齡

號雲泉，隱于五寺橋之側，栽花蒔藥，坐卧小樓，十年不入城市。與邵虎菴、李元昭，同稱「石隱」。子夢環，隆慶辛未進士，死亦葬于餘齡側。

邵重生

號古菴，杭州諸生。隱呼猿洞者二十年，著《武林內、外志》數卷，蓋士安節信之流也。先生父經濟，當世廟時，以諫大禮被竄。先生讀書靈山，矢志不仕，豈所謂父為忠臣、子為孝子者耶？

沈守正

沈守正字無回，錢塘人。為名孝廉，清介絕俗，當世士大夫重其守。下幃靈隱，講業授徒，歷有年所。官都察院經歷。

孫日章

字蘊甫。弟日隆，字實甫。節婦、孝子後，為思泉公孫。少即以文章、名節相砥礪也。俱讀書靈隱之普覺。蘊甫早中副榜，以弟死，獨母方在堂，絕志場屋，奉養天年。年幾六十，喪母猶嬰啼也。實甫專志好學，與陸庸成（正奇）、沈無回結契山中，稱至交焉。庸成死，託孤，乃力為濟其昏娶。好古文辭，有李歷下風。以疾早歿，名流痛惜焉。

柴應權

號洞山，官學訓，即醴泉公季子。素與來道之、沈無回、孫思泉諸先生讀書靈鷲，以文義切磋。晚尤歸心白業，為本山檀護。

黃貞父（汝亨）

歷官江西提學。文章清雋，有絕塵之姿。葬靈兔于麓。翰墨題詠留靈隱者甚富。

葛寅亮

字屺瞻，歷官司農。嘗督學楚閩，最稱得人，閒居教授弟子數千。性儉素，布衣徒步于靈竺之間，人不知其貴人。本寺多賴其護持也。

嚴印持（調御）、嚴忍公（武順）、嚴無敕（敕）

順菴先生之子。家門孝友，篤志嗜學，不與俗人為伍。四方飲其高名，稱「三嚴先生」。嘗聯袂于靈隱山中，春聽鳴泉，冬視楓葉。印持先生書法遒勁，獨步當時。忍公先生善金針，八分書尤有古法。

聞啟祥

字子將，為孝廉，名重一時。晚遂絕志仕進，築窠西山。其言語妙天下，大抵馮先生（夢禎）、黃先生（汝亨）一流人也。

李流芳

字長蘅，練川孝廉。賦性古處，善詩、古文，而畫尤絕倫。所至嗜山水，冷泉、岣嶁，徘徊不置。與聞子將先生、三嚴先生皆友善。有〈冷泉紅葉圖〉及詩，人爭寶之。

高攀龍

無錫人，謚忠憲。魏忠賢竊權之日，公抗節不屈而死。先是，萬曆癸丑季秋，公來遊韜光，靜坐三七日而去，有二詩紀勝。

鄭尚友

字士弘。辛未進士，官工部主事。為福建長樂令，有懸魚之節，民愛戴之。為孝廉一十七載，唯以教授為事，足迹不至公府。公嘗于南山下幃，而于北山攬勝也。

許文岐

字我西，官黃州太守。張憲宗襲城，義不欲逃，乃就執死焉。少時讀書祇園房，與正嗇和尚早結方外之好。公童子時，父聯樞先生偶以金魚命公題句，公應聲曰：「將雲騰而虎變，故玉質而金相。」其聰穎如此。

陳潛夫

字玄倩，杭州人，歷官河南御史。與妻孟氏及妾，同靖節江東。其為諸生也，讀書靈隱山房，以名教自任，卒能克踐其志。有

三弟，麗明、祚明、晉明，子曾篁，皆能文、有節，不愧家聲。

陸培

字鯤庭，杭州人。中崇禎庚辰進士，官行人。乙酉殉節於橫山桐塢。與兄圻、弟堦，讀書於靈隱之澗西，人稱「錢塘三陸」。好大節，敦友生；即釋褐後，手不釋卷。所著有《旃鳳堂集》。公先死，而圻與堦奉母裘太孺人以終養。子繁弨，能為漢魏古文辭，有父風。

武林靈隱寺誌卷之五下終

武林靈隱寺誌卷之六上

藝文

吾觀從來宗師家，有佛法者未必有文章；學士家，有文章者未必有佛法。故宗師必須學士以表揚，而學士亦樂為之揮灑，重法道也。昔大慧禪師為泐潭準和尚求張無盡作銘，張公欣然曰：「老夫為他點出光明，合教照天照地去也。」故寺碑、塔銘多出于當代宗工之手。寺碑所以記功，塔銘所以彰道，此二種為重。至若序贊、記述、書劄等，有關于靈隱者，總不敢遺。蓋文章光燄，乃高賢心血所成；年雖久遠，仍炳耀名山，與山門同不朽矣。為誌藝文第十一。

碑記

靈隱寺碑記

羅處約

天地，體也；乾坤，用也。體不可以恒寂，故以禪而為名；用不可以終動，故以靜而為本。是以境得之而為勝地，心得之而為妙道。斗牛之下有郡曰錢塘，浙水之右有山曰武林，居山之寺曰靈隱，其得境之勝地乎？居寺之徒曰禪侶，其得心之妙道乎？觀其羣山環倚、一峰中斷，平湖鑑物、洪濤驚人，雲生若趨、石怪欲語，陸羽記云：「東晉咸和初，有梵僧慧理由天竺而至，歎曰：『茲山靈鷲之一峰耳，何代飛來乎？』」所攜白猿復識其處，睨彼古地同乎新豐。由是金布其田，寶裝其剎，憩蓮花之石，翻貝葉之文，洞深有天，巖垂為室。晉宋已降，賢能迭居，碑殘簡文之辭，牓蠹稚川之字。唐大曆六載復大壯焉，謝亭巋然，袁松多壽。五季之末，國霸為錢，雲構之規，則又過矣。繡角畫栱，霞翬於九霄；藻井丹楹，華垂於四照。修廊重複，潛奔濺玉之泉；飛閣岧嶤，下映垂珠之樹。風鐸觸鈞天之樂，花鬘搜陸海之珍。有若碧樹花枝，春榮冬茂；翠嵐清籟，朝融夕凝。呼猿峰閒，臥龍石老。會漢南王籍彼土宇，歸我昌朝。雍熙二載，郡之四眾請月禪師為上首，師印可禪那，深得其髓。越明年春，僕自蘇臺抵杭郡，弭蓋靈鷲，濯纓冷泉，山光洗心，松聲娛耳。貞珉雖揭，好辭未。余不斐者也，月禪師俾文其事。噫！節彼靈山，奠茲吳土，秀極而為萬狀，翠鍾而成一色，乍聳而還趨，欲飛而卻屹，豈造物者奇詭其勢、與心而符契

哉？不然，胡為不違世咫尺，而若在溟涬，俾仁者樂之？其得靜之理也！我如來密印，由飲光而傳達磨、而付南能。厥後代有宗師，競分支派。太虛無狀而《楞嚴》謂三界忽生，湛寂本如而《易經》稱萬物自動。故眾生昧如如之性、住我我之所，執指為月、瞪目成花。不有導師，孰為法眼？若言真於妄，則二妄為同；破有歸無，則一邊為見。故融其妄法，是名真空；真空不空，斯為妙有。雖揚眉舉目，則當體涅槃；三界四生，則澄心境界。棲禪於此者，其殆庶幾乎！偉哉是境也，其將以心為君乎！是心也，其合是山之靜乎！所謂天地之體，乾坤之用，體用無礙，端在是矣。或曰：「以茲山得靜之理，斯固不誣矣。靈鷲言飛來之事，何其怪哉？」余則曰：「怪，神之端。子真不語者也。第以力垂大教、翼戴衰周，俾季世之人信道彌篤，是以取爾。嘻！太極剖而為天地，遊魂變而知鬼神，豈非語怪者也？」因不自揆而書之，猶季路之率爾也。因為之銘曰：

靈鷲一峰　飛來竺乾
非夸娥負　神妙難筌
非巨靈擘　化工自然
誰識其異　慧理明焉
翠微之前　曹溪之禪
隱不為俗　靜本乎天
四時羣籟　萬古寒泉
因書貞石　用記千年

冷泉亭記

白居易

東南山水，餘杭為最。就郡言，靈隱寺為最；就寺觀，冷泉亭為最。亭在山下水中央、寺西南隅，高不倍尋，廣不累丈，而撮奇、得要地、搜勝概，物無遯形。春之日，吾愛其草薰薰、木欣欣，可以導和納粹，暢人血氣；夏之日，愛其泉泠泠、風泠泠，可以蠲煩析酲，起人幽情。山樹為幄，巖石為屏，雲從棟生，水與堦平。坐而玩之者，可濯足于牀下；臥而狎之者，可垂鈎于枕上。矧又潺湲潔澈，甘粹柔滑；眼目之囂，心舌之垢，不待盥滌，見輒除去。潛利陰益，可勝言哉？此所以最餘杭而甲靈隱也。先是領郡者，有相里君造虛白亭，有韓僕射皋作候仙亭，有裴庶子棠棣作觀

風亭，有盧給事元輔作見山亭，及右司郎中・河南元蒨最後作此亭。於是五亭相望，如指之列，可謂佳境殫矣，能事畢矣。後來者雖有敏心巧目，無所加焉。故吾繼之，述而不作。

北高峰記(節略)

田藝蘅

由法華山之南，龍岡蜿蜒、猿扳蛇折，三陟三降、可四百丈許。凌拔虛峭、孤聳碧落者，曰北高峰。蓋言峰，至西湖之北而最高也。其下為靈隱山，茲山名稱不一，以其為神仙之別圃也，故曰靈苑；以其為許由所稽留也，故曰仙居；又以其草樹鬱葱而多虎豹也，則曰虎林。南唐避諱，易虎為武，遂以名郡。亦猶姑蘇虎丘之嘗易武丘，而此則訛而不復者也。山自仙霞嶺而來，纏徽屏嚴，結局於杭。如龍遊千里而獨角昂霄，如虬飲長江而怒髯注雨，真錢塘之天柱也。其附石級而登者三十六灣，勢太虛、影侵明聖，禪宮星列、都會天開。其東則渺渺茫茫，蓬瀛之勝可數；其西則隆隆隱隱，飛鳳之氣猶存；其南則屏以重山，而羅剎斜遶其背；其北則闢以大野，而皋亭逆峙其喉。廓然四顧，逌然長笑，襟攬天風，心空海宇，何如其樂也！憶昔癸卯秋八月十八日，與臨安高子世道輩同來望潮，踏月而歸，今已戊午矣。以志在山水若余者，十六年間僅僅再至；又況朝歌暮鼓、彩輿畫舫於六橋桃柳中者，誰肯更於物外著脚耶？

遊西山記(節略)

王洪(字希範，永樂間翰林檢討)

吾鄉多佳山水，最勝者曰西山。距郡城不半途遠，經行春橋，途集慶蘭若，始至飛來峰下。地誌稱虎林山，而浮屠相傳從西域靈鷲小朵峰飛來者，蓋西山第一佳處也。其高不逾五六十丈，巖石嵬怪特異，若犢駭、若隼立、若鳥啄、若豹躍、若蛇逝、若棋置劍植，衡從偃仰，益玩益奇。上多異木，木幹筆直，枝葉碧色，不假土壤，根出石外；冬夏常鬱鬱然，丹葩翠蔕，蒙冪聯絡，種種殊異，不可名狀。其下巖洞若曲室，玲瓏相通，中外鑿僧佛像。泉自石脉出，滴石上，作鏗然鳴，隱隱出洞，久而始散。有寺在山趾，曰靈隱；有亭曰冷泉，澗經其下，始出沸激，久乃徐流。白礫布底，坦然平瑩。跋石漱波，毛骨爽徹。薄暮脫帽、憩石壁之下，林

壑陰翳、萬籟岑寂；蒼然暮色，自遠而至。山風飄飄，徐動林木、響應溪谷。間以幽鳥，其韻愈遠，令人蕭然有忘世之志。明旦，由涉故徑東還，顧瞻白雲橫亘四山，北峰浮圖止出其半；日影照映，茸茸如白綿，可揭而取也。噫，余遊四海久矣！嶽之秀者泰岱、衡華，水之巨者洞庭、彭蠡；而名剎、高士、勝僧，未有若吾鄉俱美者，宜吾徒樂而忘返也，故書之。是永樂七年閏四月一日也。

湖山勝概記（摘略）

夏時正

入湖路轉而北，過胭脂嶺，至大普寺，北出九里松，東過行春橋，接小新堤、天澤土穀廟，路通麴院。又由普福西，過集慶寺，月桂峰下有閻妃墳。迤西入佛國山，張即之書匾，筆妙入神。三竺之間，雲影天光、泉聲松籟，岑寂鳥空、山凝鐘靜，耳目心神之會，覺其迷、極其樂者，豈不超三界外乎？歸路左合澗橋，過龍泓洞，有飛來峰，又名靈鷲山，與三天竺一脈，聯屬至此而盡。故上有巉巖，下多空谷，謂之飛來者也。相對有靈隱寺，規模宏壯，為五山第二。兩山之間有冷泉亭，泉可濯、亭可憩；樹林陰翳，九夏而暑無侵。樂天云「有虛白、見山、觀風、望仙四亭」，今皆無所考。西有呼猿洞，猨去，西洞湮。靈隱之後則北高峰，秀出諸山。支分上竺，盤折七十二彎，麓衍二十餘里，磅礴起伏，至武林山而歇，其靈鍾於五顯。山之腰有半山廟，西有韜光菴，菴極幽靜，唐有僧居之。山之麓有上永福寺。

遊西湖記（摘略）

楊守正

沿山澗入，陸行道三竺佛門，見松篁夾路，水聲潨潨然。移時至集慶寺，訪理宗遺像，無存。尋跋涉久，乃坐飛來峰側，見諸洞窟玲瓏。余穿巖隙入，恍佛乳垂垂墮，佛大士諸像星列其上，石青紫有光。每窟穴處，雲滃滃然起，石畔溪流激人。余因問寺僧橫溪上人，究駱賓王吟詩之所在。北高峰下亦跛蹀不能至。飲罷，至冷泉亭，題詩壁上。因與諸子話往日奸檜地藏和尚之事，雖涉野史荒唐莫可據，然亦可見神鬼報施有不可逃者。冷泉亭上有一泓悠然，余遂沿石泓下，復至前飛來峰所；因詢所謂呼猿洞者，在荊莽中，道狹不可步。迺同諸子坐石筍屏畔，於是訪靈運翻經之臺。見臺葑

蘚剝蝕。繼至三生石上，盤行山徑乃下。汲葛仙公泉，冽甚。復取道後湖小徑去。

新廣冷泉亭記

僧如璧

靈隱冷泉，其源出於寺西南百步之近；直寺之前，瀦而為池。唐・刺史・河南元藎作亭池上，後刺史白公居易記之，刻石亭中。其敘勝概甚備，然士大夫有識者，猶以池量狹陋，為未足以盡冷泉之美，蓋三百年於此矣。政和初，兵部尚書張公以龍圖閣學士出守是郡，暇日醼客池上，徜徉不忍去，意將廓而大之。長老雲公（樂然）用其說，撤屋斸地，伐石為堤，東西三倍其初，南北半之，長松巨檜不改其列，而池已浩乎大矣。池傍故有巖竇，嵌崎空洞，如刻如斲；至是揚波石中，倒影水面，湛淨明碧，可以育魚鼈而豢蛟龍，使人登此亭者，超然有絕人遺物之意。餘波渺瀰、浮閘而下者，雷奔電激，飛雪噴霧，使人臨是池者，恍然如在天台、廬阜，窺石橋而睨三峽，莫知其在湖山俯仰之間也。嗟夫天下之物，用之有不極其材；駭鷄之犀，夜光之璧，世有不盡見其美者，古今之通患。是舉也，能使累世未盡之奇一旦呈露，蓋張公之意而雲老之力，此豈偶然哉？亦嘗徘徊、周覽壁間之題，如唐丞相李嶠、裴度、裴休，與夫元稹、張籍之徒，讀其詩，未嘗不想其人。是數公者，功名文彩照耀後世；今其流風遺澤固已雲散夢掃，漠若與凡輩共盡，而斯泉固自如也，於是慨然而嘆。今此地已三廣，冷泉之名當益張，士大夫之遊者當益眾，援筆而賦者當益多。然逝者如流，日遷月謝，容一過之；或昔少而今壯，或昔壯而今老，盛衰得失相尋於無窮。後之視今，將猶今之視昔，則猶視池者亦可矍然以驚、翻然而懼矣。

惠力寺記（摘語）

贊寧

錢塘屬邑，鹽官為最；在浙之朝陽，為吳之右臂。白鋪江練，青點海門，蜃樓起而蜷蝀橫，星漢低而枯槎活。潮生信大，雷霆藏龍戰之聲；閏下功深，蜀井喪虎形之味。

古澗窪泉記

貝瓊

余在錢塘時，嘗遊西山之靈鷲。有泉流幽澗中，或隱或見者，如綫如蛇，曲折而下赴。其激石有聲，鏘鏘如琴筑之交奏、珩璜之相觸。及憩春涼亭，其東西合流注大壑，琅然如驟雨之至；雷震之瀑，如决銀河，自天而落也。雖未及觀香爐瀑布、天台石門之崩騰雄悍，是亦西山之一奇矣。

岣嶁山房記

張元忭

靈隱寺之西，循澗而上得柴關。踰赤欄橋，有屋數楹，有竹萬竿，中有樓曰「紫蓋」。樓之上下析為小室者五，凡燕居欵客、却暑避寒之所，無不畢具。刳竹為瓦，樹蕉為屏，引泉為溜，淨綠莊嚴，清流瀟淅，盛夏凜然如秋。樓之北，躋石磴，緣曲水而上，結桂成亭。充坪因石憑虛，曰孤嘯；臺復古，曰白砂；丹井架空，曰禮斗；閣依梅，曰香雪巢。其外，曰樹蹊、茶坂、梅塢、橘坡。山不盈數十畝，而備極幽致，遊者如入蓬壺、方丈，而莫能窮詰也。

玉兔塚記

黃汝亨

先癸丑四年，客有見白兔于天台山者，守三年而得之。珍重寶愛，歷遊諸王侯公卿間，未遇也。迨癸丑秋八月，攜之白門，見余于官舍，門下士汪生捧以歸余。予籠以金縷，題以玉衡，偃仰一室，曠若林麓，與之周旋者三年。其體瑩皓月，眼流赤霞，冰姿絕倫，雪態橫逸，若蹲若卧，名狀千變。客或見其一斑，予曰：「摩挲愛玩之未有窮也。」今年春二月，先一夕夢有黑衣童子，雙眸下涕，界以赤文，若繞膝置辭者。予驚而寤，起眙之，欠伸靡恒，躑躅者三，遂往矣！予愴然若喪者久之。豈紀所謂五百年白、五百年而黑者，其變徵乎？夫遷無超有，理之大常；含盃表異，物有至貴。昔徑山標靈雞之塚，南康記鸚鵡之禽，斯皆資始道妙、任體山阿。予之斯兔豈不同然？遂裹以文車，封之靈隱山之韜光菴，下識曰「靈兔塚」。即委蛻一時，流耀千載，詎忍堙沒不稱、草木俱腐哉！

永明智覺禪師行業記

惠洪

師諱延壽，餘杭王氏子。兒時知敬佛乘，及冠，日一食；誦《法華經》，五行俱下，有羣羊跪聽。年二十八為華亭鎮將，嘗舟歸錢塘，見漁船萬尾戢戢，惻然皆易之，放于江。裂縫掖，投翠嵓岑公，學出世法。吳越文穆王聞而慕悅，聽其棄家，為剃髮。自受具，衣不繒纊，食無重味，持頭陀行。常習定天台天柱峰下，有尺鷃巢衣襝中。時韶國師眼目世間，北面而師事之。韶曰：「汝與元帥有緣，他日大作佛事，惜吾不及見爾。」初說法雪竇，建隆元年，忠懿王移之于靈隱新寺，為第一世。明年又移之于永明寺，為第二世；眾至二千人，時號「慈氏下生」。指法以佛祖之語為銓準，曰：「迦葉波初聞偈曰：『諸法從緣生，諸法從緣滅；我師大沙門，常作如是說。』此佛祖骨髓也。龍勝曰：『無物從緣生，無物從緣滅；起惟諸緣起，滅惟諸緣滅。』乃知色生時但是空生，色滅時但是空滅。譬如風性本不動，以緣起故動；倘風本性動，則寧有靜時哉？密室中若有風，風何不動？若無風，遇緣即起。非物、風為然，一切法皆然。維摩謂文殊曰：『不來相而來，不見相而見。』文殊乃曰：『如是，居士。若來已更不來，若去已更不去，所以者何？來者無所從來，去者無所從去，所可見者更不可見。』此緣起無生之旨也。」僧問：「長沙偈曰：『學道之人未識真，只為從前認識神；無始來時生死本，癡人喚作本來人。』豈離識性別有真心耶？」智覺曰：「如來于首楞嚴會上為阿難揀別詳矣，而汝猶故不信。阿難以推窮尋逐者為心，遭佛呵之。推窮尋逐者，識也。若以識法隨相行，則煩惱名識，不名心也。意者，憶也。憶想前境起于妄，並是妄識，不干心事。心非有無，有無不染；心非垢淨，垢淨不汙。乃至迷悟凡聖、行住坐卧，並是妄識，非心也。心本不生，今亦不滅。若知自心如此，於諸佛亦然。故維摩曰『真心是道場』，無虛假故。」智覺以一代時教流傳此土，不見大全，而天台、賢首、慈恩，性相三宗又互相矛盾，乃為重閣，館三宗知法比邱，互相設難。至波險處，以心宗旨要折中之，因集方等秘經六十部、西天此土聖賢之語三百家，以佐三宗之義，為一百卷，號《宗鏡錄》，天下傳誦焉。僧問：「如和尚所論宗鏡，唯立一心之旨，能攝無量法門，此心含一切法耶？生一切法耶？若生者，是自生歟？從他而生歟？共生、無因而生歟？」荅曰：「此心不縱不橫，非他非自。何以知之？若言含一切法即是橫，若言生一切法即是縱。若言自生，則心豈復生心乎？若言他生，即不得自，矧曰有

他乎？若言共生，則自他尚無有，以何為共哉？若言無因而生者，當思有因尚不許言生，況曰無因哉？」僧曰：「審非四性所生，則世尊云何說意根生意識？心如世畫師，無不從心造，然則豈非自生乎？又說心不孤起，必藉緣而起。有緣思生，無緣思不生，則豈非他生乎？又說所言六觸因緣生六受，得一切法，然則豈非共生乎？又說十二因緣，非佛、天人、修羅作，性自爾故，然則豈非無因而生乎？」智覺笑曰：「諸佛隨緣差別、俯應羣機，生善破惡，令入第一義諦，是四種悉檀方便之語。如以空拳示小兒耳，豈有實法哉？」僧曰：「然則一切法是心否？」曰：「若是，即成二。」僧曰：「審爾，則一切不立、俱非耶？」曰：「非亦成二。汝豈不聞《首楞嚴》曰：『我真文殊，無是文殊；若有是者，則二文殊。然我今日非無文殊，于中實無是非二相。』」僧曰：「既無二相，宗一可乎？」曰：「是非既乖大旨，一二還背圓宗。」僧曰：「如何用心，方稱此旨？」曰：「境智俱亡，云何說契？」僧曰：「如是則言思道斷、心智路絕矣！」曰：「此亦强言，隨他意轉，雖欲隱形而未忘迹。」僧曰：「如何得形迹俱忘？」曰：「本無朕迹，云何說忘？」僧曰：「我知之矣。要當如人飲水，冷暖自知。當大悟時節，神而明之。」曰：「我此門中亦無迷悟、明與不明之理。撒手似君無一物，徒勞辛苦說千般。此事非上根大器，莫能荷擔。先德曰：『盡十方世界，覓一人為伴，無有也。』又曰：『此是一人承紹祖位，終無第二人。若未親到，謾疲神思。』借曰『玄之又玄、妙之又妙』，但是方便門中，旁贊助之語；于自己分上，親照之時，反視之皆為魔說。虛妄浮心，多諸巧見，不能成就圓覺。但以形言迹，文彩生時，皆是執方便門、迷真實道；要須如百尺竿頭放身乃可耳。」僧曰：「願丐最後一言！」曰：「化人問幻士，谷響答泉聲；欲達吾宗旨，泥牛水上行。」又常謂門人曰：「夫佛祖正宗，則真惟識，纔有信處，皆有為人。若論修證之門，則諸方皆云功未齊于諸聖。且教中所許，初心菩薩皆可比知。亦許約教而會，先以聞解信入，後以無思契同。若入信門，便登祖位。且約現今世間之事，眾世界中，第一比知，第二現知，第三約教而知。第一比知者，且如即今有漏之身，夜皆有夢。夢中所見好惡境界，憂喜宛然；覺來牀上安眠，何曾是實？並是夢中意識思想所為，則可比知覺時之事皆如夢中無實。夫過去、未來、現在三世境界，元是第八阿賴耶識親相分，惟是本識所變。若現在之境，是明了意識分別；若過去、未來之境，是獨散意識。思惟夢覺之境雖殊，俱不出于意識，則惟心之旨，比況昭然。第二現知者，即是對事分明，不待立況；且如現見青白等物時，物本是虛，不言我青我白，皆是眼識分與同時意識計度分別為青為白。以意辨為色，以言說為青，皆

是意言，自妄安置。以六塵鈍故，體不自立，名不自呼。一色既然，萬法咸爾，皆無自性，悉是意言。故曰『萬法本閑而人自鬧』。是以若有心起時，萬境皆有；若空心起處，萬境皆空。則空不自空，因心故空；有不自有，因心故有。既非空非有，則惟識惟心。若無于心，萬法安寄？又如過去之境，何曾是有？隨念起處，忽然現前；若想不生，境亦不現。此皆是眾生日用，可以現知，不待功成，豈假修得？凡有心者並可證知，故先德曰：『知大根人知惟識者，恒觀自心，意言為境。』此初觀時雖未成聖，分知意言，則是菩薩。第三約教而知者，大經云：『三界惟心，萬法唯識。』此是所現本理，能證正宗也。」智覺乘大願力，為震旦法施主，聲被異國。高麗遣僧航海問道，國王敘弟子之禮。以開寶八年十二月焚香告眾，跏趺而化。閱世七十二，坐四十二夏。

贊曰：予初讀《自行錄》，錄其行事日百八件，計其貌，必枯瘁侹劣；及見其畫像，凜然豐頤，眉目秀拔，氣宇如玉。味其平生，如江干之月；研其說法，如禹之治水、孔子聞韶、羿之射、王良之御、孫子之用兵、邱明太史之文章。嗚呼！真乘悲願而至者耶！

錢塘邑侯・譙明張公免靈隱役功德碑記(公諱文光，河南祥符人，中戊辰進士)

汪繼昌

陶令作〈桃花源記〉，寫山水之岑僻、人物之凉古。唐人擬作歌詩，都謂是仙域矣。及攷輿圖誌，今廼更隸縣官，而當日陶公作詩，亦秖云「春蠶取長絲，秋熟靡王稅」而已。後讀《十洲記》，見其說瀛洲仙家風俗似吳人，又私自喜吳儂身墮菰蘆中，竟不知是閻風玄圃也。然近年來，追呼調發，生人號咷如沸湯鑊。錢塘古稱佳麗，每奉院司文移徵發，惴惴不敢緩。雖復王裒步擔乾飯，磬折牛旁，不足蔭安邱之門人矣，矧其遊方之外者耶？今上治天下之九載，歲在壬辰，大治役書，而天下邑侯躬為審定。譙明張公蒞錢塘，取斯人而衽席之，以廬以粥，于今七年。杭人竊喜張使君如白、如蘇。西湖帶水，淨如拭鏡，兩山綠如埽黛。其間暄晨肅月、春萋秋馥。向使吏鷹政虎、博噬狺狺，亦有何佳？而我張君布政優優、吏治閒閒；衙鼓簿書之暇，輒邀家嚴牽艇策蹇、信信宿宿于煙蘆雲杉之際，觴詠流連，消民苛慝。往時余得雁行隅坐，時時捧讀篇什，憂民之色見于楮面。是役也，靈隱僧性楗等來乞家嚴，屬予灑墨以誌侯德。予嘆曰：「張使君此舉，不但為法城塹也！」靈隱

舊額十之五，今少減之耳；乃令冷泉片地，翛翛釋子，眇眇禪棲，錫鉢間設于松間，梵唄颺韻於天岫。騷人遊子來憩蕭森，恍有「雲從棟生、水與堦平」之致。昔支道林寄桓公書：「頻被州符，求沙門名籍，煎切甚迫。」今具德大師得率眾禪寂此中，得斷薪續牀、三篾繞腹；麋鹿之性，自樂林泉。然得徜徉自適者，誰為賜也？往者不可知，且以近事相況，清波門內為雲居楓嶺，盛時嶺幾千章；深秋葉赤，遊人自斷橋回眺城隅，赫如天半絳雲。十年前，余讀書菴中，疲衲困于誅求，遂將此百餘年物斬艾無遺蘗。維時同人江晚柯家蒼舒作詩悼之。今靈隱沐張使君寬政，要念所以保護之者，上自蓮華峰，後迄韜光，一草一木、一泉一石，以召公勿拜之思，作李家平泉之訓。他日使君過山中，更邀家嚴聯句冷泉亭畔；石蹲似獸，煙樹如人，野衲與鷗鷺相狎，宛然如初入桃源時。後之詩人過九里松者，杳不識少陵野老〈垂老〉、〈無家〉諸什為作何等語者，則張侯之德為不可諠哉！

靈隱係浙省第一祖庭，參學高流皆十方聚會。所以寺無恒產者，以應酬里役不便故也。今本寺止有山地蕩，舊屬錢塘上扇三啚運辦糧。至順治十八年，恩蒙前任邑侯（今陞江南藩司）大護法慕天顏，編入上虞二啚二甲，本名濟上立完糧，准免雜徭，俾林下人得以朝參夕請、究明己躬下事者，悉慕護法盛德之所賜也。

奕山萃謹識

靈隱寺誌卷之六上終

武林靈隱寺誌卷之六下

記

明教大師行業記

陳舜俞

宋熙寧五年六月初四日，有大沙門明教大師示化於杭州之靈隱寺，世壽六十有二，僧臘五十有三。是月八日以其法茶毗，斂其骨，得六根之不壞者三；頂骨出舍利，紅白晶潔、狀若大椒者三；及常所持木數珠亦不壞。於是邦人、僧士更相傳告、駭嘆、頂禮。越月四日，合諸不壞者葬于故居永安院之左。其存也，嘗與其交居士陳舜俞極談死生之際，已而屬其後事，茲用不能無述也。師諱契嵩，字仲靈，自號潛子，藤州鐔津人。姓李，母鍾氏。七歲而出家，十三得度、落髮。明年受具戒，十九而遊方，下江湘，陟衡

廬。首常戴觀音之像，而誦其號日十萬聲，于是世間經書章句不學而能。得法於筠州洞山之聰公。慶曆間入吳中、至錢唐，樂其湖山，始稅駕焉。當是時，天下之士學為古文，慕韓退之排佛而尊孔子。東南有章表民、黃聲隅、李泰伯，尤為雄傑，學者宗之。仲靈獨居，乃作《原教論》十餘篇，明儒釋之道一貫，以抗其說。諸君讀之，既愛其文，又畏其理之勝，而莫之能奪也，因與之遊。遇士大夫之惡佛者，仲靈無不懇懇為言之。由是排者浸止，而後有好之甚者，仲靈唱之也。所居一室，蕭然無長物。與人清談，靡靡至於終日。客非修潔行誼之士，不可造也。時貳卿郎公引年謝歸，最為物外之友。嘗欲同遊徑山，有行色矣，公亦風邑豪預焉，冀其見仲靈而有以尊養之。仲靈知之，不肯行，使人謝公曰：「從吾所好，何必求富而執鞭哉？」凡其潔清類如此。皇祐間去居越之南衡山，未幾罷歸，復著《禪宗定祖圖》、《傳法正宗記》。仲靈之作是書也，慨然憫禪門之陵遲，因大考經典，以佛後摩訶迦葉獨得大法眼藏為初祖，推而下之，至于達磨為二十八祖，皆密相付囑、不立文字，謂之教外別傳者。居無何，觀察李公謹得其書，且飲其高名，奏賜紫方袍。仲靈復念幸生天子大臣護道達法之年，乃抱其書以遊京師。府尹龍圖王仲儀果奏上之，仁宗覽之，詔付傳法院編次，以示褒寵。仍賜明教之號，仲靈再表辭，不許。朝中自韓丞相而下，莫不延見而尊重之。留居憫賢寺，不受請，還東南。已而浮圖之講解者惡其有別傳之語，而恥其所宗不在所謂二十八人者，乃相與造說以非之。仲靈聞之，攘袂切齒，又益著書，博引聖賢經論、古人集錄為證，幾至數萬言。士有賢而好佛者，往往詣而訴其冤。久之，雖平生厚于仲靈者，猶恨其不能與眾人相忘于是非之間。及其亡也，三寸之舌所以論議是是非非者，卒與數物不壞以明之。嗚呼！使其與奪之不公、辯說之不契乎道，則何以臻此哉？雖然，仲靈之所以自得而樂諸己者，蓋不預于此，豈可為淺見寡聞者道耶？仲靈在東南，最後密學。蔡君謨之帥杭也，延置佛日山，禮甚厚，居數年。然言高而行卓，不少假學者，人莫之能從也。有弟子曰慈俞、洞清、洞光。所著書自《定祖圖》而下，謂之《嘉祐集》。又有《治平集》，凡百餘卷，總六十有餘萬言。其甥沙門法燈克奉藏之以信後世云。

本寺住山慎菴詳禪師行業記

廣原

師諱詳，字慎菴，海昌李氏。髫齔時懷出世志，禮本寺玉衡璣公。天生穎悟，經書過目成誦。時錢塘陸公憐其敏，欲其志，俾充邑庠弟子員，師固卻之。薙髮，尋受具戒於前住持全菴理公。會中典其藏，染指法味。居無何，掌記室於璧菴璘公。會中微辭奧旨，研精覃思，弗明弗措。學日充，名日著。景泰間，出主仁和顯寧寺，緇素向慕。天順間，本山虛席，請師補之。既領祠部檄主寺，廢墜畢舉，禪規嚴飭，大開鑪鞴，鉗鎚後學。學者宗之，猶雲委而景從也。方丈兩廡頓弊，傾橐葺之。復與孫旺常、春修蓋大殿，煥然一新。中興之功豈不偉哉？預建退隱之室于中宮兌位林麓爽塏之地。既退，砦門埽軌，危坐如朽株，定心如止淵。復先相宅兆于隱居之背，作歸藏計。非夫視此身如逆旅者耶？孫長淨、天鏡，通內外學，住持本山；次滔，出主光明寺。曾孫宗欽、宗鏞，玄孫洪椿、洪樟皆克肖，可謂繼述者得人矣。師春秋七十有三，僧臘五十有五。於戲！道之宏者得其人，人之顯者有其位也。有其位、無其人，雖千萬間之廣猶空舍也；有其人、無其道，雖千萬之眾猶聚蚊也。二者兼得之，慎菴其人也。據五山之席而展其所蘊，不為不顯也。有其道而眾倚之為指南，不為尸位也。若是，不惟慎菴出世之幸，乃祖道光輝之大幸也。與古之宗匠夷不相下，儗之竊形服而立名非真者，不既遠矣乎！

無新老人行業記

陳繼儒

靈隱無新老人，每歲首必過余山中，共煨榾柮梅花屋底，二三十年如一日也。老病畏人，尤畏遊客之談兵、談道、談時局者，遊僧之談禪、談師、談緣法者，往往引避不暇。獨望見老人瓢笠於籬落外，即欣然手為啟扉，山中童稚亦皆稱為歡喜菩薩云。乙亥秋初，怪師不至，則先期已於端午日坐逝矣。明年，法孫竑公徵余作傳，諾之。按師諱性證，字無新，錢江鄧氏子。早歲從易菴和尚薙髮。和尚為臨濟兒孫，門庭高峻；獨重師樸誠，以法器待之，密傳衣鉢。師埋光剷采，遍參諸老宿，絕不露圭角。值靈隱中興之日，締構煩重；工徒千指、仰師瓶盆以食。丹臒既畢，首復宋直指堂；於是飛來峰坊、迴龍橋、密因閣、冷泉、石門諸勝，一切皆從師十指煥爛矣。是時雲棲介如、憨山、古心諸善知識，率樂就師弘法，講席之盛甲於東南。為長期飯僧，御眾簡要，魔外息心，山中大小事就師營度，無不立辦者。晚年靈鷲隙起，師潛叩諸檀護，盡力保持之，幸免摧剝。改易輪殿，鼎新韓蘄王翠微亭，歲補九里松，晚

猶不倦。復護飛來竹樹於斫伐之後，存古禪堂於崩敗之餘，改迴龍橋於洪水未發之日，五易大殿柱，所費不貲，致峩眉老僧萬里寄語。凡師所樹有為法，皆幹蠱濟險，不特才識過人，乃其赤心白行，實有以孚於眾也。師嘗對人言：「我來時赤條條地，去時豈容以一絲自掛？」故破衲遮身之外，卑脚牀、折脚鐺，猶長物也。生平於持名反念，默自體會，不復以機鋒自顯。化去之日，徐疊雙趺；有「六十四年打攪常住」之偈，可謂踐履之驗矣。法孫寂竑，字妙香，善述祖德，禪林所稱宗象者也。塔在北峰之麓，祀在靈隱之祖堂。

樵史氏曰：余少年時嘗遍禮諸尊宿，意絕不肯之誠，見其我相重、慢幢高，所為忍辱精進者，未幾見也。獨入五雲山與蓮池大士對面，輒相視而笑，莫逆於心，能解會此中意者，惟無新老人爾。終其身，披忍鎧，護戒珠，雪白冰清，究竟與靈山同不朽，亦足矣！若猶向寂光土中標龍識象，是豈老人翛然去來意哉？余故特傳之，以告夫平實學道、本色住山者。

月用大師行業記

張芬

師俗姓江氏，諱浩，字道闇，仁和人。生而穎悟，善讀書，落筆數千言立就。湯公顯祖生平不輕許人，見師文，大奇之；王公宇、方公應祥、蕭公士瑋，皆嘆為蓋世才。先是，里中黃公汝亨、虞公淳熙、葛公寅亮，咸深知師，敬為小友；至是得湯公輩嘖嘖傳海內，海內嗜古負奇之士以諸大儒驚服，遂無不知仁和江生，願交納者，以故師交知半天下。心甚厭苦之，乃遯入西溪之橫山；層巒叠秀，刈茅栽杏，挈妻子而家焉，顏之曰「蝶菴」。其初經子史集無所不讀，而文則神明乎史遷，詩則胚胎于李白；所尤嗜者漆園之書也，故其人冲談樂道，意泊如也。師筋骨弱、多病，于功名事不汲汲，且尤不喜習舉子業。偕其弟之浙，與同志十餘人訂讀書社，後先砥誡，誓追古人。遇不可，即面赤，雖至戚愛，必出肝膽力爭之。歲甲申，有自京師來者，譚闖賊破城事甚悉；師憤怒，髮絲絲上指，乃厲聲曰：「遂至此乎！」且嚼齒疾罵曰：「速死，以哭訴上帝！」不顧客，顛馳菴右壁，狂叫躍墜。首觸亂石，血流滿澗。家中人奔救，血珠尚噴濺，頭頃刻如斗，口中尤喃喃罵賊。張岐然輩輿致遊仙里，調護之，幸不死。自是遊心禪悅，功名益置度外，而放形於丘壑之間。亡何，亂兵逼處橫山，遂依博山汝航禪師薙髮為僧，更名弘覺，號「夢破知蝶夢」，蓋不作栩栩也。次慕具德和

尚道望，遂傾心依止；更字月用，掌書記。方期荷負祖道，旋以病脫化。噫！師以道不得行而忠無所效，棲遯空門，卒憤憤而死。是則師雖託迹方外，而有功於名教不淺鮮也。張岐然，字秀初，志行與師同，後亦祝髮於具和尚會下，諱濟義，字仁菴，參禪得悟。法嗣皋亭顯寧澹予垣和尚，初住顯寧，次雲居，終于江北泰州之慶雲。道行表表，稱濟宗龍象；與月師行履雖有出世、不出世之分，其志皆秋霜烈日而為萬古之奇人也，故因表月師而併及焉。

序

《護法論》序

僧來復

西方聖人之設教也，先之五戒十善，次之六度萬行，終之以三德四智。其所權輿斯道，固有顯密、頓漸之不同，極乎一真之妙則功超修證、理絕名言、振天地而獨存、亘古今而不異者矣。世之論者或指浮圖氏徒善為罪福報應之徵、地獄輪迴之變以恐動愚俗，遂以其誕而詆之。嗚呼，何自欺之甚歟！《易》曰：「積善之家必有餘慶，積不善之家必有餘殃。」《書》曰：「作善，降之百祥；作不善，降之百殃。」斯不為罪福報應之說乎？《傳》曰：「為不善於幽暗之中，鬼神得而誅之。」又曰：「死於此者則生於彼；萬物皆出於機、皆入於機。」斯不亦為地獄輪迴之說乎？特經傳之言，徵發其端，蓋欲使人自解；顧不若佛書之詳且備也。謂其不言，可乎？謂其無此理，可乎？竊嘗考之吾佛聖人弘範三界，其救弊於世教者，功亦大矣。因果明而使人格非遷善，齋戒修而使民謹行潔身；至於行施而不貪，忍辱而不怨，衣弊垢而不奢，履榮名而不矜，雖强戾鄙嗇之夫，聞是說者莫不說而遵之，況明智之士乎？夫民能格非遷善，則姦偷之俗淳矣；能謹行潔身，則清靜之化成矣。不貪不怨則鬥爭息，不奢不矜則廉讓興。乃若空寂無餘之理，亦由是而臻其極焉。越自大法東被二千餘載，讓斥之者從古無有；唯韓氏、歐陽氏最後出而力拒我，然皆不能博極吾佛之言與道；其所爭者止於教、所攻者止於迹耳，故卒無以厭服天下識者之心。獨隋之王通、唐之裴休、李、梁肅、柳宗元，諸賢起而大暢玄旨，於是議者少戢。至宋周敦頤、司馬光、趙抃、楊億、黃庭堅、呂祖謙，以及三蘇、二程諸子，皆以深究而服膺者也。其見於成書則李純甫之《鳴道集》、張天覺之《護法論》，尤極精微，卓然有功於聖學者明矣。近代如趙孟頫、袁枏、虞集、韓信、黃溍諸公，亦皆潛心此

道，而操觚立論，辭益勝，理益明，隱然吾法之長城也。今我皇明混一海內崇尚真乘，度越前古。說佛則有作樂之章，尊僧則有統教之號。其曰善世利國，其曰延慈照信，赫然為一代盛典。是知聖心之所以仁育黎庶而垂裕無疆者，其為呵護之隆，有非言辭所能述也，博學多聞之士安可不鑑而擇焉？雖然，吾佛以慈忍力行方便智愚毀譽等觀，同為梵行。是讚亦護也，謗亦護也，庸何傷於大法乎？今吳開元住山端文禪師，有學行，能感人，謂天覺此論篤於護法而有補治化，世不可無也。其來金陵，善士蔣智達契其一言之誨，即施金重勒是論，印行四方，其存心亦可謂仁矣。文師來徵予言，因略陳吾佛之法與儒典並用而不悖者如此，且俾後之君子忘言而契道，則於是論亦必有所取焉。故不辭而為之敘。

《傳法正宗記》序

宋濂

表大法之真傳，起羣生之正信，宜莫如書。然而真丹、身毒相去絕遠，梵語、華言重譯或殊，況屢遭滅斥之禍生乎！其後者必蒐羅墜逸，徧現會通，然後能定是非之真。謏聞之士苟獲窺其一偏，遂執為確然之論，斯亦過矣。嗚呼！闢邪說之膠固，伸正議于千載之下，不有先覺學者，將何所從哉？昔者濂讀《涅槃經》及《智度論》，頗知釋迦文佛以正法授迦葉，世世相傳，具有明證。故自前魏支疆梁樓至洛邑譯《續法傳》，自七佛至二十五祖婆舍斯多而止；東留佛馱跋陀羅至廬山所譯《禪經》，自迦葉至二十八祖達磨多羅而止。逮夫後魏之時，崇道屏釋，而沙門曇曜蒼黃逃逸，筆錄諸祖之名，匿巖穴間，僅及二十四祖師子尊者而止。佛運重啟，曇曜進為僧統，吉迦夜等遂因之為《付法藏傳》，其去前魏已一百九十餘年，東晉亦六十二年矣。東魏那連耶舍至鄴，復備譯西域諸所傳授事跡；其次第與《禪經》不差毫髮，則全、闕之分有不待辨而自明矣。唐興，曹溪大弘達磨之道，傳布益眾，義學者忌之。而神清為甚，乃據《法藏傳》所列，謂師子遭難，絕嗣不傳；猶以為未足，誣迦葉為小智，不足承佛心印；指《禪經》實後來傅會，難以取徵。而好論議之徒紛紛起矣。宋明教大師契嵩，讀而病之；博採三藏洎諸家紀載，釋迦為表，三十三祖為傳，持法一千三百四人為分家略傳，而旁出宗證繼焉，名曰《傳法正宗記》。復畫佛祖相承之像，明其世系，名曰《定祖圖》。申述禪師及西域諸師為證，以闢義學者之妄，名曰《正宗論》，共十二卷。其衛道之嚴，凜乎不可犯也。濂竊聞之，太平真君之七年，魏太武用崔浩言，宣告征鎮

佛像、胡書，皆擊破、焚燒。當是時，諸種經論多煨燼之末，屋壁之藏，蓋至于久而後出。以此觀之，曇曜之流固未必能見《禪經》；至于諸師之論，義學者亦未必得盡聞之。顧執一時單錄不全之文，而相為詬病，猶將十指而掩日月之光，一口而吸滄溟之水，多見其不知量也。大師之辨析，夫豈得已者哉？

復公文集序

宋濂

濂學文五十餘年，羣書無不觀，方理無不窮，碩師鉅儒無不親。自意可以造作者之域，譬諸登山，攀躋峻絕，不為不力；而崇顛咫尺，不能到也。此無他，受才之有限也。世固有卮匜者焉，有甕盎者焉，有沼池者焉，有溪澗者焉，有湖江者焉，有溟渤者焉。水充其量則止，小固不能為大，大亦不能為小也。濂昔官禁林，四方以文來見者甚眾。晚閱見心復公之作，穠麗而演迤，整暇而森嚴，劍出匣而珠走盤也。發為聲歌，其清朗橫逸，絕無流俗塵土之思，寘諸古人篇章中，幾不可辨。遐邇求者日接踵于門，公卿大夫交譽其賢。名聞九天，皇上詔侍臣取而覽之，特褒美弗置。濂因謂當今方袍逢掖之流鮮有過之者焉，其可傳遠無疑！

復公《三會語錄》序

宋濂

無相居士坐清淨室、想清淨觀，忽有沙門號曰曇鍠，合掌頂禮而作言曰：「我師靈隱，三坐道場，法音之震，有如轟雷，蟄蟲皆興，飛行自在，各適恒性；又如晨鐘，人正昏酣，一聞音聲，颯然驚覺。同袍宗演及諸上首，假觚翰力，成文句身，唯願居士開光明藏，洞然篇端，使信心者同入如來大華嚴海。」居士微笑告沙門言：「爾師所演，大乘正法，當時聞者注耳熏心，一切纏結悉皆解脫。既解脫已，萬法皆空，何況於言？爾等結集，翰墨假合，畢竟大法果何所寄？若謂出于翰墨之間，湘竹兔毫、魚膠松煤不能說法。譬如石工，手持鎚鑿，鑿彼崖石為菩薩相；首戴華冠，面如滿月，塗以黃金，間以五彩，珍珠瓔珞種種具足。爾意云何，是真佛不？」沙門白言：「如是，如是。」復告沙門：「當觀是相惟是像佛，四體奇偉，被服絢麗，固無異者；若比真佛，神通變化，無量無邊，二者孰勝？以此思惟，佛身充滿，徧周沙界，豈同崖石拘礙

方所？況此文句，纔脫口吻即第二義；書之簡編，去道逾遠。又如畫師，和丹抹黛，經營想像，貌師子王，拳毛旋螺，利距削鐵，威稜氣燄可怖可愕；泊而視之，真若飛動。爾意云何，是師子不？」沙門白言：「如是，如是。」復告沙門：「有像皆假，是師子相，形模生獰，踞視左右，亦無異者；若比于真，奮迅跳擲，百獸盡伏，二者孰劣？以此思惟，物惟真者方能動物，寓形縑素，與木石等；況此文句，不見形聲，徒存其迹，用之求道，如捕風影。沙門當知，法尚算權，難齊一軌，如求兔者必假于蹄，欲致魚者定資于筌；魚兔既護，筌蹄則棄。法因言入，言入法空，亦復如是。是知汝師顯說密說、權說實說、縱說橫說，無非闡揚我佛如來第一了義。有能于此一句之中，或四三句，或五六句，乃至無句，勿著聲求，忽然悟入。譬一切眾，眇者能視，跛者能履，瘖者能言，疾者能起，其為霑溉，胡可喻云？若執文句，反為留礙。沙門當知，有物混然，萬有之宗，不依形色，不墮斷常，入離出微，內外體淨。眾生迷惑，無繩自纏。大覺世尊大含攝故、大慈憫故，別有正傳，曰思惟修。一念不生，一法不立；一法不立，萬象朗融。非生非佛，非真非妄，非小非大，非一非多，此即所謂常空不有、常有不空，初無對待，亦無能所。從古諸師，燈燈相續，咸以此故。汝師繼承倡明大教，一機一言皆轉法輪。法不流通，是為秘法，宜示信心，共入圓智。既入圓智，法何嘗法？法而非法，是為法法。法法之法，不可思議。我言真實，善思念之！」沙門聞說，心大歡喜；信解受持，作禮而去。

志

武林山志

契嵩

其山彌杭西北，其道南北傍湖而入。南出西關，轉赤山，踰麥嶺、胭脂嶺；北出錢唐門，躋秦皇纜船石，過秦望、蜻蜓二山，垂至駝嶼嶺趾；左趨入袁公松門，抵行春橋。橋西通南之支路，過行春橋，垂二里，南北道會，稍有居民逆旅，行人可休。益趨二里，入二寺門，偪合澗橋；過合澗、龍跡二橋，自丹崖紫微亭，緣石門澗，趨冷泉亭，至于靈隱。流水清泚，厓石環怪如刻削，乍覩爽然也。自合澗南趨，更曲水亭並新移澗，距天竺寺門；西顧山障，重沓相映，若無有窮。靈隱，晉始寺之禪叢也；天竺，隋寺之講聚也。其山起歙、出睦，湊于杭西。南跨富春，西北控餘杭，蜿蜒曼

衍聯數百里，到武林，遂播豁如引左右臂。南垂胭脂嶺，北垂駝巇嶺。其山峰之北起者曰高峰，冠飛塔而擁靈隱，岑然也。高峰之東者曰屏風嶺，又東者曰西峰，在郡之西；又東者曰駝峴嶺，俗謂之駝宛，乃語訛也。其高峰之西者曰烏峰，又西者曰石笋，又西者曰楊梅、石門，又西者曰西源，亦曰西菴；支出于西源之右者曰石人。其峰南起，望之而藹然者曰白猿。左出于白猿之前者曰香鑪，益前而垂澗者曰興正；右出于白猿之前而雲木森然者曰月桂。白猿之東者曰胭脂嶺，白猿之西者曰獅子。又西者曰五峰，又西者曰白雲，又西者曰中印。西向前走，迤[這-言+里]于武林之中者曰無礙。又前者曰善住，並善住而特起者曰稽留，俗謂雞籠，語訛也。其稽留之西者曰蓮花，有巖號玉女。其蓮華之東者曰飛來峰，乃西僧慧理所謂「此吾國靈鷲小嶺之飛來者也」，昔多仙靈隱焉，乃呼白猿而驗之。南屏天竺，北障靈隱，其有天然石梁西跨，其中有巖焉、洞焉；洞曰龍泓、曰青林，巖曰理公。龍泓洞，前者北瞰，後者東出，謂其潛徹異境，絕浙江下，過武林也。然南北相望而起者，孱巖大有百峰，多無名之者；惟二十有四，與城闉相去十有二里，周亦如之，秦漢始號虎林，以其棲白虎也。晉曰靈隱，用飛來故事也；唐曰武林，避國諱也。或曰青林巖、仙居洞，亦武林之別號耳。然其巏鬱巧秀、氣象清淑，而他山不及。若其雄據高挹，殆與衡廬、羅浮等矣。其山八九月，每夜霽月皎則天雨桂實，其狀如梧桐子。其水南流者謂之南澗，北流者謂之北澗。自合澗橋至于白雲峰之址，凡八踰橋；其七石也，其一木也。北澗自龍跡橋至于西源峰之址，凡七踰橋；其四石也，其三土木也。南澗源出白雲峰之麓，東注，會他支澗，逾第八橋之西，復東注，會奚家澗，入新移澗，出閘口，曲流北之合澗橋。北澗源出西源峰之腹，東注，過騰雲塢口，稍逼楓樹塢口，湍于第五橋下，浸飛來峰趾，滙于西塢，漾渟于西耳潭，瀦于渦渚東嶼，亦謂之暖泉也。瀲灩于冷泉亭下，經呼猿石門澗，潛激于伏龍泓，過龍跡橋下，東注于合澗，又東注，越二里，過行春橋下，出靈隱浦，入錢唐湖。古所謂「錢唐源泉出武林山」，此其事也。南北之澗雖多，多無名，然皆會二澗。其並南澗而入者曰南塢（南人謂谷為塢），並北澗而入者曰北塢。而北益有支塢者六，曰靈隱、曰巢拘、曰白沙、曰大同、曰騰雲、曰西源。是六塢者，皆有佛氏精舍，曰靈隱、曰碧泉、曰法安、曰資嚴、曰辯利、曰無著、曰無量壽、曰定慧、曰永安、曰彌陀、曰吉祥、曰西菴。其精舍凡十有三(缺一名)，其十者在支塢，其三者宅正塢。南亦有支塢，皆有精舍，曰天竺、曰興聖、曰崇壽，講聚也；曰慶寧、曰永清、曰金佛、曰德澄、曰福光、曰天竺，禪叢也。古觀音氏垂像與人乞靈曰永寧。其精舍凡十，其五在支塢，其

五宅正塢。諸塢皆有民居錯雜，其殷處幾成村墅；然無坂墾，不牧牛犢羊豕。水陸不甚汙，其人不事釣弋漁獵，以樵莽自業；然同其在古潔淨清勝之風，未嘗混也。其俗在南塢者窮于白雲峰之，在北塢者至于西源；其坡陀西趨西溪、南通南蕩。其泉之南出者曰月桂、曰伏犀、曰丹井、曰永清、曰偃松、曰聰明、曰倚錫。凡泉之源七，月桂在天竺寺，伏犀在飛來峰之，流液不常。其五皆在支塢。其泉之北出者曰冷泉、曰韜光、曰白沙、曰石笋、曰白公茶井、曰無著偃松、曰永安北源、曰彌陀西源、曰騰雲上源西菴也。凡泉之源九，冷泉在澗壖，其入在支塢。古人之遺迹，其南塢若吳葛玄之葛塢者、若晉葛洪之丹井者、若宋謝靈運之翻經臺者、若隋真觀所標佛骨之塔者、若唐道標杜多之草堂者；其北塢若漢陸偉之九師堂者、若晉葛洪之伏龍石門者、若晉許邁之思真堂者、若晉慧理之燕寂巖者、若晉明甫之客兒亭者、若宋智一之飯猿臺者、若呼猿澗者、若梁簡文所記之石像者、若梁朱世卿之朱墅者、若唐白居易之烹茶井者、若唐袁仁敬之袁君亭者。二塢總十有六事，從古今相傳，雖名存而其事頗亡，不可按而備書。其山無怪禽譎獸，惟巢拘之樹最為古木。松筠、藥物、果蔬與他山類，惟美椒與靈山之所生枇杷、桂花，發其異香耳。

表

謝還九里松表

淳朋

佛慧普覺大禪師・杭州路景德靈隱寺住持・臣僧淳朋言：伏以衮冕端居，致玉帛梯航之貢；絲綸遐布，增林泉草木之輝。鴻祚永昌，龍神胥悅。臣僧淳朋誠懽誠忭，稽首頓首。竊以眷靈隱之古剎，據錢唐之勝區，昔創建于東晉咸和之年，繼恢拓于南宋紹興之際；實乃碑辭之具載，詎期隣壤之相侵。私意町畦，難罔以非其道；細故芥蒂，不得其平則鳴。凜懼愚衷，塵瀆聖聽。茲蓋欽遇皇帝陛下，剛健中正，睿哲温恭。曰雨曰暘，曰燠曰寒，天心協應；自東自西，自南自北，文德誕敷。俗既底于雍熙，化式行于慈儉。尊臨五位，膺帝業之延洪；普濟羣生，體佛恩之廣大。匪巧言之可惑，惟睿斷之至公。特降書，俾珉石。臣僧淳朋欽承寵命，格守成規，闡大覺之真乘，培皇元之景福。三千世界，瞻日月之光明；億萬斯年，共乾坤之悠久。臣僧淳朋無任瞻天仰聖、激切屏營之至。

書

與拙菴書

尤延之

昔妙喜中興臨濟之道于彫零之秋，而性尚謙虛，未常馳騁見理。平生不趨權勢、不苟利養，嘗曰：「萬事不可佚豫為、不可奢泰持。蓋有利于時而便于物者，有其過而無其功者，若縱之奢佚則不濟矣。」不肖 佩服斯言，遂為終身之戒。老師遭遇主上留宿觀堂，實佛法之幸。切冀不倦悲願，使進善之塗開明、任眾之道益大。庶幾後生晚輩不謀近習、各懷遠圖，豈不為叢林之利濟乎？

疏

金陵諸山送圓通竹田和尚住靈隱疏

在宋仁廟，莫起訥公于圓通；厥後孝宗，特召拙菴于靈隱。雖出處各欲行志，而抑揚皆足扶宗。及觀我師度越前古。聲飛丹陛，何天竺莫抗其高風；名躍金甌，若鷲嶺有待于今日。某語空眾妙，機透重玄。宗性俱高，與臨濟同出邢氏；師資宿契，喚雪峰萬福曾郎。話行江西三十年，增高廬阜幾千仞。道闢于奧，與日月而爭光；宗會其元，猶河漢之無極。方喜金陵之會，遽為錢塘而歸。與其領徒勘驗諸方，曷若據室大弘法施？南山之南，北山之北，纘承祖父兄箕裘；一乘非一，三乘非三，埽空經律論露布。如佛出世，大眾霑恩。

紹興天章吳郡諸山疏

良用貞

吳越同風，于以修兩浙一家之好；教禪合轍，蓋將闢專門異之偏。《書》稱立賢無方，《易》貴同人于野。某智禪兼暢，名實相孚；密用宏機，允也龍翔。法嗣高風遠度，居然魏國諸孫。蓋嘗涉教觀之津涯，又復秉方章之機杼。方將論薦，忽覩橫翔。因棋說法，相推遠公；修禊賦詩，政須支遁。彼固有得，吾誰與遊？黃絹

色絲，肯爭較于智謀之末；青鞋布襪，期相從于山水之間。勿遐爾心，尚敦舊好。

宣政院送東嶼和尚住靈隱疏

推誠護教，有如金城湯池；倡道提綱，要若銀山鐵壁。我既不忘靈山記莂，爾其闡揚少室宗風。某行介而和，言簡而要。永明之書百卷，異曲同工；松源之道四傳，一絲九鼎。陽烏東昇，陰霾解駁；天柱中立，狂瀾障回。願聞玉應金春，以警鯨瘖鼉寂。二十四考中書之貴，孰擬清高？千二百人知識之尊，式瞻光彩。法輪三轉，天子萬年。

化砌靈竺大路疏

道濟

一條滑路堂堂，直透長安；九里松關蕩蕩，平趨佛國。脚跟有礙，未免遲疑；眼底無私，方為平穩。斷羊腸曲折之崖，履龜背坦夷之路。江山聚勝，人行翡翠途中；車馬交馳，身在畫圖影裏。請題椽筆，為註芳銜。

贊

良禪師像贊

宋濂

眼光閃爍，如秋隼之橫寥廓也；威鋒峭崿，猶於菟之踞叢薄也。文彩彰灼，藻火施而江漢濯也；正令揮霍，春雷霆而撒霰雹也。縈然而若有著也，悠然而無所泊也。洸然而不可測也，沉然而堪任其託也。無忝佛智之孫、廣智之子，超然而頓覺者也。

蒲禪師像贊

宋濂

師名來復，少有志行，絕塵獨立；與同袍恭肅翁誓屏諸緣，直明涅槃妙旨。久之，窺見全體無礙，然未以為至。走雙徑，謁法喜

楚公。當機鋒交觸，如鶻落兔走，不間一髮，法喜留司內記。三載，復約標士瞻，修西方淨土于吳天平山，刻期破障，比禪觀尤力。會兵起，避地慈溪定水院。以干戈載塗，不能見母。作室東澗，取陳尊宿故事，名為蒲菴，示思親也。望日以重出主靈隱，適有詔徵高行僧；師兩至南京，賜食內廷，慰勞優渥。師敏朗淵毅，非惟克修內學，形于詩文，氣魄雄而辭調古，有識之儒多自以為不及。其推師者，李諭德好文則曰：「任道德為住持，假文辭為游戲。」陳狀元祖仁則曰：「禪源妙悟，教部精探，內充外肆，僧中指南。」至于楚國歐陽公玄、潞國張公翥，見諸觚翰間者，獎予為尤至。師之徒鍠，畫師像，求贊，係之辭曰：

大法如如　流于旃丹
不有君子　荷之實難
慧照正宗　世濟其美
一十九傳　至于法喜
據蓮華座　大振玄風
師承一喝　三日耳聾
聾極而聰　至聞蟻戰
祇為圓虛　物無不見
既入悟關　可廢學功
妄滅方真　慧極則通
乃即天平　棲神淨域
禪觀混融　不二不一
方嶽致聘　耳若不聞
優缽曇花　即見海濵
有典必行　無墜弗舉
鐘魚互答　笠鞋川委
移錫州城　歸者紛紜
轉穢為淨　載揚清芬
有峰飛來　千載不起
師復主斯　法筵重啟
聲華遠揚　達于帝宸
有詔起之　說法如雲
錫饌禁中　恩澤優渥
四眾傾仰　秋空孤鶚
形諸辭章　太陰四垂
雷奮颺揚　鬼神晝馳
人爭傳寶　如襲芳旨

師笑受之　吾游戲爾
內外兩充　如師幾人
闇室非燈　曷照羣昏
學徒歃豔　丹青肖像
我作贊辭　毋住于相

言

代石言

虞淳熙(德園)

靈竺名勝惟九里松、飛來石天下奇觀。向年松厄，道民曾作以泣，轉移大老之意，既已易容。今此石災，道民欲存開闢之峰，比救唐時之松尤為急切。故向既垂涕而道，今可無髮冲冠而談？理不欲默，一也。況貴人向頗有一日之雅，因我卜鄰，因鄰禍石。勢不容默，二也。朋友之道，小過責善，大過痛言；過而不改，是為獨夫。若苟懷小惠之私，是坐視大惡之就。誼不容默，三也。良醫對治，有觸人之大怒而疾瘳；世之忌醫，有痛割其贅疣而痼愈。蓋不比桀紂，非至諫不牽、猛索不回頭，勸百諷一，改悔庶幾。情不容默，四也。山靈夜夜相泣，欲言而無其聲；寺僧隊隊石頑，能言而詞不達。天不容默，五也。作代石言。

石告貴人曰：我石無口，口在世間；我石不言，言在天下。我石自盤古皇帝迄今萬歲，聖人峙立此土，名曰飛來。蔭蔽郡城，阜安人物。富貴由我鍾毓而致，科名由我秀麗而崇。許由愛我，棲隱其間；惠理知予，加之美號。今蒙貴人見愛為寵，實異諸君以為石乃公物。叠靈山之假，何妨取靈山之真？不知石是雲根，苟翦一片之雲，實奪一峰之秀。豈不聞玉在山而川媚，乃忍珠盡徙而龍亡。可憐去歲以至今朝，始猶扛擡浮石，今則穾掘心胷；始言盆景列排，今則勢侔艮嶽。今雖掘土幾尋，後必開坑百丈。始雖勢在一門，今則效尤接踵。喊聲震地，鎚鑿轟山。鳩眾如虎而如雲，扛插似戈而似雨。金聲累歲，敲碎道民之心；搬運百千，活剜寺僧之肉。然且嫁言已實不遺，而暗利土人之盜來。又復笑言：「我自美觀，甯惜賤人之唾罵？」故土人有「天坍長子頂」之言，山匠有「地主大人歡」之說。是猶警盜而無論窩家、詳刑而不認主使。雄心惡發，巧語誰欺？雖宋世開花石之綱，凶不若是；元亂鑿佛身之血，惡不如斯。一寺之流散不足論，獨不念會城之秀鍾乎？一城之

秀氣不掛意，獨不念己身之富貴由來乎？己身富貴欲享盡，獨不顧朝廷之香火當存乎？淫石迷樓，窮奢極慾。陳明土地含怨而未肯顯靈，靈鷲山王睨視而共須時至。我令冷泉終日湯湯相告，而貴人若不聞；我等眾峰終日點頭如求，而貴人若不見。必至崩我身、絕我脈而後已，哀哉痛哉！賴有道民如刀之口，尤恐言出而累以禍隨。幸而道民似鐵之心，誓願頭存而與璧俱碎。一言夕發，萬里且聞。伏願靈隱寺歲時朔望祝願，萬歲聖天子聞之；伏願守土觀風名山大川之寄大諸侯聞之；伏願郡城內外間鍾靈峰諸大夫士庶聞之；伏願會城遠近百姓軍民、共有富貴科名之望、墳墓祖孫之念者聞之。定發公言將無清議。倘然膚剝如救頭然，泣血謹告。

論

飛來峰不從巫山來論

孫治

理公見奇峰而歎曰：「此吾中天竺靈鷲山之東嶺，不知何以飛來！」有黑白二猿，呼之而出。此其事甚奇，而好事者指為「越王時巫山飛來」，亦謬矣。以楊升菴之博雅，亦曰：「巫揚臺自巫峽飛來於靈隱」，亦何據耶？昔先賢邵紫之以類徵也，曰：「會稽陽明洞有飛來石，龜山一名飛來山，金華山寶掌洞有飛來峰，蘇州天平山有飛來峰，廣東羅浮山有飛來峰，福建汀州府有飛來石，福州府昇山一名飛來山，潛山有飛來峰，贛州興國縣有飛來佛，廣東中宿峽有飛來寺，於潛縣有飛來橋，岩嵎山名飛來山。」然未有理公之證據。茲山為可信也，世之人何以不知西天竺，而妄言巫陽臺耶？

靈隱號景德論

靈隱之稱景德，何也？宋真宗景德四年敕賜額，改靈隱寺作「靈隱山景德寺」。而天禧五年又敕賜，改景德寺作「景德靈隱寺」。此靈隱之所以稱景德也。雖然，前此者有賜矣，錢忠懿王賜「靈隱新寺」是也；後此者有賜矣，宋高宗賜「靈隱崇恩顯親禪寺」是也，則曷為至今猶稱景德也？元時中天竺賜額「天曆永祚寺」，易世而變矣，則曷為至今猶稱景德也？雖然，以靈隱稱景德，以景德冠靈隱，古今之殊絕也，則曷為其不至今稱之也？武林亦有祥符寺矣，其猶然稱祥符也。

治潮皆靈隱僧論

駱丞咏靈隱而及浙江潮也，人咸疑之，而余以為無可疑也。乃治潮者皆出于靈隱僧，又何奇也？錢王時以萬弩射潮，而潮不能卻也；僧都統贊寧與智覺禪師延壽建塔創寺於江干以鎮之，而潮循故道焉。是其一也。前南齊時，驚濤為害；寶達誦秘咒累日，吳行人形見于夢，而潮擊西興東岸以平。又其一也。洪武初，海潮崩岸，壞民廬舍；照菴慧炬時居理公巖，為潮神說三皈戒，楊枝灑處即止不崩。又其一也。然從靈隱之有關于浙江潮，而靈隱僧之能治潮也，所從來矣。而又有異者，往者六和塔災，火出于北高峰，飛而焚之。夫北高峰固為火山，而能飛火于六和塔者何也？吾是以知靈隱之有關于浙江潮也。

靈隱不宜為第二山論

宋寧宗嘉定時，品第禪院五山，以徑山為第一，靈隱次之，淨慈又次之，天童又次之，育王又次之。其以徑山加于靈隱也，則不知靈隱之為武林也。知靈隱之為武林，則徑山不得加于靈隱也。或曰：「有徑山而後有靈隱，以其沿流而言之。」而非也！夫中國山川皆本于隴蜀，安得執此以論徑山、靈隱哉？且是武林者，四王七帝之所都也，宜莫先于靈隱也。

靈隱遍五宗論

靈隱之為禪，天竺之為教，夫人而知之也；然中竺為禪院十山之首，而下竺則亦多禪師居焉。是教與禪則雜焉也，則未有如靈隱之崇于禪也。南嶽原以後，五宗迭興，而靈隱皆得而有之。甚矣，靈隱之盛也！余序僧系，自唐以下，未有以教入焉者也。略摭其一二，即如真觀之為曹洞也，文喜之為溈仰也，延壽之為法眼也，契嵩之為雲門也，瞎堂、佛智、密菴諸人之為臨濟也，五宗之賢聖，指不能屈，靈隱皆得而有之，則未有如靈隱之盛也。

蓮華石品論

牛奇章僧孺，以甲乙丙丁列石品，謂太湖石為甲，羅浮、天竺石為乙焉。其言天竺也，猶言蓮華峰與飛來峰也。蓮華之石若獅豹兕象，莫可形容也；而其鮮葩則若芙蕖焉，故以為蓮華也。雖然，其甲與太湖、與乙于太湖，吾不得而知也，而其與羅浮並者，則奇

章之不予誑也。乃蓮華之厄，厄于楊髡；有楊髡之鑿之也，而石不得全矣；有楊髡之鑿為己像也，而石愈醜矣。然其質固在也，而惜乎後之人又欲伐之也。故虞比部淳熙之〈代石言〉也，曰：「石告貴人曰：『我石無口，口在世間；我石無言，言在天下。』」其以洩石之憤也云爾。東坡之去杭也，僧惠淨贈以石。東坡詩曰：「還將天竺一峰去，要把雲根到處栽。」其愛石也不亦至乎！然東坡兩為政于杭也，未嘗伐而取之也；而奈何後之人不不知愛也？或曰「伏虎岩伐于某某焉」，唏也！

塔銘

慧理大師塔銘

虞淳熙

理公本靈山羅漢垂跡。晉咸和間，鷲飛猿騰，先來震旦，公錫後落，飯而問之：「誰摘陶輪，若猶磨蝘？」會物不遷，乃歸院焉。俄窺神足，圉相周。開寶三載，崇為方墳，直繞橋，在式公不移澗上。青烏氏曲鈐回龍，則凡骨僭入塔矣。萬曆丁亥夏，雨夜圮。庚寅春，釋如通祓穢新之。[木*玄]者程理，于時崩洞扃公所，周身可撫也。當時覩史下生，乘鷲呼猿而回龍華，乃稱回龍哉。萬曆庚寅，梵網戒眾虞淳熙庸作銘辭。銘曰：

石燕拂雲　嶺鷲入吳
公錫于飛　猿心可呼
安安而遷　月運雲駛
生滅毀成　亦復如是
謂公蓋肄　雞足與夷
謂蓋輪傾　鼈足與支
幡搖烏驚　栱積星礙
骨妖斯濯　黑囊虛佩
如梵天宮　乘往當來
南紅泗影　不騫不摧

普慈大師石塔碑銘

契嵩

師諱幻旻，信陽玉山人，姓葉。童時出俗，入興教蘭若，師僧省覃。既納戒，乃訪道四方，來虎林，見慧明禪師於靈隱，即服膺執弟子禮，盡學其法。久之，慧明命師監寺。其寺大火，方根典守同事者危及禍，曰：「我總寺事，罪盡在我，爾曹不必懼也。」吏不窮詢，止坐爨者，人咸偉之。及慧明告終，師即帥眾白府，請慧照聰公鎮其寺，仍以監寺輔之，戮力相與復其寺，不十年而葺屋廬嶷然千餘間，蓋偉於舊。慶曆中，朝廷用某薦而錫之章服，其後又賜號「普照」。及慧照謝世，遺書舉師自代。官疑其事，不與，更命他僧主之。師事其僧愈恭，無毫髮見於聲彩。知府龍圖季公知之，乃以上天竺精舍命師以長老居之。及觀文孫公蒞杭，特遷主靈隱。始演法之日，孫公重師，衣冠貴游不翅百人，預會爇香，聽其所說；而道俗、老少、貴賤，摩肩趨者萬計。是日人聲、馬跡溢滿山谷，法席之盛罕比。師天性寬平慈恕，居寺六年。嘉祐己亥仲冬，忽感微疾。先一日，與蒙語，將授寺與今知禪德，語氣詳正如平昔。十三日雞鳴，起漱洗、問時辰，乃安坐而盡。世壽六十一，僧臘四十一。塔呼猿澗直北寺垣之內。銘曰：

惟功在法　惟德在法
法既不生　其勝緣豈有熄耶
惟師之盛善常然　不泯不墜斷可見矣

輔良大師石塔碑銘

宋濂

洪武四年正月十六日，師滅度，報年五十有五，僧夏四十。龕留五日，頂有暖氣、體貌如生。又二日，用闍維法，齒牙堅潔、舌根紅潤，皆無壞者。火既滅，諸舍利玉皦珠圓。弟子智鎧等瘞骨歸雲塔中，實在寺東偏若干步。按大師諱輔良、字用貞、號介菴，蘇州吳縣人，范文正公十葉孫。父伯和、母鄭氏。大師誕，鍾粹氣，聰悟夙發。見浮圖氏書，輒踴躍誦、若所素習。挾相形術者謂其父母曰：「是兒骨格清聳，終非世間法可縛。若使學佛，大宗乘者此兒也。」父曰：「吾范氏無浮圖者，顧頗聞先公鎮蜀時，勉圓悟勤公，卒為天下禪宗乎！」年十五，遂捨同里迎福僧壽彌薙落。未受具戒，去從北禪澤法師習天台教觀。時士瞻杓公住天平山白雲寺，蓋范氏所建以奉先者。士瞻見大師，誨之曰：「教乘固當學，若沉溺不返，如入海算沙，徒自困耳。何不更衣以事禪宗乎？今笑隱訢

公，其道被于東南，朝廷賜以『全悟大師』之號，盍往依焉？」於是大師往見，廣智即以令器法身期之。問答之際，棒喝兼施；弦發而箭馳，雷奔而電掃。剎那之頃，凡情頓息；舉揚大法，不務緣飾，而西來之旨自明。復以淨土觀門誠苦海舟航，時兼修之，未嘗少怠。於戲！道行無跡，極妙無象，無形而即之，脗契本真。未定之先則萬緣鼎沸，發慧之後則一性洞虛。所謂不用其力則神功化于玄冥、而忠信發乎天光矣。有如大師和粹外形、淵懿內朗，叩請之間，因言懸證不染不遷之域、泯差次第之門，非上智宿植之恩，能至此哉？濂也不敏，早從諸老遊，欲假苦為宅心之地；夙障已深，竟為世諦文字之所纏縛。雞鳴而起，唯悵逐物而已；操觚而銘大師之塔，能不惻然以自憐、悵然而遐思者乎？銘曰：

真體如如　絕垢離紛
妄識所膠　攪為法塵
辟猶颶風　鼓埃揚氛
化晝俾夜　觸目重昏
佛啟覺塗　高縣慧日
白光爛然　下銷羣慝
破相玄門　最為勝特
能定諸緣　即超秘密
昭昭大師　上承禪宗
一真歸源　萬幻咸空
染淨兩冥　本跡俱融
廣智之傳　其學遂東
昭昭大師　為法出世
嬉笑怒罵　皆真實諦
湧殿嵯峨　蜚樓弘麗
假相以昭　非與道戾
昭昭大師　變通弗拘
緣盡即滅　視世為虛
死生者誰　出在吾
化為舍利　如摩尼珠
其來奚留　其去何逝
白雲在天　周流無滯
法象既亡　勒石為偈
式播徽音　用垂南裔

性原明禪師塔銘

心泰

洪武十九年六月二十三日，靈隱住山幻隱禪師，塔于寺之西岡。世壽六十有九，坐夏五十。禪師諱慧明，字性原，幻隱其別號也。台之黃巖項氏，母陳。師生七年患瘡，幾死，冥于床。忽失故處，母遽尋于他所，得之。問：「何為至此？」曰：「夢寐中見四童子舁至于茲。」翌日瘡愈，則知四童子者，天神也。稍長，不樂從事於俗，乃往温之樂清，依寶冠寺魯山東公落髮。年二十走宣城，受具於廣教寺明律師。往參徑山元叟端公，公曰：「汝東嶺來？西嶺來？」師以手指草鞋曰：「這個三文錢買得。」公曰：「未在，更道！」師曰：「和尚何不領話？」公曰：「念汝新到，且坐喫茶。」師曰：「千年桃核裏覓甚舊時仁？」公容其入室，朝參夕扣，遂得其旨。既而出世鄞之五峰，一瓣為端公嗣。洪武五年壬午，選舉高僧，師與其選。季潭泐公住持天界，請師分座說法。明年冬，太師李公就鳳陽設會普度，有旨命高行沙門領僧三十往作佛事，師應詔以行。既至，柄法甚虔，凡旬有五日。時天陰晦欲雨，太師問曰：「法會之設，天神交接，正宜晴朗以綏百靈；其陰如此，得非雨乎？」師曰：「無慮！此特鬼神之格耳，非致雨而然也。」太師初未然之，及會散，雲陰解駁，月星呈露。太師以前言為應，合爪嘆曰：「禪師真達道肉身菩薩也。」又明年秋，季潭公與京剎諸碩舉住京口金山，師重其舉，不辭以往。九年丙辰，奉旨預註三經之列。十一年戊午，杭靈隱虛席，眾慕師之道，合辭以請，師不應。使往還者三，於是勉就。至則以法為己任，振揚宗風，一時翕然。首創大雄寶殿，巋然瓦礫叢棘之墟，屹如山峙，雄冠諸峰，觀者嘆美。住靈隱幾十載，塔之在北峰者則修治之，九里松之被伐者皆補樹之。又以學者泥於知解，嘗垂問曰：「昨夜蓮花峰被蚍蜉食卻半邊，你因甚麼不知？」又問：「冷泉亭吞卻壑雷亭即不問，南高峰與北高峰門額是第幾機？」眾莫有契者。先是，有僧謁師，師失禮焉，銜之，誣師以非言於朝。使者至，眾皆諷師自盡。師怡然曰：「聽我去。」及至所司，憩廡下，端坐說偈而化。得法上首弟子智閬等若干人。手度弟子懷魯等若干人。師所說偈句，深密微妙。四董名山，有《四會語》。銘曰：

於赫覺皇　宏宣六度
其一惟禪　絕離言句
拈華微旨　飲光克承

竺乾四七　繼繼繩繩
達摩西來　厥宗蓋大
濟北之喝　啟盲闢瞶
下至圜悟　秀分兩歧
卓哉妙喜　全身荷持
喜後四葉　是寂為照
猗歟幻隱　于光有耀
生以神祐　死由人擠
死生擠祐　均為菩提
塔于西岡　山靈水秀
銘以昭之　千古不朽

無文大師石塔碑銘

心泰

師諱本聚，字無文，別號無見，四明定海謝氏。父子祥，母李氏。師幼端穎，童歲入黨庠，《語》、《孟》諸書過目即不忘。年十四遣出家郡城五臺寺來公所，三歲為剃染受具，俾習毘尼，久之嘆曰：「律以嚴身，非究竟出世法。」時孤峰德禪師旺化金陵保寧，師乃杖竹履芒，踵繭數十舍，前扣法要。峰曰：「聞汝〈和梁山牧牛頌〉，試舉看。」師擬議，峰掩其口，曰：「牛在甚麼處？」師曰：「已犯和尚苗稼了也。」峰曰：「未在，更道！」師掩耳而出。峰陰許之，命為侍者，數以語摩拂之。仲芳倫禪師退休寺右新菴，師往來決擇，歷三寒燠，知證日增，聲譽聞諸方。元至正二十六年，開法蘇之覺嚴，一瓣為孤峰嗣。洪武中，宜興靜樂講院請師開堂，重創大雄寶殿。由是易講為禪，行百丈規繩。太祖高皇帝徙蔣山禪寺於孝陵之東，賜號「靈谷」，詔物先仲義禪師住持。天下慕道，禪侶雲臻，坌集數餘萬指。物先以為眾廣易濫，匪規罔肅，必得儀行端潔、威德嚴重、人素信服者處之前板，庶足糾正。於是議僉歸師居第一座。而師儀軌端飭，聲律身度，有眾秩秩，肅若凜然，叢林典禮，講行無遺。洪武二十八年，杭之靈隱缺補處，都掌教陞鎮其席。寺弊方將經營，三十二年春示微疾。丈室範堂洪公走方丈候問，值師氣喘，洪詰問：「趙州道：『諸人被十二時辰使老僧。』使得十二時辰作麼生？」師竦身曰：「喚甚麼作十二時辰？」洪曰：「不奈氣急乎？」師振聲一喝，乃問左右：「今朝是幾？」對曰：「二月二十七日。」索筆書偈曰：

吾年七十有五　涅槃生死不墮
虛空背上翻身　靠倒飛來小朵

竟擲筆、泊然而化。闍維，頂骨不壞，舍利無算。宗衍等斂諸不壞，塔于演法堂東雙桂菴。尋分爪髮歸宜興靜樂塋焉。

圓慈正濟空叟悟禪師塔銘

心泰

大慧五傳至寂照，寂照嗣法之子林立，徑山愚菴禪師及公，其一也。愚菴再傳是為師，師諱忻悟，字空叟，蘇吳縣人，俗姓鈕。父華，母吳氏。師生元至正丁丑，貌簡重。兒時聞梵音輒喜，父母知非處俗子。時九歲，依龍興寺白雲閒公祝髮受戒。至正戊戌，長遊武林，參徑山愚菴及公。公問曰：「如何是永明旨？」師曰：「某甲新到，只見一湖水。」菴可之，遂容入室。壬寅，居第二座。癸卯，中竺懶菴禪師俊公請分座說法。時帝者師錫以「圓慈正濟」之號，以彰其德。皇明洪武庚戌，京都宗剎疏住浙江崇寧，瓣香為愚菴嗣，振寺于百廢之餘。閱八年，還住中竺。時寺廢役繁，師力任不倦。募建天香閣，巍如山峙，居者安恬，遊者闓爽。住九閱載，集眾告閑，勤舊不忍其退，有悲泣者。洪武戊辰，僧錄惜其靖退。會靈隱虛席，以師名預，適中其選。四方學者皆喜躍，贏糧願從；鐘鼓變音，叢林改觀矣。居四年，以前住持舊事逮至京，病卒於行。臨終偈曰：

我年五十五　信是生多苦
踏斷死生關　夜半日卓午

門人道淨等依法荼毘，舌根、數珠不壞。全室泐公、夢觀仁公、存翁道公、隨菴濬公、一雨洽公，咸具饌祭。其徒德律等奉骨歸窆靈隱之東岡，復分瘞于西溪九曲山之原。師之，實洪武二十四年辛未夏五月三日也。世壽五十四，僧臘四十。愚於禪師為法門昆仲，習聞平生以慈忍謹敏自將。所說偈頌，穩密不蕩。三坐道場，有《三會語》。神感其誠，人飫其德，近世稱善知識，如師者不多見也。
靈隱寺誌卷六下終

武林靈隱寺誌卷之七

碑文

重建靈隱寺碑文

王益朋(鶴山大理寺卿)

靈隱名山之勝，自來作者之所詳，余可得而略之也。惟具德大和尚住止茲山，自己丑至癸卯，歲星一周又加三焉，始置藏殿，而終直指堂。其始也，不為其後者計也；其後也，非為其前者補也。而星羅碁置、左翼右舒，亦若有神靈以扶建之也。昔王屮作頭陀之碑，徐陵有孝義之紀，皆名播千載、芳垂不朽。余以何人，敢不為之綴筆於後哉？本北高峰九十五丈，十分其高以為殿之高；殿數楹，三分其高、加尋焉以為之修。墀有砌焉，室有阿焉，從唐殿製也。殿之上有法堂，不及殿之高五分之一，而與殿等，躡蹬而上加于山也。殿之東為東戒堂，殿之西為西戒堂；法堂之東為東禪堂，法堂之西為西禪堂。古無戒堂而有戒堂，古無禪堂而有禪堂。棲禪者眾，戒為禪本，可不東西列與？其上為直指堂，其廣十餘笏，其修倍尋也。直指堂之左有面壁軒，直指堂之右有青猊軒焉。所取之面壁者，取於壁也；青猊者，取於石也。面壁軒之下為東禪堂，東禪堂之東為慧日軒；下為玉樹林，左則浴室與諸寮在焉。浴樓之東為雙桂室，雙桂者，無文塔也，不欲沒之也。玉樹林下為金光明殿，金光明者，宋時懺儀也。蘸筆池在其下，茶與竈列焉，取其池之便也。其下大悲殿，殿之前為聯燈閣。聯燈者，為二僧人悟而建也。聯燈閣之前為華嚴閣，閣之右為伽藍殿；伽藍殿與西之祖堂相對也。華嚴閣之前為梵香閣，又其前為青蓮閣。青蓮始之，華嚴其後建也；而梵音、聯燈錯峙焉，猶天有閣道也云爾。其前為響水樓，響水者，壑雷聲也。其後為齋堂、為客堂、為香積廚，所為繼藏殿而建者也。青猊軒以下，西禪堂下為羅漢殿，所為供五百應真者也。殿之下為祖堂。王者之制，左宗廟而右社稷；浮屠之制，左伽藍而右祖堂也。堂之下擇木堂，擇木者，遊僧所棲也。意南而南，意北而北，無所棲焉不可也。其下為公所，以靈隱之勝而貴客勝遊可無稅駕歟？然不置於東而置於西，又絕遠於戒與禪也，不使學人見可欲也。又其下為萬竹樓，隱者之所寓目也。東有響水以聽泉，西有蔟竹以攬勝也。觀止也，而天王殿以是成焉。天王殿者，以奉天王及彌勒焉，古之絕勝覺場，晉以來有此稱也。戊戌大殿災，而辛丑與天王殿同告成焉，此天意也。於是建鐘樓於殿東，助

龍首焉。其在古為百尺彌勒閣也。建閣不如建樓也，視其高加於殿若尋，而高於殿齊也，乃建直指堂終焉。直指堂，和尚丈室，不欲以己加於殿，不欲以己加於眾室，何為其不後之也？雖然，和尚之建置若此，其若有意者耶？其若無意者耶？而若軒焉，若輊焉，若仰焉，若俛焉，若兩曜之界天，若眾星之環極焉，斯真奇也。然則錢塘三百六十寺，未有先此者也，是安可不為之記也？

靈隱寺重興碑文

嚴沆

靈隱山水，西山佳絕，即《漢志》武林山水也。武林以此得名，而武林人不之知也。絕迹高遁者得以棲託而處，故上古有稽留之號，不獨今矣。東晉咸和，理公創興，歷代皆有高僧居之。其載於僧錄者，可考而知也。但宋元以來皆有朝旨補授，而其後惟以僧房輪直，末流之弊殆有不可言者。具德和尚紹三峰之絕傳、接黃檗之逸響，所至之處無不成林。自廣孝、天寧、顯寧、佛日，數大剎無不改觀，而於靈隱建置尤所謂神輸而鬼授也。於呼！自非和尚道法之盛，其能以有此哉？念先清卿與賢大夫十數人，為勝遊之會，憩此聽禪，而先君子與兩世父，偕長蘅李先生、子將聞先生，每於春淙壑雷之下，流連愛玩，有終焉之志，此余夙昔所謂寤寐難忘者也。今以乞假之暇，際光天之運，覩金碧於靈宮，粲雲霞於鹿苑，其又安能已於懷耶？和尚命余撰碑傳於後，顧陸羽之記不傳，羅公之文僅存，又焉用余蕪文以貽誚於山靈耶？因綴以大略而係之以銘曰：

巃嵸靈宮　包絡峰崿　扶神靈兮
高甍蜚宇　昭灼宏敞　纚雲庭兮
含華疊萼　蔥翠紫蔚　夭卓詭兮
胡蔽而虧　出入日月　靡終始兮
天興華藏　綿邈宗傳　亡垠堮兮
莫高匪山　莫峻匪泉　長舄奕兮

重建靈隱寺碑文

孫治(宇台)

粵自周星雨地，帝釋肇止於天冠；漢夢徵祥，洛陽創基於白馬。自此銀城映沼，森布諸華；金鐸響風，聿開來載。若乃赤烏之歲，僧會始軔吳地；過江以來，支郎響振義林。則東南之弘化而吳越之始基也。咸和初祀，理公實來；早棲息於西山，疑蜇形於鷲嶺。由是人天共證，比迦葉於經臺；緇紫雲歸，掩鳩摩於祇苑。疏館山椒，映四園而交翠；彪流澗雨，並八水而停紅。鷲在山而若舞，猿就洞而歸來。轉金策於閻浮，化城不遠；息害馬於忍土，淨界非遙。功自此而彌天，法由茲而振地。覺場標榜，人稱句漏之仙；上苑勒銘，世重簡文之記。漂流六代，沿及五朝。長廊鳳翼，知自貞觀以來；蜇塔雲浮，實始大中之代。而錢氏御土之日，值聖僧宣化之年。寶幢聳列，落仙梵於雲根；穹塔凌層，響和鈴於天外。炎宋聿興，景德標號。寶軸千裝，天章雲鳳之筆；良田萬頃，濯龍脂粉之錢。迨至南宋駐蹕，翠華屢幸；交蘆迴天子之鑾，光明有高僧之迹。金印來於天上，直指安禪；璇題復於人間，空王炳日。於焉薰風璚露，五花相繼於莊嚴；碧月珠星，雙樹依然於常住。不圖至大之歲，禍發丹丘；莫甚至正之年，銷沉銅馬。自此而降，興衰匪一。雖中天開運而寶地淹淪。山疑虎窟，久虛開士之塵；地似龍樓，未遇高流之響。九里翔風，不見蒼虬之舞；三山望月，空聞落桂之聲。雖曇瓚竭蹶於宣德之年，僧通庀材於穆皇之代；不足以復石室之禪那，煥龍宮於耆窟也。時序遷移，宗風消歇；不有大覺，孰證迷津？茲惟具德大和尚者，臨濟之嫡乳，黃檗之肖孫；權實雙融，有無互徹。祛守默之癡禪，埽尋文之狂慧。以故名園香剎爭奉銖衣，秀水靈峰競承組鉢。歲在赤奮二月，和尚頓駕靈山；翦蓬蒿藜藿之居，成寶筏銀沙之所。蒲團夜梵，闢第一之玄機；麈尾高揮，廣不二之法旨。有萬沙彌，盡遊青石；三千蒲塞，競共蜇花。而戊戌劫火，大殿告災；天將除舊以更新，人用布金而填陌。隕三災之火，標日月於天宮；違四大之風，界琉璃於地道。於時薝林屬玉，自蹇嵼於青鳶；梵住浮檀，遂巍峩於香象。雲楣膠葛，峰接陽烏；綺井璚熿，林生陰兔。萬栱千楹，迴合斗杓之氣；虹梁螭桷，平臨滄海之潮。然則東安參禪之窟，無此名區；江右選佛之場，遜茲寶界。信有徵者，不其然乎？於戲！人以地傳，地緣人顯。靈隱山川之奇，和尚道法之勝，同符千載，迥絕恒蹊。庶幾頓超十地，寄無言於有言；悟彼三空，歸有法於無法者歟！是為銘。銘曰：

法從東度　山自西遷
聖僧至此　憩彼林泉
三寺並列　精廬巘然

嶽形雕鷲　石秀青蓮
金繩界道　寶鐸凌煙
名賢似續　綿矣千年
重瞻大覺　濟水真傳
天開給舍　人度寶田
影涵瑤圃　光照金盤
丹霞結宇　紫極開軒
林間花繞　鉢內龍旋
天衣荏苒　帝馬翩
霜鐘夜湛　海日高懸
淨名第一　慈照大千
流水在澗　明河自天
棧有伏虎　洞有仙猿
明明宗旨　其永無刊

重興景德靈隱禪寺碑文

王吉明(瑞五)

嘗聞佛之化身徧滿三千大千世界，似非人世之土木金碧所得而莊嚴者。雖然，諸佛往矣，黃金布地之祇園，七寶嚴飾之樓閣，疇其覿之？則舍人世之土木金碧以為莊嚴，無從因像見佛。然則莊嚴法界莊嚴化身等無有別，佛之所以長留於天地古今之內，而徧現於智愚心目之間，非像教不為功。自教外別傳、直指人心、見性成佛，洵無上妙義；而後之弔奇者，視宗教若徑庭然。若夫提宗攝教、借教詮宗，和合無間，足為法門淵海者，則具老和尚為不可幾及也。和尚受三峰老人付囑，爐冶精嚴，見於把茆之日；蹙踏奮迅，顯於方剛之年。道風洋溢，所至主法席，諸方雲集，堂為滿。語稱福慧兼修者，非歟？順治己丑，浙紳士延錫靈隱。靈隱自晉創建迄今，千有餘年，其間廢興不可殫述。比以棟宇毀圮，法相剝落，周環藩壁頹缺，赤白之飾盡成黑昧，觀者有魯靈光之歎，和尚毅然以修建為任。或疑其為有為功德者，不知真性妙空、並無一物者，謂之清淨法身；其一切莊嚴萬行者，謂之圓滿報身；隨機設教、善利無窮者，謂之千百億化身。使塵剎佛身有一不現光明，則千百億數中便生缺陷。此缺陷者，誰為補之？而又誰為泯之？甚非細故也。靈隱為浙名剎，四方瞻禮如織；苟以生敬者生哀，則接引善信何藉？且夫無所為而為善者，曾幾人哉？大都因生於感，感則

動；不感未有能動者也。今使入剎而見殿堂巍煥、法相端嚴、供設輝煌、布置周币，宛然西方勝境，有不作禮讚歎、勃露善端者，非情矣！則直指人心、見性成佛之機，莫顯著於此，詎修建小果云爾哉？維時議修建者僉以時絀，舉贏為難。和尚曰：「無難！越山多材，若等其儲以待。」先是，衢郡巨木填委，溪水涸，商坐屢歲弗得下。見寺中遣人至，以廉直售。未幾，水盛，長木得越堰順流而至，積材山若，則時節因緣可知矣。於是興作大舉，數年間，殿堂樓閣及種種院舍，次第落成，完美盡致，迴踰舊觀。稽其工費，難以數計。和尚優遊處之，未嘗以工作繁興暫輟。兩期少疎，提策而機緣輻輳，若有神輸焉者，豈非千古奇特事耶？昔六祖住曹溪，卓錫泉湧，贍足大眾。東坡銘有云：「問從何來，初無所從；若有從處，來則有窮。」和尚修建靈隱，拓而大之，更而新之，其出無窮，真不知其所從矣。彼測以檀施，目以福報，烏足窺和尚之大哉？和尚固於法界中莊嚴諸佛化身，俾學人繇此證悟法身於真空，無加損也。故以此功德而不住相則無漏，以此深心而奉塵剎則大報恩。初祖有漏小果之論，蓋為天監而言歟！若和尚之修建，非猶他方之修建也。以至繁至鉅之舉，而成於無思無為之中，所謂莊嚴萬行、究竟空無一物者乎？則外彌現而內彌寂，自非和尚，孰能與於斯？吉明皈依有素，幸躬逢其盛事，歡喜踊躍，歎為希有。謹序其修建緣起，而約略紀之：戊戌成法堂，辛丑成前殿、大殿。為閣者四，曰華嚴、曰聯燈、曰梵香、曰青蓮；為堂者十四，曰大悲、曰金光明、曰五百羅漢殿、曰伽藍、曰祖師、曰東西兩禪堂、曰擇木、曰南鑑、曰庫堂樓、曰知事樓、曰齋堂樓，與輪藏相雁行者為鐘樓。上為總管堂，其它有玉樹樓、慧日軒、萬竹樓、直指堂、面壁軒、青猊軒，復有念佛堂、峰頂茅蓬以及柴寮、園寮與古今賢聖諸塔。下院二，曰寶勝菴，曰接雲菴。其中像設器具，一一稱是。此皆數年內先後修置，不能詳載歲月；要為和尚手自擘畫，諸高足暨行僧，一心力以從。凡所位置題顏，各有意指。後之覽者其致思焉。爰鑱石為之記。

記

靈隱放生記

陳紹英(匏菴)

自橫衝橋至九里松，舊皆靈隱之所屬也。迤[這-言+里]並湖口曰金沙灘，灘色如金；山至此而增黛、水至此而加碧者，是湖之最

勝處也。錢塘鶴鳴慕侯規其地若干，以大師為放生之所；而即規其水若干，以育魚於其中。寘僧人數輩，朝夕梵誦，一切物命咸霑法慈。嗚呼，何其仁也！夫佛教之凌夷久矣，大師一至靈山，重整蓮界，變瓦礫之域為栴檀之所。澗水淙淙，秋林淼淼，使百萬釋子咸悟無生而證宗旨；而此寸土者又被於無涯鱗介之族。夫靈隱冠山，而此陂尾湖，彌天地而亘古今，皆作如是觀矣。或曰：「昔有大豕為魯津伯，德其殺之之功，大師無乃多事？」而不知伏蟒化蛇，皆依佛力，卒何疑於此？且牛羊犬豕，怖死而求生，無以異於人者，又安得藉口以殺為生？或曰：「盡西湖為放生，有何不可？」余又以為不然。夫天地之無盡也，魚欲其生，而漁亦不欲其死。兩湖之間以漁為業者，又可盡廢耶？則此之為放生也大矣。有量者乃所以為無量也與！為室幾楹、為地縱橫若干尺，悉書之以示後之人。

靈隱鐘記

孫治

石門有鐘，相傳以為元時所鑄也。初在崇福寺，寺燬，鐘半沒於土者幾百年矣。或以為啞鐘也，或曰非然也。古人有言曰：「一鳴五穀生，再鳴五穀熟。」石門之鐘，鐘且不鳴，故畏之也。大護法柯將軍（諱魁）、陳都統（諱典謨）者，觀於靈隱而深訝焉，曰：「此其為佛法震旦也與！石門之鐘於此焉，宜！」雖然，鐘之為大且萬鈞也，移之者，非若持缶挈瓶然也。鐘之大且萬鈞，又半淪於地，相傳屢欲出之土，愈掘則愈下。石門人共呼為神鐘，非可以力致也。乃靈隱之移之也，有四僧者掀而出之於地，如有物負擁而出，有舟焉載之若蛻然而上，斯非神助不至此矣。先是，鐘之未至也，有神入夢於人曰：「明日鐘至矣！」已而果然。眾協力焉不移，時人至屹然而止；俄而架於簨上，其聲遠聞。《易》曰：「震驚百里其有焉。」眾懽然曰：「信哉其為震旦也！鐘果於此焉，宜也。非大師不足以創靈隱，非靈隱不足以致此鐘。」顏率之論周鼎也，以為九九八十一萬人具而後可致。今鐘縱不若周鼎，度非千萬人不可，何以若此之易也？壬寅鐘樓成，癸卯石門鐘至。吾聞之，器從主人，斯非石門之鐘而靈隱之鐘也，故遂以為靈隱鐘記。

重裝十八尊者記

孫鑛

余垂髫時，應童子試，眾擠門，忽墮，被壓，後至者復蹂躪其上，輒死。舁至黃王廟道舍，醫莫能救，蓋竟日矣。爾時神魂飛越至一山中，有老僧十餘，牟尼披，朗誦經卷，掣余手足曰：「吾與若有緣，若毋行。」余魂益飄揚，老僧牽拉不釋，手足伸縮，從空中猛推，遂甦。越數歲，至靈隱寺，見水聲潺湲、峰石奇峭，宛如當日魂飛處，始知前救我者是阿羅漢。遂矢願，他日倖獲功名，則新其像以報。但困於諸生，久之未遂，而此願時存也。我朝鼎革來，丙戌登賢書，己丑成進士；廷對，擬元應授館選，病不果。遂補秋曹，視學山右，以讀禮歸。時具德和尚大建叢林，功果無量。余乃進山禮佛、謁和尚。是日羅漢殿適駕梯，若相期約者，余遂捐金重裝十八尊羅漢，次第告成。因余遠宦，未獲躬親瞻禮。今丁未秋，奉裁賦歸；置扁額、齋供，始完舊願。余雖眇末，乃荷尊者保護以有今日，豈非佛度有緣耶？居官立行有不自愛，尊者鑒之，余因此益自勵矣。爰述其事而勒石焉，是為記。

疏

修靈隱冷泉亭疏

雪嶠信

浙江勝地，唯靈隱為最。其源發于天目，而冷泉一帶，鑑照寺前，若蒼龍驤于宵漢也。煙雨峰巒，映人眉目。去年大風忽發，洚水橫流，損我若干奇秀。應以此情訴于天帝，償我修補如故，奈何殃及兒孫耶？

靈隱寺大殿募緣疏

陳應泰(巡撫)

自大乘西漸，宗風南衍。本無一語，空迦葉於經臺；如是九年，掩鳩摩于祇苑。由是參禪法窟，競譽東安；選佛名揚，羣推江右。五宗妙諦，非關句後前機；三昧真源，豈是聲前薦得？洵足悟大意於西來，演別傳于南竺者矣。若臨濟具德禪師者，幼皈淨業，早度玄關；權要雙融，有無互徹。祛守嘿之癡禪，埽尋文之狂慧。以故名蘭香剎爭奉銖衣，秀水靈山競承組缽。揮松法座，本無羨於飛花；拂塵高壇，亦何期於點石？維茲靈隱寺者，實武林之首剎也。飛岑合沓，翠蔭松杉；鳴澗紆迴，芬流荇藻。若誌公幽麓，雅

堪卓錫棲真；惠遠清溪，自愛掛瓢宴坐。年來寶地淹淪，法筵岑寂。苔階流月，空聞落桂之聲；古洞沉雲，久絕呼猿之響。禪師策杖來遊，愴焉大息；誓整檀林，重光蓮界。蒲團夜梵，開第一之玄機；麈尾朝禪，演不二之法旨。遂使癡猿捉月，立解苦輪；渴鹿馳煙，頓明覺路。於時人天共證，緇素雲歸。五百沙彌，盡遊青石；三千蒲塞，競供銀花。布黃金於廣陌，浮梓柱於洪濤。花宮刻玉，應蹇嵯于青鴛；月殿浮檀，自巍峩於白馬。不圖禍發神丘，毒流卬井。龍堂何孽，忽搖四大之風；雁塔非魔，遂隕三災之火。徒逢怪鳥，焚社流音；不過靈禽，燒林漬羽。日月天宮，倏成火宅；琉璃地道，竟若化城。禪師悲願逾深，慈誓彌篤。竊同須達，縱填陌而輸金；尚比澄空，必開爐而寫像。金花滿面，依然常住紺園；珠澤縈眉，自復莊嚴鷲嶺。余鎮撫浙土，再越春秋；屢緝餘氛，輒駢戮力；追維塵劫，益信輪迴。維願法雲遐蔭，自令障火潛消；慧日高懸，長使魔風永滅。每尋歡喜之園，樂對醍醐之治。今禪師以法中之龍象，獨運金輪；以教外之鸞凰，重舒玉鏡。雖復設四部于無遮，消三幡於有漏，不足多也！復何難哉？惟念名山勝宇，端屬高流；福地蓮藏，允資開士。故嵩邱靈跡，澄公逝而沉音；天竺棲真，辨師去而絕響。至若方袍平叔，高躡二清；白眼支郎，久淩兩軋。龍攄鉢裏，無與觀心；獅伏巖前，不干演法。而或崎嶇掛錫，委頓開林。山陰殿缺，遽來靈羽于飛輪；沙伏塔傾，誰發真珠於銘石？然則地以人傳，人緣地顯。靈隱山水之奇，禪師道法之勝，以古準今，洵美談已。是用仰籍檀施，共成福慧。傅大士之雙林，捨心是宅；迦蘭陀之精舍，聞法立成。庶幾頓超十地，寄無言于有言；悟彼三空，歸有法於無法矣。

靈隱禪堂募重新翻蓋大雄寶殿疏

晦山

靈山殿閣，聳出雲霄，體勢嵯峩，金碧瑰麗，不但東南雄鎮，誠為海岳崇瞻，實先師老人蓋世之奇功，不朽之盛業也。但以昔年輻輳因緣，成功太速；亦由匠工蓋法鹵莽，不得真傳。以致筒瓦削薄，雨久而泥水侵椽；柳杉太長，雪壓而瓦鱗脫節。苦四圍之發漏，悲聖相以沾淋。三十二大士之湧壁，立見損傷；二十四諸天之寶容，漸憂圮坼。佛像偕菩薩像以俱危，大殿與天王殿而同病。若不早圖翻蓋，後此愈費經營；為此特具因緣，敬告十方檀護。昔也初經焚蕩，平地上湧出寶坊；繼殫勤勞，一隻手擎來佛國。而今也，覩前功之漸壞，豈不寒心？知急救之有方，大家著力。伏乞尊

官長者、大力檀那，遇茲勝事，慨發喜心，傾湘水之家珍，布祇園之金地。因風吹火，補漏未遲，望大殿以圓成，并石臺而鋪就。現天宮之妙麗，滿佛國之莊嚴；登廣大之門庭，還修廣大之福瞻。奇特之殿閣，更收奇特之功。種大因於華藏海中，定受記於靈山會上。有緣到此，盡請當機；切莫躊躇，當面錯過。謹疏。

募化紮石增靈隱山門景致疏

戒顯

靈山勝境，海內奇觀。怪石堆青，繡出崑岡之骨；冷泉漾碧，噴來雁蕩之湫。秀絕天然，豈待人工點綴？花鋪錦上，何妨幻景莊嚴？雲間姚居士，眼底煙雲，胸中邱壑，具南垣之妙手，蜚東海之高名。過浙地觀光，到靈峰叫絕。擬於迴龍橋之古逕、冷泉亭之四周，築成分外峰巒，添出遊人坐磴。春郊雜遝，香會奔騰；大啟茶亭，廣施甘露。俾緇素雲歸，盡得停筇而憩賞；輪蹄霧擁，不妨晏坐以盤桓。誠法窟之奇緣，屬名山之韻事。顧高山流水，有待知音；白雪陽春，還期屬和。但得同心解佩，便裝成廬阜溪橋；眾手移山，立現出虎邱石座。允關好事，諒所樂聞。

靈隱募刻《華嚴》大經疏

戒顯

如來所留慧命，幸有大藏琅函；法寶盡當流通，何況華嚴教海。一乘妙典，我佛滅六百年後始出龍宮；無上經王，西天存八十卷文重來震旦。翻譯則青龍侍座，講演則甘露流祥。盥水滴而蟻子生天，經題唱而脩羅退陣。講誦與修觀，古今靈異重重；書寫與行，道俗禎符赫赫。得覩一文一句，洵稱奇特因緣；欲求共見共聞，須仗流通廣遠。茲者靈山會上、獅子窟中，既梓各種經書，獨缺《華嚴》大部。敬書緣起，用告知音。聞半偈而投崖，端為利生心切；剜千燈而求法，無非念佛恩深。今現有充棟之經，何不公之緇素？只須一舉手之力，便可壽之棗梨。或自施、或勸人，轉轉無窮而馨流帝網；隨一函、隨幾卷，多多益善而福過河沙。七處九會之靈文，彈指而雲蒸霞蔚；六相十玄之妙義，轉盼而錦簇花攢。破微塵而出大經，急需好手；竭海墨而書一字，莫讚奇功。幸慨發乎檀波，共圓成夫寶藏。

序

贈靈隱具和尚序

嚴沆

臨濟三十一世曰三峰藏者，提三玄三要以明宗旨，於佛法為中興矣，而和尚其大弟子也。三峰受源流於天童，而勤勤然惟以宗旨示人。嘗曰：「禪之有宗，猶醫之有脈法也。醫者立規矩、懸權衡、調陰陽、別生死，不可廢也。曹洞之君臣，臨濟之賓主，亦猶是矣。黃龍有言：『學者欺詐之弊，不以如來知見之慧，密而煅之，何由能盡？』」故生平以闡揚為務，而其末後遺囑者，惟和尚一人。師乎，師乎！宗旨其不晦矣乎！僕嘗觀古之擔荷佛法者，多强力絕俗之人。自南嶽馬祖以下，至五代之杰出者，歷歷可指也。和尚初為鍛工，已棄去，習道家言；後又讀《首楞嚴》而善之，遂披剃受具，乃參三峰於安隱，有省也，而和尚勿以為足也。凡叢林辛苦力作之事，無所不為。已廼作圊頭，運糞出厠，負重擔上山，力疲極，忽於轉肩時，見擔頭冉冉數下，遂現大機在前，自是禪鋒不可禦矣。初，三峰之椎鍛學者，剗削險擯不遺餘力，而於和尚為尤甚。悟後，三峰嘗召於方丈前，垂百問，矢口應對無所挫，而三峰猶不諾也。然則和尚之所以得當於三峰而回機就囑者，宜何如哉？僕觀之天下，三春之華不如九秋之幹也，雨露之澤不如霜霰之加也；美疢不如藥石，姑息當遜仇讎也。和尚之自治治人，多用强力，務堅苦其大端矣。和尚法席最盛，所至稱千人。如天寧、佛日、雲門、顯寧諸名剎皆是也。年來嘗止靈隱，故稱靈隱。初和尚之住靈隱也，止一破堂，傾欹草中。十年拾礫，買壤尺寸而興之。諸寮廡、禪堂、法院，以次就焉。乃去夏天又火其正殿，是天之所以勞其經營締搆者，何無已也？客有譏之者曰：「楊岐破屋，雪滿繩床；高峰龍鬚，縛柴為龕；而和尚無乃已甚？」而僕以為非也！夫和尚之習勞也，其所以證入者在是，則其所以磨礪學者亦在是矣。今必守一橛枯禪以鳴高，比之抱不哭孩兒，於佛法其何有焉？僕嘗讀《五宗救》一書，見和尚之偈頌，自雪竇以來，未之有也。諸方皆嚴憚之出其下，故知臨濟宗旨，昭昭然若揭日月而行者，昔在三峰，今歸靈隱矣。吾以是知和尚之佛法，如馬駒踏殺天下，其弘法世世萬子孫未可量矣。今季夏之望，為和尚六旬誕辰，四方緇素麕集，而吾鄉大夫、先生、長者之屬，咸欲禮足於和尚，而命僕為文序之如此。

贈靈隱大和尚序

王嗣槐

二諦雙融，四禪俱淨；爰棲真以照寂，維晏坐而觀心。溯厥流風，於斯尚矣。然而神含日月，弘覺路以為功；道蘊津梁，闢度城而成果。三空非寂，五衍斯真；逖矣無邊，攸歸極樂。所以林開衣鉢，常次第於王城；水洗香花，亦周流於竺國。金沙銀樹，高映慈眉；香飯乳糜，並承趺坐。若其義存斷相，妙在離言。青松拂子，句落前塵；白玉麈毫，影留後焰。天花墜而何干？怪石顛而無涉。以故無邊文句，曾空摩竭之林；不二法門，即杜毘耶之口。此初祖之真傳，而曹溪之嫡派也。具德大和尚者，知通微妙，悟徹幻塵。生有勝因，似吐雙龍之水；早能證聖，如停四鶴之雲。結茅茨於荒園，掛盂瓢於棘路。木杯渡水，敢怖橫流；竹杖還山，已聞超岸。過關棹臂，更何問於趙州？坐壁忘言，直欲通乎南竺。遂乃息心舊苑，靜住鷲山；環峰表剎，帶水披林。蘆花秋落，雪照清溪；柏樹春迴，雲流石屋。而乃籬邊薙草，不懈精修；山上樵蘇，自安苦行。夜禪朝梵，偏有事於小乘；貝葉曇花，亦無遺於大品。勅法堅修，行遊精進。彌天離日之辨，無羨於五門；赤髭白足之名，不誇於三輩。必依正覺，端在安禪。證人天而說法，掃狂慧於道場；離名相以悟空，息機鋒於高座。才逾慧淨，不以破諍得平；辨過深公，何必逆風聞馥？以故白馬逍遙之解，尋味名流；瓦官籌算之談，冥符妙旨。許玄度之清標，並為都講；何平叔之高韻，更見方袍。雖復偶來演法，如遊華氏城中；要其常住樂安，獨卧雪山林下者也。恭逢盛代，弘闡宗風。蘭臺石室，編無字之真文；香剎名藍，奉雕檀之法像。西關紫氣，疑迦葉之重來；東郡流星，卜仙人之再聚。然而辨灰轉石，馴虎咒龍之法侶雖遍於諮詢；生樹開蓮，伏獅集烏之上人即勤於延訪。直泝五宗之苗裔，必尋六祖之根源，一振傳燈。端惟臨濟和尚，菩提法樹，已摘摩珠；般若香臺，早懸明鏡。幢垂纓絡，表離垢於前輪；樹結栴檀，散空香於後乘。常住靈山，維新舊剎。龍樓四起，重看畫地布金；象塔七層，還見從空砌玉。豎拂升壇，憑空掉舌；攜笻上坐，驀地開拳。千門萬，薦一句於生前；九部三車，斷多言於真際。遂令沙彌五百，繞青石而承眉；蒲塞三千，擁白蓮而禮足。嗣槐夙沐休風，樂觀芳旨。清陰梧苑，遙看缽影蜚來；瀟灑花宮，竊聽麈塵紛落。愧謝石之才鋒秀逸，敘漁父于王家；慚殷源之名理擅場，列崤關於相邸。思暢玄機，共開善趣。和尚玄亭坐論，別室宣音。眉間珠火，似開七滿之神光；掌上車渠，如現八平之瑞采。既明真而遺器，亦得意而忘

筌。嗟乎！法蘭、羅什競渡金沙，迦葉、圖澄來踰葱嶺。洎乎荊州演法，韶郡傳衣；慧鏡常懸，智燈四照。楊花柏子，拈來便見真如；暮磬晨雞，道罷更無所住。昔日浮山九帶，自啟遙源；今茲臨濟三玄，並開大地。無非選佛之場，真是參玄之窟。不圖大乘，特著中朝。雖惠遠之名被流沙，令然香而東拜；道林之詞傾祇苑，稱標勝於北來。以今方之，未能過也。是以仰瞻法席，慧日重光；側聽高壇，慈航弘度。遂使黃山石磴，爭來啣果之烏；紫澗松枝，自下沖霄之鶴。

晦山和尚詩文全集序

徐增

昔崔趙公問徑山國一禪師曰：「弟子出得家否？」師曰：「出家乃大丈夫事，非將相所能為。」夫世所謂大丈夫者，皆舉將相為言。將則統帥百萬之眾，為國家戡禍亂，號令如山，生殺自主；相則位居一人之下，百寮仰其鼻息，天下安危皆在掌握。是皆千萬人中之一人，盡世間男子未有不羨之畏之，欲一為之而不可得者也。徑山之答崔趙公，則是大丈夫又在將相之外，此豈凡情所能窺測者哉？吾雖病廢，將相之人嘗得見之，大善知識亦嘗得見之，其所作為截然不類。大善知識仗將相護法則有之，將相見善知識必口稱弟子，稽首方丈。大善知識若是乎其尊且貴也，據是而言，則徑山乃與將相相較量矣，烏足稱為國一大師哉？自古迄今，為將為相者，靡不自以為大丈夫；即崔趙公豈不以大丈夫自命？而獨於出家遲疑不斷，只此一問便非大丈夫。夫大丈夫者，貴乎斬然一念，行止由我。崔趙公爵位功勛亦嘗試之，其味既已知之，欲出家即出家，豈不毅然大丈夫哉？且唐皇帝以萬乘之尊，有志道法，延請國一禪師於禁廷；崔趙公斯時有志，即求剃染，其誰曰不然？如何不作大丈夫事？嗟乎！時不再來，機不可失，乃至千載而下，被吾晦山和尚一人作去。吾見今之出家者何止萬萬，其始也，或因患難，或由貧困，或以怨憤種種不如意事，或出父母之命，然豈無自己發心童真悟道者？而要無如晦山和尚之出家，仁義兼至，節孝善全，光明俊偉，超俗扳倫者也。和尚俗姓王，諱瀚，字元達，吳之婁東人。與吳祭酒梅村先生生同邑，年相若，又同學，才名不相下。屢試高等，前輩張受先先生重之，稱為公輔器。午未之間，梅村聯捷，廷對擢鼎甲，而和尚之名益著。和尚幼時遂有志學佛，以尊君闇修先生在堂，好道力貧且年高，和尚恐傷老人意，因浮沉於諸生中。從遊者最盛，四方多饋遺，以康養兩尊人，歡笑終其天年，祿養者愧

不及。甲申春季，賊犯京師，思宗崩。凶問至江南，和尚大慟，即捲詩書及平日所為制舉義，擔負至文廟，拜告先師，焚之，并以青衿置明倫堂。嗟乎！和尚之秀才於此日終，出家於此日始矣。大丈夫之行事果高出於將相百倍也。於是諸山聞之，爭願為之披薙。會三昧老人移舟來，即往華山出家。至受具畢，乃參具德和尚於顯寧。不數年，盡得其法印。具和尚初住靈隱，即欲遜獅子位與居和尚，即著草鞋走廬山。未二年，雲居膺祖古道場來請，不得已應之，歷十年。是時禪風漸衰，和尚以臨濟七事鉗鎚衲子，號為毒辣。入室者甚眾，皆天下之英俊。化行江楚數千里，和尚開闢之功何其偉也！於是彼處道場，若寒溪，若薦福，若安國，若護國，若四祖，若疏山，一一坐遍。法語之外，有《鍛鍊衲子說》十三篇，為尊宿重。江右李太虛先生嘗見和尚，亟稱曰：「和尚多生來，不知如何修持法道，乃得至此？吾儕科第不啻糞壤，願以餘生為法弟子，少種來生福慧。」其為縉紳先生敬信又若此。丁未，具和尚應徑山請，乃遣侍者走三千里迎和尚，補處靈隱，已踰五載於茲矣。以《靈隱誌》未就，屬余修葺。復出其所撰詩文集五十卷，屬為序，余讀之而竊有慨也。古來詩文宗匠，竭一生之力，未能至此；和尚二十年來住持，與千五百人俱，法語將等尺，而文集又裒然如是其大，天下不朽事都被和尚一人占盡，獨不為吾輩留餘地耶？吾嘗從事於詩矣，詩本性情，復有一定之法，則三百篇而降，漢魏古詩、樂府無不造極。歌行、近體，盛唐為最，中晚漸澆，宋元來不可言矣。近世詩文狃於習見，略不師古。小山岣嶁，不知五岳為何物，而況須彌山王？細流差池，不知百川為何物，而況薩婆若海？余嚮評選《元氣集》，周櫟園先生謂余曰：「世安得有如是幾十人詩供君論定？」近余好遊名山，往往於方外遇之。雖然，亦有才情、學力、氣魄、光燄廣大赫奕如吾和尚者乎？嘗評和尚匡廬詩，不從眼中看來，亦不從筆端寫出；和尚胸頭自有一座匡廬山在，橫揮直灑，蒼氣充溢。廬山有盡，筆墨無窮，和尚其可以止乎！其他所作數十倍於廬山，人患才少，公患才多。錦心繡口，鬱成卍字之輪；毫相珠光，悉本浩然之氣。和尚所為古文，抑又難言之也。古文之盡美盡善，莫如左國，其法變化不測。其次莫如史記、前漢書；史記崢嶸，漢書整密。唐推昌黎、柳州，宋稱六一、東坡。然東坡之一筆直掃，而欲如昌黎多方出奇，不可得矣。六一之清流縈折，而欲如長沙一氣渾成，其又可得耶？元明以來，多出摹倣，窠臼餖飣，紛肰見。有博學者束於典故，前賢所未及者，則不敢言；寡學者溺於流俗，前賢所已道者，又不能省。貿貿焉無不以壇坫自雄，輒為高論，亦知墻外籬間有曉事者，從而竊聽之以嗤其後乎？生前以勢位流通，末後與眼光消殞，比比然也。和尚為諸生時，既

多讀百家書，又透向上一著，故信手成文，處處臻至。如岱宗出雲，層層動蕩；滄溟浴日，轉物光華。然未能盡其形容也。和尚平日好誦《華嚴》大經，直在萬花樓上建瓴出水，一滴成大法雨，一四天下無不周遍，銀面阿難亦當韜翰。復工臨池，得晉唐神骨。偶落一字，人爭寶之。智永、懷素又在下風。總之在和尚光明中，悉為餘事矣。嗟乎！和尚與梅村同一諸生也，一以諸生而為祭酒，一以諸生而為法王。一在水天，玉振金聲；一在法窟，孤松峭壁。梅村或有並馳，和尚永無第二。和尚較梅村止少廷對一策，梅村較和尚失卻法語一大帙矣。然二公道義水乳，始終無間，不啻如道林、玄度、遠公、柴桑、永叔、明教、子瞻、佛印而已也。余今幸得親見序其集，因并及之。

濟顛本傳序

晦山顯

維摩云：「菩薩住於生死，不為汙行。」而布袋、濟顛、酒仙、蜆子，竟為汙行者何耶？良以既證果人，欲度執相凡夫，不得不隱聖現劣故也。濟顛本天台羅漢，示跡塵中，出家靈隱，繼遷淨慈，蹤跡最為奇特。予嘗謂因中、果地二種行事，迥不相同。果地中人，示為汙行，便顯神通，貌混凡夫，旋彰靈異，决不與癡闇愚夫同一顛倒而迷惑也。今以因中人冐果地相，不過獅蟲、狐種，敗壞僧儀而已，何足為正人所齒錄哉？近世有等魔禪，口說宗教，妄餐酒肉，以為吾學濟顛也。此雖可學，而濟顛來蹤去跡、種種奇特，能學否耶？濟顛示夢太后、口吐佛金，乃至觸境逢緣、現種種神通三昧，能學否耶？濟顛錦繡蟠胸、出口珠玉，盡大地儒釋皆讓一頭地，能學否耶？此不能學而徒學其餐酒肉一種，真泥蛇學龍，必至全身敗露，識法者懼矣。濟顛行實，杭地向有小說，語雖近俚，事事皆實。余門人翛堂，刪其俚俗，彙成本傳，以流布道俗，則又為靈隱、淨慈增一段佳話也。

跋

跋中興靈隱寺碑

晦山顯

名山祖席，方內星列；然當門奇石堆青、冷泉漾碧，景地絕勝未有過靈隱者。住持禪祖，諸方以代著者，皆百數以內；獨此山大老如文喜、明教、瞎堂、密菴等，至百三十餘代，禪祖鼎盛亦未有過靈隱者。古人稱天下勝處，良不虛也。余乙酉春初至靈隱，寺適中衰，殿堂荒落；邂逅五松房，萬壑公虔向余禮拜，請余後必住靈隱，余心異之。己丑，寺中眾耆宿請先師具老人重興祖席，余以板首依輔兩春，私慮功業浩大，落落難合。庚寅上匡廬，旋住雲居十載。己亥歸，祝老人六旬壽，則法堂各堂寮，大半改觀矣。獨大雄殿燬，道俗寒心。余返雲居，又遷四祖。復八載，奉老人命，歸補靈山，則殿閣嵯峨，金碧瑰麗。天王殿、方丈同日鼎興，各堂寮從室，四望鱗砌，即鬼輸神運，捷不至此。嗚呼！以老人苦心於上，寸椽口瓦，罔非血汗；眾執事戮力於下，手瘏足裂，盡瘁一時，卒致重興偉勣。蓋天蓋地，口碑贊頌，亘古亘今，豈非曠世奇功也哉？茲三韓護法瑞五王公為文，樹豐碑，頌老人功績，佐以天璧胡公妙筆、鳳彩黃君佳勒，並堪不朽。余喜老人事竟成，萬壑公先見越二紀有餘，至今方驗也。皆靈山異事，敢志顛末，以告來者。

啟

杭城眾護法請晦和尚住持靈隱啟

寶鐸淩空，法海之金城永峙；翔雲丕顯，珠林之香樹常森。在西土之給園，望南州之法象，鶩嶺仰賴，大眾騰歡。恭惟願雲大和尚，藝苑雄師，瑯琊舊姓。精心白業，實廬壑之遠公；砥柱洪流，比天台之智者。況臨濟之真傳在此，兼萬峰之乳水昭然。自昔松源之祖孫，繫一絲於九鼎；嗣後竹泉之兄弟，炳三乘於五銖。在臨濟宿有傳燈，于今日允祈嗣法。唯和尚寶筏金輪，早照耀於三千大眾；則我等青鞋布襪，將從事於十八高賢。屆茲日吉，伫候雲軿。將見飛雨彌天，永明之書不墜；慧雲布野，契嵩之道攸傳。某等無任翹籲之至。

徑山兩序請啟

竊惟無文印子久模糊，新侍天山之洗刷；有待插竿方建豎，共欣月窟之莊嚴。業期纘述西江，開讓老之傳；功在成褫滹沱，大運公之後。恭惟四祖和尚猊座，泗水遺珠，靈山聖箭。句呈銀椀，赴雲門之機；力坐金輪，通楊岐之正脈。王老師兒孫，定徧天下；大醫祖門，已壓人寰。不獨山頭老漢，屬意川勤；凡在室內雁行，羣

推文遂。茲者靈隱名藍，虎林大剎。風雨拮据，老人二十年之堂搆；山川形勝，臨濟千百世之箕裘。堂頭扶笻，苕水已入山深；大眾泥首，冷泉共祈流遠。用是眾等，仰承師命，俯率同參。虛直指之法席，伫俟飛錫淩空；輔徑塢之祖庭，會望全身就父。貴胤分宮，銀鶴高衝霄漢；强枝內附，瑤闈勢不他崇。野猿拱筆，好賡駱丞風雅之音；巖桂雨華，更續理公燕寂之說。拂峰頭之雕鶩，無虞無貳，敢煩卧而治之；寄江上之鯉魚，既再既三，惟冀至則行矣。臨楮無任瞻企之至。

杭城眾護法紳衿請晦和尚回靈隱啟

瓣蘆流去，相傳波上之杯；老石飛來，應伴鶴前之錫。靈山勝會，在靈鷲以重開；西土樂邦，到西湖而儼在。珠霞駐綵，華雨懸空；必瞻白氣於眉間，用展紅香於足下。恭惟願雲大師，心印千江，德先四道。詩攢墨繡，正未醉之東皋；梵響燈寒，比乞閒之輞水。種根清妙，謾勞換骨出空聲；果腹文章，乃效洗腸昭大法。非才子之數獨窮，洵禪宗之教將溥。杖挑明月，將尋歸去之猿；磬擊冷泉，常問落時之桂。幸從雪立，悵為雲征；攜金縷之傳衣，就匡廬之瀑布。般若高臺，既增惠遠；蓮華舊社，不共陶潛。某等石共三生，人思七咏。欲挽笠鞋于鷲嶺，橋久署夫迴龍；遙瞻瓶缽于香爐，寺原名為遺愛。敬然紫露之燈，爰聽青獅之吼。伏願弼時祖席，締結婆心。風吹舟葉，飄行千里之瓢；位定瑠璃，化出五方之座。威儀遍於虎象，歡喜動乎人天。臨啟無任翹企。

塔銘

重建靈隱具德大和尚塔銘

吳偉業(祭酒梅村)

自佛法入中國，漸被江南；宋元以來，浙河東西分立五山十剎，靈隱實居其最。歷代禪祖如無著喜、永明壽、明教嵩、密菴傑諸老，百四十代，雲興川湧，甲冠諸方。本朝御籙之初，我具德大和尚用臨濟宗旨，敷揚正法眼藏，而靈隱廼熾然其復興。其既也，遷席於雙徑，順世於天甯，而道價攸崇，靈骨是妥，始終於此山為不朽。於是嗣法弟子晦山顯公，件繫梵行，屬其友吳偉業曰：「子屬與吾師遊，塔有刻文，非子不足傳信。石已具，敢請。」偉業遜謝弗獲，伏而思曰：「夫像法之有盛衰，猶生相之有起滅也。興復

則重來懸記，坐脫則末後證明。皆所以開導有情、表彰正覺。今以和尚之功用莊嚴、遷化殊特，烏可不標舉大端、昭示來祀乎？」且偉業稱同學於晦山者四十年矣，猶記晦山初經薙染和尚，結制甫里之海藏。時緇素大集，余隨眾禮足，開誘殷勤；自慚鈍根，無能追隨參學。今竊有餘幸，獲以世諦文字，效奉揚于萬一。晦山之師猶吾師也，其何敢辭？按師諱弘禮，號具德，生於紹興山陰之張氏。世稱著姓，明狀元陽和先生元忭，其族也。從祖父徙會城，幼好與黃冠遊。有紫陽洞蘇道者教以息養方，頗本天台《小止觀》，與《首楞嚴》脗合。師因讀是經而發正信，遂投普陀寶華菴仲雅師祝髮，三峰漢月藏禪師則所從記莂，授以臨濟正宗者也。濟宗在明初，法運中微。漢公出，從折竹洞悟徹盡法淵，後乃得源流於金粟悟和尚，而其始終加護者則在乎綱宗。綱宗者，全提五家宗旨，而於臨濟則從一句中分賓主、玄要、照用、料揀，堂奧森嚴，俾學者不滯鑑覺，洞抉佛祖心髓。漢公以尊奉源流，又不得已而至于辨難，以佛祖慧命所繫匪細也。師聞亟往參叩，時漢公開法安隱，師於座下苦參本來面目。偶窺鏡見影，被同參驀背一推，猛然有省。又以宗旨未明，復晝夜服勞，飽參力究。凡歷三峰、鄧尉者十有七載。一日擔糞下坡陁，放眼虛空，忽悟自家活計，而臨濟全機大用當前畢現矣。師面貌清稜，口機迅利。在函丈前，豎義嶽嶽不下。漢公輒痛加錐箚，最後乃許為鐵骨禪，授以衣拂，而謂：「吾宗到汝大興。」其師弟機緣如此。三峰，同參潭吉忍公著《五宗救》，師贊助居多。書成而闡揚綱宗，三峰道法始曉然於天下。雖當時辨難三峰者，持論不無異同；是書一出，淆訛永息矣。潭公告寂，師歸隱雲門。御史念臺劉公請出世住廣孝寺，烹鍛衲子，名動諸方。繼遷安隱、顯寧，復應江北請，說法泰興之慶雲、秦郵之地藏、維揚之天寧。嗣居佛日、靈隱、會稽華嚴，最後徑山。先後十坐道場，開大法門，雷震海內。在天寧日，湖海浩歸，學侶奔湊，盛至五千，所云「五千衲子下揚州」者也。靈隱鼎建巨功，事同開創。大殿火，重新之。王公大人施者坌集，購殿材于大山深谷，鉅數十圍，人力罕致。一夕雷雨大作，暴水泛漲，浮湧畢出。缺一石柱，五顯神示夢募至。遂以辛丑七月，大殿與天王殿同日鼎興。殿成，鉅麗甲天下。餘五百羅漢殿及法堂、方丈、羣寮從舍、重樓複閣次第布置，繡錯星羅，自有靈山以來，興建稱絕盛矣。又斥其餘力，葺浙之廣孝、安隱、法相、靈峰、正等諸寺。而徑山頻以興復請，師乃招晦山于黃梅四祖，以靈隱付之，自住徑山，將大興法席。為巨渤公封塔，再往天寧。臨行機語皆似息機投老、報齡將近者。既至，甫七日，預刻晷為齋期。寂前一日，搭衣禮佛。夜過半，談笑如平時。五鼓，易新衣，呼侍司「隨我上方去」。從者到遲，頓足

一下，端然坐逝。時丁未十月之十九日也。最師之生平，有奮迅之力，有溫和之智，有真實了義，有無礙辯才，故能上以承當佛祖，下以興建巨功，而鍛鍊學人尤推為莫及。蓋佛法自馬祖以後，大慧以前，正令接物皆顯大機大用。三峰始修舉行之，而師更極變化於莫測。故淺學初機與大乘法器，舉不能越其範圍。師嘗語晦山曰：「綱宗者，人能講，我能用。先師當日鉗鎚，晚年始獲其益。此即我三峰家法也！」嗟乎！今人以分別覺路者曰知解，建立行業者曰有為。師講求宗旨，分條析理，不落言詮；千差萬別，總歸一源，故能超情離見、迴脫生死，不可謂之知解也。師願力廣大，攝受經營，能以無著心應一切物；視飛樓湧殿、食輪萬指，與單丁草舍了無以異。功德克就，躧屣去之，不可謂之有為也。若師者，豈非天縱以開闢宗乘、搘拄末法，為當代第一宗匠也哉？得法弟子，首巨渤恒，主天寧；次晦山顯，今補位靈隱；次部玉璞、紫蓋衡、三目淵、若相有；最後御宗聖，膺付囑者共六十八人。當靈龕東歸，徑山固請；晦山及諸弟子念師二十年拮据，大功託於此山；且枚筮之，亦惟靈隱慧日軒吉。爰用戊申八月二十六日奉全身入塔，緇素畢會，咸歎為允。嗚呼！法席有盛衰，而大道偕此山無終極。和尚至德豐功固無假於斯文。乃千百世下，摩挲其日月，考較其行履，并余與晦山締出世之交，亦得附佛法以垂永久。則此碑之作又烏可弗詳乎？師世壽六十有八，僧臘四十七。銘曰：

靈鷲何年來　玲瓏入佛智
幸遭威音喝　故得不飛去
龍湫日噴薄　徹骨松風寒
清冷常不竭　師心如此泉
小悟攬鏡光　大悟擔夯杖
覿面更轉肩　有相參無相
乃復三玄要　乃用五綱宗
千聖縱復出　此理罔不同
建瓴决懸河　辯才信無礙
不現文句身　而得大自在
白椎告四眾　佛法無容情
手持吹毛劍　把定迷塗津
願以清淨心　而作廣大事
於一彈指頃　攝受緣孔熾
公候諸宰執　都護大將軍
橐駝載法施　解放韝中鷹
香華結慈雲　鐘魚答天籟

婦孺布金錢　屠沽請法戒
壇柘三十圍　絕壑封雲煙
越氓聞鬼語　將以供諸天
八龍騁威神　夜半雷雨送
涌水巉巖齊　邪許力不用
觚稜截虹霓　丹艧蒸雲霞
變現兜率宮　週滿恒河沙
祝釐鞏丕圖　皈依發正信
白象捧金輪　青蓮演佛乘
功成己不有　道在我且行
泊然入滅度　便是娑羅林
是謂大堅忍　是謂正知覺
世幻等微塵　去住總不著
顧惟有情眾　俯仰於茲山
拳石本灌莽　冷泉空潺湲
念以何因緣　成此功德聚
靈骨於焉藏　理在不思議
日色起滄海　潮聲來浙江
吉祥殊勝地　寂滅光明幢
我為作此銘　刻諸無縫塔
曠劫長不磨　炯炯照塵剎

塔表

重興靈隱具德老和尚全身塔表

張立廉

惟臨濟第三十二傳，有應期挺生，現大人相；以山海為胸襟，視道俗如一子；徧塵徧界、普利含生，成始成終、得全善逝者，為靈隱具德禮和尚。迹其椎拂之下，波沸雲蒸；杖履所臨，天垂地湧。不起寂滅安居之座，變現釋梵龍天之宮，辨鐵石身心，為人天師表，故十坐道場不以為煩，五千參徒不以為眾。繁興大用，不為疲勞；撒手便行，不為迅疾。應機則玉轉珠回，卻物則颸馳電埽。風雷動地，更呈鱗爪之威；杯勺皆霖，況鼓滄溟之勢。四攝周足，三學浩歸；法運奮興，化儀斯在。師諱弘禮，字具德，族姓張氏，世籍會稽，裔出紫巖，里名移貴。幼躭道術，篤好參尋。初依玄教

以發機，繼讀《楞嚴》為了義。旋窮梵，博究圓宗。悟念想根為生死本，采菽初從外道聞法。回心釋尊，始學阿藍。知非便捨，於是陟普陀嶺，依仲雅師，始預僧流，旋歸講肆。適先三峰漢老人開法安隱，遂詣力參。初究本來面目，從窺鏡處照破娘生面皮；復研向上綱宗，於扁擔頭悟得自家活計。從上作略，一時現前；徵詰橫機，神鋒迅發。運鎚腦後，室中呼聱頭之禪；掛劍眉間，諸方傳鐵嘴之號。馬駒蹴踏天下，大樹蔭覆域中，三峰遂以源流殷勤囑累。經藏禪海，賞物外之南泉；彩鳳鐵蛇，讖滅宗之佛果。師受最後記莂，荷出格成褫；盛美多端，非人能及。撮言大節，略有其五：得法以後，下扳雜務，備歷炎霜；混跡服勤，不辭荼蓼。灰頭土面，隱在窟之嘲呻；槽廠磨坊，戢摩空之毛羽。如昔者踏碓求師，負舂續祖；大為契機於典座，雪峰密證於飯頭。古有其人，乃今親見。師之晦跡退藏，真實妙行，為不可及者一。初住寺坪，旋居廣孝，其傾身就鍛之眾，皆忘形死心之徒。克究先宗，激揚本分；學徒近百，省發多人。即屋撒珍珠，儼楊岐樹下之韻；而人多瓌瑋，有妙喜洋嶼之風。已而寺逕交爭，鄰僧搆訟，乃應請而主安隱，復受囑而蒞顯寧。行道維揚，旺化江北，若興化之昭陽，天長之毘尼，秦郵之地藏，學眾翕集，禪風盛行。次住天寧，萃五千衲子之緣，拈百億瓊花之偈。後受請靈隱、佛日二大祖庭，分化兩山，眾恒萬指。住靈隱日，於廣大林中，插標結界，衝繁窟內，敷座安居。馴致革心，彌興悲願。法堂甫就，大殿告災。師奮身營搆，庀材鳩工；神物護呵，遐邇輻輳。三載奏績，百廢具興。梯山通道，致材木者千章；崩角投懷，效技能者億計。六種翕應，四部奔騰；兩殿上梁，傾城畢赴。殷雷震谷，邪許沸天。締搆之緣，近古鮮覯；時當像季，塔寺靡堅。茲乃能移浮幢于掌上，湧寶剎于毫端。緬鷲嶺之莊嚴，奉優填之相好。界內堂閣，位置綿連；門外坊亭，次第鼎建。復以餘力，分應他方；殿宇需材，隨宜散布。師之苦身戮力，感殊勝報緣，為不可及者二。洪永以來，宗風如綫。至先天童，單拈一棒，直捷提持；三峰乃剖抉綱宗，譏防訛濫。自是緇林禪會，撥草憧憧；浙水吳山，趨風浩浩。顧以宗旨詰難，彼此辯爭；雖兩世應機，不無少異。而濟宗再起，話乃大圓，皆間出偉人、弘豎末法者也。師以苦身操履，初不留意辭章，而天資絕人，慧辯無礙。據座說法，瓶瀉河懸；矢口成篇，波瀠綺互。稱性吐露，縱奪望洋；深辨來風，窾綮洞中。至普說大篇，如長江萬里、巨浪千尋；擬諸大慧中峰，庶幾生瑜生亮。一向吹毛運握，灼然七事隨身；有時合水和泥，不妨千仞壁立。師之善說法要，洞鑒機宜，其不可及者三。師既苦參廓然，復究先德洪規。一生苦心，尤工鍛鍊。座下常餘千眾，室中曲被三根。打鎖敲枷，多方剝換；驅耕奪食，不主

故常。爐韝一開，英靈麕集。常以雲門拄杖、高峰枕子話，激發英衲，扶豎法幢，箭定天山，籌盈石室。死偷心於鐵牛機下，放全身於汗馬叢邊。師之為法來人，光前啟後，其不可及者四。師最後應徑山請，即以靈隱院事囑法嗣四祖顯公，繼席得人，成功不處。丁未十月，言從雙徑前往天寧，普接羣機，甫經七日。忽爾設供禮佛，易衣辭眾。臨化隔宿，垂誡學眾，劇話三更。遂以十九日丑時，言往上方，端坐告寂。化後頂門火熱，面目如生。兩山禪眾爭迎，究竟龕闍靈隱，遂定基方丈東之慧日軒。以戊申八月入塔。全身不散，光流雙樹之園；爪髮中分，花雨諸天之座。師之預知報謝，脫灑自由，初終一如，首尾端正，又末法所僅見也。師生於萬曆庚子，終康熙丁未，世壽六十有八，僧臘若干。嗣法得人最盛，自己丑歲囑巨渤恒、晦山顯二人，厥後相續付授六十餘人多；分化一方，紹隆不絕。而師深慈平等，洞無町畦，同門法屬，視均真子。參學萬指，利鈍千差，誨誘忘疲，解推無間。遇有疾者輒處方用藥，即乍到者亦旦過如歸。故得百城傾心，萬眾竭力。間有颺去，仍復來歸。師之菩薩行願，平等垂慈，其不可及者五。廉昔從甫里海藏，依止一期，晨夕提持，開我蒙吝。因得預聞橫說豎說之奇、用鉤用錐之捷。蜜果葫蘆之移換，萬頃百折之汪洋。故得霆震大千，風行無兩。眾務紛應，神觀湛然。攝受彌寬，威稜莫犯，而總銷鎔於大悲願海，信乎其不可及也。已新靈隱，顯公現居冢嗣，安奉窣堵。因瞻禮山頭，深詳化蹟；兼以狀示，且命撰篇。不揣荒愚，詮次如上。適有持師頂相、屬題幀首者，復述贊云：

雨爨霜薪　服勞第一
嶽倒湫傾　說法第一
地負海涵　安眾第一
雲輸川委　福報第一
鳳翥龍騫　得人第一
更有一事稱第一　妙德空生讚不及
無夢無想恣掀騰　明如日兮黑如漆

於戲！示生乘願，鴈留寒水之蹤；削牘攄詞，鳥飛空之跡。徒勞描邈，曷測高深？續譜傳燈，特標僧寶。更以俟之具眼操筆、若大年寂音者。

行狀

本師具德老和尚行狀

師諱弘禮，字具德，生緣會稽張氏。張為越州巨族，系出西蜀，實紫巖先生後也。居地名移貴，明中葉殿元張元汴，號陽和先生，為理學名臣。餘通籍為名人者，指不勝屈。幼從父兄，家杭之郡城，業傾銷。性不好章句，獨喜與黃冠導引之士遊。然宮觀掛籍羽流，又所竊鄙。後於吳山紫陽洞見一蘇姓者，終日瞑目危坐。或與語，不顧；見男女圍繞，揮令退，咸莫測所為。師熟視，喜曰：「此真吾師矣！」乃數數潛往，咨修煉之術。不數月，遂盡其底蘊。蘇君大喜，以為此真仙骨，非凡流也。然蘇君息養之方，一本天台《小止觀》。昔智者大師著《止觀》既成，遇西天梵僧，謂暗合《首楞嚴》。大師由是向西頂禮十有八年，冀經東來，一為印證。師默計云：「彼未獲《楞嚴》，尚勤求如此；今現流通，何為不觀覽修習乎？」即覓《楞嚴》讀之，憬然悟悔曰：「吾所守者，正生死本，非出生死之正路也。」遂力辭蘇師，登普陀，依寶華菴仲雅師薙削，日習《楞嚴》。一日，以經中疑義質本師，師曰：「吾僅知句逗，焉能會義？」師又歎曰：「若不解義，習讀何益？」於是又辭師渡海，依仲菴法師於玉山，聽講《楞嚴》。復聞雲門湛和尚於安隱起禪期，師先渡江求單，屆期湛和尚忽圓寂。時座元漢老和尚新受囑於金粟，四眾即請開法。師於堂中，晝夜苦參本來面目，迥無入處。計窮力盡，疑悶不已。偶案頭有鏡，師俯首一窺，忽有同參背後一推，云：「照破你老面皮！」師猛然開悟，疑團頓豁；入方丈呈解，大為稱賞。自此機思迅利、應對敏捷，儕輩皆憚之。期畢，隨漢老人入三峰。凡叢林力作苦務，無不身任，仍不廢參請。一日漢老人上堂，師出云：「一箭射紅心，請師高著眼。」老人回頭問侍者事，師云：「機輪轉處，作者猶迷。」老人云：「你試轉轉看。」師云：「九烏射盡忘俱喪，鋒鏑消為日月光。」老人連打三棒，師云：「一柄千將劍，惟師用得親。」禮拜歸眾。又一日，老人舉「藥山弄獅子」話，師出作禮，老人云：「我今要弄一出底。」便打。師云：「著忙作麼？」老人云：「諸人要會弄獅子尾巴麼？」便下座。師云：「大眾要會臨濟賓主句，看取雙獅輥繡毬。」時宗門久衰，禪風初唱，大略所重單在根本，謂之鑑覺，而於從上諸祖大機大用、五家綱宗、臨濟七事，尚未提起。如漢家禮樂未定，初事綿蕞，所謂雲雷屯而天造草昧時也。三峰老人從折竹聲中大徹根本，後痛救五家宗旨，與臨濟賓主、料簡、照用、玄要等法，廓然通貫，首尾洞達。始知古人於向上眼目，重封密鎖，不露毫芒；於鍛鍊機用，陷虎迷獅，不留朕迹。轟雷掣電中，仍藏鋒斂鍔，而宗門極則事在矣。師始聞其說，時時究

心，昏悶莫入。後充圊頭，忽一日運糞至園房，以用心太過，誤走向太湖。肩重擔，下高坡，力疲不能下；驀於轉肩時，扁擔頭跳幾跳，擡頭見太湖，忽然悟得自家活計；而於綱宗手眼、臨濟機用，若十日並照矣。自是機鋒迅捷，莫能抵觸；隨口啐啄，洞中肯綮。同輩皆稱「具鐵觜」，即於漢老人，亦橫機無所讓。一日，老人喚師入方丈，垂數百問，師矢口立應，一無折挫。老人豎鐵面，不許可，師心亦不服，語人曰：「七佛以來，無此問法也！」老人又命侍者撾鼓，當堂詰辯，如是者再三。時師充維那，因牴牾而去。師自重重透入後，具大機用，牙爪毒辣，能擒啄龍象，在三峰老人會下稱飽參者。經師旁敲暗擊，一捱一拶，豁然脫韝者不知凡幾？間有一二承付囑豎門庭者，初扣關擊節，皆出師手也。師雖去，念老人法乳，時時反顧。後老人入死關，復奔回玄墓，老人遂以衣拂并源流法偈付之，勉師收鐵骨徒、破斷法魔，為吾宗作大竫子。偈曰：

住山養得機緣熟　多覓真真鐵骨禪
莫負老僧珍重付　痛除魔外作真傳

付畢，老人旋示寂。師守喪畢，輔安隱潭吉忍和尚為西堂。時潭師負恙，師為調治內外、錐鍛衲子，致道風靄著。因太白有七闢之說，師與安隱口授筆記，著《五宗救》以扶三峰法道。海內衲子始知正法眼藏。臨濟一宗，綿亘古今，自有七事手眼；溈仰、曹洞、雲門、法眼，開宗垂久，自有五家宗旨；不止一機一境、單提鑑覺，可以唐突從上諸老也。潭和尚逝後，師回會稽，住靜雲門山。時念臺劉公請住廣孝寺，師進住，刀耕火種；人雖止百，皆諸方角立真參衲子。師握竹篦，下手烹鍛；朝椎暮栘，省悟多人。時天童密老人門庭浩大，雷震寰中；師孤撐爐韝，門風壁立，祖孫甘露，門不多讓也。後因闢寺路，鄰僧搆訟，司理卧子陳公直其事。師拂衣過東陽，住寺基坪。旋應請，住臨平安隱，值同法澹予垣和尚，臨寂囑住皋亭顯寧。師住後，為創建大雄、天王兩殿，百廢具舉。甲申冬，顯初參師，於此入門。禪風凜然，道氣徹骨。雖頹垣敗屋，衲子愛戴，傾動諸方。仰師法道者，遍大江南北。已而師渡江，說法興化黎家菴；次開期天長毘尼菴、泰興慶雲寺。丙戌，於秦郵地藏菴開大禪期，龍象鱗集。三冬了悟者三十餘人。次春，應維揚天寧大剎請，衲子聞風奔驟，聚至五千。師偈曰：

五千衲子下揚州　百億瓊花笑點頭
七尺烏藤行活計　憑何面目得風流

此一偈，薄海內外無不流布。是夏，師受江北請，轍環一轉，所至萬人擠擁，揮汗成雨，至洗浴水一時呷盡，蓋宋明以來，為法門罕見事也。秋歸顯寧開戒，次年受戒顯請，赴蘇州甫里海藏菴結冬，遠邇排闥擁觀，牆壁崩倒。次歸武林，以現成顯寧，舉法姪豁堂嵒公，扶令出世，自受靈隱、佛日兩剎請。己丑春，進靈隱說法三春夏。復過天寧度五十誕，付首座巨渤恒兄嗣席天寧。冬赴杭州佛日結制。臘八日囑付戒顯。次春解制，復回靈隱。嗣後，眾恒踰萬指。師錐鍛衲子外，奮興土木，拾礫購壤，舉薈蔚宿莽之地，尺寸而鼎興之。東西殿堂，布置鱗次，各有成局。建大法堂，雄冠東南，靈隱已大改觀矣。戊戌，大殿燬，師與各執事奮身勠力，除煨燼、庀木石；從徽、閩、溫、嚴老山中，判數百年巨材，積疊如山，非人力能致。一夕雷雨，大水暴漲，浮湧畢出。少一石柱，峨冠者五人，自稱五顯，示夢杭城屠成鳳募至恰稱。師與眾執事經營締搆，備嘗荼苦。辛丑七月，大雄殿與天王殿同時日昇樑，遠近緇素，捨工者、施財者、助壺漿者、擲簪珥者，邪許號踴，傾動鄉城，百戲攢賀，晝夜騰踏。飛來峰外市肆，盃酒盂飯，踊貴百倍，亦自古迄今，無此盛舉也。又以重貲易妙應房，建華嚴閣、伽藍殿。又於北高峰建華光殿。又建合澗橋與飛來峰牌樓，而旁及于廣孝、法相、正等、安隱、靈峰諸寺，一一皆助財建殿。蓋因師誓願廣大，因緣輻輳。不過二十年而殿閣巍峨、金碧瑰瑋，壯麗甲于神州。雖曰重興，實同開創。由是諸方道俗推海內龍象都會、廣大門庭，必以靈隱稱首。即數寺宇崢嶸、梵宮壯麗，亦必以靈隱稱首。而師實銖積寸累，聽緣自至，成大功勳，遂至蓋天蓋地，此豈非天授而兼之道力、法力也哉？丙午冬，上乘和尚親到靈隱，力請師住徑山，師再四遜謝。乘翁四番削牘，併攜眾檀護書幣，堅決敦請，師不獲已，以季冬望登山，振揚祖令。累命使至黃梅四祖，促顯東歸，補住靈隱。顯苦辭不允，以丁未清和月進院。師親為交代，乃回雙徑。八月下浣，靈隱以普同塔告成，復迎師回寺說法，送眾靈骨入塔。住七日，復返徑山。至九月下浣，以先許維揚天寧請，送巨渤兄入塔，遂於廿五日出山。至十月十二日入天寧，上堂，有「公案上重添公案」語。次日上方碩揆弟請齋，求師自命日，師沉吟，曰：「十九日去。」十七日堪輿殷自行居士至，囑以卜塔後事。十八日碩弟復具儀請師陞座，師笑曰：「儀物我收，你代我說法，我不說法了。」午後，忽命侍司發白金三兩送庫司，令備各殿供。傍晚師自搭衣，至各殿禮拜，示辭謝意。夜分猶與各執事談至丙夜，迨五更，聞鐘即起，命以新衣服帽履，從頂至踵，一一更換。呼侍者云：「隨我上方去。」坐半餉，復呼云：「說道往上方

去，還不來。」頓足一下，端然坐脫。時丁未十月十九日丑時分也。師生平勝心悲願在建功利生，凡衰颯退步話，素不喜聞；獨南嶽老和尚到山，師引座，有「隱身不現」語。又圓話付法畢，忽令眾參「船子覆舟」公案。天機觸發，俱異平昔。大眾頗驚疑，遂以無疾，陡然脫化，亦異矣哉！又六七年前接一長老訃音，師嫌其去不脫灑。一侍者問：「某和尚捉鼻而去，如何？」師云：「也涉做作。」進云：「鄧隱峰倒化，如何？」師云：「太煞顯奇。」進云：「和尚百年後作麼生？」師頓足云：「便與麼去。」又臨出山，上堂說偈，末二句云：「莫道武陵無覓處，一條歸路各家分。」果符所言，又異中之異也。師幼失學，不攻習章句而慧辯天縱。每登座說法，河懸瓶瀉，千言不竭；起結承接，皆有關鍵，似精通文字三昧者。又悟處超特，自性宗通，凡接機言句，隨扣即應，尖新奇巧，出自天然。又敲擊衲子，下刃緊湊，皆出人頭地，不可方物者。禪道佛法，馬祖至臨濟東山演以及大慧，皆顯大機用，盛行熾煉。元明以降，其說息。至三峰老人恢復五家綱宗，復握竹篦，重興煅煉。至我先師爐鞴愈廣、啐啄愈靈、擒拿愈辣，如五花八門，變化錯出。故出師門者皆經毒罵險擯，深遭移換而卒成大器。有時愛護一人，任眾人深排痛詆而恬若不知；有時無端譏訶一人，橫加詬詈，致令反唇授謗而猶然不卹。故淺根學者每望崖退去，師卻冷眼竊笑，决其必返，已而果然。師嘗語顯曰：「諸方是講底綱宗，我是用底綱宗。」故鍛鍊鉗鎚，稱方內獨步。慈明楊岐、五祖妙喜而後，一人而已。師敦友愛，好扶植法屬。以橫山一默和尚為三峰冢的，乃力鍛豁堂兄，扶令出世以續其後。受顯寧澹和尚託，既為興建叢席，又鍛就仁菴義、梵音詠兩兄以接之。餘瑞光、靈峰、高麗諸法姪，皆與的嗣平等一視，極力成襬也。師又知醫，能切脈，每日常苦心看病。即乍到掛單有病者，亦垂慈診視。雖方丈中重價藥味，亦不惜也。師儉約樸素，不好享用。自從苦行力作、深錐毒鍛，得大徹悟，故不自處閒寂，亦不喜人燕佚；不自嬉戲山水、習詩歌文字，亦不以此教人。日以搬土運甓與學者相擊撞。每日波波走各堂寮，警策放逸，安慰執事，不以為勞。晚至徑山，愈矍鑠，能徒步高山四五十里。推本色宗匠，亦區內無兩也。師化後，供天寧三日，頂門火熱，挺身端坐，面目如生。邗人千萬，擠擁、稽首、號慟；諸弟子輩以陶龕封函。顯忝居長，又嗣席靈隱，念先師二十年血汗大功在靈山，同闔院弟子恭迎靈龕，回法堂供奉。遵師遺囑，請殷自行居士卜塔基於方丈東之慧日軒，以戊申年八月二十六日入塔。師自廣孝、顯寧、安隱、天寧，并江北之慶雲、高郵之地藏、紹興之華嚴、杭州之佛日、靈隱、徑山，凡十坐道場。而天長之毘尼、蘇州之海藏又在外也。付囑法嗣，己丑付

巨渤恒兄與戒顯；次庚寅冬付剖玉璞、紫蓋衡、三目淵、若相有四兄；嗣後漸次付囑：煦杲照、靈沼漍、笑魯賢、十力潤、五岳琁、巢山至、堅忍鎧、聖可凡、白谷裔、乾菴賢、碩揆志、牖明本、懷宗隆、在明德、卓靈長、晏巖清、天彌廣、穆文德、衲華貫、載一晉、佛眉惺、慧聞圓、豁一慶、乾敏證、開之韶、大賢靜、微旨朗、諦輝輅、雪澗顯、轉凡禧、汝水維、栗菴乘、獨任雲、達方界、誠一清、句琁日、履先緒、石語音、青震指、洪遂泰、介華潔、慈月時、鶴風悟、笑拈岳、素菴仁、岸廣殊、谷菴萃、鵬雲宏、子樵如、天越潛、靈陌敏、曇璽印、霓菴奇、圓石寧、天南臨、弗為祚、古喬通、憨愚慧、御宗聖、無歇恒、慧燈紹、珂雪禎；法孫開法者：上蔭元鵬、興源圓極等；參上乳，如元海、瀛鐙、普上思、溥受、元孝、超宗、智鎔、元器、元輿、元海，并未開法者若干人。師世壽六十有八，生於明萬曆庚子六月十六日戌時，示寂於清康熙六年十月十九日丑時，僧臘四十七。十會語錄共三十餘卷，盛行於世。伏覬當代鴻儒鉅公、法門碩匠，得賜塔銘，垂慧日，永耀靈山，顯等鏤心剔骨，頂戴高深於無極矣。謹狀。
靈隱寺誌卷七終

武林靈隱寺誌卷之八

詩詠

詩乃心聲，有觸即發，此風人之旨也。凡世間嬉笑唾罵與夫飲食宴樂，皆足以陶寫性靈、琢磨新句，而況名勝莊嚴有如武林靈隱者乎。鷲峰小朵載二猿以西來，慧理大師懸一瓢於東土。冷泉亭下，泉響淙淙；桂子月中，天香冉冉。仰殿閣之宏制，不信人間；禮金像之慈容，儼然天上。其他一石一樹、一鳥一花，今今古古、往往來來，接引多端，暢滌人意；興至詩隨，沉吟良久。有意無意，固已得之；不即不離，其有會矣。為誌詩詠十二。

五言古

三生石

謝靈運

四城有頓躓　三世無極已
浮歡昧眼前　沉憂貫終始
壯齡緩前期　頹年迫暮齒
揮霍夢幻頃　飄忽風雷起
良緣殆未謝　時逝不可俟
驚擬靈鷲山　尚想祇洹軌
絕溜飛庭前　高林映窗裏
禪室棲空觀　講宇析妙理

與從姪杭州刺史良遊天竺寺(唐以前靈鷲稱南天竺，有論在首卷)

李白

掛席凌蓬丘　觀濤憩樟樓
三山動逸興　五馬同遨遊

天竺森在眼　松風颯驚秋
覽雲測變化　弄水窮清幽
疊嶂隔瑤海　當軒瀉歸流
詩成傲雲月　佳趣滿吳州

題天竺寺

崔顥

晨登天竺山　山殿朝陽曉
澗泉爭噴薄　江岫相縈繞
直上孤頂高　平看眾峰小
南州十二月　地暖冰雪少
青翠滿寒山　藤蘿覆冬沼
花龕瀑布側　青壁石林杪
鳴鐘集人天　施飯聚猿鳥
洗意歸清淨　澄心悟空了
始知世上人　萬物一何擾

北高峰

蘇軾

言遊高峰塔　蓐食治埜裝
火雲秋未衰　及此初旦涼
霧霏巃谷暝　日出草木香
嘉我同來人　久便雲水鄉
稍觀小舉足　前路高且長
古松攀龍蛇　怪石坐牛羊
漸聞鐘磬音　飛鳥皆下翔
入門空無有　雲海浩茫茫
唯見聾道人　老病時絕糧
問年笑不答　但指空藜牀
心知不復來　欲歸更傍徨

贈別留疋布　今歲天早霜

靈隱寺

林逋

山堂氣相合　旦暮日秋陰
松門韻虛籟　靜若鳴瑤琴
舉目羣狀動　傾耳百慮沉
按部既優遊　此時振衣襟
泓澄冷泉色　寫我清曠心
飄颻白猿聲　答我雅正吟
經臺復丹井　捫蘿嘗徧臨
鶴蓋青霞映　玉趾蒼苔侵
温顏照喬木　真性訝幽禽
所以仁惠政　及物一何深
灑翰嶙峋壁　近駕栴檀林
回瞻窣堵峰　天半千萬尋

靈隱寺

梅詢

(詢知仁和，有靈隱寺詩十首，勒石冷泉亭上，今存七首。)

千峰凌紫煙　中有梵王闕
靈昤樹幽棲　塵心自超越
松篁發春靄　桂實墜秋月
爭得謝人世　茲焉老華髮(右本寺)

古竇鳴幽泉　蒼崖結虛宇
六月期客遊　披襟苦徂暑
開窗弄清淺　吹鬚疑風雨
不見白使君　煙蘿為誰語(右冷泉亭)

竺慧指此峰　飛來自靈鷲
猿鳥曾未知　煙嵐尚依舊
興亡謾千古　天地豈關紐
秖恐丹壑移　他年卻西走(右飛來峰)

鶴髮山中人　流水鑿幽石
如凭青玉案　分遞白雲液
泠泠濺鼎俎　琴瑟穿瑤席
醉坐三伏中　煩襟自消釋(右曲水亭)

矯矯淵下龍　潛神在靈府
雲興雖有時　泥沙可長處
陰崖寒氣腥　峭壁灼痕古
何當救旱暵　奮起為霖雨(右龍泓洞)

巨石如芙蕖　天然匪彫飾
磴磚峰頂邊　嬋娟秋江側
涉川試誰探　作礪當自惜
坐與榮華同　正心未嘗易(右蓮華石)

古澗飛白雲　寂歷不知處
風激石上泉　僧疑月中樹
微茫認松雪　髣髴橫樵路
悵望增爾思　蒼蒼奈煙霧(右呼猿洞)

靈隱寺

遵式

乾坤持中樞　動運非物圖
鬱鬱彼靈鷲　飄飄如飛鳧
層空累怪石　古木生石膚
仁虎終安棲　白猿時號呼
錢源注蛟室　謝月揚天衢
曩喆多遺塵　清風來四隅

白猿峰

人死猿亦亡　碧峰空崔嵬
六龍馭圓景　巨壑流紅埃
今亦看誠古　後還思悲哀
茲山俯南澗　水潔影如頹
春篠生嫩筠　秋蘭變枯荄
方新林下寺　吟此心悠哉

飛來峰

慧洪

意行忽出門　欲留聊執杖
雲間飛來峰　巋然眉睫上
氣勢欲翔舞　秀色無千嶂
萬物皆我造　何從有來往
大千等毫末　今古歸俯仰
心知目所見　皆即是幻妄
如窺鏡中容　容豈他人相
頗怪胡阿師　乃作去來想
此意果是非　一笑聲輒放
但復臨冷泉　舉手弄清漲

飛來峰

陳剛中

寒峰插天出　玲瓏萬菡萏
微風起松際　怪石勢搖撼
上有百尺松　幽花綴紅糝
野猿忽躍出　滴下露千點
回首冷泉亭　天鏡光瀲瀲

平生山水癖　如人嗜昌歜
對此一壺酒　玉色翻醉臉
路逢老祝髮　絳袍金光閃
茲山信自佳　恨為緇塵染
置之且復醉　天竺鼓紈紈

冷泉亭

白珽

靈山本清淨　一泉渟其中
靈山孤飛來　此水將無同
山影厭不盡　照見天玲瓏
分明千尺冰　不獨疑寒蟲
京洛多風塵　到此一洗空
炎寒無二心　凜有操者風
留然守空梵　萬劫豈終窮
驪山有温泉　虛築華清宮

翠微亭

張履信

朝朝鳥北去　夜夜鳥南歸
所謀在一食　所息在一枝
人生竟何得　與鳥同此機
身世與思慮　泉石良自怡
月上飛來峰　更誰登翠微

同項可立宿靈隱寺

黃潛

薄遊厭人境　振策窮幽躅
理公所開鑿　遺蹟在巖麓
秋杪霜葉丹　石面寒泉綠
仰窺條上猿　攀蘿共相逐
物情一何適　人事有羈束
卻過猊峰迴　望松林曲
前山夜來雨　溼雲漲巖谷
縹緲辨朱甍　禪房帶修竹
故人丹丘彥　抱被能投宿
名篇聊一咏　異書欣共讀
蹉跎未聞道　黽勉尚干祿
夙有邱壑期　吾居幾時卜

飛來峰

顧璘

靈峰自何來　嶔崎峙蒼鳳
羽翮不肯斂　時時欲飛動
海雲結輪囷　峆岈互勾控
虛房綴懸蜂　橫梁亘垂蝀
巨靈若雕削　真宰資玩弄
初臨側躬入　稍深復軒洞
蹈危若浮槎　瞰空疑覆甕
霪深日影墜　谷轉風馭送
陰深絺衣寒　躑躅芒履重
班荊趺舊席　剜苔記新頌
歸來眠不穩　一夜勞噩夢

靈隱寺

顧璘

水泛趣已綿　山行路仍窕
迤[這-言+里]經層巒　花宮冠林杪
峭壁概微霄　下映樓觀小
崖傾樹孤撐　亭遠泉重繚
蕭條僧氣閒　肅穆人聲悄
來遊屬秋暮　蕉葉青嫋嫋
入徑薰名香　憩澗狎幽鳥
顧瞻桃源深　捐佩苦不早
寄言都城子　來者一何少
誅茅倘吾遂　庶離寰中擾

飛來峰

蘇濬

吾聞靈鷲峰　乃在渤海濱
天然不雕琢　抱朴全其真
夜半有力者　負之置江津
六龍無停轡　徙倚若有神
泠泠羣籟響　粲粲百花新
鬼鑿詎不工　象罔已沉淪
玄黃實災木　翡翠豈藏身
曷若摧毛羽　元邱絕世塵

上北高峰

黃省曾

半涉神已慄　極振且逾眩
分野照可捐　山雲詎能辨
藩周縣界絡　江木海光見
松表鼯見清　崖間羽棲晏
東月已吐暉　西驪將隕晛
創觀世可遺　薄迎情猶眷

翠微搆翳隱　初春沃葱蒨
飧霞哂彼晚　遯谷矜我先
物軌諒有齊　意適無所羨
逍遙茲永言　抒心布明彥

靈鷲看紅葉，期沈無回不至；同吳伯霖、鄒孟陽、方回、嚴印持、聞子將飲冷泉亭；同邵古菴、江邦申分韻，得山字。

李流芳

故人紅葉下　頻期來此山
經旬始載酒　惆悵不同攀
邂逅愜心賞　歡焉開容顏
寒嚴愛晚氣　移席臨溪灣
泉光照酒白　木葉上衣斑
況接隱者論　暫令人意閒

冷泉紅樹圖

二十日西湖　領略猶未了
一朝別子歸　使我意悄悄
當我欲別時　千山秋已老
更得少日留　霜深變林抄
子常為我言　靈隱楓葉好
千紅與萬紫　亂插向晴昊
爛然列錦繡　森然建旂旐
一生未得見　何異說食飽
至今追昔遊　懊殺歸來早
豈意今復爾　萬事有魔嬈
相牽可奈何　是身如籠鳥
歸來千日餘　昨日試閒眺
澗邊小紅樹　向人亦嫋嫋

轉憶故人遊　西湖攬懷抱
開緘讀素書　因風為子道

萬曆癸丑季秋，與丹陽周仲純來遊韜光，靜坐三七日而去，書二詩紀勝遊云。

高攀龍

偶來山中坐　兀兀二旬餘
心中澹無事　宛若生民初
流泉當几席　眾山立庭除
高樹依巖秀　修竹夾路疏
所至得心賞　終日欣欣如
流光易蹉跎　此日良不虛
寄言養性者　速駕深山居

其二

落日在平野　悵然懷千秋
緬彼臨安區　當年棲王侯
樓臺何鬱鬱　冠蓋紛相酬
一朝世事盡　百代成荒丘
徒存指點迹　令人心傷憂
何如蓬廬士　偃息巖壑幽
詩書共朝夕　花木遞春秋
觴酌洽朋好　卧起親鳧鷗
豈不念世故　中心自有求
生有無窮娛　既沒名長流

和高忠憲公〈韜光菴〉二首

沈捷(大匡)

結伴巖上宿　夢魂恬有餘

曉起更清曠　再逢開關初
振策登危峰　緩步如堦除
嶔崎六七人　高下密復疏
三休竹樹間　共笑畫不如
廓然至其頂　仰面親太虛
歷覽不欲去　欲息難久居

開帙遇前輩　慄然悲九秋
先生不朽人　腐鼠嗤公侯
矢志踵其韻　高言誰能酬
今日復何日　社屋齊蒿邱
異代嗟興亡　何如身世憂
乾坤一漆室　俯仰白日幽
綰彼二三子　登眺延窮愁
我師佛圖澄　狎虎如狎鷗
何必去五嶽　目前縱所求
當年三七日　鴻名千載留

重登韜光步韻(七言律)

山中雪後溜春泉　竹筧清冷高下眠
日上海門懸玉斗　山臨江岸漾清蓮
琳宮已占大千界　仙宅應標尺五天
莫笑老人詩思怯　近來筋力減于前

九日同諸友登飛來峰

查繼佐(伊璜)

扶笻峰頂快登高　千里湖山一望遙
黛色敲開靈鷲石　波光飛到浙江潮
圖攢翠壑看三竺　錦醉青楓見六橋
狂嘯直舒天地外　滄洲共訂老漁樵

七言古

丁隱君歌

陸龜蒙

華陽道士南遊歸　手中半捲青蘿衣
自言逋客持贈我　乃是錢塘丁翰之
連江大抵多奇岫　獨話君家最孤秀
盤燒天竺春筍肥　琴倚洞庭秋石瘦
草堂暗引龍泓溜　老樹根株若蹲獸
霜濃果熟未容收　往往兒童雜猿狖
去歲猖狂有黃冦　官軍駭散無人鬥
滿城奔迸翰之間　祇把枯松塞圭竇
前度相逢止賣文　一錢不值虛云云
今來利作採樵客　可以拋身麋鹿羣
丁隱君　丁隱君
昂頭且莫變名氏　即日便尋丁隱君

和李杞〈題靈隱寺〉

蘇軾

君不見　錢塘湖　錢王壯觀今已無
屋堆黃金斗量珠　運盡不勞折簡呼
四方宦遊散其孥　宮闕留與人間娛
盛衰哀樂兩須臾　何用多憂心鬱紆
溪山處處皆可廬　最後靈隱飛來孤
喬松百丈蒼髯鬚　優優下笑柳與蒲
高堂會食羅千夫　撞鐘擊鼓喧朝晡
凝香方丈眠氈毹　絕勝絮被縫海圖
清風時來驚睡餘　遂起羲皇傲几籧
歸時棲鴉正早逋　孤煙落日不可逋

冷泉亭送唐林夫

蘇軾

靈隱前　三竺後　兩澗春淙一靈鷲
不知水從何處來　跳波赴壑如奔雷
無情有意兩莫測　肯向冷泉亭下相縈迴
我在錢塘六百日　山中暫來不暖席
今君欲就靈隱居　葛衣草履隨僧蔬
肯與冷泉作主一百日　不用二十四考書中書

靈隱寺

恭行己

靈山鑿開山骨路　慈雲側把黃金布
峰擎小朵凝華煙　井暗葛洪煉丹處
洞猿抱子隨人呼　竹龍弄珠愁水枯
列剎相望五天近　梵僧往還無時無
埽石雲堆命分坐　展眼三生容易過
李源別棹上瞿塘　牧豎唱歌天人和
西風昨夜吹早秋　千年辛苦驚白頭
耆婆樹下客歸去　茶瓢打翻方自由

虛白亭

見心復

洞然一室生虛白　包括須彌百千億
卧遊恍訝玻璃宮　幻出諸天帝青色
常作清靜觀　廓達含太空
水晶寒映座上月　玉氣晴射窗間虹
神光圓照徹中外　萬物朗融無隔礙

空明一色鏡涵天　觸目如居焰摩界
我光此室依靈光　閻浮大樹多陰涼
門開冷泉境　路入無何鄉
道人不起那伽定　夜明簾捲當銀潢
扶過毘耶城　超出摩竭方
身本無來亦無住　那用三萬二千獅子牀
了知有相皆非實　明暗色空誰辨的
莫教童子窺習禪　誤作水光投瓦礫
掃除聖解并凡情　純清絕點泯見精
忽驚兜率夢覺海　天曉紅輪輾破琉璃青

北高峰

洪鍾

策杖直上北高顛　俯視萬象皆茫然
螺攢翠擁互起伏　芙蓉朵朵相爭妍
江流東去自今古　山勢飛來如鳳舞
湖光十里傍城開　畫船日日聞簫鼓
簫鼓聲和發浩歌　人生志節當如何
功成身退有明訓　乞歸便向山之阿
山中風景真堪樂　朋徒詩酒常相約
香山洛社有遺芳　誰謂今人不如昨

岣嶁山房

皇甫涍

虎林勝擅飛來峰　谿梁亘度名廻龍
蒼松迎風鼓琴瑟　巧石向日開芙蓉
中隱仙人鍊鉛蕊　虛調橐籥分金水
週行神火退陰魔　幻出神珠細如米
赫奕光騰五色霓　服之壽與天皇齊
驅雷逐電護丹鼎　竊取應防后羿妻

我是青城鶴背客　洗頭猶怪南溟窄
攀翻靈鷲挹少微　暖煙蒸發山花赤
彷彿身遊何有鄉　萬竿修竹披雲房
劈芝饌玉奏鶯簧　瓦爐將爇柏鈴香
蟠桃酒瀉瓌瓢滿　醉卧山中歲月長

贈靈隱晦山大師歌

柯維楨(翰周)

我昨登匡阜　秀絕不可名
香爐五老得髣髴　屏風九疊煙嵐橫
宗雷慧遠近已久　東林精舍誰尋盟
攬師匡廬咏　奇偉洵可驚
奔騰飛瀑數千仞　矯矯筆力雄相爭
前聞黃鶴曾題句　蟻視禰衡鸚鵡賦
崔顥當年浪得名　卻笑青蓮投筆去
武林湖山最明秀　西域飛來有靈鷲
禪席東南說五山　祖庭法乳親承授
去年持缽來嘉禾　余方鼓柁湘江波
猊座獅音空遡聽　自憐學道常蹉跎
頻年苦行役　萬里信南北
屢欲從師杖履遊　心胸一為開茅塞
今朝挈侶過雲棲　疊嶂迴巒迥欲迷
冷泉亭下還相訊　應許追蹤舊虎谿

五言律

題靈隱山頂院

綦母潛

招提此山頂　下界不相聞
塔影掛清漢　鐘聲和白雲

觀空靜室掩　行道眾香焚
且駐西來駕　人天日未曛

候仙亭

白居易

蹇步垂朱綬　華纓映白鬚
何因駐衰老　只有且歡娛
酒興還應在　詩情可便無
登山與臨水　猶未要人扶

請韜光齋

白屋炊香飯　葷羶不入家
濾泉澄葛粉　洗手摘藤花
青芥除黃葉　紅薑帶紫芽
命師相伴食　齋罷一甌茶

宿靈隱

月色荒城外　江聲野寺中
貧知交道薄　老信釋門空
露葉彫堦蘚　風枝戛井桐
不妨無酒夜　閒話值生公

（附錄：權德輿〈下竺詩〉）

（暮過潭上寺　獨宿白雲間）
（鐘磬遙連寺　星河半隔山）
（石中泉暗落　松外初關）
（卻憶終南裏　前秋此夕還）

飛來峰

貫休

元是西天住　飛來莫去休
未辭仙佛國　好是帝王州
彼樹亦如寄　吾生應更浮
白猿呼不應　松露滴獼猴

寄杭州宋震使君

罷郡歸侵暑　仍思靈隱居
僧房謝朓語　寺額葛洪書
月樹獼猴睡　山池菡萏疏
吾皇愛清靜　莫便結吾廬

登北高峰塔

潘閬

高峰峰上塔　竟上最高層
常謂人難到　何當我獨登
天香聞不斷　海月見微稜
懶下紅塵路　重來恐未能

冷泉放閘

陸游

泉聲飛出閘　逶迤綠陰間
此地原無暑　多時不入山
草欹疑石墜　水定見魚還
誰得同龜鶴　遊吟半日閒

飛來峰

林景熙

何年移竺國　秀色發稜層
清極不知夏　虛中欲晤僧
樹幽嵐氣重　泉落乳花凝
猶憶烹茶處　閒來話葛藤

北高峰

唐玄英

絕頂無煩暑　登高三伏中
深蘿斜透日　喬木更含風
山疊雲霞際　川傾世界東
那知茲夕興　不與古人同

靈隱蓬萊堂

孫雄

堂開金色界　梵客好鈎簾
山影碧侵座　水聲清遶簷
彩雲埋石腳　珠露泣松髯
終擬攜孤笛　凭欄喚玉蟾

遊靈隱寺

道諫

長吟遊古寺　九里入青松
鳥向花間語　僧從月下逢
陰廊連碧殿　清磬雜疏鐘
回首夕陽晚　煙霞鎖亂峰

冷泉夜坐

趙師秀

眾境碧沉沉　前峰月正臨
樓鐘晴聽響　池水夜觀深
清淨非人世　虛空見佛心
卻尋來處宿　風起古松林

冷泉亭

知圓

幽亭無俗狀　清駛滌煩襟
砌壓寒流淺　簷分積翠深
晚花閒照影　古木冷垂陰
凭檻不能去　澄澄發靜吟

宿靈隱寺曉起

王問

看山逢雨色　猶得住招提
獨悟虛為性　方知往是迷
澗從窗下落　鶯在霧中啼
微梵來金界　冥冥隔竺西

宿歸雲菴

孫一元

獨坐山中寺　境閒真意存
瓦燈然石壁　松葉暗柴門
夜久無羣動　詩成偶自言
上方鐘磬早　山月落前軒

靈隱寺

孫枝

谷口隱青松　深山路幾重
高峰停落日　流水和踈鐘
樹古殘霞斷　雲歸一雁衝
冷泉亭上坐　歌嘯每從容

秋日鷲山雨後作

金風臨北牖　蕭瑟動輕衣
雨歇千峰翠　煙飛萬木稀
殘紅掛秋水　獨鳥下荊扉
欹枕長歌罷　悠然月色微

飛來峰

黃省曾

洞室曲仍曲　峰椒奇復奇
賦華形不似　遊習勝還迷
西鷲應宜記　東壺諒可齊
至今盤鬱境　猶似眾靈棲

韜光菴

田汝成

高閣迴塵氛　迢遙積翠分
漁歌湖上起　夜梵谷中聞
竟夕唯清籟　諸天盡白雲
倘逢鸞鶴侶　從此更離羣

至靈隱寺

王穉登

改朔逢流火　輕舠湖上行
兩峰爭出沒　一水隔陰晴
寺寺藏雲氣　家家枕澗聲
不辭沾法雨　來謁古先生

靈隱寺

謝肇淛

兩僧飛錫地　鷲嶺幾時分
古寺唯黃葉　秋山自白雲
雨花空外落　潮信定中聞
便欲吹笙去　清霄鸞鶴羣

韜光菴

虛閣倚岩巉　高秋氣沆瀠
亂山圍郭小　一水接江遙
峰勢全欺寺　鐘聲半雜潮
平生邱壑興　齋罷宿僧寮

峋嶁山房

黃汝亨

窈窕此山中　巖房一徑通
飛泉時帶雨　拂響坐臨風
人靜禪初梵　天高月正空
淒清聊奏曲　人世已鴻蒙

峋嶁山房

沈明臣

吳越新投社　山中覓故侯
白雲僧借榻　黃葉客登樓
月出境逾靜　溪深水自流
翻憐鐘磬發　破此一林幽

韜光菴

張蔚然

空王臺殿後　何意有珠宮
山轉疑無徑　樓高望不窮
江濤流日夜　海色上虛空
秋月懸孤嶂　婆娑滿樹風

五寺橋望諸雲泉怡老處

陳實

瀑水當禪境　流雲度石橋
松杉晴作雨　唄梵夜聞潮
謝眺空文藻　鍾期又寂寥
迴觀飛鶴去　莫負白雲招

靈隱寺暮歸

白珩

山色晚蒼蒼　山門下夕陽
栴林飄槲葉　新月到禪牀
逕出千峰秀　亭迴一澗長
淹留不可極　露溼薜衣裳

贈僧住靈隱

虞淳熙

象工來石室　寶跡繫金繩
六度初行忍　三皈始見僧
松雲空宿障　鷲日望朝升
桂子秋風裏　披衣拜駱丞

送僧住靈隱

夏衡

尋芳來上國　振錫復南還
一鉢隨緣飯　孤燈到處禪
晚風青豆雨　秋水白蘋煙
後夜鐘聲斷　相思湖水邊

靈隱寺

葉向高

山行情不厭　暑入景偏宜
古剎依靈壁　閒雲近酒巵
逢僧能識字　對客善題詩
蹤跡能如此　吾生媿鹿麋

遊靈隱寺

王思任

靈隱一孤峰　菴菴疊翠重
僧泉依竹驛　仙屋破雲峰
綠暗天俱貴　山寒月不濃
澗橋秋倚處　忽一響溪鐘

飛來峰

晦山顯

何代飛來此　空濛鬱亂青
千奇靈鷲石　一碧冷泉亭
壁破盤螺髻　幢高湧梵經
有僧孤頂住　夜半火浮星

冷泉亭

靈鷲真邱壑　當門水石香
亭幽人影靜　泉冷客心涼
古碧澄毛髮　空青照殿堂
高賢時策杖　一坐到斜陽

慧理開山祖塔(在迴龍橋道左)

欲表靈峰異　迦維特地來
雙猿呼洞出　五寺鑿雲開
石塔當溪口　全身聽壑雷
到山先覿面　誰慮沒荒萊

明教嵩禪師塔(在寺西永安塢)

五相傳堅固　遺幢號永安
鴻文三藏吼　鐵骨一龕寒
佛日弓裘在　靈山風樹看
法王留王氣　萬古卓雲端

蓮花峰

崔嵬最高頂　奇石水經傳
亂吸千峰翠　平開十丈蓮
冰霜鮮臘月　臺座逼空天
信是靈山物　拈來不記年

神尼舍利塔

塔在飛來峰巽角。尼名智仙，曾撫隋文帝。帝即位，勅建塔藏其舍利。

插漢浮圖古　傳來隋代尼
神通仙佛母　襁褓帝王兒
鬧市知天子　深宮禮聖師
靈山藏舍利　斑剝故朝碑

殿前石塔

五代錢鏐王為永師大師建。

矗立如雙闕　浮圖聳殿陰
悉檀錢氏物　標榜永明心
八面雕鏤古　千齡剝繡深
巨鼇擎不倦　劫海擁獅林

山門外石幢

高幢垂五代　端拱寺門雄
地湧虬螭角　天成神鬼工
蓮花開仰覆　佛頂峙西東

卓出靈峰半　招搖雲霧中

五羅漢松

古寺青垂蓋　崢嶸秀五松
似浮羅漢影　幸免大夫封
冰鐵開禪虎　支離類老龍
一株臨濟後　高蔭屬靈峰

濟顛祖師

怪爾真羅漢　縱橫魔佛間
師尊一瞎老　顛盡兩名山
詩偈天然韻　神通半雜頑
金身披破衲　頂禮欲開顏

韜光

盛伏投精舍　居然到冷扉
一池龍噴雪　四座瀑侵衣
金地蓮時放　晴堦雨暗飛
真禪高韻在　歎息仰餘暉

石筍峰

何人輪巨釜　斬劈卓雲峰
玉版撐孤壑　蒼煙破幾重
抽條難宿鳳　驚雨欲成龍
怪絕懸崖處　偏留此異蹤

冷泉亭

奕山萃

滴辭雲竇　泓澄北磵陰
亭餘玉局墨　記載樂天唫
影浸松杉古　光回殿閣沉
高軒如到此　六月已寒心

慧理祖塔

慧麟瑞

為問開山祖　雙猿洞未封
全身當谷口　一塔壓迴龍
錫掛西天月　雷轟鷲嶺鐘
欲知真面目　溪水盡朝宗

七言律

靈隱寺

司空曙

青山古寺遶煙波　石磴盤空鳥道過
百尺金身開鑿壁　萬龕燈焰隔煙蘿
雲生客到侵衣溼　花落僧前覆地多
不與方袍同結足　下歸塵世竟如何

靈隱寺

賈島

峰前峰後寺初秋　絕頂高牕見沃洲
人在定中聞蟋蟀　鶴曾棲處掛獼猴
山鐘夜渡空江水　汀月寒生古石樓
心欲懸帆身未遂　謝公此地昔曾遊

靈隱寺

白居易

一山分作兩山門　兩寺元從一寺分
東澗水流西澗水　南山雲起北山雲
前臺花發後臺見　上界鐘聲下界聞
遙想吾師行道處　天香桂子落紛紛

辭白太守齋

韜光

山僧野性好林泉　每向巖阿倚石眠
不解栽松陪玉勒　惟能引水種金蓮
白雲乍可來青嶂　明月難教下碧天
城市不能飛錫去　恐驚鶯囀翠樓前

立秋宿寺

蘇軾

百重堆案掣身閒　一葉秋聲對榻眠
牀下雪霜侵月　枕中琴筑落堦泉

崎嶇世味嘗應遍　寂寞山棲老漸便
惟有憫農心尚在　起占雲漢更茫然

中秋分桂贈楊元素

月缺霜濃細蘂乾　此花元屬桂堂仙
鷲峰子落驚前夜　蟾窟枝空記昔年
破衲山僧憐耿介　練裙溪女鬥清妍
願公採擷紉幽佩　莫遣孤芳老澗邊

汎舟入靈隱

林逋

水天相映淡溶　隔水青山無數重
白鳥背人秋自遠　蒼煙和樹曉來濃
桐廬道次七里瀨　彭蠡湖邊五老峰
輟棹遲回歸未得　上方精舍動疏鐘

宿永安遇雨

楊蟠

九里松門雪過時　籃輿嬝嬝礙松枝
雨留宿客還斜落　風送行人卻倒吹
華表忽驚黃鶴過　耳中猶聽白猿悲
來朝弗著登山屐　恐被人呼謝客兒

和楊蟠〈宿永安遇雨〉

契嵩

巖維靈徹出山時　被雨曾聞礙木枝
樹杪霜寒何足畏　管中春色亦堪吹
風寒鐘韻疑還散　水激溪聲咽又悲
鬬草野童君莫笑　初平原是牧羊兒

歲暮值雪，焚香獨坐，有懷章安楊公蟠錢湖草堂

沙門惟悟

檐外驚風幽鳥歸　窗前獨坐事還稀
初看曆日新年近　喜見山林驟雪飛
但憶故人能有詠　寧懷久客此無衣
鮑昭湯老能乘興　城郭何如在翠微

和契嵩有懷二公之作

惟悟

道安獨繼襄陽踵　詩好慵窺清晝評
竹屋數間經幾載　草衣三事傲平生
縱陪林下收孤迹　難學人間走大名
燈火已殘談未倦　曉風斜雨打窗聲

見山亭

張商英

簾捲疏煙醉眼開　浮雲飛盡見崔嵬
苦遭嵐氣遮藏久　深謝清風引致來
丹桂有時明月滿　舊山無路白猿哀
禪僧詰我真空理　心火茫茫一夜灰

靈隱訪舊

恭行己

西風倦客懶馳奔　今日扶藜偶出門
未學道林歸養馬　且尋慧理去呼猿
早行九里松多老　舊坐三生石尚温
勸爾更添茶一碗　此情須向此時論

泛舟入靈隱寺

楊維楨

九里松關一逕深　修廊千尺晝沉沉
佛安瑪瑙沉香座　僧住栴檀紫竹林
南北高峰天外筆　東西流水屋頭琴
冷泉亭畔閑盤礴　洗盡平生名利心

過鷲峰贈勤上人

楊維楨

高林初日散煙霏　謝客亭前多翠微
湖上海門獅子吼　山來天竺鳳凰飛
胡僧譚咒花生舌　木客題詩葉滿衣
誰識道人真樂意　九溪溪上御風歸

集慶寺

仇遠

半生三宿此招提　眼底交遊更有誰
顧愷謾留金粟影　杜陵忍賦玉華詩
旋烹紫筍猶含籜　自摘青茶未展旗
聽徹洞簫清不寐　月明正照古松枝

送復見心返杭，兼柬張伯雨

虞集

春雨西江漲百川　袈裟又上浙東船
行尋龍卧雲生徑　坐聽猿吟月浸泉
客裏有詩煩為寄　山中何法可相傳
故人或者尋張拙　鼻涕垂頤雪滿肩

飛來峰

朱衮

每怪青山行不動　誰傳靈鷲遠飛來
地幽合得芙蓉朵　神異真疑鬼物胎
碧玉洞虛留日月　黃金世近拱樓臺
年來悟得推移訣　時把乾坤運一迴

贈靈鷲勤上人

張紳

靈鷲禪房我所思　可堪春晚送勤師
半山啼鳥煙霞裏　一路落花風雨時

定有猿看窗外筆　應知苔護壁間詩
門前曲徑通三竺　欲向中天采石芝

觀魯侍郎冷泉亭放猿

錢思復

飛來峰上又成羣　好事誰無魯使君
金鎖曾經湘岸雨　黑衣猶帶峽山雲
不應淚落舟中聽　只許禪餘石上聞
千尺長松掛孤影　夜深山月白紛紛

靈隱寺

張翥

石梁濺水溼蒼苔　陰洞旁穿澗底回
殿閣瓊瑤從地湧　山林圖畫自天開
龍隨僧到分雲住　猿認人呼下樹來
遊興未闌斜日盡　馬頭呼酒尚徘徊

贈來復

蓮華峰下天香樹　吹老西風幾度秋
僧寶師真弘覺範　詩窮我亦孟參謀
文章宇宙千年事　身世江湖萬里舟
甚欲相期石橋路　更須同訪羽人邱

靈鷲山

西湖之西天竺深　天香滿峰多桂林
老猿引子下高樹　流水興雲來遠岑
上方已變劫灰黑　古洞長帶秋嵐陰
清輝娛人且歸去　後夜月明重來尋

冷泉亭

董嗣杲

小朵峰前玉鏡寒　幾回倚杖聽潺湲
箕公飲澗非凡水　惠理呼猿在此山
亭角靜依金剎古　樹深涼卧石闌間
無因可冼人間熱　時御清風照影還

靈隱寺

張寧

秋日秋山景色微　秋來風景解人稀
泉通金谷清偏冷　峰出雙林峻欲飛
黃葉下封遊客路　白雲閒護定僧扉
人生晚節須當惜　暢飲何妨到夕輝

呼猿洞

高德暘

冷泉亭外松千樹　時有老猿啼樹間
逐侶出雲風動壑　呼兒歸洞月橫山
曉空蕙帳人初去　秋入荷衣客未還
清響不聞巴峽怨　時聽嫋嫋和潺湲

九里松

喬松萬樹總良材　九里青松一逕開
雲氣直從天竺去　濤聲長傍海門來
人行道上依濃樾　子落僧前點嫩苔
山水清暉增佛觀　託根元不限徂徠

北高峰

鄧林

捫蘿百折上嶙峋　世界凡仙到此分
小朵岳蓮來異域　孤撐天柱入層雲
江湖俯看盃中瀉　鐘磬回從地底聞
借問須彌在何處　老僧留客且論文

北高峰

姚肇

高峰千仞石嶙峋　曲磴躋攀霄壤分
一路松聲長帶雨　半空嵐氣總成雲
上方樓閣參差見　下界笙歌遠近聞
誰似當年蘇學士　登臨處處有遺文

送無杰師住靈隱寺

宗啟

鷲峰遙想景依然　捧檄欣師赴冷泉
觸石碧流珠噴雨　滿山瑤草玉生煙

位高曾比中書考　任重當知少室禪
歸去若逢同社問　為言九鼎一絲懸

九里松

夏言

百盤雲磴入千峰　飛蓋行穿夾道松
長晝風雷驚虎豹　半空鱗甲舞蛟龍
江濤夜合秋聲壯　湖雨春添黛色濃
欲藉丹青圖直幹　恨無韋偃得相從

九里松，次夏公謹韻

楊一清

出林遙見兩高峰　又歷周行九里松
午後煙雲來野鶴　四時風雨撼遊龍
孤根拔地疏仍聳　秀色參天老更濃
若遣移栽向吾土　賓車無日不過從

九里松二首

李攀龍

三天嘉樹儼成行　下接枌榆即故鄉
遠勢不隨雙澗盡　層陰並落二峰長
葉棲金掌仙人露　幹挺烏臺御史霜
孔雀東飛煩再顧　欲從威鳳託清光

其二

武林佳氣日蕭蕭　夾道長松入望遙
黛色疑從天目雨　寒聲不辨浙江潮
含悽風與枯鱗起　倒影雲隨偃蓋飄
非直有心同竹箭　懸籬爭敢附高標

九日靈隱

王世貞

秋山鐃吹擁登臺　龍藏含雲鬱未開
天際兩高風雨色　客中重九弟兄杯
茱萸插罷偏成感　竹葉飛時不待催
昏黑上方那可到　諸君虛有大夫才

九里松

偃蓋垂髯一萬株　鬱葱佳氣冠江湖
長依漢地三天竺　不數秦時五大夫
永夜濤聲遙自合　高秋嶺色未全孤
無勞白眼輕人世　雨後芝蘭好更鋤

宿靈隱寺

王穉登

寄宿招提不裹糧　自慚玄度友支郎
樓高隔海猶看日　臘盡空山未有霜
烏鳥慣聽齋後偈　白雲長和佛前香
新成十丈琉璃殿　夜夜長依慧火光

靈隱社集，得峰字

李維楨

松風謖謖水溶溶　茗碗薰爐野衲供
社按蘭亭修禊節　石移靈鷲削成峰
英詞注射霞餘綺　欵語流連日下舂
信美東南饒竹箭　漫隨春草鬥丰茸

李本寧觀察招同徐、馮諸公集靈隱寺

屠隆

使君暇日訪山靈　太史遙瞻聚德星
磴灑飛流和眾樂　松含返照入孤亭
曉堂香冷龍衣缽　夕殿風生虎扣扃
物外勝蓮真境在　坐令心骨轉清泠

前題，得泉字

馮夢禎

使君張樂借諸天　接武名流不偶然
寺影直懸江樹外　松聲常樂海潮邊
年衰幸齒人如玉　春老欣逢酒似泉
且喜東南饒勝集　還愁西北有浮煙

訪李岣嶁山人於靈隱寺，公自注：「時被繫暫放；先是寓杭時，稍暇則扁舟湖上，故有末句。」

徐渭

岣嶁詩客學全真　半日深山說鬼神
送到澗聲無響處　歸來明月滿前津
七年火宅三車客　十里荷花兩槳人
兩岸鷗鳧渾似昨　就中應有舊相親

遊靈隱，登韜光，望見江海

張嘉禎

招提側畔涉岩嵓　萬竹層陰曲磴遙
怪石每扶山閣出　驚潮時逐野雲飄
煙霞仙窟藏真隱　臺殿晴空見遠潮
卻憶昔人滄海句　當年靈隱在山椒

岣嶁山房

沈明臣

白石青松古道幽　憐君消盡百年愁
相逢不用通名姓　坐嘯真能任去留
竹暗泉聲來北澗　月明人語在西樓
無眠共作雲門客　趺坐微吟擁敝裘

韜光

王思任

雲老天高結數楹　濤呼萬壑盡松聲
鳥來佛座尋花去　泉入僧廚漉菜行
一捺斷山流海氣　半株殘塔插湖明
奇峰占絕杭州勝　留與韜光作隱名

三生石

袁宏道

此石當襟尚可捫　石旁斜插竹千根
清風不改疑圓澤　素質難雕信李源
驅入煙中身是幻　歌從川上語無痕
兩言入妙勤修道　竹院雲深性自存

飛來峰

徐增(子能)

竺僧到此忽停笻　曾在西天見鷲峰
香水海中留過影　妙高山頂透來龍
天生佛石苔攢髻　洞有神猿臂掛松
風起還愁飛欲去　武林雲護幾千重

飛來峰

晦山顯

不是雙猿突杳冥　何人信得此山靈
浮來洞壑三天遠　削出芙蓉萬朵青
舍利塔連慧理塔　冷泉亭對翠微亭
他鄉遙望如蓬島　六載雲瓢寄浪萍

蓮花峰

捫蘿千尺類飛猿　怪石蓮花聳獨尊
何代巨靈揮玉斧　突然泰華走雲根

六橋湖翠吞山市　萬里江濤接海門
兀坐山椒空外望　煙巒猶似昔乾坤

贈北高峰念響佛僧

僧，新安人，號玉真，居半山元帥殿。每夜半唱佛，山谷震動，聲聞數里。或繫板經行眾峰，時遇大蟲，亦無損，真異人也！

藥山清嘯露真風　佛號高提見此公
半夜鯨鏗青嶂外　一聲鶴唳白雲中
擊開大夢湖山動　喚醒沉迷世界空
行遍眾峰狼虎避　回頭滄海日初紅

靈隱寺

獨任雲

峰高南北望曾收　峰下瀟瀟水自流
煙裏鐘敲松徑晚　雨中幢插寺門秋
僧因定起尋花遠　客為雲開步月幽
天際渾疑兜率界　樓臺百二見江洲

前題

奕山萃

鈴鐸遙新晉覺場　巍然屹峙兩峰陽
幢扶玉樹雲垂蓋　泉浸金蓮石溜香
龍為法調親寶座　虎因機息伴繩牀
天山赫奕傳家遠　鐵鶻風高亘古揚

前題

迂叟賢

寺對泉亭水石香　川原野色曉蒼蒼
樓臺北枕高峰險　谿路西連大滌長
松際鶴鳴千嶂月　洞中猿嘯一天霜
信知勝地無塵染　到此煩心頓覺涼

前題

慧麟瑞

靈山此日快初逢　九里松陰古徑通
自昔飛來峰突兀　至今不改石玲瓏
寒生佛面雙谿月　幽鎖猿聲一洞風
最是深秋開繡谷　層層紅葉向珠宮

秋日宿靈隱寺

嵇宗孟

寶剎崔嵬霄漢間　羣峰鵠立洞門閒
泉聲日咽千巖雪　樹杪雲封萬疊山
好月當頭看不厭　清談徹夜俗俱刪
曉天鐙火芙蓉岸　趁有漁人理棹還

五言絕

望海亭

蘇軾

漸聞鐘磬音　飛鳥皆下翔
入門空有無　雲海浩茫茫

客兒亭

楊蟠

昔日林間興　風流謝客兒
春山花又發　不見屐來時

韜光

寂寂堦前草　春深鹿自耕
老僧垂白髮　山下不知名

遊北高峰

杳杳孤峰上　寒雲帶遠村
不知山下雨　奎斗自分明

九里松

道濟

九里松陰路　青泉映白沙
誰知三伏暑　小草有幽花

了義塔院

守嶂

草深煙際重　林茂夕陽微
不雨花猶落　無風絮自飛

賜德光

宋孝宗

大暑流金石　寒風結凍雲
梅花香度遠　自有一枝春

飯猿臺

張光弼

僧既非昔年　猿亦異往日
惟有飯猿臺　猶是當時石

合澗橋

西澗何年合　一橋終日閒
桃花逐流水　未覺是人間

冷泉亭

姚鉉

水石一欄杆　僧歸四山靜

攜琴譜澗泉　月浸夜深冷

靈鷲

皎然

山頂東西寺　江中旦暮潮
歸心不可到　松路在青霄

呼猿洞

張履信

飛來何處峰　木杪過千尺
愁猿喚不應　月色同一白

靈鷲

湯漢

問禪去靈隱　聽法去天竺
還有無求人　來尋靈鷲宿

韜光三首

張鼐

結茅倚長松　松濤徧幽壑
山僧何處來　坐久松花落

其二

萬山看不盡　獨樹意相親
自是東籬叟　翻來蓮社人

其三

花徑宿煙霞　柴門來杖屨
枳殼自春風　芭蕉又秋雨

飛來峰

晦山顯

尚有淩空勢　驚看洞壑懸
只疑山未久　飛到自西天

冷泉亭

雪練來何急　衝煙下碧湍
亭前藍靛水　萬古逼人寒

七言絕

飛來峰

方干

邃巖喬木夏藏寒　牀上雲溪枕上看
臺上漸多山更拙　卻令飛去即應難

靈隱寺

石路泉流兩寺分　尋常鐘磬隔山聞
山僧半在中峰住　共占青猿與白猿

靈隱寺

權德輿

曾過靈隱江邊寺　獨宿東樓看海門
潮色銀河鋪碧落　日光金柱出紅盆

北高峰

王安石

飛來山上千尋塔　聞說雞鳴見日升
不畏浮雲遮望眼　自緣身在最高層

題了義塔院二首

宋高宗

古寺春山青更妍　長松修竹翠含煙
吸泉擬欲增茶興　暫就山房假榻眠

久坐方知春晝長　靜中心地自清涼
人人圓覺何曾覺　但見塵勞盡日狂

九里松

楊萬里

被雨遊山也莫嫌　卻緣山色雨中添
人家屋裏生松樹　穿出茆簷卻覆簷

冷泉亭

林丹山

一泓清可沁詩脾　冷煖年來只自知
流出西湖載歌舞　回頭不似在山時

宿靈隱寺

恭行己

天竺雨花飛講臺　北山門對冷泉開
石擎老樹無人識　時有黃猿抱子來

呼猿洞二首

周紫芝

呼猿洞口水濺濺　忽見奔流下九天
乞得少陵三峽句　為君題作倒流泉

萬里西興浦口潮　浪花真似海門高
誰將一夜山中雨　換作三江八月濤

飛來峰

西邨

何處飛來息羽衣　我來唯恐又驚飛
葛陂拾得仙人杖　不敢提攜上翠微

香林洞

黃初菴

日射巖扉曉霧開　杖藜掛石破蒼苔
一雙蛺蝶隨人去　知是香林洞裏來

冷泉

張輅

躡屩捫蘿上翠微　綠雲深處叩禪扉
老僧能誦香山句　驚落松花坐客移

冷泉

張輿

小朵峰巒擁翠華　倚雲樓閣是僧家
凭闌盡日無人到　濯足寒泉數落花

聽猿

吳大有

月照前峰猿嘯嶺　夜寒花落草堂春
同來蜀客偏腸斷　曾是孤舟渡峽人

冷泉

陸圭

雨過山頭夜氣清　天風吹下步虛聲
道人酒醒推窗看　月在琅玕竹上明

飛來峰

湯節

何處飛來小朵峰　冷泉亭伴數株松
黃猿引子隨僧去　知在雲山第幾重

呼猿洞

李草閣

靈隱寺外冷泉亭　蘿風吹日盡冥冥
猿啼一聲松子落　無數白雲生翠屏

韜光

王順

瘦藤拄到古韜光　分得山房半榻涼
白髮老僧從定起　斷雲漠漠護殘香

冷泉亭

曹既明

朱簷日靜軒窗冷　碧嶂雲低草樹香
山影倒沉波底月　夜闌相對瀉寒光

靈鷲山

孫一元

露下螭蛄空砌鳴　山僧不問短長更
天風吹人酒欲醒　北斗插江河半明

飛來峰

張瀚

蓮華峰下石嶙峋　一派寒泉繞綠筠
猶有紅香凌白雪　山中疑是四時春

送祥都綱兩住靈隱

吳遵晦

琅玕萬疊映瀟湘　一片清秋占上方
高節昔年曾掛錫　又看枝畔起新篁

韜光泉

李芳春

危亭海氣直飛來　點點江帆出斷崖
一帀光收千里意　神山十二鏡中開

登北高峰

孫日章

攀藤獨上最高峰　絕壁危巖路未通
我自登臨何處望　白雲秋色大江東

靈鷲山月歌

孫日隆

西山樹色滿高秋　曲澗潺潺抱石流
月出飛來連疊翠　羣峰不斷古杭州

庚午初冬遊韜光，遇憑虛上人

文震孟

斜陽竹樹影蕭蕭　獨有幽蛩破寂寥

萬境不波心似水　滿庭紅蘂映山椒

冷泉亭

晦山顯

飛泉兩道寺門收　湛碧堆藍萬壑秋
六月空亭遊客到　颯疑冰雪滿林邱

呼猿洞

雙猿呼出駭奇聞　驗得靈峰鷲嶺分
黑白不知今在否　長留幽洞冷藏雲

靈隱寺石

嵇宗孟(淑子)

碧殿金鋪十二重　講筵坐遶萬芙蓉
道人不解風旛論　獨愛門前六六峰

冷泉亭

萬丈懸崖百丈泉　玉簫吹徹洞中天
正愁明月寒侵骨　卻被青松遮半邊

飛來峰

一洞相隣一洞幽　探奇得得買燈遊
不須更問生公法　滿腹機鋒是石頭

呼猿洞

劃地掀翻獅子窟　撩天鼻孔眼如燈
猿公莫證慧公法　一笑山門長葛藤

靈隱寺

張新標(鞠存)

天開鷲嶺佛圖遙　玉埒金鋪接絳霄
釐祝太平無細響　鐘聲殷入浙江潮

冷泉亭

千峰礙日樹參天　望入空亭已冷然
雨後還逢飛瀑急　泉聲百道不聞喧

飛來峰

誰謂飛來法象奇　穿雲裂石影離離
風雷洗剔靈根見　萬朵芙蓉盡倒垂

韜光菴

靈岩西上萬峰懸　小徑深藏不及

山半看山山色異　層層白雪界青蓮

五言排律

遊靈隱寺

駱賓王

鷲嶺鬱岧嶢　龍宮鎖寂寥
樓觀滄海日　門聽浙江潮
桂子月中落　天香雲外飄
捫蘿登塔遠　刳木取泉遙
霜薄花更發　冰輕葉互彫
夙齡尚遐異　披對滌煩囂
待入天台路　看余度石橋

宿靈隱寺

白居易

在郡六百日　入山十二迴
宿因月桂落　醉為海榴開
黃紙除書到　青宮詔命催
僧徒多悵望　賓從亦徘徊
寺暗煙埋竹　林香雨落梅
別橋憐白石　辭洞戀青苔
漸出松間路　猶飛馬上杯
誰教冷泉水　送我下山來

遊靈隱寺

張祐

峰巒開一掌　朱檻幾環延
佛地花分界　僧房竹引泉
五更樓下月　十里郭中煙
後塔聳亭後　前山橫閣前
淒沙涵水靜　澗石點苔鮮
好是呼猿久　西巖深響連

飛來峰

西南山最勝　一境是諸天
上路穿巖竹　分流入寺前
躡雲丹井畔　望月石橋邊
洞壑江聲遠　樓臺海氣連
塔明春嶺雪　鐘散暮松煙
何處去猶恨　更看峰頂蓮

月桂峰

慈永

丹桂生瑤實　千年會一時
偏從天竺路　祇向月宮知
出海光輪滿　當軒月樹欹
嬋娟含素影　淩亂下宮墀
泉客珠連並　秋荷露忽垂
林間僧共拾　猶頌樂天詩

靈隱寺

王世貞

步屧徑隨盡　招提天忽開
山驅丹鷲下　泉捲白龍迴
石氣清僧席　藤陰裊佛臺
鐵衣雙大士　金粟萬如來
寺愧題名隱　詩憐異代才
遊人日何限　無地著蒼苔

韜光菴

朱之俊

阿曲遵途遠　巖空積樹危
疊臺侵石骨　架塔暗雲枝
竹窅泉聲細　林深磬響遲
青川千里目　綠嶂百重思
海月江心動　松風麥壟吹
蒼煙隨谷長　碧葉倩雲滋
溜滴多新致　人來非昔時
凭高僧氣盡　坐久道心期
銀燭消殘唄　金蓮冒小池
山將情共寂　莫謂有文移

韜光

錢受益

連雨催遊興　登臨及小晴
嵐開羣樹出　湍響眾山鳴
江水雲間起　湖光竹外平
卧橋虹屢飲　踏石虎前迎
納子渾如舊　神仙若可成
扶攜行碧落　憩息坐青屏
更上奇難盡　盤旋趣轉并
悵然天欲雨　啜茗說長生

遺事

孫宇台之誌靈隱也，有〈山林碎錄〉一卷，其言曰：「高僧之迹、名賢之概，既詳之矣；而遺言、逸事，亦何可廢耶？」宇台之好賢樂善，舉前人之一言一動不敢遺漏，用心良苦矣！為誌遺事第十三。

飛來峰下龍泓洞側，或云：「有洞通浙東蕭山，徹浙江下。有採石乳者入洞不已，聞波浪篙櫓之聲，懼而返。」

新城縣有靈隱洞，在新安鄉。高十丈，濶五丈，深莫測。中有澗水，四時不竭。昔有人遊洞中，逾三日不出；忽見坐洞前石上。問之，曰：「入洞深處，逢神人叱之，不覺身出至此。」

月中桂子，見唐天寶年間；宋天聖丁卯秋七月、八月十五兩夜，皆雨桂子，已詳〈慈雲詩序〉。又張君房為錢唐令，夜宿月輪山寺。僧報曰：「桂子下塔。」遽起望之，紛如煙霧，回旋成穗，散墜如牽牛子；黃白相間，咀之無味。則桂子之落往往有之。《本草圖經》註云：「江東諸處多于衢路拾得桂子也。」今北高峰後名月桂，以此也。

邵山子曰：「唐九里松今將千歲，大者五六人抱，虬枝偃蹇，龍幹攫拿；有一根雙幹挺然者，有苓窠蒼翠鬱茂者，有樛枝下垂可手按者，奇形怪狀，為海內異觀。數年之間，所存略盡，已絕無極大可入畫者。此山後，桐村塢土穀祠，有松六株，甚奇古。好事者欲觀九里舊松，于此地訪之可也。」

下竺古名天竺，其地、其景蓋皆靈隱也。如李太白、崔顥之詩皆可入誌，而以天竺限之。李詩有「桂子落秋月」，崔詩有「青翠滿山、藤蘿覆沼」之句，非靈隱而何？或謂宋時以南山演福寺為南天竺，以北山靈峰寺為北天竺，以西方為尊而三竺同謂之西天竺，似三竺與靈隱無與；不知上竺創于石晉，中竺開于唐時，而下竺則與靈隱同建于慧理。故凡古人之稱天竺者，當與靈隱同稱也。

天目山有二水，一條東流經於潛、臨安，百五十里至餘杭，為苕溪；又東三十里抱錢唐，又東北流六十里過湖州，入太湖；一條西趨於潛，為紫溪，合桐廬之水滙於錢唐。此郭璞所謂「天目兩乳」也。南山如龍，北山如鳳，此郭璞所謂「龍飛鳳舞」也。海門一日兩潮，日輪正從鼈子門上，此郭璞所謂「金星」也。其塊土為帝王都會，璞留讖記，蓋預知五百年潮打西興，然後為帝王都會也。夫自郭璞以前，南北皆為武林山；嗣後始有龍飛鳳舞之目。然

南山有鳳凰山，是南山亦可曰鳳；而北山有橋曰迴龍，有洞曰龍泓，是北山亦可曰龍也。

宋僧祖秀所撰《華陽宮艮嶽記》曰：「因土積為岡陵，山骨暴露，峰稜如削，飄然有雲姿鶴態者，名飛來峰也。」才人文士之品題飛來峰者多矣，未若「雲姿鶴態」四字為能得其神也。

楊應詔先生記飛來峰曰：「側見諸洞窟玲瓏，余穿崖隙入，恍石乳垂垂其上，石青紫有光；每窟穴處，雲滃滃然起，至此不覺神怡氣釋。」此可謂得其狀者矣。

葛稚川隱於飛來峰，故有稚川亭畔。而唐時又有葛道人隱居於飛來峰仙去，故唐人有詩云：「二葛已仙去。」是飛來峰有二葛也。

道濟化後，有人遇於六和塔。〈寄嵩少林書〉有「空屋退還主人，衣鉢任人將去」。僧之神通莫可端倪，未有如濟顛也。

贊寧，博聞多識，雖張茂先不能遠過。徐常侍鉉仕江南日，嘗襆被入直澄心堂。至飛虹橋，馬輒不進；裂鞍斷轡，箠之流血，掣韁卻立。鉉遺書贊寧，贊寧答曰：「下必有海馬骨，水火俱不能毀，惟漚以腐糟，隨毀者是也。」鉉斸之，去土丈餘，果得巨獸骨，上脛可長五尺，膝而下長三尺，髀骨若段柱然。積薪焚三日不動，以腐糟漚之遂爛焉。徐諤嘗得畫牛一幅，畫嚙草欄外，夜則歸臥欄中。持以獻後主煜，煜獻之宋太宗，以示諸臣，無能辨其理。贊寧曰：「南倭海水或滅，灘磧微露，倭人抬方，諸蚌腊中有餘淚，和色著物則晝隱夜見。沃焦山或風燒飄擊，有石落海岸，滴水碧色，染物則晝見夜隱。此二形殆二物所畫也。」

錢王有鐵幢三，一在舊便門東南小巷，一在舊薦橋門外，一在利津橋。蓋其時塘未成也，慮潮蕩幢，用鐵輪護其趾，而以鐵綆貫幢幹，且引綆維於上下之楗，然後實土築塘，蓋其難也。然不如六和塔成而潮可平、塘可就也。為之者，僧都統贊寧、禪師延壽也，皆靈隱知識也。

錢王以强弩五百人射潮而使之平，欲以就塘也。然不如炬菩薩咒龍而使之聽法也；又不如曇超之能致吳行人之以形見也。甚矣，靈隱僧之多奇也！

三竺靈隱屢有高僧，然不如靈隱為盛也。即以著書而言之，如所謂《宗鏡錄》、《證宗論》、《三教編》、《十地歌》、《輔教編》、《定祖論》、《正宗記》、《鐔津集》、《高僧傳》、《內典集》、《靈苑集》、《林道集》、《蒲室集》、《倦遊集》、《奏對錄》，皆斌斌可觀也。甚矣，靈隱僧之多奇也！

禪家之于詩，偈頌之餘也；而靈隱僧之以詩名者，自清晝而外，不能悉數。即如延壽〈夜坐詩〉曰：「孤猿叫落中巖月，野客

吟殘半夜燈。」即詩人亦當遜步。契嵩與章安唱和詩，皆清新不媿古人。至惠遠奏對九重、鐵牛咸傑，皆有遺句。若見心、守仁，以能詩著名，又不必言矣。如無文、景隆皆深透宗旨，而詩都雅可觀。豁公為三峰嫡孫，其佛法舉世共推，而詩名早已著海內，有破堂諸詩，尤膾炙人口。可貴哉，靈隱僧之能詩也！

歐公《集古》最富，其〈靈隱最勝幢〉「寶大二年歲次乙酉」，未之見也。《五代史》謂錢氏有改元而無稱帝之事，然獨得其封落星石制書，稱寶正六年辛卯耳。不知其先，朱梁篡唐之明年為戊辰，改元天寶。臨安府尊勝幢云：「時天寶四年，歲次辛未」，此一證也。歐陽見其一而不知其猶有二也。要以錢氏當朱梁、李唐，有用正朔、不用正朔之時；至漢晉周則無不奉正朔者矣。若清泰、廣福、開運、會同、乾祐、顯德諸石刻皆可見。

〈廬山記〉云：「謝靈運見遠公而異之，以北本《涅槃經》繙為南本三十七卷。」則臺在廬山，而茲山更見，豈後人希謝氏之高蹤而託名耶？邵古菴曰：「不然也！廬山之所謂繙經者，繙譯也；此所謂翻經者，翻閱也，義各不同。」

至正壬辰，月中娑羅子隨雨而落，仁如松子，與張君房慈雲懺主所見桂子又異。是月中有桂又有娑羅也。

齎神尼舍利至靈鷲者，隋時慧誕法師也。誕，當時有名，講席高流也，所發石函與舍利函不差尺寸，又何奇也！

神尼名智仙，相傳為神尼舍利塔；然當年塔舍利，非塔神尼也。按釋迦舍利珠八斛四斗，其三之一住人間。阿育王置塔八萬四千，東震旦得塔十九，其粒不可得計也。康僧會懸佛七日，得七粒。曇榮懇之，自三粒至三百粒。隋文帝遇阿羅漢授舍利一裹，與法師曇遷數之，數多數少莫能定。乃七寶函致雍、岐等州，州各一塔，則靈鷲亦其一也，安得謂為神尼耶？邵古菴曰：「七寶廂，或尼督造有名而訛至今，亦未可知。」雖然，他州不言神尼而此獨言神尼，則又安知其不為神尼而塔也？

天醫波利多，乃天醫菩提化身，淳熙間居飛來峰。天台臨海婁氏子，年十五，厭俗，來參，師問云：「何來？」對曰：「從緣來。」師曰：「是何性？」對曰：「是佛性。」師曰：「子身尚俗，安識佛性？」對曰：「我身雖俗，因俗符真；真俗圓融，洞然無二。」利多異之，乃與落髮、受戒，名善戒，世稱「戒闍黎」，後住兜率院。按戒闍黎與炬菩薩，皆古佛下生而為靈隱散聖也。

南齊時，嵩山寶公向林慮白鹿山行，忽聞鐘聲，見一寺，題曰「靈隱」。寶入寺法堂坐，閒焉無人。仰視屋上，開孔如井，徐有僧從孔飛下，次第至六十眾。坐已，各問：「今日何處齋？」或言豫章、成都、嶺南、冀北、五天竺，動千萬里。最後一僧至，眾

問：「何遲？」答曰：「相州彼岸寺鑒禪師講法，有一僧難問蜂起，聽之不覺日已暮。」寶起曰：「鑒師是我和尚。」遂失寺與僧，乃獨坐柞木上。出山，問大統法尚，尚曰：「此廢寺，佛圖澄造，賢聖居之，至今往往聞鐘聲。」夫林慮之與武林遠矣，乃佛圖澄之址；而寶公恍惚所見寺題「靈隱」，抑所不解。

稽留峰下，許玖、許現墓在焉。玖，許遠子，以遠死節，拜婺州司馬。現，遠他子，貞元中復官之，皆葬于此。許為鹽官人。

吳說書「九里松」，高宗欲易己書，命筆數十幅，歎曰：「無以易說所書。」未幾，吳授信州守，陛辭。高宗因語之曰：「九里松是卿書乎？朕嘗書此，終不如卿。」吳益遜謝，即令復揭之，勅賜填金。說，吳師禮子，王安石之外孫也。

光堯鑿大池於宮內，引水注之，疊石為山，象飛來峰，名其堂曰冷泉。孝宗嘗賦詩曰：

山中秀色何佳哉　一峰獨立名飛來
參差翠麓儼如畫　石骨蒼潤神所開
忽聞倣像來宮囿　指顧已驚成列岫
規模絕似靈隱前　面勢恍疑天竺後
孰云人力非自然　千巖萬壑藏雲煙
上有崢嶸倚空之翠壁　下有潺湲漱玉之飛泉
一堂虛敞臨清沼　密蔭交加森羽葆
山頭草木四時春　閱盡歲寒長不老
聖心仁智情優閒　宮中天地非人間
蓬萊方丈渺空濶　豈若坐對三神山
日長雅趣超塵俗　散步逍遙快心目
山光水色無盡時　長將挹向杯中涤

光堯覽之欣然。

淳熙十一年六月初一日，車駕過宮，至冷泉堂。早膳訖，太上宣諭云：「今歲與常年熱甚。」上起答云：「伏中正要如此。」太上云：「今日且留在此納涼到晚去。或三省有緊切文字，不妨就幄次進呈。」上領聖旨，遂同至飛來峰看放水簾。時荷花盛開，太上指池水云：「此種五花同幹，近伯圭自湖州進來。前此未見也。」堂前假山、修竹、古松，不見日色，並無暑氣。後苑小厮三十人打息氣唱道情。太上云：「此是張掄所撰鼓子詞。」後苑進沆瀣漿、雪浸白酒。上起奏曰：「此物恐不宜多喫。」太上曰：「不妨，反覺爽快！」上曰：「畢竟傷脾。」太上首肯。因閒說宣和周公公：「每遇三伏，多在碧玉壺及風泉館、萬松庄等處納涼。此處涼甚，

每次侍宴，雖極暑中，亦著衲襖兒也。」命小內侍宣張婉容至清心堂撫琴，并令棋童下棊，及令內侍投壺賭賽利物雜劇。官家進水晶提壺連索兒，可盛白酒二斗，白玉雙蓮盃柈、碾玉香脫兒一套，六個大金盆，一面盛七寶水戲，并宣押趙喜等教舞水族。又進太皇后白玉香珀扇柄四把、龍涎香珠佩帶五十副、真珠香囊等物，直至一月初還內。

宋吳郡王益，憲聖太后之弟。一日竹冠、練衣、芒鞋、笻杖，攜一童縱行靈竺，濯足冷泉盤石之上，遊人望之，儼若神仙。邏者奏聞。次日德壽以小詩召之曰：「趁此一軒風月好，橘香酒熟待君來。」王亟往，光堯迎笑曰：「昨日冷泉之遊，樂乎？」王頓首謝。光堯曰：「朕宮中亦有此景，卿欲見之否？」蓋疊石引泉，象飛來香林之勝，架堂其上曰冷泉。而亭中揭一畫，乃圖王野服濯足之狀，且御製一贊云：

富貴不驕　戚畹稱賢
掃除膏粱　放曠林泉
滄浪濯足　風度瀟然
國之元舅　人中神仙

盡醉而罷，因舉圖以賜之。

瞎堂嘗侍孝宗幸飛來峰，上曰：「既是飛來，如何不飛去？」對曰：「一動不如一靜。」至上竺，上曰：「觀音亦持數珠，念誰？」對曰：「仍念觀音。」上曰：「何也？」對曰：「求人不如求己。」

嘉定中，進士錢唐范師孟遊靈隱，忽覩五福祠後石松奇古，賦詩曰：

根盤巨石四時青　陌上香泥豈敢侵
不但詠誇奇異迹　也須珍重歲寒心

既歸未久，隱几間，忽見二吏控馬來，師孟隨至冷泉亭，下馬登山，至絕頂大殿；六人環坐，皆起迎，獨未坐者款師孟至一堂，曰聚星，謂師孟曰：「適見佳篇，欽公達者，故託素懷。余婺原人，慕錢唐名都靈隱古剎高峰冠絕，故擇居焉。然昆季素性公直，福善禍淫，奉天之道；而世人妄意謂福可邀，是速罪戾耳。且奉西竺教，久無他嗜，幸君白之人間，勉為善而已矣，賽余何益？」師孟既受教，請曰：「聞神昆弟五，今六，何也？」神曰：「是能賦『疏影橫斜』句處士也。陰間尤重文學，故與為好耳。」乃命竹輿

送歸。隱約由六橋，舁人失腳而覺，猶曲肱几上焉。高峰祈夢從此始。

唐時有李源者，京洛人。父憕，死安祿山之難。源悲憤，不仕不娶，居惠林寺三十年。與僧圓澤友善，相約遊蜀峨眉山。源欲自荊州沂峽，澤欲取長安斜谷路，源不可，曰：「吾已絕世事，豈可復道京師哉？」澤默然，久之曰：「行止固不由人。」遂自荊州路。舟次南浦，見婦人錦襠，負瓮而汲，圓澤曰：「此吾託身之所也。」源驚問之，澤曰：「婦人姓王氏，吾當為之子。孕三歲矣，吾不來，故不得乳。今既見，無可逃者。公當以符咒助我速生。三日浴兒時，公臨，視公以笑為信。後十三年中秋月夜，當與公相見於杭州天竺。」源悲悔，為具沐浴易服。至暮，澤亡而婦乳。三日往視之，兒見源果笑。源遂不果入蜀，反居惠林。後十三年，自洛適杭州，赴其約。聞葛洪亭畔有牧童菱髻，騎牛歌〈竹枝〉，隔水呼源。覿之，乃圓澤也。歌曰：

三生石上舊精魂　賞月吟風不用論
慚愧情人遠相訪　此身雖異性常存

源問：「澤公健否？」答曰：「李公真信士，俗緣未盡，慎勿相近，願勤修之。」又歌曰：

身前身後事渺茫　欲話因緣恐斷腸
吳越山川尋已徧　卻回煙棹上瞿塘

遂拂袖入煙霞而去。三生石在下竺，總屬靈鷲。此真古逸事也。

世言風僧葉守益，于冷泉亭譏秦檜。死後見所親者云：「寄語夫人東窗事發。」東窗事，蓋王夫人謀殺岳侯，非世所知也。鬼神之事亦可畏哉！守益，相傳地藏菩薩化身、隱跡靈隱者。至今羅漢殿有塑像存焉。

雷院部神有主壇，總化九天雲路，急捉大將徐天君，嘗從一白犬。楊璉真伽發陵肆惡，人莫敢問；又欲毀雷院，夜夢有白犬噬之不可解，大懼，懺禱，其惡少戢。則雷院之為威神大也。

履泰將軍，姓孫，名顯忠，錢唐人，仕吳越。宋嘉熙中，趙與懽尹京，禱雨應，奏聞，勅封「護國天澤侯」，廟在金沙灘。萬曆時，某年旱，太守張振之虔禱未應，憂悴成疾。忽神降乩，具示禱雨所嚮，曰：「吾助若雨，若新吾廟。」且推張長者而自敘，隱約

數百言。張異之，適詢邑祠廟，既得，遂如所指請禱。公車未入郭門而甘霖隨澍。

僧子捷建北高峰浮圖，有一花犬隨工徒銜運磚瓦。既而工徒于荒莽間斸得石佛，而耳相不全，惜之。犬忽掘土深三尺許，得一石耳，合之竟是。塔成乃斃。

宋僧遠瞎堂，所畜猿頗知人意，因衣之，號黑猿行者，每侍側終日。瞎堂化時，閉門，人莫能見，惟猿行者執辭世偈，侍於側。自理公呼猿，有呼猿洞；知一畜猿，有白猿峰；瞎堂又有黑猿行者。靈隱之猿何其奇也！

妙峰和尚住靈隱，嘗有四鬼移之而出。梁楷畫〈四鬼夜移圖〉，中峰為之跋曰：「昔南泉謂王老師修行無力，被鬼神覷破；殊不知鬼神不著，便白日被王老師熱瞞。」相傳妙峰和尚住靈隱時，為四鬼所肩而出。當時賴遇妙峰；若是王老師，未免又作修行無力會也。一種是謾神嚇鬼、顯異惑眾，今又被人描模將來，不知面皮厚多少？

宋孝宗宣召惠遠，惠遠有詩記曰：

缽盂走馬向天庭　謾踏天街馬不驚
回首飛來峰上望　白雲包盡帝都春

五代時，靈隱行人道忠布施，一錢不私，但日求麪供寺眾。每會必盛麪食，人往赴齋皆曰：「今日赴道忠蒸雪會去也！」

靈隱寺大松，樹圍數丈，正與月波亭相對。史彌遠伐取之，僧元肇號淮海，有詩云：

大夫去作棟梁材　無復清陰覆綠苔
惆悵月波亭上望　夜深惟有鶴飛來

嘉靖時海寇之亂，督府胡公嚴造海舟，凡故家邱墓大木皆不能免，獨下令曰：「靈隱九里松，唐時古蹟，不許擅伐。」故得保全。舊時有僧補種賦詩曰：

不為栽松待茯苓　只圖山色四時青
老僧終不將歸去　留與錢唐作畫屏

明海寇亂，督府取寺鐘，僧苦不能守。僧真祥以詩上獻云：

百八鯨音吼地鳴　篁溪檀越鑄還成

曾聞兵器為農器　豈忍慈聲作惡聲
一統大明何及此　千年常住敢云爭
山僧最苦多遺譴　遊宦從今失送迎

此鐘賴以得存。

山中有寺基久圮，勢家欲規為葬地者，僧亦有詩云：

一帶空山已有年　不須惆悵起頹磚
道旁多少麒麟塚　轉眼無人掛紙錢

勢家卒不敢取。

形家謂北高峰為真武展旗形，洪武初右武，一時勳臣、武職多營墓于此，則鐵舌菴、遠瞎堂之塔，以祭臺得存，猶為幸也。胡尚書世寧，嘗卜瑞光址，後即遷去，可謂君子矣。無何，沈長史又遷葬焉。於乎！唐宋以來，其宗師遺塔堙沒于勢家、宦族者，亦豈可勝道哉？

明天啟時，有縉紳欲規取蓮華峰。其時豁堂大師猶為祇園僧也，以死爭之，曰：「昔癡絕禪師不畏天子，吾獨畏貴人哉？」

易菴通，于萬曆辛卯重建靈隱，與羅公處約為月菴禪師撰碑年同。相去六百一載，為辛卯者十一而復得辛卯。既竣工，治地，得斷碑，原建寺僧亦號易菴，斯亦奇也。今斷碑亦未之見，而前之易菴不知何代何年？

上虞令朱袞至靈隱寺，寺僧乞書「飛來峰」。命筆，將書「來」字，問公等：「欲人來乎？米來乎？」僧曰：「有人此有米。」因以三「人」字書之。今存有飛來峰七言律詩。

「絕勝覺場」是葛洪書，而龔憲使冕以「絕」字不宜，改「最勝覺場」。按《楞伽》，佛地名「最勝」，僧號「最勝子」；梵語「瞿曇」，此云「地最勝」。易「絕」為「最」亦無不可。但《宗鏡錄》言：「絕」是「妙」之異名，此「絕」非是「斷絕」，以無盡為義，其義更勝耳。

許遠遊以下，葛洪、杜治皆道士也。嗣後杜京產、陳紫芝之流，間一見焉，然亦微矣。武林秦麒，號見峰，特建棲真院于飛來峰下，延盧真空鍊師修鍊焉。見峰孫心卿先生，高尚之士，有文集行世。

僧如璧者，本名饒德操，有文名，撫州士人。與曾布論不合，便落髮為僧。《廣冷泉記》是其筆也。又有贈勤上人詩。余嘗論賈島之改佛，由于韓公之獎許；德操之為僧，本于曾布之不合。以出世法論之，是韓為美疢而曾為藥石也。

恭行己與趙子昂同時，其思母詩曰：

霜殞蘆花淚溼衣　白頭無復倚柴扉
去年五月黃梅雨　曾典袈裟糴米歸

可謂有陳尊宿之風矣。

慈雲懺主，正色不阿時好。有一貴客註《楞嚴經》，求師印可。先命熾烈焰，謂曰：「今申三問，答如契理，當為流通；如其不然，請付此內。」乃問曰：「真精妙元、性淨明心，如何註釋？三四四三、宛轉十二，流變三疊、一十百千，為是何義？二十五聖所證圓通，既云實無優劣，文殊何以獨取觀音？」其人罔措，師即火之，以此處不知而作者，殊為快也。

高僧茶毘獲舍利者，靈隱為多。至若契嵩舌、眼、頂骨、童真、念珠，火真不燼，謂之五種不壞。惠遠舌不化，故名鐵舌，斯又不止舍利也。

洪有竹，名瀾，字子長。弱冠卜築青蓮山，居在蓮華峰之陰，年四十卒。詩才清俊，頗有可觀。其〈山居〉數首，其一曰：

嘒嘒蟬急　翻翻過鳥飛
晚涼風動竹　久坐露沾衣
招隱期忘世　投禪願息機
山童沽酒去　未遣掩柴扉

夫靈隱固隱者之所棲也，而隱者又難其人。以李元昭之棄官結廬，虎菴譏其立行非真；洪瀾又以隱德未竟死。甚矣，隱者之難其人也。

魯半閒，諱安，字端明，宋肅簡公裔也。弘治間年八旬，諭諸子曰：「吾處世甚達，今將絕俗以娛餘年；但不知死何如生。世人引棺營葬，皆身後事；目一瞑，誰見知者？吾欲歷歷預觀之！」於是擇日具儀，同發引狀，鼓吹導之，令五子縗絰斬然，己乘白騾隨其後；遂隱靈鷲山，身若隔世。時有所需，緘封附騾耳，遣之歸，載物聿來，都無失候，閱十有三祀。一夕，端坐以逝，騾是夕亦化去。嗟乎！此可謂有楊王孫之達矣。其時有胡元洲者，善飲作達，自署「酒泉郡太守」，祔葬于其父長史墓側，墓在上竺路。嘗有〈山中詩〉曰：

老鶴一聲天欲墮　山人自枕寒流卧
起來北斗正當胸　山鬼攝伏我獨坐

其卒，遺命其子：「喪車出郭門，凡山水佳處必三奠。」亦曠達士耶！

他處祀伽藍不過五位，而靈隱兼靈鷲，故有十伽藍焉。蓋靈鷲寺廢而伽藍不廢，故知靈鷲之統于靈隱也。伽藍十數，有龍王居其一焉。此大小龍泓洞得名之祖也，且以知靈隱之有關于江潮也。

靈隱向有本山土地，而無本寺土地以配本山土地。伽藍之位既畢，特設本寺土地以配本山土地，是為十二神。雲間有許介甫者，許譽卿先生之子，博聞絕俗，性愛靈隱山水。一日寢病于家，見有旛旄繽紛，則言神迎其為靈隱本寺土地也，遂以是卒。

東坡云：「契嵩常嗔，人未常見其笑；辨才常喜，人未嘗見其怒。予親見二人皆趺化，乃知二師以嗔喜作佛事也。」

東坡〈送人游浙東〉云：「靈隱寺高峰，一上五里，有僧不下三十餘年矣，不知今猶在否？」

雜紀

嘗觀古聖賢作經著傳，必有體裁，其法大概有三：單提、雙開、雜紀是也。單提所以立體，雙開所以顯用；中有未暢者，乃拉雜以言之，謂之雜紀。今志靈隱寺，上來若開山，若重興，若山水，若梵宇，若尊像，若楗槌，若古塔，若古蹟，若勝概，若傳持，若檀越，若文藻，若詩咏，若遺事，一一分列；又終之以雜紀者，或有遺漏且不必另列者，皆綴于此，庶使華藏海中不失一花、帝珠網內不落一珠也。為誌雜紀第十四。

題名

韜光石：元豐二年己未二月十二日壬戌，資政殿大學士・太子少師・南陽郡公趙抃閱道謁韜光。菴主佐光留題。

又：蘇軾、楊傑、王瑜，元祐五年二月二十同遊韜光。

靈鷲寺後小石塔：楊繪元素、魯有開元翰、陳舜俞令舉、蘇軾子瞻同遊。熙寧七年九月二十日。

靈山翠微亭址：紹興十二年，清涼居士韓世忠因過靈隱，登覽形勝，得舊基，建新亭，榜名翠微，以為遊息之地，待好事者。三月□□日立，男彥直書。

龍泓洞內：陳思退來，蘇子容頌。熙寧□年。

○蘇浩然、楊景略、胡宗師、范峋、黃頌、彭汝礪、王祖道、林希逸，元年七月十二遊靈隱洞。

〇錫山安國七遊于此。

龍泓洞外：蘇頌子容、蔣之奇穎叔、李杞堅甫、傳法僧慧日、禪師延珊。熙寧□年二月二日。

〇又：太子太保嚴起。

青林洞外有詩：一片巫山十二峰，飛來何年不飛去。明進士唐鵬。

又別小洞詩：

吟屐一雙千里　洞天萬億幾年
蒼龍偃蹇鱗豁　紅日掩映光寒
白玉坐來欲化　天風吹出行仙

臨海張瑞

青林洞口：嘉靖壬辰夏初伏，癖竹居薛東泓來遊于此，竹鄰與子希元至。

理公巖洞口：正德庚辰正月六日，按察于鏊、張淮、劉大謨、刑部方豪遊。

正德十五年人日，庶吉士江暉、進士陳直載酒來訪方豪于飛來洞，因遊天竺。

〇嘉靖丙辰，五兀山人張庭有詩二首：

鏡裏湖光畫裏山　竹西茅屋有無間
泉聲不斷雲霞爛　仙子騎羊自往還

一生落落好清狂　過眼煙雲木掛陽
試上北高峰頂上　與君攜手看扶桑

理公巖洞內：不有地仙福，不到此洞中。飛山子。

〇臨安錢德範、莆陽僧貽孫同遊。皇祐二年六月一日。

〇癸卯重午，與王伯虎來，二弟遨、偕行。沈遼題。

石景衡叔平、杜僎叔陽同遊。

直翁翼道、林夫吉甫同遊。

乙卯，閩山王元晉耕雲、陳詩坐憩于此。

嘉靖二年，金臺邵盛紀。

飛來峰頂：朱裳。(公為方岳，裘褐不備，故題亦質，惟示姓名。)

伏犀泉上：連道善鵬舉、張文蔚同遊。建炎三年閏八月二十五日。

石衖：李公謹唐卿、楊泊損之，慶歷六年七月十二日來。

又題漫漶，止存「七年二月清明日也」八字。

虞用晦。元豐二年七月二十二日。

靈山塔側：陳古平甫同德甫遊。

翻經臺石上：淳祐丁未立秋二日，天台李艮、夏紹基，武夷翁孟寅、金華何子舉、嘉禾葉隆禮、宛陵吳琪來，喜雨。

至正六年秋九月朔，太史楊瑀、翰林張翥謁福初上人，因登蓮華峰，留名崖石。同遊者施維才、郟韶。

〇泰定五年春二月，吳郡王連、莫維賢、葉森、陸友同遊。

下天竺後石壁：吳棫、周之翰、史范雲、程敦厚，紹興壬戌同校藝。

題額

【絕勝覺場】　晉葛洪書。

【佛國山門】　唐鍾權書。

【冷泉亭】　唐白居易書上二字，宋蘇軾補書下一字；今為明雲間董其昌書。

【法安堂】　唐白居易書。

【覺皇殿】　宋理宗皇帝書。

【妙莊嚴域】　宋理宗皇帝書。

【直指堂】　宋張即之書。

【面壁軒】　明四明陳理書。

【輪藏殿】　明董其昌書。

【選佛場】　婁東王時敏書。

【是佛國】　三韓佟有年書。

【飛來峰】　明上虞令朱袞書。　三韓佟彭年又書。

【慧日塔院】　射州宋曹書。

【慧日高懸】　在新建塔院，光祿大夫周方蘇題。

【永鎮靈山】　王時敏書。

【正法眼藏】　王時敏書。

【最勝覺場】　錫山龔勉書。

【九里松】　宋吳說書。

【理公巖】　唐尚書令楊遵篆。(已下在石。)

【龍泓洞】　元江淮釋教都總統所經歷郭口書。

【玉乳洞】

【金光洞】
【射旭洞】　俱明方豪書。
【天削芙蓉】　在理公巖，不知何人書。

古存物

〔上堂槌〕　明教嵩禪師上堂白槌遺物。
〔照佛鑑〕　寶達遺蹟。後鑑空遇僧，囊中取一鑑曰：「要知貴賤、修短、佛法興替，以此鑑焉。」亦曰照佛鑑。
〔印沙牀〕　亦寶達遺蹟。
〔直指堂印〕　宋孝宗賜靈隱，銅鑄。
〔范公牀〕　在靈隱方丈，乃良用貞所造。良乃范公孫也，希文蒞杭郡時所遺。(乙酉春，戒顯至靈隱，猶見此榻。相傳：人有卧在上者，醒即身在地下。想神物呵護也。)
〔龍文拜石〕　有龍鱗隱見石中，長八尺，濶六尺。
〔秦檜齋僧鍋〕　秦檜因風僧激勵，心懷恐怖，發心齋僧。此為遺物，現在雲厨。

靈隱著述

《金光明懺儀》、《淨土懺法》(慈雲撰)
《宗鏡錄》(智覺撰)
《證宗論》、《三教編》、《十地歌》(俱清覺撰)
《輔教編》、《定祖論》、《正宗記》、《鐔津集》(俱契嵩撰)
《高僧傳》、《內典集》(贊寧撰)
《弘宗說》(弘禮撰)
《正訛說》(弘禮撰)
《禪門鍛鍊說十三篇》、《現果錄》、《佛法本草》(俱戒顯撰)

已上皆內篇。

《天竺別集》、《正觀集》、《靈苑集》、《採道集》(遵式撰)
《蒲室集》(笑隱撰)
《夢觀集》(守仁撰)
《奏對錄》(慧遠撰)
《奏對錄》(德光撰)
《蒲菴集》、《澹游集》(來復撰)
《外學集》(贊寧撰)
《鷲峰集》(戒顯撰)

已下皆外篇。

前賢撰文遺失者(附存篇名)

陸羽〈靈隱寺碑記〉
梁簡文〈石像記〉
〈冷泉亭碑〉(寶大二年)
李淑〈重修靈隱寺記〉
薛志〈靈隱山資聖院記〉

本寺二十四房(今缺一)

東廡

東庫司房(瞎堂禪師舊庫房也。)

西廡

蒙堂房
僧堂房
妙應閣(向在伽藍殿基上。)
五松房
正濟房
祇園房
清隱房
幻東房
幻西房
石佛菴
普覺房
普東房
上東房
上西房
西南房
西北房
西緒房
澗西房
涵澤房
韜光房

雙桂房

本山物產

西栗樹

係慧理祖西天攜來種，實小而味美，惟靈隱有數十本，移他處則不生。大樹堂一株最大，乃慧祖手植，西晉時物也，至今鬱茂。

重榮檜

在金光明懺堂後，隋朝所植，高數丈，大十圍。後為兵火所燎，至大中祥符間復茂。

石面靈桃

在翻經臺側，生于石面，結果甚大而甘。宋政和間取植上苑。

無根藤

往往被牆砌，無根自茂。

紅辛夷花

似杜鵑、躑躅花，俗稱紅石蕎。樂天有〈靈隱寺紅辛夷戲光上人詩〉。

天親竹

出武林山西雙竹院，皆雙枝對抽并胤，又名扶桑竹，言如海上扶桑，兩兩相比也。

石面竹

鷲山多有之。

藥王樹

在靈隱山門外，大三圍，乃香樟也。有僧過之曰：「此藥王樹，可治心病。」由是遠近椎剝其皮，未幾死。數年復生，人復來取。寺不禁，尋復枯。每久雨，其空皆出黑色煙。

方竹

出飛來峰，今在澗西房。

曲竹

出靈山，一名唐公竹，又名鶴膝竹，節曲突如鶴膝狀。

枇杷

寺大殿下有枇杷樹，花實異于他所。

龍

龍泓洞本龍所藏，靈隱寺伽藍祀龍。

龍子

北高峰澗中有，如蜥蜴，長二寸，黑色，腹有紅點，四足五爪。

花犬

即僧子捷含磚砌浮屠者。

靈隱重興紀異

具德大和尚以佛法蔭覆天下，若象王、獅子，超軼前後。靈隱一席地，千百年來奇異獨萃，有非偶然者。蓋和尚固絕不言，而事在耳目者，亦不得而閟也。今紀數端于左方，知天人之拱護于大法王者，夫固有以耳。

仁和孫治識

葉子緯如，錢唐人，嘗夢靈隱金銀宮闕、白玉階塗、法幢寶相，迥異恒觀。已見和尚曰：「此其是矣。今從己丑至甲辰，卻計

十六年，變榛莽崔蕪為莊嚴華藏，錢唐第二名山稱第一伽藍，其形見于夢兆，固然哉！」

金子靖思，新安人。下帷靈隱，夢寺中鼓吹迎大慧禪師至。及見和尚陞座說法，儼然大慧禪師也。夫宋以來，佛法之盛未有如大慧者。其鑪韝犀利與今和尚無異，故衲子咸以和尚為大慧後身也。

宋時明教大師契嵩者，耿介絕俗，不假聲色，東坡稱五公之一，以嗔為佛事者也。和尚未至靈隱也，有數輩僧夢契嵩囑迎和尚。其僧不知契嵩為何如人，後乃訪耆宿，知為明教大師也。夫契嵩生則著書明宗，死留舍利，其欲和尚之住持靈隱，預先幽贊，固有以也。

和尚庚寅冬始事土木，時吳興沈長者以病寓居其間。締造之夕，見神人金甲而幘者以百數，在棁柱間。時沈卧病，牀有帷帳，有簾幙，而沈徹視于外，纖悉無遺焉。未幾沈病亦愈。

錢唐邑侯慕公，諱天顏。其初蒞任，勤恤民隱，未暇遊觀，而先夢至靈隱拜琉璃佛。惟中一尊光明洞徹無際，餘金身者無數，或半或全，皆不能徹視也。後見和尚即恍狀所拜琉璃佛，光明洞徹無際者。侯在錢唐七年多惠澤，以此敬事和尚，佛教益興焉。

和尚在佛日也，靈隱敦請不已。一日，四禪寂靜，至夜半咸聞伽藍殿閧㸃；細聆之，則靈隱伽藍與佛日伽藍相爭不已也。人或謂和尚神之遠至者，不可以莫之慰也。後和尚克住靈隱，人言靈隱伽藍為有靈也。

大殿既災，僧至桐君之深處，名瑣細龍者，得大木數千章，然不能以出山也。大殿建期有日矣，庚子夏，水大發，千章之木，數百年不能出者，一旦湧于峰巒之上，乘流而下，辛卯得以告成，非佛力不至此。古所謂「浮梓柱于洪濤，飛梅梁于遠道」者，於此益

將建，缺一石柱。杭城居士名屠成鳳，夜夢袞冠五人來募其祖遺劉家園內石柱。問：「何用？」答曰：「助建靈隱大殿。」問：「菩薩何神？」答曰：「吾等北高峰五聖也。」居士夢覺，到寺訪之，果缺一石柱，立即捨到。今西南殿角一柱是也。

西山多虎患，和尚既至，虎猶一至殿墀之下，今十餘年絕跡矣。宋均為守虎渡河，大扇禪師號伏虎，於和尚尤足徵也。

《三輔黃圖》謂：「漢造未央，如巧匠胡寬不少。」靈隱建置多出于和尚之規畫，其前後布置皆若天成。和尚尤有先識，如移置大鍋，則掘下果見舊基；大殿未災，則先令僧遍書水星。其靈奇天縱，有不自知其然而然，非更僕所能悉數也。

己丑僧解制，閒步冷泉亭，有白猿立於棧上，如聽泉者；皎月當空，毫髮畢見，約長五尺。辛卯冬，眾集青蓮閣下，疑閣上有人聲，即而求之，見有黑猿荷笠而走，移時乃去。此黑白二猿皆見

也。夫理公時，洞有黑白二猿，呼之即出。其後有智一飯猿臺；遠瞎堂時有猿侍者。甚矣，猿之於靈隱多奇也！夫今日之猿未必即理公時之猿，然而黑白皆見，不可謂非理公之猿也。天將興此蘭若，物應運焉，其理與數皆如是。

理公之至靈隱，咸和三年，歲在戊子；吳越王之重興靈隱也，在寶正以後，其戊子、己丑之間耶？今和尚之住此，實以己丑，固知數有相符也。羅公處約之建碑也，以淳化辛卯；而范公楷之跋碑也，以紹定庚寅；明張公瀚之為僧通立碑也，以萬曆戊子。古今廢置不一，而興建者卒在此數年之間。噫，亦奇矣！

具老和尚，丙午冬應徑山請，未一年往揚州，為法嗣巨渤和尚封塔。纔到七日，無疾坐脫。靈隱與徑山爭往迎龕，一路風逆；自靈隱人登船，忽發順風，一夜遂至北關，眾歎神助。

戊申年，因徑山爭龕，閧鬧不决，正月廿五日，集滿漢護法、同兩山禪眾，公議拈鬮定奪。固山大高及之居士，預先申誓、三番禱祝，竟鬮在靈隱，由此息爭。真身永供慧日塔院，爪髮塔在五峰開山嶺之陽。

昔世尊不舍穿針之福，賢于特標插草之功，要知善固緣生，須識根從信入。先師具老人，生魔强際，值法弱時，苟非克己踐形、說尺行丈，人溺己溺、人饑己饑，又安能鞭撻域中之象龍、奔馳海外之麟鳳哉？是以及門皆命世之鴻儒，入室多過量之涑子；而能成褫兩脈、檄號五宗，振興十一座祖庭。恒侍五千員衲子，擁檀波，浮山岳，流梓柱，塞洪濤，俾横目者格非心，令慳惜者傾囊橐，此《雜華》所以云「信為道元功德母」也。至于建摩霄干漢之殿閣，懸星接斗之堂樓，盲啟聾聰，頑廉懦立，雖機用開百代昏昧，而輪奐屬千秋勝緣。古云：「非常之人能建非常之業，非常之業必待非常之人。」非常者，豈常人之所能為也？吾于先師亦云。

奕山小師濟萃謹識

山地

常住供眾僧田，宋時最多，數不可考。迄明宣德年間，尚存山田一百九十餘頃；至順治初，田土悉歸烏有。先師入院時，止存案山殿基。自法席崇敷、德風廣被，感發檀信助施，并方丈香資續置。山地詳載，永充樵採，接納雲流。須知尺地寸金，匪易得也。後之尸席者，慎毋忽諸！爰先舊存，次檀施，次續置列後。

舊存

具老和尚于順治六年二月十三日入院，眾房公共交出率字號山地數：

案山一百三十畝。
坐山十五畝三分。
大殿天王殿基地二十一畝一分五釐一毫。
法堂洎東西兩禪堂基地六畝七分六釐五毫。
直指堂洎兩軒基地三畝六分八釐三毫。
冷泉亭松路地三畝六分八釐三毫。

計共一百八十畝五分八釐二毫。

檀施

具老和尚入院後，檀施山地數：

率字號山七十畝。
羌字號山四十八畝。
毀字號山八百畝零七分。
垂字號山一百二十畝。
養字號山二百零三畝三分。
率字號地二畝八分五釐。
毀字號地十畝三分九釐七毫。
調字號地一畝四分六釐六毫。

計共一千二百五十六畝七分一釐三毫。

續置

具老和尚入院後，續置山地數(附蕩)：

率字號山一百六十六畝九分二釐。
養字號山五百八十九畝六分九釐。
垂字號山一百三十五畝。
羌字號山二十四畝。
毀字號山四十六畝。
率字號地一百二十畝零九分四釐。
王字號地八畝五分。
王字號蕩二畝五分六釐九毫。

外體字號地十畝四分八釐五毫。
率字號地三分六釐三毫。
率字號蕩一畝二分六釐一毫。

計共一千一百零五畝七分二釐八毫。
本寺禪堂濟上，每年完正額條銀三十二兩五錢八分七釐三毫。
每年完實徵糧米一十七石六斗五升五合。
每年完漕截銀四兩六錢三分九釐四毫。
靈隱寺誌卷八終

聯絡我們

財團法人
佛教電子佛典基金會（CBETA 基金會）
CBETA Comprehensive Buddhist Electronic Text Archive Foundation

service@cbeta.org
(02)2383-2182 轉分機 12
官網 https://cbeta.org/
CBETA Online https://cbetaonline.dila.edu.tw/
立即贊助 https://cbeta.org/quick-donate/

贊助資訊

CBETA 長年來陸續將歷代重要佛典數位化為「CBETA 電子佛典集成」，不僅收錄了大量的珍貴文獻，更致力於校勘考證用字及增添新式標點，提升佛典的文獻品質及易讀性。「CBETA 電子佛典集成」是大眾廣為運用的公共資源，此成果也獲得國際學界的重視及肯定。

對於一個從事佛法志業的非營利團隊來說，能夠長期埋首理想、踏實耕耘，實屬不易。為了提供更優質的服務，CBETA 基金會擬增聘專業人力，擴大組織規模，懇請大家慷慨解囊、熱情贊助，讓未來有更多更好的電子佛典。

贊助捐款

「水滴雖微，漸盈大器，凡福充滿，從纖纖積。」
—— CBETA 2024.R2, T04, no. 210, p. 565a5-6